GL-Class

取扱説明書

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツをお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をお使いになる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- この取扱説明書には、走行速度が100km/hを超えたときの車両機能や状態についての記述がありますが、公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオやナビゲーションに関しては、別冊の「COMAND システム取扱説明書」をお読みください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- オプションや仕様により異なる装備には＊マークがついています。
- 関連する内容が他のページにもある場合は、該当ページを（▷250 ページ）のようなかたちで示しています。
- 操作手順などは、文頭に ▶ を記しています。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店または指定サービス工場におたずねください。

ⓘ メルセデス・ベンツ日本㈱ 公式サイト
http://www.mercedes-benz.co.jp/

メルセデス・ベンツ日本株式会社

表記と記載内容について

マーク	内容
⚠	**警告** 重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。
!	**注意** けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。
i	**知識** 知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。
🌳	**環境** 環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことです。

事故のおそれがあります

車両には警告ラベルが貼付されています。警告ラベルには危険な状況を回避するための情報や、車を安全に使用するための情報などが記されています。警告ラベルは絶対にはがさないでください。

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ヤ

ラ

ワ

A

B

D

E

N

P

S

V

数字

環境保護について

ダイムラー社では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- 指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。

環　境

ダイムラー社は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

安全のために

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をお読みください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込むおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけラゲッジルームに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- ラゲッジルームカバーの上に荷物を置かないでください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物は左右のウインドウより下の位置に積んでください。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用して、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6 歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（▷39 ページ）を使用することが法律で義務付けられています。

子供は後席に

- 子供はできるだけ後席に乗せてください。助手席では、子供の動きが気になったり、子供が運転装置をさわるなど、運転の妨げになることがあります。
- チャイルドセーフティシートは、必ず後席に装着してください。

  やむを得ず助手席に装着するときは、車の進行方向に向けてチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートを最後部に移動してください。
- 子供を助手席に座らせるときは、助手席シートを最後部にし、正しく座らせてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供には操作させない

- ドアやドアウインドウは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。
- リアドアのチャイルドプルーフロック（▷45 ページ）やドアウインドウのセーフティスイッチ（▷45 ページ）を活用してください。

ドアウインドウやスライディングルーフの開口部から身体を出さない

子供がドアウインドウやスライディングルーフの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。「走行と停車」もあわせてお読みください（▷113 ページ）。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、シフトポジションが P、N 以外の位置にあると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときに、ペダルが一定のところで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

エンジンの始動

シフトポジションが P になっていることを確認し、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- シフトポジションを D、R にするときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な上り坂で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込み、車がわずかに動き出すのを確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

走行中

- シフトポジションを N にしたままで走行し続けないでください。エンジンブレーキがまったく効かず、ブレーキペダルだけで走行速度を調整しようとすると、車のコントロールを失うおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、シフトポジションが走行位置になると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂での停車時、後退しようとする車を、アクセルペダルを踏むことにより停止状態を保たないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 完全に停車する前に、シフトポジションを **P** にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

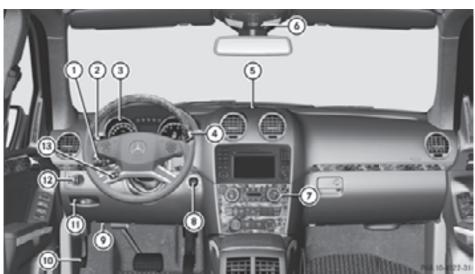
駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずシフトポジションを **P** にして、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにシフトポジションを **P** か **N** に戻すように心がけてください。**R** になっていることを忘れてアクセルペダルを踏み込むと、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

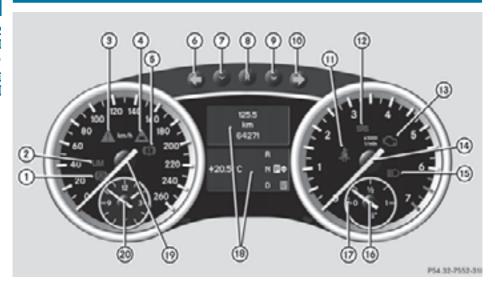
外観

	名称	ページ
①	テールゲート	69
	応急用スペアタイヤ	291
	車載工具	290
②	リアデフォッガー	216
③	ヘッドランプ	97
	テールランプ	327
④	燃料給油口	247
⑤	ドアミラー	89
⑥	クロスバー	237
	スライディングルーフ	222
⑦	ウインドウウオッシャー	106
	デフロスター	215
⑧	ワイパー	105

	名称	ページ
⑨	ボンネット	249
	エンジンオイル	252
		354
	ブレーキ液	257
		355
	ウォッシャー液	258
		356
	冷却水	254
		355
⑩	けん引フック	342
		343
⑪	タイヤとホイール	259
		357

インストルメントパネル

	名称	ページ
①	コンビネーションレバー	
	ヘッドランプ	99
	方向指示	100
	ワイパー	105
	リアワイパー	106
②	操作レバー	
	DSR	159
	クルーズコントロール	167
	ディストロニック*	176
	可変スピードリミッター	181
③	メーターパネル	125
④	セレクターレバー	114 119
⑤	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯	192

	名称	ページ
⑥	前席上方の操作部	25
⑦	エアコンディショナーコントロールパネル	210
⑧	エンジンスイッチ	73
⑨	ボンネットロック解除レバー	250
⑩	パーキングブレーキペダル	117
⑪	パーキングブレーキ解除ハンドル	117
⑫	ランプスイッチ	97
⑬	ステアリング調整レバー	87

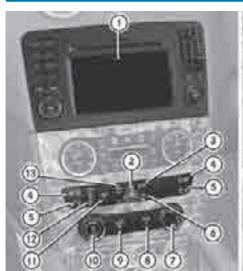
メーターパネル

	名称	ページ
①	ABS 警告灯	47
②	可変スピードリミッター表示灯＊	182
③	ESP / ETS 表示灯	50 53
④	車間距離警告灯	178
⑤	ブレーキ警告灯	309 311
⑥	方向指示表示灯	100
⑦	照度調整ボタン	126
⑧	リセットボタン	126
⑨	照度調整ボタン	126
⑩	方向指示表示灯	100

	名称	ページ
⑪	シートベルト警告灯	29
⑫	SRS 警告灯	30
⑬	エンジン警告灯	311
⑭	タコメーター	125
⑮	ハイビーム表示灯	99
⑯	燃料計	127
⑰	燃料残量警告灯	127
⑱	マルチファンクションディスプレイ	128
⑲	スピードメーター	126
⑳	時計	127

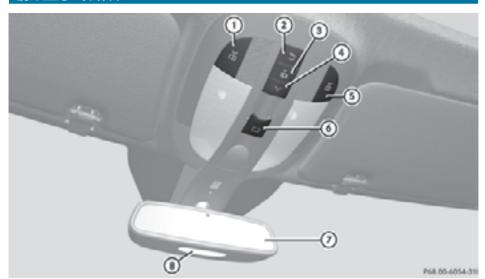
マルチファンクションステアリング

	名称	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	128
②	COMAND システム	別冊
③	設定スイッチ / 音量スイッチ + −	128
	通話開始 / 終了スイッチ（電話）	128
	音声認識スイッチ	128

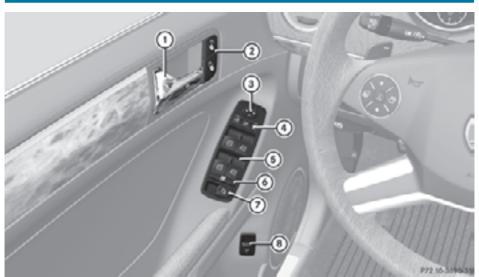
	名称	ページ
④	スクロールスイッチ	128
	表示切り替えスイッチ	128
	音声認識解除スイッチ OFF	128

センターコンソール

	名称	ページ
①	COMAND システム	別冊
②	非常点滅灯スイッチ	100
③	走行モード選択スイッチ	123
④	シートヒータースイッチ	85
⑤	シートベンチレーター スイッチ	84
⑥	助手席エアバッグオフ表示灯	40
⑦	ディファレンシャルロックダイヤル	163
⑧	ローレンジスイッチ	161
⑨	DSR スイッチ	157
⑩	車高調整ダイヤル	185

	名称	ページ
⑪	ESP オフスイッチ	52
⑫	サスペンションモード選択スイッチ	184
⑬	パークトロニックオフスイッチ	194
⑭	灰皿 / ライター	240 242
⑮	フロントアームレストの小物入れ	227
⑯	カップホルダー	228

前席上方の操作部

	名称	ページ
①	フロント読書灯スイッチ（左側）	102
②	サードシートルームランプスイッチ	102
③	点灯モード選択スイッチ	102
④	フロントルームランプスイッチ	102
⑤	フロント読書灯スイッチ（右側）	102

	名称	ページ
⑥	スライディングルーフスイッチ	223
⑦	ルームミラー	89
⑧	フロント読書灯	102

ドアの操作部

	名称	ページ
①	ドアレバー	67 68
②	ドアロックスイッチ	68
③	ドアミラー調整スイッチ	89
④	ドアミラー選択スイッチ ドアミラー格納 / 展開スイッチ	89 90

	名称	ページ
⑤	ドアウインドウスイッチ	109
⑥	リアウインドウのチャイルドプルーフロックスイッチ	71
⑦	ベンチレーションウインドウスイッチ	111
⑧	テールゲートスイッチ	71

乗員安全装備

乗員保護装置

事故が発生したときの衝撃により、車は急激に加速または減速するおそれがあります。

そのとき、乗員は車内に身体を激しくぶつけたり、車外に放出されて、けがをするおそれがあります。

ただし、シートベルトを中心に、シートベルトテンショナーやベルトフォースリミッター、エアバッグなどで構成される乗員保護装置によって、負傷する可能性を最小限にでき、また、万一負傷したときにも、けがの程度を最小限にとどめることができます。

けがのおそれがあります

乗員保護装置を取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。また、車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

誤作動でけがをしたり、事故などのとき、正常に作動しなくなるおそれがあります。

エアバッグの効果について

以下の理由から、エアバッグはシートベルトを正しく着用している場合にのみ、シートベルトの保護機能を高めることができます。

- シートベルトを着用することで、乗員とエアバッグの適切な位置関係を保つことができます。
- シートベルトを着用することで、正面からの衝突のときなどに乗員が前方に投げ出されるのを防ぐことができます。

i シートベルトとエアバッグは、物が外部から車内に入り込んだときの衝撃から乗員を保護する効果はありません。

けがのおそれがあります

エアバッグはシートベルトの効果を補助する装置であり、シートベルトの代わりになるものではありません。必ず乗員全員がシートベルトを正しく着用し、シートのバックレストをできるだけ垂直の位置にして乗車してください。

i エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。また、乗員が正しくシートベルトを着用している場合、状況によってはエアバッグによる補助的な保護を必要としないことがあります。

シートベルト

シートベルトとチャイルドセーフティシート（▷39 ページ）は、車内に身体を激しくぶつけたり、車外に放出される危険から乗員を守ります。

シートベルトとチャイルドセーフティシートは、衝突時における最も重要で効果的な乗員保護装置です。

! 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。

けがのおそれがあります

- 乗車するときは、すべての乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
- シートベルトを着用していなかったり、シートベルトのプレートが確実にバックルに差し込まれていないと、事故などのとき致命的なけがをするおそれがあります。
- 子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトやバックルが汚れていたり損傷していると、シートベルトの保護機能が正しく発揮されません。

  シートベルトを正しく機能させ、損傷を防ぐために以下の点に注意してください。

  ◇ ドアに挟んだり、鋭利な部分に当てない

  ◇ たばこの火など、熱いものを近付けない

  ◇ バックル部分に異物を入れない

  ◇ 分解や改造などをしない
- 衝突後やシートベルトが大きな衝撃を受けたときは、指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。

シートベルト警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときは警告灯の異常ですので、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンがかかっているときに運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないときは、シートベルト警告灯が点灯します。

シートベルト警告音

運転席の乗員がシートベルトを着用せずにイグニッション位置を **2** にするかエンジンを始動すると、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。

走行中のシートベルト警告

走行速度が約 25km/h 以上になったときに運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないか、シートベルトをバックルから外したときは、シートベルト警告灯が点滅して、断続的な警告音も鳴ります。

そのままの状態で約 60 秒間走行するか、または停車したときは警告灯は点灯に変わり、警告音も鳴り止みます。

ただし、シートベルトを着用しないまま再び走行を始めて速度が約 25km/h 以上になると、この警告は繰り返し行なわれます。

ℹ 助手席に重い荷物などを積んでいると、エンジンがかかっているときにシートベルト警告が行なわれることがあります。

SRS（乗員保護補助装置）

SRSは以下の装備により構成されます。

- SRS 警告灯
- シートベルトテンショナー
- ベルトフォースリミッター
- エアバッグ

SRS 警告灯

イグニッション位置を **1** にすると点灯し、数秒後に消灯します。

イグニッション位置を **2** にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

イグニッション位置が **1** か **2** のときは、一定間隔で自己診断を行ない、SRS の異常を検出します。

⚠ けがのおそれがあります

以下のようなときは、SRS に異常が発生しています。衝撃を受けてもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないおそれや、不意に作動するおそれがあります。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

- イグニッション位置を **1** か **2** にしたときに SRS 警告灯が点灯しないとき
- イグニッション位置を **1** にしたときは数秒後に、イグニッション位置を **2** にしたときはエンジンを始動してから数秒後に SRS 警告灯が消灯しないとき
- エンジンがかかっているときなどに SRS 警告灯が点灯したとき

シートベルトテンショナーと運転席 / 助手席エアバッグの作動

シートベルトテンショナーとエアバッグの作動は、衝撃の強さによって変わります。

衝突などで衝撃が発生した際、センサーは衝撃の強さや方向などを検知し、シートベルトテンショナーを作動させる必要があるか判断します。

さらに前方から一定以上の衝撃を検知したときに、運転席 / 助手席エアバッグが作動します。

ℹ 事故の状況によってはエアバッグが作動しない場合があります。

事故の際にすべてのエアバッグが作動するわけではありません。

各エアバッグの作動条件はそれぞれ異なります。

いずれのエアバッグも、衝突の最初の段階において検知された衝撃の強さや方向などに基づいて作動します。

ℹ センサーが検知する衝撃の強さや方向は、以下の要素によって決まります。

- 衝撃の集中度 / 分散度
- 衝撃の角度
- 車体の変形度合い
- 衝突物の特性

シートベルトテンショナー / ベルトフォースリミッター

シートベルトテンショナー

シートベルトテンショナーは、車の前後方向から大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。

フロントシートと左右セカンドシートのシートベルトに装備されています。

シートベルトテンショナーはイグニッション位置が **2** で、以下のときに作動します。

- SRS に異常がないとき
- フロントのシートベルトテンショナーは、シートベルトが正しくバックルに差し込まれているとき
- 衝撃を受けた最初の段階で、車両の前後方向に急激に強い衝撃が加わったとき
- 車の左右方向から強い衝撃を受けたとき
- 車両の横転時には、シートベルとテンショナーの作動がシートベルトの効果の向上になると判断されたとき

ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターは、シートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し、乗員の胸にかかる力を分散・軽減します。

フロントシートと左右セカンドシートのシートベルトに装備されています。

フロントシートのベルトフォースリミッターは、運転席 / 助手席エアバッグと連動しており、乗員にかかる力を分散・軽減します。

⚠ **けがのおそれがあります**

- シートベルトテンショナーの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- 作動したシートベルトテンショナーは、必ず指定サービス工場で新品と交換してください。

  未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

! バックル部分に作動の妨げになるようなものがないことを確認してください。

! シートベルトテンショナーが作動すると、シートベルトに強く締め付けられることがあります。

! シートベルトに強く締め付けられている状態でシートベルトを外すときは、シートベルトのプレートを確実につかみながらバックルの解除ボタンを押してください。シートベルトの張力により、解除したプレートが跳ね返り、けがをするおそれがあります。

! フロントのシートベルトテンショナーは、作動するとバックルが引き込まれます。バックル部分には作動の妨げになるような物がないことを確認してください。

また、バックルをつかまないようにしてください。

! 助手席に乗車していないときは、シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。衝突時などに、シートベルトテンショナーが作動することがあります。

! シートベルトテンショナーの作動時に聞こえる爆発音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

i シートベルトテンショナーは、シート位置が不適切なときや、シートベルトが正しく着用されていないときは、効果を発揮できません。

i シートベルトテンショナーは、バックレストに乗員の身体を密着させるためのものではありません。

i シートベルトテンショナーが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

エアバッグ

⚠ **けがのおそれがあります**

エアバッグの乗員保護機能を正しく発揮するため、以下の点に注意してください。

- 乗員全員がシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直の位置にしてください。

  ヘッドレストの中央が目の高さになるように調整してください。

- 身長 150cm 未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 運転席シートは正しい位置に調整し、助手席シートはできるだけ後部に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- やむを得ず助手席にチャイルドセーフティシートを装着するときは、必ず前向きに装着して、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 頭部をドアウインドウに寄りかけないでください。サイドバッグやウインドウバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。またタイプにかかわらず、助手席にはチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

  チャイルドセーフティシートに関する注意事項を記載したステッカーが、助手席側のサンバイザーに貼付されています。

- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物を入れないでください。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。エアバッグの作動が妨げられるおそれや、エアバッグが作動したときにけがをするおそれがあります。
- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間にペットや荷物を置かないでください。
- エアバッグ収納部やその近くに物を置かないでください。
- アシストグリップやコートフックにかたい物や鋭利な物をかけないでください。

- ウインドウやピラーの周囲にアクセサリーなどを取り付けないでください。
- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。誤作動でけがをしたり、正しく作動しなくなります。

けがのおそれがあります

以下のエアバッグ収納部には、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼付したり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。

- ステアリングパッド部
- 助手席側のダッシュボードパネル部
- フロント / セカンドシートのバックレスト側面

エアバッグの作動

車が一定以上の衝撃を受けると、高温のガスが排出されて、収納されているエアバッグが瞬時にふくらみます。

これにより、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

けがのおそれがあります

- エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- 関連部品に身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。
- 作動したエアバッグは、必ず指定サービス工場で新品と交換してください。

  未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

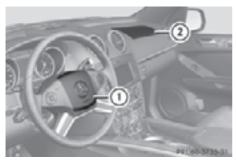
! エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。

! エアバッグの作動時に聞こえる爆発音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

i エアバッグが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

エアバッグの種類と収納場所

エアバッグ名	収納場所
運転席エアバッグ	ステアリングパッド部
助手席エアバッグ	助手席ダッシュボードパネル部
フロントサイドバッグ	フロントシートのバックレスト側面
セカンドシートサイドバッグ	リアシートの左右側面
ウインドウバッグ	フロントピラーとリアピラー間のルーフライニング部

運転席 / 助手席エアバッグ

① 運転席エアバッグ
　ステアリングパッド部
② 助手席エアバッグ
　助手席ダッシュボードパネル部

前方からの強い衝撃を受けると作動し、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

運転席 / 助手席エアバッグは、他のエアバッグの作動に関わらず、以下のときに作動します。

- 衝突の最初の段階で、前方から一定以上の衝撃を検知したとき
- 運転席 / 助手席エアバッグの作動がシートベルトの作動がシートベルトの効果の向上になると判断されたとき
- シートベルトを正しく着用しているとき
- 車両の横転などにより、前後方向から一定以上の衝撃を検知したとき

ℹ 車の前方からの衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、運転席 / 助手席エアバッグは作動しないことがあります。

フロント / セカンドシートサイドバッグ

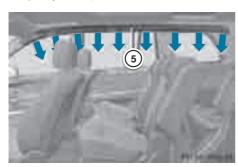
③ フロントサイドバッグ
　運転席 / 助手席のバックレスト側面
④ セカンドシートサイドバッグ
　セカンドシートの左右側面

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のサイドバッグが作動し、胸部などへの衝撃を軽減します。

サイドバッグは、運転席 / 助手席エアバッグやシートベルトテンショナーの作動、シートベルトの着用に関わらず、以下のときに作動します。

- 衝突の最初の段階で、左右方向から一定以上の衝撃を検知したとき
- 車両の横転時に左右方向から強い衝撃を受けて、サイドバッグがシートベルトの効果の向上になると判断されたとき

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> - フロントシートおよびセカンドシートに市販のシートカバーを使用しないでください。サイドバッグの作動が妨げられるおそれがあります。
> - エアバッグのセンサーがドアの内部にあります。ドアやドアトリムにオーディオや電装品を追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、エアバッグの作動に悪影響を与えるおそれがあります。
>
>   詳しくは指定サービス工場におたずねください。

ウインドウバッグ

⑤ ウインドウバッグ
フロントピラーからリアピラー間のルーフライニング部

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のウインドウバッグが作動し、頭部などへの衝撃を分散・軽減します。

ウインドウバッグは、運転席 / 助手席エアバッグの作動、助手席の乗員の有無、シートベルトの着用に関わらず、衝突の最初の段階で、左右方向から一定以上の衝撃を検知したときに作動します。

エアバッグの作動条件

運転席 / 助手席エアバッグが作動するとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しないとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しない場合があるとき

サイドバッグ / ウインドウバッグが作動するとき

サイドバッグ / ウインドウバッグが作動しない場合があるとき

いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき

PRE-SAFE

PRE-SAFE（プレセーフ）は、緊急ブレーキや横滑りなどにより車が不安定な状態にあることを感知したときに、万一の衝突や横転に備えて乗員保護機能を高める装置です。

PRE-SAFE の作動

PRE-SAFE は、約 35km/h 以上で走行しているとき、以下のように作動します。

- 衝突に備え、PRE-SAFE 用の電動式シートベルトテンショナーが前席シートベルトを引き込み、シートベルトテンショナーの効果を高めます。
- メモリー付パワーシート装備車は、助手席が、エアバッグの作動に対し不適切な位置にある場合は、シートを適正な位置に自動的に調整します。
- 車の横滑りを感知すると、万一の横転時に乗員が車外に放出されることを防ぐため、ドアウインドウとスライディングルーフが少し開いた状態まで自動的に閉じます。

車が不安定な状態から脱したときは、助手席の位置、ドアウインドウやスライディングルーフの開き具合を再度調整してください。

! 助手席の位置を調整するときは、シート下部や後方に物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

ⓘ 車が不安定な状態から脱すると、電動式シートベルトテンショナーの張力が緩みます。

ⓘ 電動式シートベルトテンショナーが解除されてもシートベルトが緩まないときは、シートの前後位置やバックレストの角度を少し後方に移動させると、シートベルトが緩みます。

NECK PRO アクティブヘッドレスト

NECK PRO アクティブヘッドレストは、追突など後方からの衝撃を受けたときに、フロントシートのヘッドレストが前方に動くことにより、運転席と助手席乗員の頭部・頸部をより効果的に支持します。

衝撃の大きさや衝撃を受けた方向によっては、NECK PRO アクティブヘッドレストが作動しないことがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

市販のシートカバーを使用しないでください。NECK PRO アクティブヘッドレストの作動が妨げられるおそれがあります。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

事故などのときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合、リセットをしないと次に後方から衝撃を受けたときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動せず、頭部・頸部を保護することができません。

このときは、NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット作業を行なってください。

NECK PRO アクティブヘッドレストのリセットについては、（▷324 ページ）をご覧ください。

子供を乗せるとき

シートベルトは身長 150cm 以上の乗員が使用することを前提にしています。シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

- チャイルドセーフティシートを使用している場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。
  - ◇ 運転装置に触れてけがをするおそれがあります。
  - ◇ 誤ってドアを開き、事故の原因になります。
  - ◇ 炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。
  - ◇ 寒冷時には車内が低温になり、命にかかわるおそれがあります。
- 重い物やかたい物を積載するときは、確実に固定してください。

- 荷物が固定されていなかったり適切な位置に置かれていないと、以下のような場合に子供がけがをする危険性が増加します。
  - ◇ 事故
  - ◇ 急ブレーキ
  - ◇ 急な進路変更

荷物の積み方 / 荷物の固定について、詳しくは（▷226 ページ）をご覧ください。

チャイルドセーフティシート

⚠ **けがのおそれがあります**

- シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、チャイルドセーフティシートを使用しないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- 6 歳未満の子供が乗車するときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務付けられています。
- 6 歳以上の子供でも、シートベルトが正しく着用できない子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 身長 150cm 未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 子供の体格に適合したチャイルドセーフティシートを使用して子供を正しい姿勢で座らせ、身体をシートベルトで確実に固定してください。
- 子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトを正しく着用できない体格の子供が、そのままシートベルトを着用すると、首を締め付けたり、腹部を強く圧迫したりして致命的なけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは、セカンドシートまたはサードシートに装着してください。
- セカンドシートまたはサードシートにチャイルドセーフティシートを装着するときは、バックレストを起こして確実にロックしてください。
- やむを得ず助手席に装着するときは、必ず前向きに装着して、助手席をもっとも後ろの位置にしてください。
- 後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。またタイプにかかわらず、助手席にはチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

チャイルドセーフティシートに関する注意事項を記載したステッカーが、助手席側のサンバイザーに貼付されています。

- チャイルドセーフティシートは確実に装着してください。急ブレーキ時などに、チャイルドセーフティシートが放り出されて乗員がけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。チャイルドセーフティシートが確実に装着されないおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートのクッションカバーが損傷したときは、純正品に交換してください。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートを使用しないときは、車から取り外すか、確実に固定してください。
- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。
- チャイルドセーフティシートの取り扱いや装着方法については、製品に添付されている取扱説明書をお読みください。

助手席エアバッグオフ表示灯

① 助手席エアバッグオフ表示灯

チャイルドセーフティシート検知システム装備車のための表示灯で、日本仕様には設定のない装備のため、表示灯としては機能しません。

イグニッション位置を **1** か **2** にしたとき、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することがありますが、助手席エアバッグの機能は解除されません。

純正チャイルドセーフティシート

ダイムラー社では、子供の体重や年齢に応じた純正チャイルドセーフティシートを用意しています。

選択の目安

シート名	体　重	年　齢
ベビーセーフプラス	約 10kg 以下 または 約 13kg 以下	新生児～ 9 カ月位 または 18 カ月位
デュオプラス	9 ～ 18kg	8 カ月～ 4 歳位
キッド	15 ～ 36kg	3 歳半～ 12 歳位

※ チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

チャイルドセーフティシート固定機構

チャイルドセーフティシートをシートベルトで固定するとき、シートベルトが引き出されないようにロックしてチャイルドセーフティシートを確実に固定するシステムです。

セカンドシートとサードシートのシートベルトに装備されています。

※チャイルドセーフティシート固定機構は本国仕様車の装備であり、日本仕様車では一部のシートに装備されない場合があります。

⚠ けがのおそれがあります

子供をチャイルドセーフティシート固定機構で遊ばせないでください。固定機構が作動するとシートベルトが引き出し方向に動かなくなるため、誤ってシートベルトが首に巻き付くと、窒息など致命的なけがをするおそれがあります。

固定機構を使用する

▶ チャイルドセーフティシートを、製品に付属の取扱説明書に従って正しく装着します。

▶ シートベルトのプレートをバックルに差し込んだ状態でシートベルトをいっぱいまで引き出した後、チャイルドセーフティシートが確実に固定できる位置までシートベルトを巻き取らせます。

! チャイルドセーフティシートを固定後、シートベルトが引き出し方向に動かないことを確認してください。

固定機構を解除する

▶ シートベルトのプレートをバックルから外し、シートベルトを巻き取らせます。

! シートベルトを着用した状態で上体を大きく動かしたときに、シートベルトがいっぱいに引き出されてチャイルドセーフティシート固定機構が作動することがあります。このときは、固定機構を解除してから、シートベルトを再度着用してください。

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

左右セカンドシートとサードシートに、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート用の固定装置を装備しています。

① カバー

② 固定装置

チャイルドセーフティシートを装着する

▶ カバー①を取り外します。

▶ 固定装置②にチャイルドセーフティシートを装着します。

⚠ けがのおそれがあります

この固定装置は、体重 22kg 以下の子供を乗せるときに使用してください。

体重 22kg 以上の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを後席のシートベルトで装着してください。

⚠ けがのおそれがあります

チャイルドセーフティシートは、必ず製品の取扱説明書の指示に従い、左右の固定装置に装着してください。装着のしかたを誤ると、事故のとき、十分な効果が得られなかったり、チャイルドセーフティシートが外れるおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、新品に交換してください。

! チャイルドセーフティシートをセカンドシートに装着するときは、中央のシートベルトを挟み込まないように注意してください。

装着できる ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート用の固定装置には、下表のカテゴリーおよびサイズ等級に属している、ユニバーサル（汎用）ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートを装着できます。

<table>
<tr><th>カテゴリー（適応体重）</th><th>キャリコット（携帯式ベッド）</th><th>0（10kg まで）</th><th>0+（13kg まで）</th><th colspan="2">Ⅰ（9 〜 18kg）</th><th>Ⅱ（15 〜 25kg）
Ⅲ（22 〜 36kg）</th></tr>
<tr><td>サイズ等級（装着器具タイプ）</td><td>G（ISO/L2）
F（ISO/L1）</td><td>E（ISO/R1）</td><td>C（ISO/R3）
D（ISO/R2）
E（ISO/R1）</td><td>C（ISO/R3）
D（ISO/R2）</td><td>A（ISO/F3）
B（ISO/F2）
B1（ISO/F2X）</td><td></td></tr>
<tr><td>左右セカンドシート</td><td rowspan="2">装着することはできません。</td><td colspan="3">ユニバーサル（汎用）ISO-FIX 対応であれば、固定装置で装着することができます。</td><td rowspan="2">ユニバーサル（汎用）ISO-FIX 対応であれば、固定装置で装着することができます。</td><td rowspan="2">装着することはできません。</td></tr>
<tr><td>サードシート</td><td colspan="3">装着することはできません。</td></tr>
</table>

詳しくは、お買い上げの販売店または指定サービス工場におたずねください。

! チャイルドセーフティシートのカテゴリーやサイズ等級については、チャイルドセーフティシート本体に装着されているステッカーやチャイルドセーフティシートの取扱説明書をご参照ください。

テザーアンカー

セカンドシートの背面にテザーアンカーを装備しています。

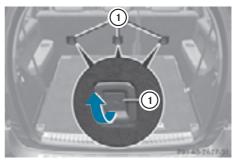
それぞれのテザーアンカーには、テザーベルトを使用して、テザーアンカーに対応した専用チャイルドセーフティシートを装着することができます。

チャイルドセーフティシートの上部を固定することにより、事故のとき、チャイルドセーフティシートの前方への移動を抑えることができます。

ⓘ サードシートにテザーアンカーに対応した専用チャイルドセーフティシートを装着したときは、サードシート後方のラゲッジルームにある荷物固定用リング（▷232 ページ）をテザーアンカーとして使用できます。

⚠ **けがのおそれがあります**

- テザーベルトは、チャイルドセーフティシートの位置に対応したテザーアンカーに取り付けてください。
- テザーベルトがねじれたり、複数のテザーベルトが交差しないことを確認してください。
- テザーアンカーに、テザーベルトが確実に固定されていることを確認してください。

ⓘ 純正チャイルドセーフティシートには、テザーベルトを装備していないタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

① カバー

テザーフックを取り付ける

▶ カバー①を取り外します。

▶ ヘッドレストを上げます。

▶ ヘッドレストの 2 本の支柱の間にテザーベルトを通します。

シート背後にラゲッジルームカバー収納リール（▷234 ページ）を取り付けてあるときは、テザーベルトがバックレストとラゲッジルームカバー収納リールの間を通るようにします。

② テザーアンカー
③ テザーフック

▶ テザーフック③をテザーアンカー②にかけます。

▶ テザーベルトを締めます。

▶ 必要であれば、ヘッドレストを少し下げます。

テザーベルトの動きが妨げられていないことを確認してください。

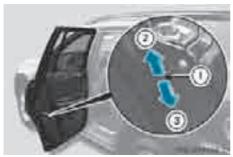
チャイルドプルーフロック

子供が後席に乗車するときは、以下のチャイルドプルーフロックを使用してください。

- リアドアのチャイルドプルーフロック
- リアドアウインドウのチャイルドプルーフロック

 けがのおそれがあります

子供が後席に乗車するときは、チャイルドプルーフロックを設定してください。子供がリアドアやリアドアウインドウを開くと、事故やけがの原因になります。

リアドアのチャイルドプルーフロックを設定する

① チャイルドプルーフロックレバー
② 解除側
③ 設定側

リアドアの車内のドアレバーを引いてもリアドアが開かなくなります。

▶ レバー①を設定側③または解除側②に操作します。

▶ 車内のドアレバーを引いて、設定／解除を確認します。

ℹ リアドアのチャイルドプルーフロックが設定されていても、車が解錠されているときは、車外のドアハンドルでリアドアを開くことができます。

リアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを設定する

① チャイルドプルーフロックスイッチ

リアドアのスイッチによるリアドアウインドウの開閉ができなくなります。

▶ スイッチ①を押して、押された状態にします。

リアドアのスイッチからはリアドアウインドウが操作できなくなります。

▶ 解除するときは、スイッチ①を押して、押されていない状態にします。

ℹ チャイルドプルーフロックの設定／解除にかかわらず、運転席ドアのスイッチではリアドアウインドウを操作できます。

走行安全装備

走行安全装備には、以下のものがあります。

- ABS（アンチロック·ブレーキング·システム）
- BAS（ブレーキアシスト）
- アダプティブブレーキランプ
- ESP（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）
- EBV（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）
- 4ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）
- 車間距離警告（ディストロニック装備車）

ⓘ 雪道や凍結路を走行するときは、ウィンタータイヤやスノーチェーンの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤやスノーチェーンを装着することで、ABS や BAS、ESP の効果が発揮されます。

事故のおそれがあります

走行安全装備が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保、制動距離の短縮には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

また、タイヤのグリップが失われた状況では、走行安全装備は効果を発揮しません。

ABS

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）は、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、タイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両操縦性を確保する装置です。

ABS は路面の状態に関わらず、走行速度が約 8km/h を超えると作動できるようになります。

滑りやすい路面では、軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでも ABS は作動します。

事故のおそれがあります

ブレーキ操作をするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。ポンピングブレーキを行なうと制動距離が長くなるおそれがあります。

事故のおそれがあります

- ABS はブレーキ操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。

  ABS が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

  また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ABS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

- ABS に異常があるときは、ブレーキペダルを強く踏み込むとタイヤはロックします。その結果、ステアリングでの車両操縦性が制限され、制動距離が長くなるおそれがあります。
- 故障により、ABS の機能が解除されたときは、BAS と ESP の機能も解除されます。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

! ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下のような路面が滑りやすい状況では、ABS を装備していない車と比べ制動距離が長くなることがあります。

- 雪の積もった路面や凍結した路面
- 砂利道などの荒れた路面
- 石だたみのように摩擦係数が連続して変化する路面
- スノーチェーン装着時

! マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷294 ページ）をご覧ください。

! ABS に異常があると、急ブレーキ時にタイヤがロックしてステアリング操作が効かなくなり、制動距離が長くなるおそれがあります。

i ABS に異常があると、ESP に関する故障 / 警告メッセージが表示されることがあります。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

i バッテリー電圧が低下すると ABS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると、機能も元に戻ります。

ABS が作動したとき

ABS が作動すると、ブレーキペダルに脈動を感じたり車体が振動することがありますが、異常ではありません。そのままペダルを踏み続けてください。

強い制動力が必要なときは、ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込んでください。

i エンジン始動後や発進直後にブレーキペダルを踏み込むと、ペダルがわずかに振動したりモーターの音が聞こえることがありますが、これは、システムが自己診断をしているときの音で異常ではありません。

(ABS) ABS 警告灯

イグニッション位置を **2** にしたとき、またはキーレスゴーでのエンジン始動操作直後に点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯したときは、ABS に異常があります。

ブレーキは通常通り作動しますが、ABS、ESP、BAS、ETS、PRE-SAFE などは作動しません。

いつもより慎重に運転し、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

オフロード ABS

オフロード ABS は、未舗装路やぬかるみなどの悪路でブレーキを踏んだときにフロントタイヤを強制的にロックさせ、制動力を向上させるオフロード専用のシステムです。

オフロード ABS は、ローレンジ（▷160 ページ）にしたときに、約 30km/h 以下の速度でブレーキを強く踏むと自動的に作動します。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> - オフロード ABS は未舗装路、ぬかるみなどの悪路でのブレーキ時の制動力を高める装備で、無謀な運転から事故を防ぐものではありません。オフロード ABS が適切に作動しても、制動力には限界があります。
> - オフロード ABS の作動時は、フロントタイヤがロックするため車の操縦性に影響をおよぼすおそれがあります。慎重に運転することを心がけてください。

BAS

BAS(ブレーキアシスト) は、緊急ブレーキの操作時に、短い時間で大きな制動力を確保するブレーキの補助装置です。

BAS の操作は、通常のブレーキ操作と同じですが、ブレーキペダルを踏み込む速さなどをセンサーが検知して、緊急ブレーキと判断したときに自動的に作動します。

BAS はブレーキペダルから足を放せば自動的に解除されます。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> - BAS は緊急ブレーキの操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。BAS が作動しても制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
> - BAS に異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、緊急ブレーキ時には制動距離が長くなるおそれがあります。
> - BAS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

! マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは BAS は作動しません。詳しくは（▷294 ページ）をご覧ください。

ℹ BAS に異常があると、ABS も正しく作動しなくなることがあります。

ℹ BAS に異常があるときは、マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されますが、ブレーキは通常通り作動します。

ℹ バッテリー電圧が低下すると BAS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると機能も元に戻ります。

アダプティブブレーキランプ

約 50km/h 以上からの急ブレーキ時に BAS が作動すると、ブレーキランプが点滅し、後方の車両に注意を促します。停車すると、ブレーキランプは点灯に変わります。

また、約 70km/h 以上からの急ブレーキ時には、ブレーキランプの点滅に加えて、停車すると非常点滅灯が自動的に点滅します。

自動的に点滅した非常点滅灯は、非常点滅灯スイッチを押すか、再度走行を開始して走行速度が約 10km/h 以上になると、自動的に消灯します。

ESP

ESP（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）は、タイヤの空転時や横滑り時など、車が不安定な状況になったときに、個別のタイヤにブレーキをかけたりエンジンの出力を制限して、車両操縦性や走行安定性を確保しようとするシステムです。

この車には、4 輪駆動システムのために専用に開発された 4-ESP が装備されています。

⚠ 事故のおそれがあります

ESP は車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESP が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。

ESP 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

! マルチファンクションディスプレイに ESP に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷296 ページ）をご覧ください。

! 車輪を上げてけん引されるときは、イグニッション位置を **2** にしないでください。ESP が作動し、接地している車輪にブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

! ESP が故障すると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示され、エンジンの出力が低下することがあります。走行が困難なときは、すみやかに安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

! ブレーキダイナモ上で車輪を動かすときは、約 10 秒以内にしてください。また、イグニッション位置を **0** か **1** にしてください。ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! ダイナモメーターを使用して検査などを行なうときは、必ず 2 軸ダイナモメーターを使用してください。駆動系部品やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

i ABS に異常が発生したときは、ESP の機能も解除されます。

i 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、ESP が作動することがあります（走行中に ESP / ETS 表示灯が点滅したままになります）。

i ABS 警告灯 (ABS) が点灯しているときは、ESP も作動しません。指定サービス工場で点検を受けてください。

i エンジンがかかっている状態で、駐車場などのターンテーブルで回転させたり、駐車場のらせん状のアプローチを走行しているときなどに、マルチファンクションディスプレイに ESP に関する警告メッセージが表示され、ESP / ETS 表示灯や ABS 警告灯が点灯することがあります。

このようなときは、安全な場所に停車して、イグニッション位置を **0** に戻し、エンジンを再始動してください。

しばらく走行すると、警告メッセージや表示灯、警告灯は消灯します。

⚠ ESP / ETS 表示灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

発進時または走行中に点滅したときは、ESP または ETS が作動しています。

ESP オフスイッチで ESP の機能を解除（▷51 ページ）しているときは、点灯したままになります。

マルチファンクションディスプレイに ESP に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷296 ページ）をご覧ください。

事故のおそれがあります

ESP / ETS 表示灯が点滅したときは、タイヤが空転しているか、車が横滑りしています。アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ
- ESP の機能の解除

事故のおそれがあります

走行中に ESP / ETS 表示灯が点灯しているときは、ESP の機能が解除されています。路面や天候の状況にあわせて慎重に運転してください。

ESP の機能の解除

次のような状況では、ESP の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行しているとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

このときは ESP の機能を解除します。

ESP の機能が解除されると、以下の状態になります。

- ESP は作動せず、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができなくなります。
- 駆動輪が空転した場合、ブレーキ制御による駆動力の確保は行なわれますが（ETS の作動）、エンジンの出力制御による駆動力の確保は行なわれません。
- ブレーキを効かせたときは ESP は自動的に作動します。

 事故のおそれがあります

ESP の機能を解除したときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ

 事故のおそれがあります

ESP の機能を解除する必要がなくなったときは、ESP を待機状態にしてください。車が不安定な状況になったときに、操縦安定性や走行安定性を高めることができません。

① ESP オフスイッチ

ESP の機能を解除する

▶ エンジンがかかっているときに、ESP オフスイッチ①を押します。

ESP の機能が解除され、メーターパネルの ESP / ETS 表示灯が点灯したままになります。

ESP を待機状態にする

▶ エンジンがかかっているときに、再度 ESP オフスイッチ①を押します。

ESP が待機状態になり、メーターパネルの ESP / ETS 表示灯が消灯します。

ℹ エンジンを始動したとき、ESP は常に待機状態になります。

ℹ ESP オフスイッチで ESP の機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを感知すると、ESP / ETS 表示灯が点滅しますが、ESP は作動しません。

ただし、このときにブレーキを効かせたときは、ESP は自動的に作動します。

オフロード ESP

オフロード ESP は、ローレンジ（▷160 ページ）にしたときに、ESP の作動が自動的に悪路走行に適した制御になる、オフロード専用のシステムです。

未舗装路やぬかるみなどの悪路でアンダーステアやオーバーステアが起こり車が不安定な状況になると作動し、車両操縦性や走行安定性を確保しようとします。

EBV

EBV（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）は、後輪のブレーキ圧を調整し、ブレーキ時の車両操縦性と走行安定性を確保しようとするシステムです。

⚠ **事故のおそれがあります**

EBV に異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、急ブレーキ時などには後輪がロックするため、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。車両操縦性の変化に注意して慎重に運転してください。

4ETS

ETSは、滑りやすい路面などで車輪が空転したときにブレーキを効かせて発進時や加速時の駆動力を確保しようとするシステムです。

この車には、4輪駆動システムのために専用に開発された4-ETSが装備されています。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ETSは駆動力を確保し車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ETSが適切に作動しても、駆動力の確保には限界があります。
- ETS作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

⚠ ESP/ETS表示灯

イグニッション位置を**2**にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

発進時または走行中に点滅したときは、ESPまたはETSが作動しています。

ETSに異常があるときは、マルチファンクションディスプレイにESPに関する故障／警告メッセージが表示されます。（▷296ページ）をご覧ください。

ℹ ABS警告灯 (ABS) が点灯しているときは、ETSも作動しません。指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠ **事故のおそれがあります**

ESP／ETS表示灯が点滅したときは、タイヤが空転しているか、車が横滑りしています。アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ
- ESPの機能の解除

! 指定されたサイズ以外のタイヤを装着すると、ETSが正しく機能しないことがあります。

! エンジンがかかっている状態で前輪または後輪を上げてけん引しないでください。

! ブレーキダイナモ上で車輪を動かすときは、約10秒以内にしてください。また、イグニッション位置を**0**か**1**にしてください。ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! ダイナモメーターを使用して検査などを行なうときは、必ず2軸ダイナモメーターを使用してください。駆動系部品やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

ℹ ブレーキに大きな負荷がかかりブレーキが過熱すると、ブレーキの保護のため、ETS が一時的に解除されます。また、このとき ESP / ETS 表示灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されます。

! ブレーキダイナモを使用してパーキングブレーキを点検するときは、エンジンを停止してください。ETS が作動してブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

オフロード ETS

オフロード ETS は、ローレンジ（▷160 ページ）にしたときに、ETS の作動が自動的に悪路走行に適した制御になる、オフロード専用のシステムです。

車間距離警告

ディストロニック装備車は、先行車に近付きすぎると、車間距離警告灯と車間距離警告音による警告が行なわれ、運転者にブレーキ操作を促します。

詳しくは（▷177 ページ）をご覧ください。

盗難防止システム

盗難防止警報システム

盗難防止警報システムが待機状態のときに以下の状況を検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。また、ルームランプや読書灯なども約 5 分間点灯します。

- ドアまたはテールゲートが開けられたとき
- ボンネットのロックが解除されたとき

盗難防止警報システムは、リモコン操作またはキーレスゴー操作により施錠した後、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開いたときも作動します。

① 表示灯

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠します。

表示灯①が点滅し、約 10 秒後に待機状態になります。

システムが待機状態のときは、表示灯①が点滅を続けます。

! システムを待機状態にするときはボンネットが確実に閉じていることを確認してください。ボンネットのロックが解除された状態でシステムを待機状態にすると、ボンネットが開けられても警報は作動しません。

! システムが待機状態のときに車内のドアレバーを引いてドアを開いたり、ボンネットロック解除レバーでボンネットのロックを解除すると警報が作動します。車内に人がいるときは待機状態にしないでください。

! システムを待機状態にしても、表示灯①が点滅しない場合は、システムが故障しています。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

システムの待機状態を解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠します。

表示灯①が消灯します。

警報が作動したときの解除方法

▶ 以下のいずれかの操作をすると、警報が停止します。

- キーをエンジンスイッチに差し込む
- キーのいずれかのボタンを押す
- キーがキーレスゴーの左右側アンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときは、ドアハンドルに触れる
- キーがキーレスゴーの車室内アンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときは、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押す
- キーがキーレスゴーのテールゲート側アンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときは、テールゲートハンドルを引くか、テールゲートのキーレスゴースイッチを押す

i ドアやテールゲートが開けられたり、ボンネットのロックが解除されて警報が作動したときは、それらをすぐに閉じても、警報は停止しません。

けん引防止警報機能

けん引防止警報機能は本国仕様車に採用されている装備であり、日本仕様車には装備されない場合があります。

盗難防止警報システムが待機状態のとき、車が傾いたことを検知すると、けん引防止警報機能が作動し、ホーンと非常点滅灯の点滅による警報が作動します。

けん引防止警報機能を待機状態にする

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を施錠します。

約 30 秒後にけん引防止警報機能が待機状態になります。

警報が作動したときの解除方法

▶ 以下のいずれかの操作を行ないます。

- キーをエンジンスイッチに差し込む
- キーのいずれかのボタンを押す
- キーがキーレスゴーの左右側アンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときは、ドアハンドルに触れる

けん引防止警報機能の解除

車を立体駐車場に入れたり、カーフェリーや車両運搬車に乗せて移動するときは、けん引防止警報機能が作動することがあります。

そのようなときは、けん引防止警報機能を解除してください。

けん引防止警報機能設定画面

けん引防止警報機能を解除する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ マルチファンクションディスプレイにけん引防止警報機能設定画面を表示させます（▷152 ページ）。

▶ [−] を押し、オフを選択します。

けん引防止警報機能が解除されます。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を施錠します。

または

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ マルチファンクションディスプレイにエンジン停止時の表示設定画面を表示させます（▷146 ページ）。

▶ [+] を押し、" ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼ ｹｲﾎｳ " を選択します。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

▶ イグニッション位置を 0 にするか、エンジンスイッチからキーを抜きます。

マルチファンクションディスプレイに "ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼ ｹｲﾎｳ ｵﾝ ⊕ / ⊖ ﾃﾞ ｵﾌﾆﾃﾞｷﾏｽ" と表示されます。

"ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼ ｹｲﾎｳ ｵﾌ ⊕ / ⊖ ﾃﾞ ｵﾝﾆﾃﾞｷﾏｽ" と表示されたときは、けん引防止警報機能が解除されています。そのまま、リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠してください。

▶ ステアリングの ＋ または － を押します。

マルチファンクションディスプレイに "ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼ ｹｲﾎｳ ｵﾌ" と表示され、けん引防止警報機能が解除されます。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠します。

! けん引防止警報機能を解除したときは、必ずマルチファンクションディスプレイに "ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼ ｹｲﾎｳ ｵﾌ" と表示されたことを確認してください。

i けん引防止警報機能を解除しても、盗難防止警報システムは作動します。

i 次にリモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠するまで、けん引防止警報機能は解除されたままになります。

安全装備

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

オープン / クローズ

キー

リモコン機能付きのキーが 2 本付属しています。

エンジンの始動および車の解錠 / 施錠に使用します。

また、それぞれのキーにはエマージェンシーキーを収納しています。

⚠ **けがのおそれがあります**

- 子供だけを残して車から離れないでください。車が施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。

  また、キーが車室内またはドア付近などの車外にあるときは、キーレスゴースイッチを押すことによりエンジンが始動し、事故の原因になります。
- 短時間でも、車内にキーを残したまま車から離れないでください。事故や盗難のおそれがあります。
- エンジンスイッチにキーを差し込むときは、重い物や必要以上に大きな物、ステアリングなどの操作部に接触する物をキーホルダーとして使用しないでください。

  キーホルダー自体の重みや、キーホルダーがステアリングなどに接触することでキーがまわると、エンジンが停止して事故を起こすおそれがあります。

! キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちに指定サービス工場に連絡してください。

! キーを強い電磁波にさらすと、リモコン機能に障害が発生するおそれがあります。

! キーは強い衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。

! キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。故障や誤作動の原因になります。

! 盗難や事故を防ぐため、車から離れるときは必ず車を施錠してください。

! 貴重品は絶対に車内に置いたままにしないでください。盗難のおそれがあります。

! 車を操作するときは、運転者は常にキーを携帯してください。

! キーを携帯電話などの電子機器や硬貨などの金属製のものと一緒に持ち運ばないでください。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作やキーレスゴー操作を行なうと、作動しなかったり、誤作動するおそれがあります。

! 磁気を発生する電化製品の近くにキーを置かないでください。

ℹ 2 つのキーを見わけるため、キーのストッパー（▷325 ページ）の色は異なります。

ℹ 新たにキーをつくる場合は、指定サービス工場におたずねください。

ℹ キーの電池が消耗すると操作時にキーの表示灯が点灯せず、リモコン操作やキーレスゴー操作ができなくなりますが、エンジンスイッチにキーを差し込むことによるイグニッション位置の選択とエンジンの始動はできます。

リモコン機能

① 発信部
② 表示灯
③ 施錠ボタン
④ 解錠ボタン
⑤ テールゲート開閉ボタン
⑥ エマージェンシーキー

イグニッション位置が **0** でエンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに以下の操作ができます。

- ドア、テールゲート、燃料給油フラップの解錠 / 施錠
- テールゲートの開閉
- コンビニエンスオープニング機能とコンビニエンスクロージング機能の操作（▷111、112 ページ）。

操作時に表示灯②が 1 回点滅します。

解錠する

▶ 解錠ボタン④を押します。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

施錠する

▶ 施錠ボタン③を押します。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠され、非常点滅灯が 3 回点滅します。

! 車を施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

テールゲートを開く

▶ テールゲートが開き始めるまで、テールゲート開閉ボタン⑤を押し続けます。

警告音が鳴り、テールゲートが自動で開きます。

! リモコン操作でテールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があり、身体や物に接触するおそれのないことを確認してください。

テールゲートを閉じる

▶ テールゲートが閉じ始めるまで、テールゲート開閉ボタン⑤を押し続けます。

警告音が鳴り、テールゲートが自動で閉じます。

! リモコン操作でテールゲートを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

ℹ 車が施錠されているときにテールゲート開閉ボタン⑤を押すと、テールゲートだけが解錠されて開きます。その状態でテールゲート開閉ボタン⑤を押すと、テールゲートが閉じ、施錠されます。

ℹ リモコン操作での解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- テールゲートを開く
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- キーレスゴースイッチを押す
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す

ℹ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。

ℹ 車のバッテリーがあがったときは、キーの電池が正常でもリモコン操作はできません。

ℹ キーの電池が消耗すると操作時に表示灯が点灯せず、リモコン操作ができなくなりますが、エンジンは始動できます。

リモコン機能の設定切替

リモコン操作での解錠時に、運転席ドアと燃料給油フラップだけを解錠するように設定できます。

▶ 施錠ボタン③と解錠ボタン④を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯②が 2 回点滅し、設定が切り替わります。

この状態では以下のように作動します。

- 解錠ボタン④を 1 回押すと、運転席ドアと燃料給油フラップのみが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。
- 続けて約 40 秒以内に解錠ボタン④を押すと、助手席ドア、リアドア、テールゲートが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

リモコン機能の設定を元に戻す

▶ 施錠ボタン③と解錠ボタン④を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯が 2 回点滅し、元の設定に戻ります。

ロケイターライティング

周囲が暗いとき、リモコン操作で車を解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。

点灯したランプは以下のときに消灯します。

- 運転席ドアを開いたとき
- エンジンスイッチにキーを差し込んだとき
- キーが車室内にあるときにエンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押したとき
- 点灯してから約 40 秒経過したとき

この機能の設定と解除については（▷143 ページ）をご覧ください。

キーレスゴー

① 右側アンテナの検知範囲
② 左側アンテナの検知範囲
③ テールゲート側アンテナの検知範囲
④ 車室内アンテナの検知範囲

キーレスゴーは、キーを携帯することにより、キーとキーレスゴーアンテナが電波の送受信を行ない、リモコン操作をしなくても、車の解錠 / 施錠やエンジンの始動を行なうことできます。

ⓘ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、キーレスゴー操作はできません。

ⓘ エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときも、エンジンがかかっているときやイグニッション位置が **2** のときは、キーレスゴー操作で施錠できません。

キーの位置により、キーレスゴー操作で行なうことができる操作が以下のように異なります。

キーが左右側アンテナの検知範囲①②にあるとき

- ドアハンドルに触れると車の解錠ができます。
- ドアハンドルのキーレスゴースイッチを押すと車の施錠ができます。

ⓘ キーの位置によっては、キーが検知範囲にない側のドアハンドルに触れたり、キーレスゴースイッチを押すことで、車が解錠 / 施錠されることがあります。

キーがテールゲート側アンテナの検知範囲③にあるとき

- テールゲートハンドルを引くと、テールゲートのみを解錠して開くことができます。
- テールゲートのキーレスゴースイッチを押して、車を施錠することができます。

ⓘ キーの位置によっては、キーが検知範囲にないときも、テールゲートハンドルを引くことでテールゲートのみが解錠して開くことがあります。

キーが車室内アンテナの検知範囲④にあるとき

- イグニッション位置の選択ができます（▷74 ページ）。
- エンジンの始動ができます（▷75 ページ）。

ℹ キーの位置によっては、キーがドア付近やルーフ上、ボンネット上などの車外にあるときも、車室内アンテナにキーが検知されることがあります。

⚠ **けがや事故のおそれがあります**

- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方や、その他の医療用電子機器を使用されている方は、車を使用する前に、あらかじめ医師や医療用電子機器メーカーなどにキーレスゴーによる電波の影響についてご相談ください。
- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方は、キーレスゴーアンテナから約 22cm 以内に近付かないようにしてください。キーレスゴー操作を行なうときは、キーとアンテナの間で電波が送受信されるため、埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。

  また、キーが車室内にあるときや、キーの位置によっては、車外にキーがあるときも、キーレスゴースイッチを押すことにより、エンジンが始動するなど、事故の原因になります。
- 短時間でも、車から離れるときは、エンジンを停止して車を施錠し、キーを携帯してください。

❗ 手袋を着用したままドアハンドルに触れたときは、解錠しないことがあります。

❗ キーが左右側アンテナの検知範囲にあるときに、ドアハンドルを清掃したり、ドアハンドルに雨粒や水しぶきがかかったり物などが触れると、車が解錠されることがありますので注意してください。

ℹ キーを車から遠ざけたときは、キーレスゴー操作で車を施錠 / 解錠したり、エンジンを始動することはできません。

ℹ 車を長期間使用しなかったときは、ドアハンドルを引いてからキーレスゴー操作を行なってください。

ℹ キーレスゴーアンテナの検知範囲内にキーがあるときは、キーを携帯していない人でも、車を施錠 / 解錠したり、エンジンを始動できます。

ℹ 車のバッテリーがあがったときは、キーの電池が正常でもキーレスゴー操作はできません。

解錠する（初期設定時）

▶ ドアハンドルの裏側に触れます。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

解錠時の設定の切り替え

① 表示灯
② 施錠ボタン
③ 解錠ボタン

運転席ドアハンドルの裏側に触れて解錠したときの作動内容を切り替えることができます。

設定を切り替える

▶ 表示灯①が 2 回点滅するまで、約 6 秒間施錠ボタン②と解錠ボタン③を同時に押し続けます。

このときは、以下のように作動します。

▶ 運転席ドアハンドルの裏側に触れます。

運転席ドア、燃料給油フラップが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

初期設定に戻す

▶ 表示灯①が 2 回点滅するまで、約 6 秒間施錠ボタン②と解錠ボタン③を同時に押し続けます。

ℹ 解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- テールゲートを開く
- キーレスゴースイッチを押す
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す

ℹ 設定を切り替えたときも、運転席ドア以外のドアハンドルの裏側に触れることで、すべてのドアとテールゲート、燃料給油フラップを解錠することができます。

施錠する

左フロントドア
① ドアハンドルのキーレスゴースイッチ

▶ ドアハンドルのキーレスゴースイッチ①を押します。

または

② テールゲートのキーレスゴースイッチ

▶ テールゲートのキーレスゴースイッチ②を押します。

テールゲートが閉じます。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠され、非常点滅灯が 3 回点滅します。

! 車を施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

i キーが車室内にあるときは、ドアハンドルやテールゲートのキーレスゴースイッチで施錠できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "ｷｰｶﾞ ｼｬﾅｲﾆ ｱﾘﾏｽ !" または "ｷｰｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞｷﾏｾﾝ" と表示されることがあります。

ただし、キーが左右側アンテナの検知範囲にあり、もう 1 本のキーが車室内にあるときは、ドアハンドルのキーレスゴースイッチを押すことで施錠できます。

i いずれかのドアが開いているときにドアハンドルまたはテールゲートのキーレスゴースイッチを押すと、マルチファンクションディスプレイに "ﾛｯｸﾉﾀﾒ ﾄﾞｱｦﾄｼﾞﾃｸﾀﾞｻｲ" と表示されます。

i 仕様により、テールゲートが閉じるときに警告音が鳴ります。

テールゲートを解錠して開く

▶ テールゲートハンドルを引きます。

テールゲートのみが解錠されて自動で開きます。

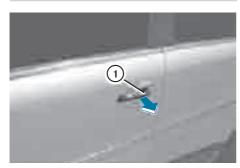
! テールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。

i 仕様により、テールゲートが開くときに警告音が鳴ります。

ドアの開閉

⚠ けがのおそれがあります

- ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じかたが不完全（半ドア）な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。
- ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。
- 同乗者がドアを開くときは、危険がないことを運転者が確認してください。

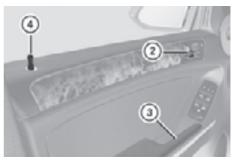
車外からの開閉

① ドアハンドル

開く

▶ ドアハンドル①を引きます。

車外から閉じる

▶ ドアハンドル①を持って確実に閉じます。

車内からの開閉

② ドアレバー
③ インナーグリップ
④ ロックノブ

開く

▶ ドアレバー②を引きます。

ドアが施錠されているときはロックノブ④が上がり、解錠されます。

閉じる

▶ インナーグリップ③を持って確実に閉じます。

! 車から離れるときは、エンジンを停止し、必ずドアを施錠してください。

! ドアを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

ℹ 助手席のドアとリアドアは、開いているときにロックノブを押し込んでから閉じると施錠されます。

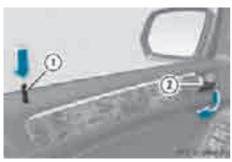
ℹ ドアが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます（▷299 ページ）。

車内からの解錠 / 施錠

! 施錠後は、ロックノブが完全に下がっていることを確認してください。

! ロックノブが完全に下がっていないドアがあるときは、そのドアをいったん開き、再度閉じてから施錠してください。

! ドアのロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開きます。子供を乗せているときは特に注意してください。

ドアごとに解錠 / 施錠する

① ロックノブ
② ドアレバー

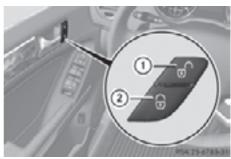
解錠する

▶ ドアレバー②を矢印の方向に引きます。

このときドアも開きます。

施錠する

▶ ロックノブ①を矢印の方向に押し込みます。

ドアロックスイッチ

運転席ドアのスイッチ
① 解錠スイッチ
② 施錠スイッチ

車内から、すべてのドアとテールゲートをスイッチ操作で解錠 / 施錠できます。

ドアロックスイッチは、運転席ドアと助手席ドアにあります。

解錠する

▶ 解錠スイッチ①を押します。

施錠する

▶ 施錠スイッチ②を押します。

次のような場合はドアロックスイッチで解錠 / 施錠することはできません。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠しているとき
- 助手席ドアが開いているとき

i ドアロックスイッチで施錠してあるとき、車内のドアレバーを引いてフロントドアを開くと、他のドア、テールゲートも解錠されます。

i ドアロックスイッチで施錠しても、燃料給油フラップは施錠されません。

ⓘ ドアロックスイッチにより施錠されていても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動するとドアは自動的に解錠されます。

ⓘ 運転席ドアが開いているときにドアロックスイッチで解錠 / 施錠すると、他のドアとテールゲートが解錠 / 施錠されます。

車速感応ドアロック

速度が約 15km/h 以上になると、ドアとテールゲートを自動的に施錠します。

この機能の設定と解除については(▷147 ページ)をご覧ください。

! 車速感応ドアロックを設定した状態で、車を移動したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるとき、ダイナモメーターで車を検査するときは、イグニッション位置を **0** にしてください。車輪が回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

! 車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、ドアを開くかエンジンを再始動するまで、車速感応ドアロックは作動しません。

ⓘ 車速感応ドアロックにより施錠されていても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動するとドアは自動的に解錠されます。

テールゲート

⚠ 中毒のおそれがあります

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

- テールゲートを開くときは、テールゲートの動きに注意してください。テールゲートのすぐ後方にいると、テールゲートに接触してけがをするおそれがあります。
- テールゲートを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! テールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があり、身体や物に接触するおそれのないことを確認してください。

! 強風のときにテールゲートを開くと、風にあおられ、テールゲートが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、テールゲートに雪が積もっているときも同様に注意してください。

! テールゲートを閉じたときは、テールゲートが確実に閉じていることを確認してください。

! テールゲートが開いているときにリモコン操作で施錠し、テールゲートを閉じるとテールゲートは施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

! ラゲッジルームには乗車しないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。

ⓘ テールゲートが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

ⓘ 完全に停車していないときは、テールゲートのクローザースイッチや運転席ドアのテールゲートスイッチでテールゲートを操作できません。

ⓘ テールゲートが自動で開いているときに障害物との接触を感知すると、テールゲートはその位置で停止します。

ⓘ テールゲートが自動で閉じているときに挟み込みを感知すると、テールゲートは停止し、その位置から少し開きます。

ⓘ テールゲートが自動で開閉しているときに、以下のいずれかを操作すると、テールゲートはその位置で停止します。

- テールゲートハンドル
- テールゲートクローザースイッチ
- 運転席ドアのテールゲートスイッチ
- キーのテールゲート開閉ボタン
- テールゲートのキーレスゴースイッチ

車外からのテールゲートの開閉

① テールゲートハンドル

テールゲートを開く

▶ テールゲートハンドル①を手前に引きます。

テールゲートが自動で開きます。

または

▶ テールゲートが開き始めるまで、キーのテールゲート開閉ボタンを押し続けます。

テールゲートが自動で開きます。

② テールゲートクローザースイッチ

テールゲートを閉じる

▶ テールゲートクローザースイッチ②を押します。

テールゲートが自動で閉じます。

または

▶ テールゲートがいっぱいまで開いているときに、テールゲートが閉じ始めるまでキーのテールゲート開閉ボタンを押し続けます。

テールゲートが自動で閉じます。

ℹ 仕様により、テールゲートが開閉するときに警告音が鳴ります。

テールゲートを閉じて車を施錠する

③ キーレスゴースイッチ

▶ テールゲートのキーレスゴースイッチ③を押します。

テールゲートが自動で閉じます。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠され、非常点滅灯が 3 回点滅します。

! キーがラゲッジルーム内やリアシート周辺にあるときに、テールゲートのキーレスゴースイッチ③を押すと、テールゲートが閉じ、すべてのドアと燃料給油フラップが施錠されますが、テールゲートは施錠されません。

テールゲートのキーレスゴースイッチで車を施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

ℹ いずれかのドアが開いているときにキーレスゴースイッチ③を押すと、テールゲートは少し閉じた後停止します。このときは、マルチファンクションディスプレイに " ﾛｯｸﾉﾀﾒﾄﾞｱｦﾄｼﾞﾃｸﾀﾞｻｲ " と表示されます。

ℹ 仕様により、テールゲートが閉じるときに警告音が鳴ります。

車内からのテールゲートの開閉

① テールゲートスイッチ

テールゲートを開く

▶ テールゲートスイッチ①を引きます。

警告音が鳴り、テールゲートが自動で開きます。

テールゲートを閉じる

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のとき、テールゲートスイッチ①を押します。

警告音が鳴り、テールゲートが自動で閉じます。

テールゲート内側のレバーでの解錠

② レバー

テールゲート内側のレバーで、テールゲートを解錠して開くことができます。

テールゲートを開く

▶ レバー②を左側に押しながら、上方に引き上げます。

テールゲートのロックが解除されます。

▶ レバー②を引き上げたまま、テールゲートを後方へ押し上げます。

ⓘ レバーでテールゲートを解錠して開いても、ドアと燃料給油フラップは解錠されません。

ⓘ レバーで解錠して開いた後に、テールゲートを閉じると再び施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

! 施錠した後に、レバー②でテールゲートを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。

以下のいずれかの操作をすると、警報が停止します。

- キーをエンジンスイッチに差し込む
- キーのいずれかのボタンを押す
- キーが車室内のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときは、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押す
- キーがテールゲート側のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときは、テールゲートのキーレスゴースイッチを押す

テールゲートの開口角度設定

上方に十分な空間がないところなどでテールゲートを開くときのために、テールゲートの開口角度を設定できます。

開口角度を設定する

▶ テールゲートが開閉しているときに、以下のいずれかの操作を行なって、設定したい角度でテールゲートを停止させます。

- テールゲートハンドルを引く
- キーのテールゲート開閉ボタンを押す
- 運転席ドアのテールゲートスイッチを操作する
- テールゲートのテールゲートクローザースイッチを押す
- テールゲートのキーレスゴースイッチを押す

▶ 確認音が 1 回鳴るまで、テールゲートのテールゲートクローザースイッチを押して保持します。

開口角度が設定されます。

次にテールゲートを開いたときは、設定された開口角度で停止します。

開口角度の設定を解除する

▶ 確認音が 2 回鳴るまで、テールゲートのテールゲートクローザースイッチを押して保持します。

開口角度の設定が解除されます。

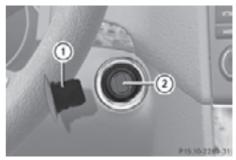
ⓘ テールゲートの角度によっては、その開口角度に設定できないことがあります。

イグニッション位置

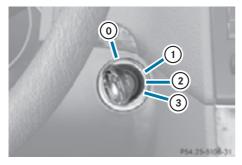
⚠ けがのおそれがあります

ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供だけを車内に残さないでください。いたずらから車の発進、火災などの事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

! 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

キーによるイグニッション位置の選択

① キーレスゴースイッチ
② エンジンスイッチ

キーレスゴースイッチ①を取り外し、エンジンスイッチ②にキーを差し込んでまわすことにより、イグニッション位置の選択やエンジンの始動ができます。

イグニッション位置を選択する

エンジンスイッチに差し込んだキーをまわすと、以下のようにイグニッション位置が変更されます。

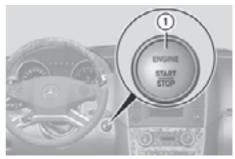
キーの位置	イグニッション位置
⓪	0：キーを差し込む / 抜く位置
①	1：イグニッション位置が 1 になります。
②	2：イグニッション位置が 2 になります。
③	3：エンジンが始動します。

! バッテリーあがりを防ぐため、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。

! エンジンスイッチにエマージェンシーキーを差し込むことはできません。

i エンジンスイッチからキーを抜かずに 0 の位置で長時間放置していると、キーがまわせなくなることがあります。このときは、キーをいったん抜き、再度差し込んでからまわしてください。

i キーの発信部が覆われていたり、汚れていると、エンジンを始動できなくなります。

キーレスゴースイッチによるイグニッション位置の選択

① キーレスゴースイッチ

車室内にキーがあり、エンジンスイッチにキーレスゴースイッチ①を取り付けてあるとき、キーレスゴースイッチ①を押すことにより、イグニッション位置の選択とエンジンの始動ができます。

イグニッション位置を選択する

▶ ブレーキペダルを踏んでいないときにキーレスゴースイッチ①を押すと、以下のようにイグニッション位置が変更されます。

キーレスゴースイッチの操作	イグニッション位置
1 回押す	0 から 1 になります。
さらに 1 回押す	1 から 2 になります。
さらに 1 回押す	2 から 0 になります。

エンジンを始動する

▶ ブレーキペダルを踏んでいるときにキーレスゴースイッチ①を押します。

! ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときもエンジンは始動できることがあります。車両の盗難に注意してください。

i エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを取り付けた直後は、キーレスゴースイッチでのイグニッション位置の選択やエンジン始動ができないことがあります。

i 車室内にキーがないときにキーレスゴースイッチを押すと、マルチファンクションディスプレイに "ｷｰｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞｷﾏｾﾝ" と表示されます。

タッチスタート

キーレスゴースイッチを押したり、エンジンスイッチを③の位置までまわすと、手を放しても自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

シート

⚠ **事故のおそれがあります**

運転席の乗員は必ず走行前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。走行中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

子供だけを車内に残して車から離れないでください。シート調整スイッチに触れるとシートが動き出し、けがをするおそれがあります。

シートを調整するときは、身体や物などが挟まれないように注意してください。

シートを調整するときは、エアバッグに関する注意もお読みください（▷32ページ）。

⚠ **けがのおそれがあります**

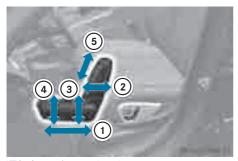
乗車するときは、必ずヘッドレストの中央が目の高さになっていることを確認してください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

! 乗車するときは、ヘッドレストの中央が目の高さになっていることを確認してください。必要に応じてヘッドレストの高さを調整してください。

! セカンドシートを折りたたんでいるときにフロントシートを後方に移動したり、バックレストを後方に倒すときは、セカンドシートに接触しないように注意してください。シートを損傷するおそれがあります。

! バックレストの角度やヘッドレストの高さを調整するときは、サンバイザーを収納してください。ヘッドレストが最も高い位置にあるときは、サンバイザーとヘッドレストが接触するおそれがあります。

i 仕様により、シートの前後位置を調整すると、ヘッドレストの高さも連動して上下します。

フロントシートの調整

運転席シートのスイッチ

矢印の方向	調整内容
①	シートの前後位置
②	バックレストの角度
③	シートの高さ
④	シートクッションの角度
⑤	ヘッドレストの高さ ヘッドレストの中央が目の高さになるように調整します。

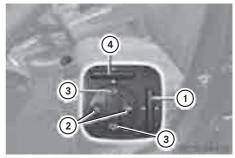
シートを調整する

▶ シート調整スイッチを矢印①～⑤の方向に操作します。

ヘッドレストの角度調整

ヘッドレストの角度を調整する

▶ ヘッドレストの下部を持って、矢印の方向に動かします。

マルチコントロールシートバック

① バックレスト横方向のサポート調整
② ランバーサポートの強さの調整
③ ランバーサポートの位置の調整
④ シートクッション前部のサポート調整

シートのサポートを調整します。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに調整できます。

スイッチは運転席 / 助手席のシート下部にあります。

シートクッション前部のサポートを調整する

▶ スイッチ④を前方または後方に操作します。

ランバーサポートを調整する

腰部のサポートを調整できます。

▶ スイッチ③を押して、サポートの位置を調整します。

▶ スイッチ②を押して、サポートの強さを調整します。

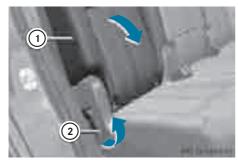
バックレスト横方向のサポートを調整する

▶ スイッチ①を左右に操作します。

ⓘ スイッチを操作しても調整できないときは、エアタンクの圧力が低下しています。エンジンを始動してから再度調整してください。

セカンドシート / サードシートの調整

セカンドシートの折りたたみについては（▷230 ページ）をご覧ください。

バックレストの角度を調整する

① バックレスト
② ロック解除レバー

▶ ロック解除レバー②を矢印の方向に引き上げます。

▶ バックレスト①を好みの角度にして、ロック解除レバー②から手を放します。

サードシートの収納 / 展開（スイッチによる操作）

右側リアドア開口部の車体側およびラゲッジルーム右側にあるサードシート収納 / 展開スイッチで、サードシートを折りたたみ、ラゲッジルームフロアに収納することができます。

右側リアドアまたはテールゲートが開いているときに操作できます。

! サードシートを収納 / 展開しているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。

! サードシートを収納するときは、サードシートのシートクッションに物が載っていないことを確認してください。また、サードシートの周囲に作動の妨げとなる物がないことを確認してください。

サードシートや物を損傷するおそれがあります。

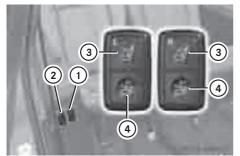
! サードシートを収納するときは、必ずヘッドレストをいっぱいまで下げてください。シートやヘッドレストを損傷するおそれがあります。

! サードシートを展開するときは、収納されているサードシートの上に物が載っていないことを確認してください。また、ラゲッジルームに物がないことを確認してください。

サードシートや物を損傷するおそれがあります。

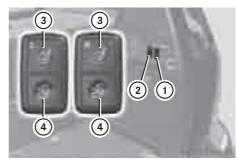
! サードシートは、完全に収納または展開した状態で使用してください。

i サードシートが完全に収納されていないときや、完全に展開されていないときにイグニッション位置を **1** か **2** にすると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

右側リアドア開口部車体側のスイッチ

右側リアドア開口部車体側のスイッチ
① 運転席側サードシートスイッチ
② 助手席側サードシートスイッチ
③ サードシート展開スイッチ
④ サードシート収納スイッチ

"R" の表記があるスイッチは、向かって右側のサードシート（運転席側サードシート）のスイッチです。

"L" の表記があるスイッチは、向かって左側のサードシート（助手席側サードシート）のスイッチです。

ラゲッジルーム右側のスイッチ

ラゲッジルーム右側のスイッチ
① 助手席側サードシートスイッチ
② 運転席側サードシートスイッチ
③ サードシート展開スイッチ
④ サードシート収納スイッチ

"R" の表記があるスイッチは、向かって右側のサードシート（助手席側サードシート）のスイッチです。

"L" の表記があるスイッチは、向かって左側のサードシート（運転席側サードシート）のスイッチです。

サードシートを収納する

▶ サードシートのヘッドレストをいっぱいまで下げます。

▶ サードシート収納スイッチ④を押します。

サードシートのバックレストが前方に倒れ、サードシート全体が下方に移動します。

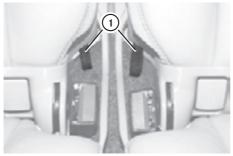
サードシートを展開する

▶ サードシート展開スイッチ③を押します。

収納されているサードシート全体が上方に移動し、バックレストが後方に起き上がります。

ⓘ 仕様により、サードシート収納 / 展開スイッチから手を放すと、サードシートの動きが停止します。

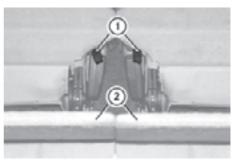
サードシートの収納 / 展開（手動操作）

サードシートをスイッチで操作できないときは、手動で収納 / 展開できます。

① ストラップ

手動で収納する

▶ シートベルトのバックル上方にあるストラップ①を前方に引いてロックを解除します。

▶ バックレストを前方に倒します。

サードシート全体が下方に移動して収納されます。

サードシートバックレスト背面
① ストラップ
② フラップ

手動で展開する

▶ サードシートのバックレスト背面下部にあるフラップ②を開きます。

▶ ストラップ①を後方に引いてロックを解除します。

▶ バックレストを後方に引き起こします。

サードシート全体が上方に移動して展開します。

! サードシートをスイッチまたは手動で収納 / 展開できないときは、指定サービス工場に連絡してください。

サードシートアンダーパネルの脱着

① サードシートアンダーパネル

サードシートの下に物などを落としてしまったときは、サードシートのアンダーパネルを取り外して、物を取り除いてください。

! アンダーパネルの取り外し / 取り付けをしているときは、サードシートを収納 / 展開しないでください。

! サードシートの下に物などが入っているときは、サードシートを収納 / 展開しないでください。サードシートや物を損傷するおそれがあります。

! 走行するときは、アンダーパネルが確実に固定されていることを確認してください。

アンダーパネルを取り外す

▶ サードシートを収納 / 展開の中間位置にします。

▶ アンダーパネル下部を持ち、矢印の方向に引き上げます。

アンダーパネルが外れます。

▶ サードシート下に落ちた物などを取り除いてください。

アンダーパネルを取り付ける

▶ サードシートが収納 / 展開の中間位置になっていることを確認します。

▶ ガイドピンの位置を合わせて、アンダーパネルを取り付け、下方に押し込みます。

▶ サードシートを収納 / 展開させて、アンダーパネルが確実に固定されていることを確認します。

セカンド / サードシートのヘッドレスト

⚠ **けがのおそれがあります**

乗車するときは、必ずヘッドレストを取り付けてください。衝突時に重大なけがをするおそれがあります。

ヘッドレストの高さを調整する

⚠ **けがのおそれがあります**

乗車するときは、必ずヘッドレストの中央が目の高さになっていることを確認してください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

① ヘッドレスト
② ロック解除ノブ

ヘッドレストを高くする

▶ ヘッドレスト①を引き上げます。

ヘッドレストを低くする

▶ ロック解除ノブ②を押しながら、押し下げます。

ヘッドレストの脱着

ヘッドレストを取り外す

▶ バックレストを前方に傾けます (▷77 ページ)。

▶ ロック解除ノブ②を押しながらヘッドレストを引き抜きます。

ヘッドレストを取り付ける

▶ バックレストを前方に傾けます (▷77 ページ)。

▶ 切り欠きのある支柱が左側になるようにして、ヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込んでロックさせます。

サードシートへの乗降

サードシートに乗降するときは、右側セカンドシートを前方に倒します。

右側セカンドシート脇のロック解除レバーまたは右側セカンドシート背面のストラップにより操作できます。

⚠ けがのおそれがあります

右側リアドアを開くときや右側リアドアから乗降するときは、乗降者および運転者ともに、周囲の状況に危険がないことや後方から車両が来ないことを確認してください。

! 右側リアドアを開くときや、右側リアドアから車外に出るときは、周囲の交通状況に十分注意してください。

! セカンドシートを前方に倒すときは、身体や物が挟まれないように注意してください。

! セカンドシートを前方に倒すときは、フロントシートが前方にあり、バックレストが後方に傾きすぎていないことを確認してください。

セカンドシートとフロントシートが接触して、シートを損傷するおそれがあります。

ℹ 左側セカンドシートはバックレストのみを前方に倒すことができます (▷84 ページ)。

ℹ イグニッション位置が **1** か **2** のとき、右側セカンドシートのロック解除レバーを引き上げて右側セカンドシートを引き起こすと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

ロック解除レバーでの操作

① ロック解除レバー
② 右側セカンドシートのバックレスト

▶ 右側セカンドシートのヘッドレストをいっぱいまで下げます。

▶ ロック解除レバー①を引き上げて、右側セカンドシートのバックレスト②を前方に倒します。

ℹ 助手席シートが後方の位置にあるときは、ロック解除レバーを引き上げたまま保持すると、助手席シートが自動的に前方に動き、バックレストも起きます。レバーから手を放すと助手席シートの作動が停止します。

① ロック解除レバー

▶ 再度、ロック解除レバー①をいっぱいまで引き上げながら、右側セカンドシート全体を前方に引き起こします。

ストラップでの操作

③ ストラップ

▶ 右側セカンドシートのヘッドレストをいっぱいまで下げます。

▶ 右側セカンドシートのバックレストを手で押さえながら、ストラップ③を後方に引いてロックを解除します。

▶ ストラップから手を放し、バックレストをゆっくりと前方に倒します。

! バックレストを前方に倒すときは、必ず手で押さえながら行なってください。ストラップだけを引いてバックレストを倒すと、指などに当たり、けがをするおそれがあります。

▶ 再度、ストラップ③を後方に引いてロックを解除し、右側セカンドシート全体を前方に引き起こします。

右側セカンドシートを元に戻す

④ 右側セカンドシート

▶ 前方に倒した右側セカンドシート④全体を、後方に引き下ろします。

⚠ **けがのおそれがあります**

セカンドシートを後方に引き下ろすときは、リンケージやヒンジ（図中の×印のところなど）に身体などを挟まないように注意してください。

② 右側セカンドシートのバックレスト

▶ 右側セカンドシートのバックレスト②を引き上げて、確実にロックします。

ℹ 右側セカンドシートが確実にロックされていないときにイグニッション位置を **1** か **2** にすると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

左側セカンドシートを前方に倒す

左側セカンドシートはバックレストのみを前方に倒すことができます。

① ストラップ
② 左側セカンドシートのバックレスト

▶ 左側セカンドシートのヘッドレストをいっぱいまで下げます。

▶ 左側セカンドシート背面の左下方にあるストラップ①をいっぱいまで引き上げます。

左側セカンドシートのバックレストを前方に押して倒します。

シートベンチレーター

① シートベンチレータースイッチ
② 表示灯

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。

シートベンチレーターを使用する

▶ シートベンチレータースイッチ①を押します。

シートベンチレータースイッチを押すごとに表示灯②の点灯数が変わり、シートベンチレーターの作動内容が切り替わります。

シートベンチレーターを停止する

▶ シートベンチレータースイッチ①を押して、表示灯②を消灯させせます。

表示灯の点灯数	作動内容
3	シートベンチレーターが強で作動します。
2	シートベンチレーターが中で作動します。
1	シートベンチレーターが弱で作動します。
0	停止しています。

ℹ バッテリーの電圧が低くなると、シートベンチレーターが停止することがあります。このときは表示灯が点滅します。電圧が回復すると、再び自動的に作動して、表示灯が点灯します。

ℹ リモコン操作でドアウインドウなどを開くと、運転席のシートベンチレーターが強で約 5 分間作動します。

シートヒーター

フロントシートのスイッチ
① シートヒータースイッチ
② 表示灯

セカンドシートのスイッチ
① シートヒータースイッチ
② 表示灯

フロントおよび左右のセカンドシートにシートヒーターを装備しています。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。

シートヒーターを使用する

▶ シートヒータースイッチ①を押します。

シートヒータースイッチを押すごとに表示灯②の点灯数が変わり、シートヒーターの作動内容が切り替わります。

シートヒーターを停止する

▶ シートヒータースイッチ①を押して、表示灯②を消灯させます。

表示灯の点灯数	作動内容
3	シートヒーターが強で作動します。 約 5 分後に自動的に中に切り替わります。
2	シートヒーターが中で作動します。 約 10 分後に自動的に弱に切り替わります。
1	シートヒーターが弱で作動します。 約 20 分後に自動的に停止します。
0	停止しています。

! コートや厚手の衣服などを着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態でシートヒーターを使用しないでください。また、シートヒーターを連続して使用しないでください。異常過熱により低温火傷（紅斑､水ぶくれ）を起こしたり、シートヒーターが故障するおそれがあります。

! 以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので、十分に注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、病人、体が不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 眠気をさそう薬を服用された方
- 飲酒した方

! シートに凸部のある重量物を置かないでください。故障の原因になります。

i バッテリーの電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。このときは表示灯が点滅します。電圧が回復すると、再び自動的に作動し、表示灯が点灯します。

ステアリング

⚠ **事故のおそれがあります**

ステアリングの調整は、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

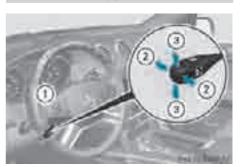
- 運転中はステアリングのパッド部を持たないでください。万一のとき、エアバッグの作動を妨げるおそれがあります。
- ステアリングのパッド部にカバーをしたり、エアバッグの上にバッジ、ステッカー、オーディオのリモコンなどを貼付しないでください。エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。ステアリング調整レバーを操作することでステアリングが動き出し、ステアリングに挟まれるおそれがあります。

ステアリングを調整するときは、以下のことに注意してください。

- ステアリングを握ったとき、腕に適度な余裕がある
- 足を自由に動かせて、ペダルが十分に踏み込める
- メーターパネルのすべてのメーター類やマルチファンクションディスプレイ、警告灯 / 表示灯を確認できる

! ステアリングをいっぱいまでまわした状態を長く保持しないでください。ステアリング装置を損傷するおそれがあります。

! 故障などでエンジンを停止してけん引するときは、十分注意してください。エンジンが停止していると、通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

ステアリングの調整

① ステアリング調整レバー
② 前後位置の調整
③ 上下位置の調整

前後位置を調整する

▶ ステアリング調整レバー①を②の方向に操作します。

上下位置を調整する

▶ ステアリング調整レバー①を③の方向に操作します。

ℹ ステアリングの位置は、運転席シートの位置やドアミラーの角度と併せて記憶（▷92 ページ）させることができます。

イージーエントリー

運転席への乗り降りを容易にするため、次のいずれかの操作をすると、ステアリングが上方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- イグニッション位置が **0** か **1** のときに運転席ドアを開く

ステアリングは、次のいずれかの操作をすると、元の位置に戻ります。

- 運転席ドアが閉じている状態で、エンジンスイッチにキーを差す
- イグニッション位置が **0** のときは、運転席ドアを閉じてから **1** の位置にする
- イグニッション位置が **1** のときは、運転席ドアを閉じて、**2** の位置にする

この機能の設定と解除については（▷149 ページ）をご覧ください。

⚠ けがのおそれがあります

イージーエントリー機能が作動しているときは、身体が挟まれないように注意してください。ステアリングの作動を停止するときは、運転席のシートポジションスイッチかメモリースイッチ、またはステアリング調整レバーを操作してください。

⚠ けがのおそれがあります

子供だけを車内に残して車から離れないでください。誤ってエンジンスイッチからキーを抜いたり、運転席ドアを開いたときにイージーエントリー機能が作動し、身体が挟まれてけがをするおそれがあります。

ⓘ ステアリングの位置によっては、ステアリングが上方に移動しないことがあります。

ミラー

⚠ **事故のおそれがあります**

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

ルームミラーやドアミラーには死角があります。車線変更をするときは、必ずドアミラーでも後方を確認してください。また、必ず肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ルームミラーやドアミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用するときは、必ず指定サービス工場にご相談ください。ガラスクリーナーによっては、ミラーが変色するおそれがあります。

ルームミラー

ルームミラーの角度調整

▶ 手でルームミラーの角度を調整します。

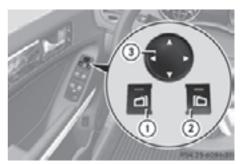
ドアミラー

⚠ **けがのおそれがあります**

ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。ドアミラーで後方を確認するときは十分注意してください。

! ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、歩行者などに十分注意してください。

ℹ ドアミラーにはヒーターが装着されています。リアデフォッガー（▷216 ページ）を作動させたときや外気温度が下がったときは、自動的に温められ、凍結を防ぎます。

ドアミラーの角度調整

① 運転席側ドアミラー選択スイッチ
② 助手席側ドアミラー選択スイッチ
③ ドアミラー調整スイッチ

イグニッション位置が **1** か **2** のときに調整できます。

ドアミラーの角度を調整する

▶ 調整する側のドアミラー選択スイッチ①または②を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

▶ ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯しているときに、ドアミラー調整スイッチ③を操作してドアミラーの角度を調整します。

ℹ ドアミラーの角度を調整しないまま約 15 秒経過すると、ドアミラー選択ボタンの表示灯は消灯します。

ℹ ドアミラーの角度は、運転席シートやステアリングの位置と併せて記憶させることができます（▷92 ページ）。

ドアミラーの格納 / 展開

① ドアミラー格納 / 展開スイッチ

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

ドアミラーを格納する

▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ①を押します。

ドアミラーを展開する

▶ 再度、ドアミラー格納 / 展開スイッチを押します。

! ドアミラーは手で格納したり、展開しないでください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

! 走行するときはドアミラーを展開してください。

! ドアミラーを格納 / 展開しているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! 洗車機を使用するときはドアミラーを格納してください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

i エンジンを停止して停車しているときに、歩行者などが当たりドアミラーがわずかに曲がった場合、次にエンジンを始動し、速度が約45km/h 以上になると、ドアミラーが展開位置に戻ります。完全に戻らないときは、格納 / 展開スイッチを押して戻してください。

施錠時のドアミラーの格納

リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠するときにドアミラーも併せて格納できます。

格納されたドアミラーは、フロントドアを開くと元の位置に戻ります。

この機能の設定と解除については（▷149 ページ）をご覧ください。

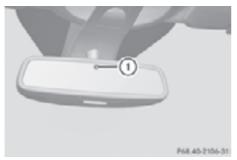
i ドアミラー格納 / 展開スイッチでドアミラーを格納してから施錠したときは、フロントドアを開いてもドアミラーは展開しません。

ドアミラーのリセット

バッテリーの接続が一時的に断たれたり、バッテリーがあがったときは、施錠時のドアミラー格納が作動しないことがあります。このようなときは、ドアミラーをリセットしてください。

▶ イグニッション位置を **1** にします。

▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ①を押します。

自動防眩機能

① センサー

周囲が暗く、イグニッション位置が **1** か **2** のとき、ルームミラーのセンサー①が後続車のライトを受けると、自動的にルームミラーと運転席側のドアミラーの色の濃度が変わり眩しさを防止します。

⚠ けがのおそれがあります

ミラーのガラスが損傷すると、液体が漏れ出すことがあります。この液体は物を腐食させる性質がありますので、目や皮膚に直接触れないよう注意してください。

万一、液体が目に入ったときや皮膚に付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

! 液体が車の塗装面に付着したときは、ただちに水で湿らせた布などで拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。

! セーフティネットを使用しているときなど、ルームミラーのセンサーが後続車のライトに照射されないときは、自動防眩機能は作動しません。十分注意して走行してください。

i ルームミラーのセンサー①に後方からのライトが当たらないときは、自動防眩機能は作動しないことがあります。

i シフトポジションが **R** のときやフロントルームランプが点灯しているときは自動防眩機能は解除されます。

メモリー機能

シート位置の記憶

運転席シートのスイッチ
① ポジションスイッチ
② メモリースイッチ

運転席シートおよび助手席シートには、3 つの位置を記憶させることができます。

運転席シートでは、ステアリングの位置とドアミラーの角度も記憶させることができます。

▶ 正しいシート位置に調整します。

運転席では、さらにステアリングの位置、ドアミラーの角度を調整します。

ドアミラーの角度を調整するときは、イグニッション位置を **1** か **2** にしてください。

▶ メモリースイッチ②を押します。

▶ 約 3 秒以内にポジションスイッチ①の 1 ～ 3 のいずれかを押します。

確認音が鳴り、そのポジションスイッチにシート位置などが記憶されます。

他のポジションスイッチにも同様の方法でシート位置などを記憶させることができます。

⚠ けがのおそれがあります

子供だけを車内に残して車から離れないでください。スイッチを操作することでシートなどが動きだし、身体を挟まれるおそれがあります。

記憶させたシート位置の呼び出し

⚠ 事故のおそれがあります

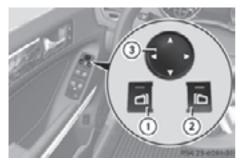
運転席シートのシート位置の呼び出しは、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

▶ 呼び出したいポジションスイッチ①の 1 ～ 3 のいずれかを押し続けます。

シートなどが動きはじめ、あらかじめ記憶させた位置になると停止します。

! バックレストを大きく後方に傾けているときは、記憶位置を呼び出す前に、バックレストを起こしてください。

ℹ 安全のため、ポジションスイッチから手を放すとシートなどは停止します。

助手席側ドアミラーのパーキングヘルプ機能

① 運転席側ドアミラー選択スイッチ
② 助手席側ドアミラー選択スイッチ
③ ドアミラー調整スイッチ

シフトポジションを R にしたときに、助手席側ドアミラーの角度があらかじめ記憶されていた角度になり、車両後方の視界を確保して、後退を容易にします。

助手席側ドアミラーの角度の記憶

▶ パーキングブレーキを確実に効かせ、エンジンを停止します。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択ボタン②を押します。

▶ シフトポジションを R にします。

助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶させていた角度になります。

▶ ドアミラー調整スイッチ③で、助手席ドアミラーを後退時に後方が確認しやすい角度に調整します。

調整した角度が新たに記憶されます。

記憶させた助手席側ドアミラー角度の呼び出し

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択ボタン②を押します。

▶ シフトポジションを R にします。

助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶させていた角度になります。

助手席側ドアミラーは次のいずれかのときに元の角度に戻ります。

- シフトポジションを R から他の位置にして約 10 秒経過したとき
- 走行速度が約 10km/h 以上になったとき
- 運転席側ドアミラー選択ボタン①を押したとき

ℹ 運転席側ドアミラー選択ボタンが押されているときは、助手席側ドアミラーの角度は変わりません。

ℹ パーキングヘルプ機能が作動しているときは、助手席側ドアミラー選択ボタンの表示灯が点灯します。

シートベルト

シートベルトの着用

⚠ けがのおそれがあります

- シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、シートベルトの機能が十分に発揮されずに、致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトやバックルに汚れや損傷があるときや、事故でシートベルトが大きな負担を受けたとき、シートベルトを改造しているときは、十分な乗員保護機能を発揮できずに、致命的なけがをするおそれがあります。
- 乗員全員が、常にシートベルトを正しく着用していることを確認してください。
- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。

⚠ けがのおそれがあります

- 子供を膝の上に座らせて走行しないでください。急な進路変更や急ブレーキ時、事故などのときに子供を保護することができず、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。
- 身長 150cm 未満の乗員または 12 歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。必ずチャイルドセーフティシートを適切なシートに装着して、子供の安全を確保してください。

  詳しくは（▷38 ページ）をご覧ください。
- 子供がシートベルトを着用するときは、着用状態を運転者が確認してください。また、正しく着用できない体格の子供は適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

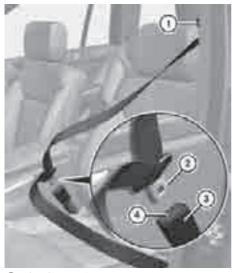
⚠ けがのおそれがあります

シートベルトの機能が十分発揮できるように、以下の点に注意して正しく着用してください。

- シートベルトは身体に密着させて、ねじれのないように着用してください。
- コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。
- 肩を通るベルトは肩の中央にかけてください。絶対に首や脇の下には通さないでください。また、シートベルトを引き上げて上半身に密着させてください。
- 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。絶対に腹部にはかけないでください。必要であれば、シートベルトを少し押し下げた後に、引き上げてください。
- 眼鏡やペンキーなど、衣類のポケットに入れたとがった物やこわれやすい物にシートベルトをかけないでください。事故のときに、シートベルトを損傷し、切れるおそれがあります。
- シートベルトクリップなどを使用してシートベルトにたるみをつけないでください。
- 1 本のシートベルトを 2 人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバッグなどを挟み込まないでください。

⚠ けがのおそれがあります

シートベルトの効果は、バックレストができるだけ垂直に近い角度で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ発揮することができます。絶対にバックレストを大きく寝かせた状態で走行しないでください。致命的なけがをするおそれがあります。

シートベルトについては(▷28ページ)もご覧ください。

① ベルトアンカー
② プレート
③ バックル
④ 解除ボタン

シートベルトを着用する

▶ シートを調整し、バックレストをできるだけ垂直に近い角度にします。

▶ シートベルトをベルトアンカー①からゆっくりと引き出します。

シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、再びゆっくり引き出します。

▶ ねじれがないようにしながら、シートベルトを肩の中央にかけます。

▶ プレート②の先端をバックル③に差し込みます。

▶ 肩を通るベルトが肩の中央にかかっていることを確認します。

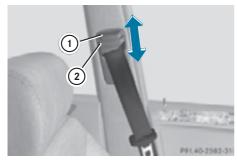
▶ 腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかっていることを確認します。

▶ フロントシートは、必要に応じてシートベルトの高さを調整します(▷96ページ)。

▶ 必要に応じてシートベルトの肩にかかる部分を引き上げ、身体に密着させます。

シートベルトを外す

▶ 手でプレート②を持ち、バックル③の解除ボタン④を押して、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

フロントシートベルトの高さ調整

① ロック解除ボタン
② アンカー

シートベルトが肩の中央にかかるように高さを調整します。

高さは 4 段階に調整できます。

フロントシートベルト上げる

▶ アンカー②をそのまま上げます。

フロントシートを下げる

▶ ロック解除ボタン①を押しながらアンカー②を下げます。

調整後はアンカーが確実にロックしていることを確認してください。

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢になるように以下の点に注意してシートを調整してください。

- 運転席エアバッグからできるだけ離れている
- ヘッドレストの中央が目の高さにある
- バックレストはできるだけ垂直にする
- 背中はバックレストに密着させる
- シートベルトが正しく着用できる
- ももの裏側が軽く支えられるように、シートクッションの角度を調整する
- ペダルが楽に踏み込める
- ステアリングが楽に操作できる

⚠ 事故のおそれがあります

運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

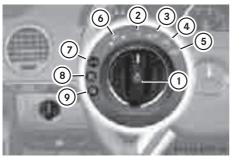
- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- シートのバックレストを大きく後方に傾けた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

! シートを調整しているときは、シートの下や横に身体を入れたり、作動部に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

! シートの一部が身体や物に当たったときは、それ以上操作しないでください。

! 誤ってシート調整スイッチに触れるとシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。子供を乗せているときは十分注意してください。

ランプ

ランプスイッチ

① ランプスイッチ

! エンジンを停止した状態で、ランプを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

	位置	作動内容
②	0	すべてのランプが消灯
③	AUTO	周囲の明るさに応じて自動的に点灯 / 消灯
④	(車幅灯記号)	車幅灯、テールランプ、ライセンスランプやスイッチなどの照明が点灯し、表示灯⑦が点灯
⑤	(ヘッドランプ記号)	ヘッドランプが点灯
⑥	P (右) / P (左)	右側のパーキングランプが点灯 左側のパーキングランプが点灯
⑦	車幅灯表示灯	
⑧	フロントフォグランプ表示灯	
⑨	リアフォグランプ表示灯	

! ランプスイッチを (車幅灯記号) の位置にしたまま、エンジンスイッチに差し込んだキーを抜くかキーレスゴースイッチでイグニッション位置を **0** にして、運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾗｲﾄ ｦ ｹｼﾃ ｸﾀﾞｻｲ !" と表示されます。

このときはランプを消灯してください。バッテリーがあがるおそれがあります。

ヘッドランプ

i ヘッドランプが点灯しているときに、イグニッション位置を **1** にすると、ヘッドランプが消灯します。

さらにこの状態でイグニッション位置を **0** にして運転席ドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、車幅灯なども消灯します。

ヘッドランプを手動で点灯する

▶ ランプスイッチ①を (ヘッドランプ記号) の位置にします。

- イグニッション位置が **1** のときは、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、車幅灯表示灯⑦が点灯します。
- イグニッション位置が **2** のときは、上記に加えてヘッドランプも点灯します。

ヘッドランプの自動点灯機能

周囲が暗いときに、ヘッドランプを自動的に点灯 / 消灯できます。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ランプの点灯 / 消灯に関する責任は運転者にあります。ランプの自動点灯機能は運転者を支援する機能です。
- 以下の状況などではランプは自動的に点灯しなかったり、点灯していたランプが消灯して事故を起こすおそれがあります。このときは、手動でランプを点灯してください。
  - ◇ 霧の中を走行するとき
  - ◇ 対向車のランプなどにより、センサーが正常に作動しないとき
- ランプスイッチを AUTO から ≣D の位置にするときは、必ず停車してください。ランプが一瞬消灯して事故を起こすおそれがあります。

ヘッドランプを自動的に点灯 / 消灯する

▶ ランプスイッチ①を AUTO の位置にします。

- イグニッション位置が **1** のときは、周囲が暗いときに車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが自動的に点灯し、車幅灯表示灯⑦が点灯します。
- エンジンがかかっているときは、上記に加えてヘッドランプも自動的に点灯します。

ⓘ フロントウインドウの上部中央には明るさを感知するセンサーがあります。このセンサーは、レインセンサーと同じ位置にあります（▷106 ページ）。センサー部にステッカーなどを貼付すると、自動点灯機能が働かなくなります。

フォグランプ

⚠ **事故のおそれがあります**

ランプスイッチが AUTO の位置のときは、フォグランプを点灯することはできません。

霧の中を走行するときは、あらかじめランプスイッチを ≣D の位置にしてヘッドランプを点灯してください。

フロントフォグランプを点灯する

▶ イグニッション位置が **2** でランプスイッチ①の位置が ≡DOE または ≣D のときに、ランプスイッチを 1 段引きます。

フロントフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯⑧が点灯します。

フロントフォグランプとリアフォグランプを点灯する

▶ イグニッション位置が **2** でランプスイッチ①の位置が ≡DOE または ≣D のときに、ランプスイッチを 2 段引きます。

フロントフォグランプとリアフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯⑧とリアフォグランプ表示灯⑨が点灯します。

! フォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。対向車や後続車の迷惑になります。

パーキングランプ

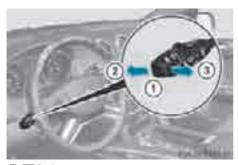
暗がりでの駐車時に後続車などに車の存在を知らせるため、車幅灯とテールランプだけを点灯します。

パーキングランプを点灯する

イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはキーを差し込んでいないときに点灯させることができます。

▶ ランプスイッチを P⋲→ または ←P⋲ の位置にします。

位置	作動内容
P⋲→	右側のパーキングランプが点灯
←P⋲	左側のパーキングランプが点灯

ヘッドランプ下向き / 上向きの切り替え

① 下向き
② 上向き
③ パッシング

ヘッドランプを下向きにする

▶ コンビネーションスイッチを①の位置にします。

ヘッドランプが下向きになります。

ヘッドランプを上向きにする

▶ コンビネーションスイッチを②の位置にします。

ヘッドランプが上向きになります。

メーターパネルのハイビーム表示灯 ≣D が点灯します。

! 対向車があるときや市街地を走行するときは、ヘッドランプを上向きにしないでください。

パッシングする

▶ コンビネーションスイッチを③の方向に引きます。

引いている間、ヘッドランプが上向きで点灯します。

メーターパネルのハイビーム表示灯 ≣D が点灯します。

コンビネーションスイッチから手を放すと①の位置に戻ります。

車外ランプ消灯遅延機能

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやテールゲートを開いて閉じた後、約 15 秒後に消灯します。

この機能の設定と解除については (▷144 ページ) をご覧ください。

車外ランプ消灯遅延機能を一時的に解除する

▶ エンジンを停止した後、イグニッション位置を **2** にします。

ⓘ ランプが消灯するまでの時間は、ドアやテールゲートを閉じてから消灯するまでのおよその時間です。

ℹ エンジンを停止してからドアやテールゲートを閉じたままにするか、開いてそのままにしてから約60秒後に、ランプは消灯します。

方向指示

① 右側の方向指示灯が点滅
② 左側の方向指示灯が点滅

右側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを①の方向に操作します。

左側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを②の方向に操作します。

ステアリングを直進に戻すとコンビネーションスイッチは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。

方向指示灯が点滅しているときは、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

ℹ 方向指示灯を点滅させているときに非常点滅灯スイッチを押すと、非常点滅灯に切り替わります。再度、非常点滅灯スイッチを押すと、方向指示灯に切り替わります。

ℹ コンビネーションスイッチを軽く操作すると、方向指示灯が3回点滅します

非常点滅灯

① 非常点滅灯スイッチ

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。

非常点滅灯を点滅させる

▶ 非常点滅灯スイッチ①を押します。

すべての方向指示灯が点滅します。

非常点滅灯スイッチ①とメーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

非常点滅灯を消灯させる

▶ 再度、非常点滅灯スイッチ①を押します。

! 非常時以外は使用しないでください。

! エンジンを停止して長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

ⓘ 非常点滅灯を点滅させているときに方向指示の操作をすると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。方向指示灯が消灯すると、再び非常点滅灯に切り替わります。

ⓘ エアバッグが作動すると、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を消灯するときは、非常点滅灯スイッチを押します。

ⓘ 約 70km/h 以上からの急ブレーキ時は、停止後に非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯は、非常点滅灯スイッチを押すか、走行速度が約 10km/h 以上になると自動的に消灯します。

ヘッドランプウォッシャー

エンジンがかかっていてヘッドランプが点灯しているときに、フロントウインドウウォッシャーを約 5 回操作すると、ヘッドランプウォッシャーが自動的に作動します。

ⓘ エンジンを停止するか、ヘッドランプを消灯させると、フロントウインドウウォッシャーを作動させた回数はリセットされます。

ⓘ 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

! ヘッドランプは樹脂製レンズを使用しているので、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

コーナリングランプ

以下のときに、方向指示灯の点滅、またはステアリング操作に連動して、フロントフォグランプが点灯します。

- 周囲が暗いとき
- エンジンがかかっていて、走行速度が約 40km/h 以下のとき
- ヘッドランプを点灯しているとき

方向指示灯の点滅との連動

方向指示灯を点滅させると、点滅させた側のフロントフォグランプが点灯します。

シフトポジションが **R** のときは、フロントフォグランプは点灯しません。

ステアリング操作との連動

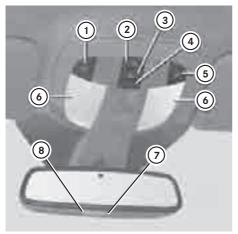
ステアリングを操作すると、操作した側のフロントフォグランプが点灯します。

シフトポジションが **R** のときは、ステアリングを操作した方向と逆側のフロントフォグランプが点灯します。

ⓘ 点滅させた方向指示灯の方向と、ステアリングの操作方向が異なるときは、方向指示灯と同じ側のフロントフォグランプが点灯します。

ℹ フロントフォグランプはゆっくり消灯するため、一時的に左右両側のフロントフォグランプが点灯することがあります。

ℹ 点灯したフロントフォグランプは、約 3 分後に自動的に消灯します。

ルームランプ

① フロント読書灯（左側）スイッチ
② サードシートルームランプスイッチ
③ 点灯モード選択スイッチ
④ フロントルームランプスイッチ
⑤ フロント読書灯（右側）スイッチ
⑥ フロントルームランプ
⑦ フロント読書灯（右側）
⑧ フロント読書灯（左側）

ルームランプの点灯モードの選択

自動点灯モードにする

▶ 点灯モード選択スイッチ③が押されていない状態にします。

以下の操作をするとフロントルームランプ、セカンドシートルームランプ、サードシートルームランプ、ラゲッジルームランプおよびテールゲート裏側のランプが点灯 / 消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜くと点灯し、約 10 秒後に消灯します。

  この機能の設定 / 解除についてはは（▷144 ページ）をご覧ください。
- リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠すると点灯し、約 30 秒後に消灯します。
- いずれかのドアまたはテールゲートを開くとフロントルームランプ、セカンドシートルームランプ、サードシートルームランプ、ラゲッジルームランプおよびテールゲート裏側のランプが点灯します。

  ◇イグニッション位置が **2** のときは、ドアやテールゲートを閉じるとただちに消灯します。

  ドアやテールゲートが開いたままのときは、消灯しません。

  ◇イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはキーが抜いてあるときは、ドアやテールゲートを閉じると約 7 秒後に消灯します。

  ドアやテールゲートが開いたままのときは、約 5 分後に消灯します。

ℹ 点灯しているルームランプや読書灯などは、リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠すると数秒後に自動的に消灯します。

! 車を施錠したときは、ルームランプなどが消灯することを確認してください。

常時消灯モードにする

▶ 点灯モード選択スイッチ③が押された状態にします。

以下のいずれかの操作をしても、ルームランプなどは点灯しません。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠する
- ドアを開く
- テールゲートを開く

非常時の自動点灯

ルームランプが自動点灯モードのときは、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ルームランプが自動的に点灯します。また、このときは非常点滅灯も点滅します。

自動的に点灯したルームランプを消灯する

▶ 非常点滅灯スイッチを押します。

または

▶ リモコン操作で解錠します。

または

▶ 点灯モード選択スイッチ③を押します。

フロントルームランプの点灯 / 消灯

フロントルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ フロントルームランプスイッチ④を押します。

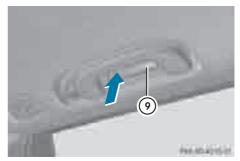
フロントルームランプ⑥が点灯 / 消灯します。

フロント読書灯

フロント読書灯を点灯 / 消灯する

▶ フロント読書灯スイッチ①⑤を押します。

フロント読書灯⑦⑧が点灯 / 消灯します。

セカンドシートルームランプの点灯 / 消灯

⑨ セカンドシートルームランプ（右側）

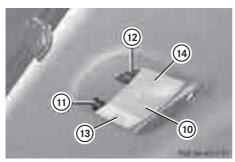
セカンドシートルームランプはリアドアウインドウの上方にあります。

セカンドシートルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ セカンドシートルームランプ⑨の前部（矢印の部分）を押します。

セカンドシートルームランプが点灯 / 消灯します。

! セカンドシートルームランプを長時間点灯すると、セカンドシートルームランプが熱くなります。火傷をするおそれがありますので、操作するときなどは注意してください。

サードシートルームランプとサードシート読書灯の点灯 / 消灯

⑩ サードシートルームランプ
⑪ サードシート読書灯スイッチ（右側）
⑫ サードシート読書灯スイッチ（左側）
⑬ サードシート読書灯（右側）
⑭ サードシート読書灯（左側）

サードシートルームランプはサードシートの上方にあります。

サードシートルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ サードシートルームランプスイッチ②（▷102 ページ）を押します。

サードシートルームランプ⑩が点灯 / 消灯します。

サードシート読書灯を点灯 / 消灯する

▶ サードシート読書灯スイッチ⑪⑫を押します。

サードシート読書灯⑬⑭が点灯 / 消灯します。

フットウェルランプ

フロントシートおよびセカンドシートの足元に乗降用のランプがあります。

ルームランプの点灯モードが自動点灯モードのときに、以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠すると低い照度で点灯し、約 30 秒後に消灯します。
- イグニッション位置が **2** のときは低い照度で点灯し、**2** 以外の位置にすると約 7 秒後に消灯します。
- いずれかのドアを開くと明るく点灯します。
  - ◇イグニッション位置が **2** のときは、ドアを閉じると減光します。
  - ◇イグニッション位置が **2** の位置のときは、ドアを閉じると減光し、約 7 秒後に消灯します。

    ドアを開いたままのときは、約 5 分後に消灯します。

センターコンソールランプ

ルームミラーの下部にあります。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに点灯し、センターコンソールを照らします。

ドア下部のランプ

ドア下部に乗降用のランプがあります。

ルームランプの点灯モードが自動点灯モードのときに、以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- ドアを開くと点灯します。
- イグニッション位置が **2** 以外でドアを開いたままのときは、約 5 分後に消灯します。

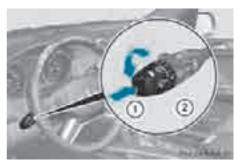
ドアミラー下部のランプ

運転席側ドアミラー下部に乗降用のランプがあります。

ルームランプの点灯モードが自動点灯モードのときに、以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- いずれかのドアを開くと点灯し、ドアを閉じると約 7 秒後に消灯します。
- ドアを開いたままのときは、約 30 秒後に消灯します。
- リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠すると、約 30 秒間点灯します。

ワイパー

フロントワイパー

① ティップ機能 / フロントウインドウウォッシャーの噴射
② ワイパー作動モードのマーク

ワイパーを作動させる

イグニッション位置が **1** か **2** のときに作動します。

▶ コンビネーションスイッチをまわしてワイパー作動モードのマーク②を ･･･ ～ ☰ に合わせます。

位置	作動内容
0	停止
･･･	間欠モードⅠ （停止～高速）
････	間欠モードⅡ （停止～高速） 同じ雨滴量の場合、間欠モードⅠよりも短い間隔でワイパーが作動します。
―	低速モード
☰	高速モード

ワイパーを 1 回だけ作動させる（ティップ機能）

▶ コンビネーションスイッチを矢印①の方向に軽く押します。

ワイパーが 1 回だけ作動します（ウォッシャー液は噴射しません）。

この機能はフロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。

フロントウインドウウォッシャーを噴射する

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のとき、コンビネーションスイッチを矢印①の方向にいっぱいまで押します。

その間ウォッシャー液が噴射し、ワイパーも作動します。

ℹ 間欠モードでは、フロントウインドウのレインセンサーが感知した雨滴量や走行速度などに応じて、ワイパーの作動を自動的に切り替えます。

ℹ 間欠モードのとき、停車時にフロントドアを開くとワイパーは停止します。ワイパーは以下のときに作動を再開します。

- シフトポジションが **P** または **N** のときは、ドアを閉じて他のシフトポジションにしたとき
- シフトポジションが **D** または **R** のときは、ドアを閉じたとき

ℹ コンビネーションスイッチが — および = の位置のときも、停車時および低速走行時のワイパーの作動は、レインセンサーにより自動調整されます。

ℹ ボンネットのロックが解除されているときは、ワイパーは作動しません。

ℹ ワイパーが作動しないときは、別のモードを選択すると作動することがあります。

ℹ 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

レインセンサー

フロントウインドウ上部中央にレインセンサーがあります。

! レインセンサー部にステッカーなどを貼付しないでください。レインセンサーが正しく機能しなくなります。

リアワイパー

① ノブ
② リアワイパー作動モードのマーク
③ リアワイパー作動位置
④ 停止位置
⑤ テールゲートウインドウウォッシャー作動位置

⑥ リアワイパーインジケーター

リアワイパーを作動させる

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のときにノブ①をまわして、リアワイパー作動モードのマーク②を③の位置に合わせます。

リアワイパーが間欠で作動し、マルチファンクションディスプレイに、リアワイパーインジケーター⑥が表示されます。

ℹ イグニッション位置が **2** でフロントワイパーが作動しているときにシフトポジションを **R** にすると、リアワイパーが以下のように作動します。

- フロントワイパーが間欠作動のとき

  間欠で作動します。

- フロントワイパーが低速または高速作動のとき

  低速で作動します。

テールゲートウインドウウォッシャーを噴射する

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のとき、ノブ①をまわしてリアワイパー作動モードのマーク②を⑤の位置に合わせ続けます。その間ウォッシャー液が噴射し、リアワイパーも作動します。

! ワイパーやウォッシャーを使用するときは、歩行者に水しぶきやウォッシャー液がかからないように注意してください。

! ウインドウを拭くときなどは、必ずコンビネーションスイッチを **0**（停止）の位置にしてください。ワイパーが動き、けがをするおそれがあります。

! ウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付いたり、ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。

ウインドウが汚れている場合は、必ずウォッシャーを噴射してから使用してください。

! エンジンを停止するときは、必ずコンビネーションスイッチを **0** の位置に戻してください。

コンビネーションスイッチが **0** 以外の位置のままイグニッション位置を **1** にすると、ワイパーが作動し、ウインドウが濡れていないときは傷が付くおそれがあります。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

! ワイパーを使用する必要がないときは、必ずコンビネーションスイッチを 0 の位置にしてください。フロントウインドウの汚れや光線の乱反射などでレインセンサーが誤作動し、フロントウインドウが濡れていないときでもワイパーが作動することがあります。

! 寒冷時にはワイパーがウインドウに貼り付くことがあります。作動させる前に貼り付いていないことを確認してください。貼り付いたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。

! 雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを操作してください。作業の際には、安全のため、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

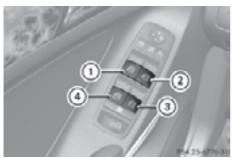
パワーウインドウ

⚠ けがのおそれがあります

- ドアウインドウを開くときは、ドアウインドウに触れたり、身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームとの間に身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。
- ドアウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにドアウインドウスイッチを操作してドアウインドウを開いてください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

  また、車内が高温または低温になると、命に関わるおそれがあります。
- 子供が車内からドアやドアウインドウを開くと、事故やけがの原因になります。

  子供を乗せるときは、リアドアやリアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを使用してください。

ドアウインドウの開閉

運転席ドアのスイッチ
① 左フロントドアウインドウスイッチ
② 右フロントドアウインドウスイッチ
③ 右リアドアウインドウスイッチ
④ 左リアドアウインドウスイッチ

ドアウインドウスイッチは各ドアにあります。

運転席ドアには、すべてのドアウインドウスイッチがあります。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに、ドアウインドウを開閉できます。

ドアウインドウを開く

▶ 各スイッチを軽く押します。

押している間だけ開きます。

各スイッチをいっぱいまで押すと、自動で開きます。

ドアウインドウを閉じる

▶ 各スイッチを軽く引きます。

引いている間だけ閉じます。

各スイッチをいっぱいまで引くと、自動で閉じます。

挟み込み防止機能

ドアウインドウには挟み込み防止機能があります。

⚠ **けがのおそれがあります**

挟み込み防止機能が作動しない状態でドアウインドウを閉じるときは十分注意してください。

スイッチを引き続けてドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止し、スイッチから手を放すと、その位置から少し開きます。

ただし、2 度連続して挟み込み防止機能が作動してから約 3 秒以内に、再度ドアウインドウを閉じたときは、挟み込み防止機能は作動しません。

自動でドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止して、その位置から少し開きます。

ただし、2 度連続して挟み込み防止機能が作動してから約 3 秒以内に、再度ドアウインドウを閉じたときは、ドアウインドウは自動で閉じなくなり、挟み込み防止機能も作動しません。

! 車から離れるときや洗車のときは、ドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。

i リモコン操作でドアウインドウを開くことができます（▷111 ページ）。

ℹ リモコン操作またはキーレスゴー操作でドアウインドウを閉じることができます（▷112 ページ）。

ℹ ドアウインドウが自動で開閉しているときに、スイッチを操作すると、その位置で停止します。

ℹ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、ドアウインドウを開閉できます。約 5 分以内にフロントドアを開くと、ドアウインドウの開閉はできなくなります。

ℹ ドアウインドウが開いているときに PRE-SAFE（▷37 ページ）が車両の横滑りを感知すると、ドアウインドウが少し開いた位置まで自動的に閉じます。

ℹ 運転席ドアのスイッチで他のドアウインドウを開閉しているときは、助手席ドアやリアドアのスイッチで開閉しているドアウインドウを操作することはできません。

ドアウインドウが自動で開閉しないとき

以下のときは、ドアウインドウをリセットしてください。

- バッテリーあがりやバッテリーの交換などで、一時的に電源が断たれたとき
- ドアウインドウが自動で開閉しないとき
- ドアウインドウが全閉した後に少し開くとき

ドアウインドウをリセットする

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ スイッチを軽く引いて全閉にし、そのまま約 2 秒以上保持してください。

再度、ドアウインドウが少し開くときは

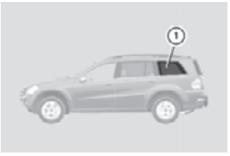
▶ 再度ドアウインドウスイッチを引いて、そのまま約 1 秒以上保持してください。

▶ この操作を他のドアウインドウでも行ないます。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

ベンチレーションウインドウの開閉

⚠ **けがのおそれがあります**

ベンチレーションウインドウを閉じるときに、身体や物が挟まれそうになったときは、ただちにスイッチを押すか引いてください。ベンチレーションウインドウが開きます。

① ベンチレーションウインドウ

ベンチレーションウインドウ①のスイッチは運転席ドアにあります。

② ベンチレーションウインドウスイッチ

イグニッション位置が **1** か **2** のときに、ベンチレーションウインドウを開閉できます。

ベンチレーションウインドウを開く

▶ スイッチ②を押します。

左右のベンチレーションウインドウが自動で開きます。

ベンチレーションウインドウを閉じる

▶ スイッチ②を引きます。

左右のベンチレーションウインドウが自動で閉じます。

ⓘ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、ベンチレーションウインドウを開閉できます。約 5 分以内にフロントドアを開くと、ベンチレーションウインドウの開閉はできなくなります。

ⓘ 安全のため、ベンチレーションウインドウを全閉してから約 4 秒間は、スイッチを押してもベンチレーションウインドウが開かないことがあります。

コンビニエンスオープニング機能

① 発信部
② 解錠ボタン

車内が暑くなっているときなど、乗車する前に車内の空気を換気したいときは、リモコン操作でドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフを開くことができます。

▶ キーの発信部①を運転席ドアのドアハンドルに向けて、解錠ボタン②を押し続けます。

すべてのドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフが開きます。

解錠ボタンから指を放すと、作動中のドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフはその位置で停止します。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。

! リモコン操作でドアウインドウを開くときは、ドアウインドウに身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームの間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。

ⓘ コンビニエンスオープニング機能は、リモコン操作でのみ行なうことができます。

ⓘ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。

コンビニエンスクロージング機能

リモコン操作またはキーレスゴー操作により、車外からドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディンググルーフを閉じることができます。

車から降りた後に、ドアウインドウなどを閉じたいときに使用します。

! コンビニエンスクロージング機能でドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディンググルーフを閉じるときは、開口部に異物がないことを確認してください。

! 車から離れる前に、すべてのドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディンググルーフが閉じていることを確認してください。

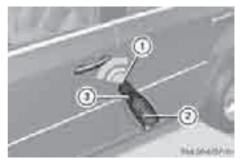
! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作またはキーレスゴー操作を行なうと、作動しなかったり、誤作動することがあります。

ⓘ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作またはキーレスゴー操作はできません。

リモコン操作で閉じる

⚠ **けがのおそれがあります**

リモコン操作でドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディンググルーフを閉じているときは、身体などが挟まれないように注意してください。

身体などが挟まれそうになったときは、ただちに施錠ボタン③から指を放し、解錠ボタン②を押し続けて、ドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディンググルーフを開いてください。

① 発信部
② 解錠ボタン
③ 施錠ボタン

▶ キーの発信部①を運転席ドアのドアハンドルに向けて、施錠ボタン③を押し続けます。

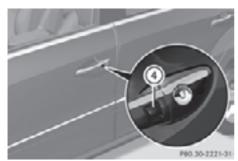
すべてのドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディンググルーフが閉じます。

施錠ボタン③から指を放すと、作動中のドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディンググルーフはその位置で停止します。

キーレスゴー操作で閉じる

⚠ けがのおそれがあります

キーレスゴー操作でドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフを閉じているときは、身体などが挟まれないように注意してください。

身体などが挟まれそうになったときは、ただちにドアハンドルのキーレスゴースイッチ④から指を放し、ドアハンドルを引き続けてください。ドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフが開きます。

左フロントドア
④ ドアハンドルのキーレスゴースイッチ

▶ ドアハンドルのキーレスゴースイッチ④を押し続けます。

すべてのドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフが閉じます。

キーレスゴースイッチ④から指を放すと、作動中のドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフはその位置で停止します。

走行と停車

エンジンの始動

⚠ 事故のおそれがあります

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

⚠ 中毒のおそれがあります

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こし、意識不明になったり、死亡するおそれがあります。

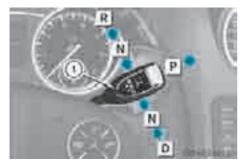
一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

! エンジンは、シフトポジションが **N** のときも始動できますが、安全のため、必ずシフトポジションを **P** にして、ブレーキペダルを踏んで始動してください。

! エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。

車両の操作

ランプやエアコンディショナーなど、バッテリーの負担になる装置を停止しておくと始動性が良くなります。

シフトポジション

① セレクターレバー

P	駐車およびエンジン始動 / 停止の位置
R	後退するときの位置
N	動力が伝わらない位置 押したり、けん引してもらうことで、車を移動できます。
D	走行するときの位置 1 速〜 7 速の範囲で自動的に変速します。

キーによるエンジンの始動

- ▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。
- ▶ シフトポジションが P になっていることを確認します。
- ▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。
- ▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに **3** の位置までまわして手を放します。

タッチスタート機能：エンジンスイッチを **3** の位置（▷74 ページ）までまわすと、手を放しても自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

キーレスゴーによるエンジンの始動

⚠ **事故やけがのおそれがあります**

子供だけを残して車から離れないでください。車室内にキーがあるときは、キーレスゴースイッチを押すことにより、エンジンが始動します。短時間でも車内にキーを残したまま車から離れないでください。

- ▶ 車室内にキーがあることを確認します。
- ▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。
- ▶ シフトポジションが P になっていることを確認します。
- ▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。
- ▶ エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押します。

! エンジン始動後は、キーを携帯した人が車から離れても、エンジンは停止しません。車から離れるときは、短時間でも必ずエンジンを停止して、車を施錠してください。盗難のおそれがあります。

! ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときもエンジンは始動できることがあります。車両の盗難に注意してください。

! エンジン始動後にキーを車外に持ち出して走行を開始すると、警告音が 1 回鳴ります。また、マルチファンクションディスプレイが赤くなり、" ｷｰｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞ ｷﾏｾﾝ " と数秒間表示されます。

この状態でエンジンを停止するとエンジンは再始動できません。また、車を施錠することもできません。走行前には必ずキーを携帯していることを確認してください。

発進

! エンジンが暖まっていないときは、エンジン保護のため、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

ⓘ 車速感応ドアロックが設定されているときは、走行速度が約 15km/h 以上になると自動的に車が施錠されます。

車速感応ドアロックの設定 / 解除については（▷147 ページ）をご覧ください。

▶ ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にします。

⚠ **事故のおそれがあります**

アクセルペダルを踏んだ状態でセレクターレバーを操作しないでください。車が急発進したり、オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

ⓘ エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正温度に達します。

ヒルスタートアシスト

坂道での発進時に車が後退または前進するのを防ぎ、発進を容易にします。

▶ 発進時に、通常通りブレーキペダルから足を放してアクセルペダルを踏みます。

ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが自動的に約 1 秒間ブレーキを効かせ、車が後退または前進するのを防ぎます。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ヒルスタートアシストはパーキングブレーキに代わるものではありません。駐車するときは必ずパーキングブレーキを確実に効かせ、シフトポジションを P にしてください。
- ヒルスタートアシストが作動して車が停止していても、絶対に車から離れないでください。約 1 秒後にはヒルスタートアシストは解除され、車が動き出すおそれがあります。

ⓘ ヒルスタートアシストの機能は解除できません。

ヒルスタートアシストは以下のときには作動しません。

- 傾斜していない路面や下り坂で発進するとき
- シフトポジションが N のとき
- パーキングブレーキが効いているとき
- ESP が故障しているとき

駐車

⚠ **火災のおそれがあります**

マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 停車する前にエンジンを停止しないでください。ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- 駐車時や車を離れるときは、シフトポジションを P にし、パーキングブレーキを確実に効かせ、エンジンを停止してください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

! 短時間でも車から離れるときは、ドアウインドウやスライディングルーフを閉じて、車を施錠してください。

パーキングブレーキ

⚠ **火災のおそれがあります**

パーキングブレーキを効かせたまま走行しないでください。パーキングブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

① パーキングブレーキペダル
② ブレーキペダル
③ 解除ハンドル

パーキングブレーキを効かせる

▶ 右足でブレーキペダル②を踏みながら、左足でパーキングブレーキペダル①をいっぱいまで踏み込みます。

メーターパネルのブレーキ警告灯が点灯します。

! パーキングブレーキは完全に停車してから効かせてください。

i 急な坂道に駐車するときは、タイヤの下り側に輪止めをしてください。さらに前輪を歩道方向に向けてください。

パーキングブレーキを解除する

▶ 解除ハンドル③を引きます。

メーターパネルのブレーキ警告灯が消灯します。

i パーキングブレーキを解除せずに走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

エンジンの停止

⚠ **事故のおそれがあります**

走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

! 水温が高めのときは、少しの間アイドリング状態でエンジンを冷却してから、エンジンを停止してください。

エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき

▶ 完全に停車します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキペダルを確実に踏み込み、シフトポジションを **P** にします。

▶ キーをまわして、イグニッション位置を **0** にします。

エンジンが停止します。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

i シフトポジションが **D** か **R** のときにエンジンを停止すると、シフトポジションが自動的に **N** になります。

さらにこの状態でフロントドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、シフトポジションが **P** になります。

ただし、シフトポジションを **N** にしてエンジンを停止したときは、フロントドアを開いても、シフトポジションは **P** になりません。

エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを取り付けているとき

▶ 完全に停車します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキペダルを確実に踏み込み、シフトポジションを **P** にします。

▶ エンジンが停止するまで、キーレスゴースイッチを押します。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

⚠ けがのおそれがあります

走行中にキーレスゴースイッチを約3秒間押すとエンジンが停止します。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になりますので、走行中はエンジンを停止しないでください。

ⓘ 走行中にキーレスゴースイッチを押してエンジンを停止したときは、再度キーレスゴースイッチを押すとエンジンが始動します。

ⓘ キーレスゴースイッチを押してエンジンを停止すると、シフトポジションが自動的に **N** になります。さらにこの状態でフロントドアを開くと、シフトポジションが **P** になります。

ⓘ キーレスゴースイッチを押してエンジンを停止したときは、イグニッション位置は **1** になります。また、この状態で運転席ドアを開くと、イグニッション位置が **0** になります。

オートマチックトランスミッション

⚠ 事故のおそれがあります

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失ない、事故を起こすおそれがあります。

! エンジンが暖まっていないときは、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

セレクターレバー

① セレクターレバー
② パーキングポジションの選択
③ ニュートラルポジションの選択
④ ニュートラルポジションの選択
⑤ リバースポジションの選択
⑥ ドライブポジションの選択

シフトポジションを選択する

▶ セレクターレバー①を操作して、シフトポジションを選択します。

⚠ **けがのおそれがあります**

走行中にシフトポジションを **N** にすると、エンジンブレーキがまったく効かなくなり、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! セレクターレバーはステアリングの右側にあります。方向指示やワイパーの操作をする際は、誤ってセレクターレバーの操作をしないように注意してください。事故を起こしたり、車を損傷するおそれがあります。

シフトポジション		操作方法
P パーキング	駐車およびエンジン始動 / 停止の位置	▶セレクターレバー先端のボタンを②の方向に押します。
N ニュートラル	動力が伝わらない位置 押したり、けん引してもらうことで車を移動できます。	▶セレクターレバーを③または④の方向に軽く操作します。
R リバース	後退するときの位置	▶セレクターレバーを⑤の方向にいっぱいまで上げます。
D ドライブ	走行するときの位置 1 速～ 7 速の範囲で自動的に変速します。	▶セレクターレバーを⑥の方向にいっぱいまで下げます。

! シフトポジションを P にするときは、完全に停車してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! 滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪を空転させないように注意してください。駆動系部分を損傷するおそれがあります。

! セレクターレバーを操作するときは、完全に停車させ、ブレーキペダルを踏んで行なってください。

約 10km/h 以下で走行しているときは、D から R、または R から D にシフトポジションを変更できますが、シフトポジションが変更されたことに気付かずに一旦停止して、再度走り出すと、車が不意に後退または前進して事故を起こすおそれがあります。

i イグニッション位置が **2** で、ブレーキペダルを踏んでいるときに、P から他のシフトポジションにできます。

i イグニッション位置が **1** で、ブレーキペダルを踏んでいるときに、シフトポジションを P から N にできます。

i シフトポジションが D か R のときにイグニッション位置を **0** か **1** にすると、シフトポジションが自動的に N になります。

さらにこの状態でフロントドアを開くか、エンジンスイッチに差し込まれているキーを抜くと、シフトポジションが P になります。

ただし、エンジンスイッチにキーを差し込んでいる状態で、シフトポジションを D か R から N にしてからイグニッション位置を **0** か **1** にしたときは、フロントドアを開いても、シフトポジションは P になりません。

i シフトポジションを R にしたときは、確認音が鳴ります。

i セレクターレバーから手を放すと、セレクターレバーは中立の位置に戻ります。

i シフトポジションを P から他のシフトポジションにするときにブレーキペダルが踏まれていないと、マルチファンクションディスプレイに "P ﾚﾝｼﾞ ｶﾗ ｼﾌﾄ ﾌﾞﾚｰｷｦ ﾌﾝﾃﾞ ｸﾀﾞｻｲ " と表示されます。

i 約 10km/h 以上で走行しているときは、D から R、または R から D にシフトポジションを変更しようとすると、N になります。

i シフトポジションが P 以外のときに運転席ドアを開くと、警告音が 1 回鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ｾﾚｸﾀｶﾞ ｿｳｺｳｲﾁ " と表示されます。

シフトポジション表示

① シフトポジション表示
（ドライブに入っている状態）

マルチファンクションディスプレイが表示されているときに、選択されているシフトポジションがシフトポジション表示①に反転表示されます。

! マルチファンクションディスプレイが故障してシフトポジションが表示されないときは、セレクターレバーを慎重に操作してゆっくりとアクセルペダルを踏み、選択されたシフトポジションを確認してから走行してください。できれば、シフトポジションを D に、走行モードを S モードにして、ティップシフトは解除してください。また、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

運転のヒント

アクセルペダルの位置

アクセルペダルの踏み加減に応じて、ギアが変速するタイミングが変化します。

- 軽く踏んだときはシフトアップするタイミングが早くなります。
- 深く踏み込んだときはシフトアップするタイミングが遅くなります。

キックダウン

急な加速が必要な場合はキックダウンを行ないます。

▶ アクセルペダルをいっぱいまで踏み込みます。

エンジン回転数に応じて自動的に低いギアに変速し、素早く加速します。

▶ 希望する速度でアクセルペダルをゆるめると、シフトアップします。

! キックダウンするときは、周囲の状況に注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

ティップシフト

① 左側パドル（低いギアレンジを選択）
② 右側パドル（高いギアレンジを選択）

③ ギアレンジ表示
④ 走行モード表示

オートマチックトランスミッションのギアの変速範囲（ギアレンジ）を変えることにより不必要なシフトアップを抑えます。

走行モード（▷124 ページ）が S モードのときにティップシフトにできます。

走行モード選択スイッチ（▷124 ページ）を押すと、走行モードを S モードと M モードに切り替えることができます。

走行モードが S モードのときは、走行モード表示④に" S "が表示されます。

ティップシフトにする

▶ シフトポジションが D のときに、左側パドル①を引きます。

ティップシフトに切り替わり、選択されたギアレンジがマルチファンクションディスプレイのギアレンジ表示③に表示されます。

低いギアレンジを選択する

▶ 左側パドル①を引きます。

低いギアレンジが選択され、ギアレンジ表示③に表示されます。

高いギアレンジを選択する

▶ 右側パドル②を引きます。

高いギアレンジが選択され、ギアレンジ表示③に表示されます。

ティップシフトを解除する

▶ 右側パドル②を引いて保持します。

ティップシフトが解除され、ギアレンジ表示③に " D " が表示されます。

または

▶ シフトポジション D を選択する方向にセレクターレバーを操作します（▷119 ページ）。

ギアレンジ	
D	1 速～ 7 速の範囲で変速します。
D6	1 速～ 6 速の範囲で変速します。
D5	1 速～ 5 速の範囲で変速します。
D4	1 速～ 4 速の範囲で変速します。
D3	1 速～ 3 速の範囲で変速します。 エンジンブレーキが必要なときに使用します。
D2	1 速～ 2 速の範囲で変速します。 下り坂や山道、悪路を走行するときに使用します。
D1	1 速に固定されます。 エンジンブレーキが最大に作用します。急な下り坂や長い下り坂を走行するときに使用します。

⚠ **事故のおそれがあります**

滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、低いギアレンジを選択してエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。低いギアレンジを選択するときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイが故障してシフトポジションやギアレンジが表示されないときは、ティップシフトを解除して走行してください。また、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

i ティップシフトにしたときに選択されるギアレンジは、そのときの走行速度やエンジン回転数などにより異なります。

i シフトポジションが D のときに右側パドル②を引くと、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。

i 加速時にエンジンの許容回転数を超えるおそれがあるときは、自動的にシフトアップされ、高いギアレンジになります。

i ギアレンジ表示は選択したギアレンジを示しており、実際のギアを示すものではありません。

マニュアルギアシフト

ステアリングのパドルを操作して、マニュアルでギアを選択できます。

⚠ **事故のおそれがあります**

滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、シフトダウンによってエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。シフトダウンするときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

i マニュアルギアシフトを選択したときは、ESP の機能を解除しないで走行することをお勧めします（▷51 ページ）。

マニュアルギアシフトの選択

① 走行モード選択スイッチ

マニュアルギアシフトを選択する

▶ シフトポジションが D のときに走行モード選択スイッチ①を押します。

② 走行モード表示
③ ギア表示

走行モード表示②に " M " が表示され、選択されているギアがギア表示③に表示されます。

ℹ マニュアルギアシフトではギア表示に表示される数字は実際のギアを示しています。運転者のシフトアップ / ダウン操作や、自動的なシフトアップ / ダウンに応じてギア表示に表示される数字も変わります。

マニュアルギアシフトを解除する

▶ 走行モード選択スイッチ①を押して、走行モード表示②に " S " を表示させます。

ℹ マニュアルギアシフトを選択した状態でエンジンを停止すると、次にエンジンを始動したときは、オートマチックギアシフトに切り替わります。

ギアシフト操作

④ 左側パドル（シフトダウン）
⑤ 右側パドル（シフトアップ）

シフトダウンする

▶ 左側パドル④を引きます。

引くたびに 1 段低いギアにシフトダウンします。

シフトアップする

▶ 右側パドル⑤を引きます。

引くたびに 1 段高いギアにシフトアップします。

ℹ 停車すると、ギアは 1 速にシフトされます。

ℹ 停車時に選択できるギアは 1 速または 2 速です。

ℹ エンジン回転数が上昇してレッドゾーンに近付くと、シフトアップ操作をしなくても自動的にシフトアップされます。

ℹ 運転者がシフトダウン操作をしなくても、速度とエンジン回転数に応じて、自動的にシフトダウンすることがあります。

運転者がシフトアップ / ダウン操作をしても、選択したギアが適切でない場合は、エンジン保護などのため、シフトアップ / ダウンされません。

マニュアルギアシフトでも、アクセルペダルをいっぱいまで踏み込むとキックダウンが行なわれ自動的にシフトダウンします。

! ローレンジになっているときは（▷160 ページ）、エンジン回転数が高回転になってもオートマチックトランスミッションは自動的にシフトアップしません。エンジン回転数の上げすぎに注意してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

メーターパネル

メーターパネルの各部の名称については（▷22 ページ）をご覧ください。

⚠ **事故のおそれがあります**

メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障すると、車両の状態や速度、外気温度、故障 / 警告メッセージなどが表示できなくなることがあります。十分注意して走行してください。また、ただちに指定サービス工場に連絡してください。

メーターパネルの点灯

メーターパネルは以下のときに点灯します。

- 運転席ドアを開いたときや閉じたとき（約 30 秒後に消灯）
- メーターパネル照度調整ボタンまたはリセットボタンを押したとき（約 30 秒後に消灯）
- イグニッション位置を **1** か **2** にしたとき（イグニッション位置を **0** にしてから約 30 秒後に消灯）
- 車外ランプが点灯したとき

タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

! 指針がエンジンの許容回転数を超えて、レッドゾーンに入らないようにしてください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジン回転数が許容回転数を超えると、エンジン保護のため、燃料供給が行なわれなくなります。

スピードメーター

車の走行速度を表示します。

速度の表示単位をマイルに変更することもできますが、マイル表示にすると km/h 表示に比べ、同じ数字でも約 1.6 倍の速度になります。速度の出しすぎを防ぐため km/h 表示にしてください。

表示の切り替えについては（▷140 ページ）をご覧ください。

ⓘ 1mph は約 1.6km/h です。

ⓘ マイル表示を選択すると、トリップメーターなどの表示もマイル表示になります。

外気温度表示

外気温度を表示します。

外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

外気温度をフロントバンパー付近で測定しているため、外気温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、外気温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

メーターパネル照度調整ボタン / リセットボタン

① 照度調整ボタン（明）
② リセットボタン
③ 照度調整ボタン（暗）

メーターパネル照度調整ボタン

周囲が暗いときにメーターパネルの明るさを調整できます。

照度を上げる

▶ 照度調整ボタン①を押します。

照度を下げる

▶ 照度調整ボタン②を押します。

リセットボタン

トリップメーターや各種設定などをリセットするときに使用します。

燃料計

燃料の残量を表示します。

燃料タンクの容量は約 100 リットルです。

! 給油のときはエンジンを停止してください。

燃料残量警告灯

燃料の残量が少なくなると点灯します。

警告灯が点灯したときの残量は約 13 リットルです。

i 走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

燃料給油口位置表示

燃料給油口の位置を表示しています。

燃料給油口は車体後部右側にあります。

時計

時刻は、COMAND システムの時刻に連動します。

時刻の調整については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

マルチファンクションディスプレイ

マルチファンクションディスプレイは、故障 / 警告メッセージや各種情報などを表示・設定するシステムです。

マルチファンクションステアリング

マルチファンクションディスプレイの操作は、ステアリングのスイッチで行ないます。

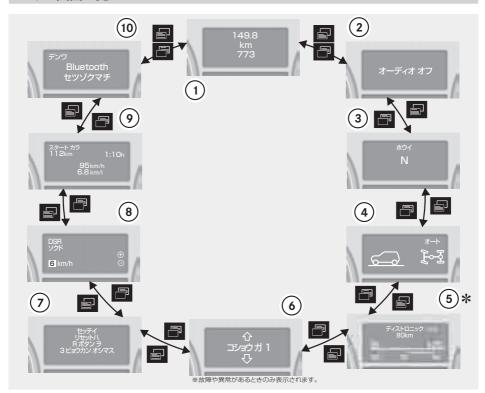
> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> マルチファンクションディスプレイを操作するときは、常に周囲の状況に注意してください。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> 走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。

	名称
①	マルチファンクションディスプレイ
②	**設定スイッチ / 音量スイッチ** [+] [−] • 各種設定の設定グループ選択画面でのグループの選択 • 設定項目画面での数値や設定の変更や、機能のオン / オフの選択 • 各メイン画面やオーディオ画面表示中の音量の調節 **通話開始 / 終了スイッチ（電話）** 電話の受信 / 保留 / 切断 **音声認識スイッチ** 音声認識の使用
③	**スクロールスイッチ** [▲] [▼] • 選択したメイン画面内での画面の切り替え • オーディオ画面表示中のオーディオやテレビの選曲・選局、DVD ビデオのチャプターの選択 • 電話画面表示中の電話帳や発信履歴の選択 **表示切り替えスイッチ** メイン画面の選択 **音声認識解除スイッチ** 音声認識の中止

ℹ ステアリングスイッチでのCOMAND システムの操作については、別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

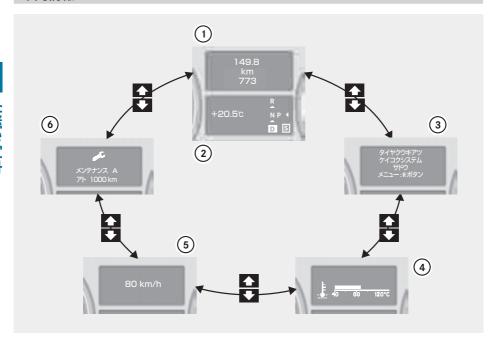
メイン画面一覧

マルチファンクションディスプレイは、車両に関する各種情報や故障／警告メッセージなどを表示するシステムです。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

①	車両情報	130
②	オーディオ	134
③	ナビゲーション・進行方向方位表示	134
④	オフロード表示	135
⑤	車間距離表示＊	135
⑥	故障表示	136
⑦	各種設定	137
⑧	車両設定	150
⑨	トリップコンピューター	153
⑩	電話	155

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両情報

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両情報メイン画面（トリップメーター / オドメーター）

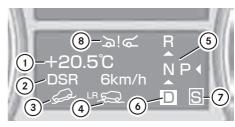
車両情報メイン画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報メイン画面を表示させせます。

①	トリップメーター	リセット後の走行距離を表示します。
②	オドメーター	これまでに走行した距離の総合計を表示します。

トリップメーターをリセットする（0.0 に戻す）

▶ リセットボタン（▷126 ページ）を、表示が 0.0 になるまで押し続けます。

車両情報サブ画面

⚠ けがのおそれがあります

外気温度表示が 0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

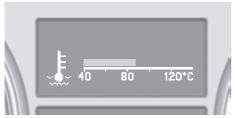
! 外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

i 外気温度をフロントバンパー付近で測定しているため、外気温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、外気温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

車両の操作

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

①	外気温度表示 / サブスピードメーター	外気温度または走行速度を表示します。 表示の切り替えは各種設定の " インストルメントクラスタ " の " 車両情報サブ画面の表示設定画面 "（▷141 ページ）で行ないます。
②	可変スピードリミッター / DSR の設定速度表示	可変スピードリミッター（▷180 ページ）または DSR（▷157 ページ）で設定した速度を表示します。
③	DSR インジケーター	DSR（▷157 ページ）を作動させたときに表示されます。
④	ローレンジマーク	ローレンジモード（▷160 ページ）に設定したときに表示されます。
⑤	シフトポジション表示	オートマチックトランスミッションのシフトポジションを表示します。 選択しているシフトポジションは反転表示されます（▷121 ページ）。
⑥	ギアレンジ表示 / ギア表示	ティップシフトのときに選択しているギアレンジ（▷121 ページ）、またはマニュアルギアシフトのときに選択しているギアを表示します（▷124 ページ）。
⑦	走行モード表示	オートマチックトランスミッションの走行モードを表示します（▷124 ページ）。
⑧	車間距離警告音インジケーター＊	ディストロニック＊の車間距離警告音をオンにしたときに表示されます（▷178 ページ）。

冷却水温度画面

イグニッション位置が **2** のとき、エンジンの冷却水温度を表示します。

冷却水温度画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報メイン画面を表示させます。

▶ [▲] または [▼] を押して、冷却水温度画面を表示させます。

ℹ 指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約 120℃まではオーバーヒートは起こしません。

ℹ 暑い日や上り坂が続くときなどに、冷却水温度の表示が右端付近を示すことがありますが、マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ（▷304 ページ）が表示されない限り、問題ありません。

サブスピードメーター / 外気温度表示画面

① サブスピードメーター
② 外気温度

走行速度または外気温度を表示します。

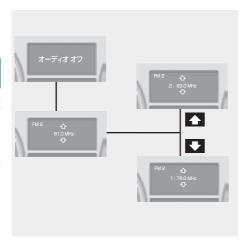
表示の切り替えは各種設定の " インストルメントクラスタ " の " 車両情報サブ画面の表示設定画面 "（▷141 ページ）で行ないます。

サブスピードメーター / 外気温度表示画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報メイン画面を表示させます（▷131 ページ）。

▶ [▲] または [▼] を押して、サブスピードメーター / 外気温度表示画面を表示させます。

ℹ サブスピードメーターの表示単位を km/h または mph に切り替えることができます（▷140 ページ）。

オーディオ

オーディオの使用時にそれぞれの情報を表示します。

オーディオのメイン画面を表示させる

▶ ［ボタン］または［ボタン］を押して、オーディオのメイン画面を表示させせます。

オーディオのメイン画面表示中に、［▲］または［▼］を押すと、ラジオの選局や CD の選曲などができます。

音量調節

▶ ［＋］または［－］を押すと、音量を調節できます。

※ 詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

ナビゲーション・進行方向方位表示

COMAND システムのナビゲーション機能でルート案内を行なっているときに、ルート案内をマルチファンクションディスプレイに表示できます。

ルート案内を行なっていないときは、画面に進行方向の方位が表示されます。

ナビゲーション・進行方向方位表示画面を表示させる

▶ ［ボタン］または［ボタン］を押して、ナビゲーション・進行方向方位表示画面を表示させせます。

※ 詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

オフロード表示

オフロード装備に関する情報を表示します。

車高レベル / ディファレンシャルロック表示画面

① 車高レベル表示
② ディファレンシャルロック表示

AIR マティックサスペンションの車高レベルとディファレンシャルロックの作動状態を表示できます。

車高レベル / ディファレンシャルロック表示画面を表示させる

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ または を押して、車高レベル / ディファレンシャルロック表示画面を表示させます。

詳しくは（▷163、185 ページ）をご覧ください。

車間距離表示＊

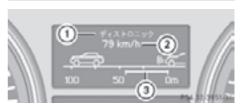
先行車と自車とのおおよその車間距離やディストロニック＊の設定 / 作動内容を表示します。

車間距離表示画面を表示させる

▶ または を押して、車間距離表示画面を表示させます。

ディストロニックを解除しているときの車間距離表示画面

① 先行車（先行車を感知した場合）
② 先行車と自車とのおおよその車間距離
③ 自車

ディストロニックが作動したときの車間距離表示画面

① ディストロニック作動表示
② 設定速度
③ 先行車と自車との設定した車間距離

ディストロニックが作動すると、設定速度が約 5 秒間表示されます。

設定速度を変更したときは、新しい設定速度が約 5 秒間表示されます。

詳しくは（▷171 ページ）をご覧ください。

ℹ ディストロニックの車間距離警告音の設定は、車両設定（▷150 ページ）で行ないます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

故障表示

①	故障件数画面(この例では、1 件故障があります)
②	故障 / 警告メッセージ画面の例

故障や異常が発生したとき、車の状況をメッセージで表示します。

ⓘ 故障や異常がないときは、故障表示画面は表示されません。

自動表示機能

エンジンがかかっているときに故障や異常が発生したときは、故障 / 警告メッセージ画面が自動的に表示されます。

ステアリングの ▭ ▭ や ▲ ▼、またはリセットボタンを押すと、故障 / 警告メッセージが消えます。

故障 / 警告メッセージを手動で確認する

イグニッション位置が **1** か **2** のときに表示されます。

▶ ▭ または ▭ を押して、故障件数画面①を表示させます。

故障件数が数字で表示されます。

▶ ▲ または ▼ を押して、故障 / 警告メッセージ画面②を順番に表示させます。すべて表示されると、故障件数画面①に戻ります。

故障 / 警告メッセージのリセット

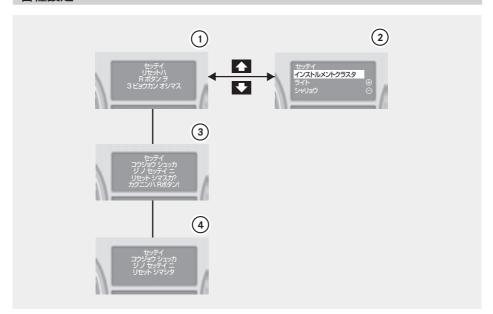
マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されているときは、イグニッション位置を **0** にすると、故障メッセージの表示が消えます。

ただし、故障状況が変わらない場合は、次にイグニッション位置を **1** か **2** にするか、エンジンを始動したとき、再び故障 / 警告メッセージが表示されます。

! 表示される故障や異常は一部の限られた装備についてであり、表示される内容も限られています。故障や異常の表示は運転者を支援するものです。発生した故障や異常に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。

! 故障 / 警告メッセージが表示されたときは、必ず指定サービス工場で点検を受けてください。

! 表示される故障 / 警告メッセージについては(▷292 ページ〜)をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

各種設定

①	各種設定メイン画面	
②	設定グループ選択画面	138
③	各種設定項目の初期化画面	138
④	各種設定項目の初期化完了画面	138

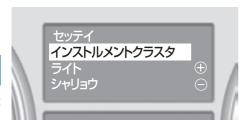
! 設定の変更は必ず停車中に操作してください。

i 安全のため、走行中は設定を変更できない項目があります。

各種設定メイン画面

各種設定メイン画面を表示させる

▶ または を押して、各種設定メイン画面を表示させます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ 各種設定メイン画面表示中に を押して、設定グループ選択画面を表示させせます。

設定グループを選択する

▶ または を押して、設定グループを選択します。

▶ 選択したグループ名を確認して、 を押すと、選択したグループ内の最初の設定項目画面が表示されます。

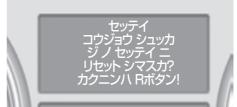
設定項目画面を選択する

▶ または を押して、設定項目画面を選択します。

設定項目や機能のオン / オフを選択する

▶ または を押して、設定項目を選択したり、機能のオン / オフを選択します。

選択した設定が記憶されます。

各種設定項目の初期化

初期化画面

各種設定のすべての項目を工場出荷時の設定に初期化する（戻す）ことができます。

各種設定項目を初期化する

▶ または を押して、各種設定メイン画面を表示させせます（▷137 ページ）。

▶ リセットボタン（▷126 ページ）を約 3 秒間押し続けます。

上記の初期化画面が表示されます。

初期化完了画面

▶ 初期化画面の表示中 (約 5 秒以内) に、再度リセットボタンを押します。

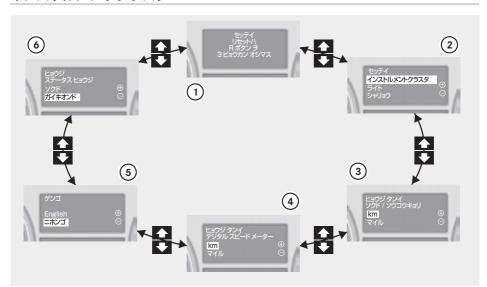
初期化を実行し、上記の初期化完了画面が表示されます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ℹ 初期化画面が表示されてから約 5 秒間リセットボタンを押さずにいると、各種設定メイン画面に切り替わります。

ℹ 初期化すると設定グループ選択画面が表示されます。

ℹ 走行中に初期化操作を行なっても、安全のため、初期化されない項目があります。

インストルメントクラスタ

①	各種設定メイン画面	137
②	設定グループ選択画面	138
③	速度・距離単位設定画面	140
④	サブスピードメーター単位設定画面	140
⑤	ディスプレイ言語設定画面	140
⑥	車両情報サブ画面の表示設定画面	141

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させます (▷137 ページ)。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に [▲] を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

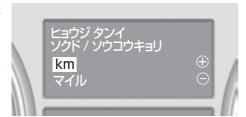
▶ [＋] または [－] を押して、" インストルメントクラスタ " を反転表示にします。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定項目画面を表示させる

▶ ⬆ を押します。

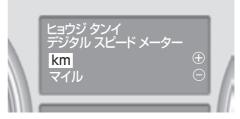
インストルメントクラスタの最初の設定項目画面が表示されます。

速度・距離単位設定画面

スピードメーターとマルチファンクションディスプレイの速度と走行距離などの表示単位の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
km	表示が km/h、km になります。
マイル	表示が mph、マイル、MI になります。

! 1mph は約 1.6km/h です。表示単位がマイル表示になっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ず km 表示を選択してください。

サブスピードメーター単位設定画面

マルチファンクションディスプレイのサブスピードメーター（▷133 ページ）の表示単位の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
km	km/h 表示になります。
マイル	mph 表示になります。

! 1mph は約 1.6km/h です。表示単位がマイル表示になっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ず km 表示を選択してください。

ディスプレイ言語設定画面

ディスプレイに表示する言語の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

表示	設定内容
English	英語表示になります。
ニホンゴ	日本語表示になります。

ℹ COMAND システムの言語設定を " マルチファンクションディスプレイと同期 " に設定しているときは、この画面で設定した言語が COMAND システムにも適用されます。詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

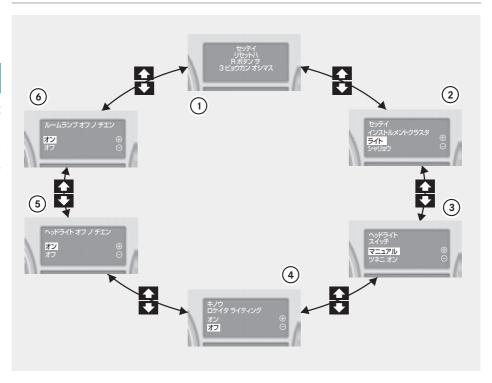
車両情報サブ画面の表示設定画面

車両情報サブ画面（外気温度表示）

車両情報サブ画面に表示される項目の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ソクド	車両情報サブ画面の表示がサブスピードメーターになります。 このとき、マルチファンクションディスプレイのサブスピードメーター / 外気温度表示画面（▷133 ページ）には外気温度が表示されます。
ガイキオンド	車両情報サブ画面の表示が外気温度になります。 このとき、マルチファンクションディスプレイのサブスピードメーター / 外気温度表示画面（▷133 ページ）にはサブスピードメーターが表示されます。

ライト

①	各種設定メイン画面	137
②	設定グループ選択画面	138
③	ヘッドランプ点灯モード設定画面	143
④	ロケイターライティング設定画面	143
⑤	車外ランプ消灯遅延機能設定画面	144
⑥	ルームランプ消灯遅延機能設定画面	144

設定グループ選択画面を表示させる

▶ または を押して、各種設定メイン画面を表示させます（▷137 ページ）。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

▶ ＋ または － を押して、" ライト " を反転表示にします。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定項目画面を表示させる

▶ [↑] を押します。

ライトの最初の設定項目画面が表示されます。

ヘッドランプ点灯モード設定画面

ヘッドランプの点灯モードの設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
マニュアル	手動点灯モードです。ヘッドランプなどを点灯するときはランプスイッチを操作します。 日本ではこのモードに設定してください。
ツネニ オン	常時点灯モードです。 ランプスイッチが [0] の位置のときは、イグニッション位置を **1** か **2** にすると、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。 エンジンを始動すると、車幅灯などに加え、ヘッドランプが点灯します。

[!] 設定が常時点灯モードのときは、安全のため走行中に設定を変更することはできません。

このときは、マルチファンクションディスプレイに "ｾｯﾃｲ ﾃｲｼﾁｭｳ ﾉﾐ ｶﾉｳﾃﾞｽ" と表示されます。

[i] 常時点灯モードは、走行中の常時点灯が義務付けられている諸国に対応しています。日本では手動点灯モードに設定して使用してください。

[i] 常時点灯モードで自動的に点灯するランプは、ヘッドランプ、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプです。ヘッドランプを上向きにしたり、フォグランプなどを点灯するときは、各スイッチを操作してください。

ロケイターライティング設定画面

周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると車外ランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

車両の操作

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

表示	設定内容
オン	周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。
オフ	ロケイターライティングは作動しません。

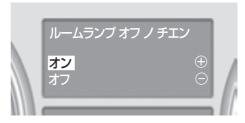
詳しくは（▷62 ページ）をご覧ください。

車外ランプ消灯遅延機能設定画面

周囲が暗いときにエンジンを停止すると車外ランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやテールゲートを開いて閉じた後、約 15 秒後に消灯します。
オフ	車外ランプ消灯遅延機能は作動しません。

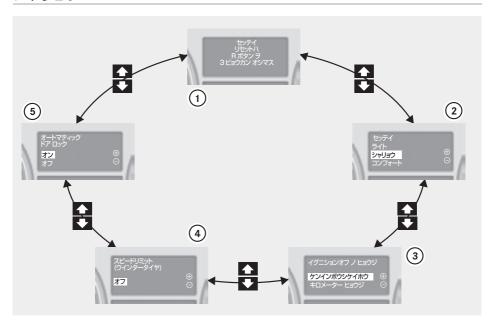
詳しくは（▷99 ページ）をご覧ください。

ルームランプ消灯遅延機能設定画面

ルームランプが自動点灯モードのときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	ルームランプが自動点灯モードのときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが約 10 秒間点灯します。
オフ	ルームランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは（▷102 ページ）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

シャリョウ

①	各種設定メイン画面	137
②	設定グループ選択画面	138
③	エンジン停止時の表示設定画面	146
④	ウィンタータイヤスピードリミッター設定画面	146
⑤	車速感応ドアロック設定画面	147

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させます(▷137 ページ)。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に [▲] を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

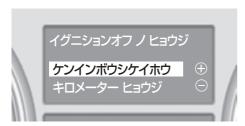
設定グループを選択する

▶ [＋] または [－] を押して、"シャリョウ"を反転表示にします。

設定項目画面を表示させる

▶ [▲] を押します。

シャリョウの最初の設定項目画面が表示されます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

エンジン停止時の表示設定画面

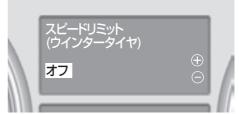
エンジン停止時の表示設定画面は本国仕様車に表示される画面であり、日本仕様車には表示されない場合があります。

イグニッション位置を **0** にしたときやエンジンスイッチからキーを抜いたときに、最初に表示される画面の設定ができます。

▶ **+** または **−** を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ケンインボウシケイホウ	けん引防止警報機能のオン / オフ画面になります。
キロメーターヒョウジ	車両情報メイン画面になります。

ⓘ イグニッション位置を **0** にしてから、またはエンジンスイッチからキーを抜いてから約 2 分間経過すると、けん引防止警報機能を解除したり、待機状態にすることはできなくなります（▷56 ページ）。

ウィンタータイヤスピードリミッター設定画面

最高速度の制限のない国などで、ウィンタータイヤ装着時にタイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定するための機能です。

日本仕様でも設定はできますが法定速度を守って走行してください。

ⓘ ウィンタータイヤスピードリミッターを設定しているときは、可変スピードリミッター（▷180 ページ）で設定できる制限速度の上限は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度になります。

▶ **+** または **−** を押して、設定内容を選択します。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

表示	設定内容
オン	ウィンタータイヤスピードリミッターは作動しません。
240km/h 230km/h 220km/h 210km/h 200km/h 190km/h 180km/h 170km/h 160km/h	最高速度がそれぞれの速度に設定されます。

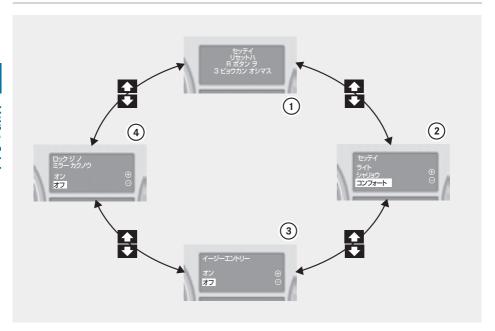
※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

車速感応ドアロック設定画面

走行速度が約 15km/h 以上になったときに、ドアとテールゲートを自動的に施錠する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	車速感応ドアロックが作動します。
オフ	車速感応ドアロックは作動しません。

詳しくは（▷69 ページ）をご覧ください。

コンフォート

①	各種設定メイン画面	137
②	設定グループ選択画面	138
③	イージーエントリー設定画面	149
④	施錠時のドアミラー格納設定画面	149

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させます（▷137 ページ）。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に [▲] を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

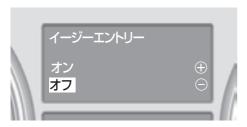
設定グループを選択する

▶ [+] または [−] を押して、" コンフォート " を反転表示にします。

設定項目画面を表示させる

▶ [▲] を押します。

コンフォートの最初の設定項目画面が表示されます。

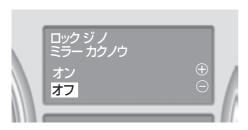
※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

イージーエントリー設定画面

運転席への乗り降りを容易にするイージーエントリー機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	イージーエントリー機能が作動します。
オフ	イージーエントリー機能は作動しません。

詳しくは（▷88 ページ）をご覧ください。

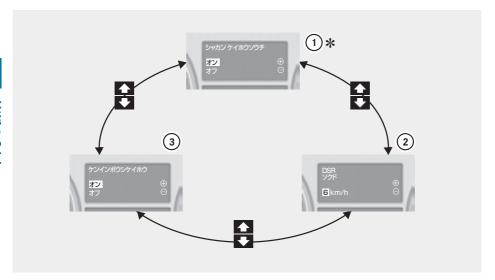
施錠時のドアミラー格納設定画面

リモコン操作での施錠時にドアミラーを格納する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	リモコン操作での施錠時にドアミラーが格納されます。
オフ	リモコン操作での施錠時にドアミラーは格納されません。

詳しくは（▷90 ページ）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両設定

①	車間距離警告音 設定画面 *	
②	DSR 速度設定画面	151
③	けん引防止警報機能 設定画面	152

車間距離警告音設定画面 *

ディストロニック * の車間距離警告音の設定ができます。

車間距離警告音設定画面を表示させる

▶ または を押して、車間距離警告音設定画面を表示させせます。

▶ + または − を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	車間距離警告音がオンになります。
オフ	車間距離警告音がオフになります。

ℹ 車間距離警告音をオンに設定すると、車両情報サブ画面に車間距離警告音インジケーターが表示されます。

詳しくは（▷178 ページ）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

DSR 速度設定画面

マルチファンクションディスプレイでは、DSR の速度を 6km/h から 18km/h の間で、2km/ h 単位で設定できます。

DSR 速度設定画面を表示させる（ディストロニック非装備車）

▶ [icon] または [icon] を押して、DSR 速度設定画面を表示させます。

DSR 速度設定画面を表示させる（ディストロニック装備車）

▶ [icon] または [icon] を押して、車間距離警告音設定画面を表示させます。

▶ [icon] を押して、DSR 速度設定画面を表示させます。

▶ [+] または [−] を押して、設定速度を選択します。

表示	設定内容
6 ～ 18 km/h	DSR の設定速度がそれぞれの速度になります。

ℹ DSR を作動させているときは、クルーズコントロール / 可変スピードリミッターレバーにより、DSR の設定速度を 4km/h から 18km/h の間で、1km/h 単位で一時的に変更することができます。

詳しくは（▷159 ページ）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

けん引防止警報機能設定画面

けん引防止警報機能設定画面は本国仕様車に表示される画面であり、日本仕様車には表示されない場合があります。

盗難防止システムのけん引防止警報機能を設定できます。

けん引防止警報機能設定画面を表示させる（ディストロニック非装備車）

▶ [⊟] または [⊟] を押して、DSR 速度設定画面を表示させせます。

▶ [▲] または [▼] を押して、けん引防止警報機能設定画面を表示させます。

けん引防止警報機能設定画面を表示させる（ディストロニック装備車）

▶ [⊟] または [⊟] を押して、車間距離警告音設定画面を表示させせます。

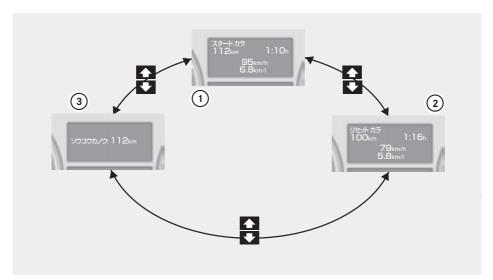
▶ [▲] または [▼] を押して、けん引防止警報機能設定画面を表示させます。

▶ [＋] または [－] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	けん引防止警報機能が待機状態になります。
オフ	けん引防止警報機能が解除されます。

ⓘ エンジン停止時の表示設定画面（▷146 ページ）が "ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼｹｲﾎｳ" のときは、イグニッション位置を **0** にするかエンジンスイッチからキーを抜くと、マルチファンクションディスプレイに "ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼｹｲﾎｳ ｵﾌ" または "ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼｹｲﾎｳ ｵﾝ" と表示されます。このとき [＋] か [－] を押すと、けん引防止警報機能を待機状態にするか、または解除することができます。

詳しくは（▷56 ページ）をご覧ください。

トリップコンピューター

①	ショートトリップメーター画面	
②	ロングトリップメーター画面	154
③	走行可能距離画面	154

ショートトリップメーター画面

① エンジン始動からの走行距離（km）
② エンジン始動からの経過時間（h）
③ エンジン始動からの平均速度（km/h）
④ エンジン始動からの平均燃費（km/l）

ショートトリップメーターは、エンジンを始動したときを起点とした情報を表示します。

イグニッション位置を **0** にしてから、またはエンジンスイッチからキーを抜いてから約 4 時間経過すると、ショートトリップメーターは自動的にリセットされます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ショートトリップメーター画面を表示させる

▶ または を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます。

ショートトリップメーターは、手動でもリセットできます。

ショートトリップメーターを手動でリセットする

▶ ショートトリップメーター画面が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン（▷126 ページ）を押し続けて、表示をリセットします。

ロングトリップメーター画面

① リセットからの走行距離（km）
② リセットからの経過時間（h）
③ リセットからの平均速度（km/h）
④ リセットからの平均燃費（km/l）

ロングトリップメーターは、リセットしたときを起点とした情報を表示します。

ロングトリップメーター画面を表示させる

▶ または を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます（▷153 ページ）。

▶ を押して、ロングトリップメーター画面を表示させます。

ロングトリップメーターをリセットする

▶ ロングトリップメーター画面が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン（▷126 ページ）を押し続けて、表示をリセットします。

ⓘ リセット後、ロングトリップメーターは、99,999km 走行後、または 9,999 時間経過後に自動的にリセットされます。

走行可能距離画面

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を計算し、予測値として表示します。

走行可能距離画面を表示させる

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ または を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます（▷153 ページ）。

▶ を押して、走行可能距離画面を表示させます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

! 走行可能距離は、現在までの平均燃費と燃料残量から計算した予測値です。今後の走行状況に応じて大きく変動することがありますので、燃料計を確認して、早めに給油してください。

燃料残量が少ないときは、マルチファンクションディスプレイに "ﾈﾝﾘｮｳﾘｻﾞｰﾌﾞ ｷｭｳﾕ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ" と表示されるか、以下のマークが表示されます。

最寄りのガソリンスタンドですみやかに給油してください。

電話

電話画面を表示させる

▶ [◻] または [◻] を押して、電話画面を表示させます。

通話する（電話を受信する）

▶ 電話がかかってきたときにステアリングの通話開始スイッチ [📞] を押します。

電話を受信できます。

通話を終える（電話を切断する）

▶ ステアリングの通話終了スイッチ [☎] を押します。

電話を切断できます。

電話帳からの発信

COMAND システムの電話帳に登録してある電話番号に電話をかけることができます。

▶ 電話画面表示中に、[▲] または [▼] を押して、発信先を選択します。

▶ ステアリングの通話開始スイッチ [📞] を押します。

※ 詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

オフロード走行装備

オフロード走行のための装備には、以下のものがあります。

4MATIC

車両操縦性や走行安定性を高める 4 輪駆動システムです。

DSR

下り坂を走行するときに設定した速度を維持しようとするシステムです。

ローレンジモード

強い駆動力を必要とするときに設定します。

ディファレンシャルロック

車輪が空転して動けなくなった場合などの緊急時の装備です。

オフロードの走行については、「オフロード走行 (▷273 ページ)」もご覧ください。

4MATIC

4MATIC は、滑りやすい路面での発進時や加速時の走行安定性を向上させ、車両操縦性を確保しようとする 4 輪駆動システムです。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 4MATIC は車両操縦性や走行安定性を高める装備で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。4MATIC 車でも、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。
- 運転時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 滑りやすい路面などでいずれかのタイヤが空転したときは、アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

  ◇ 急ハンドル

  ◇ 急ブレーキ

  ◇ 急発進、急加速

  ◇ 急激なエンジンブレーキ

! 4MATIC 車であっても雪道や凍結路などでは、ウィンタータイヤやスノーチェーンを装着し、速度を控えめにし、車間距離を十分確保して運転してください。スノーチェーンは後輪に装着してください。

! ブレーキダイナモ上でパーキングブレーキを点検するときは、約 10 秒以内にしてください。また、イグニッション位置を **0** か **1** にしてください。ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります

! ダイナモメーターを使用して検査などを行なうときは、必ず 2 軸ダイナモメーターを使用してください。駆動系部品やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

DSR

DSR（ダウンヒル・スピード・レギュレーション）は、下り坂を走行するときに自動的にブレーキを作動させ、設定した速度を維持しようとするシステムです。

下り坂の勾配が急になるほどブレーキの効き具合は強くなり、勾配がゆるくなるとブレーキの効き具合は弱くなります。

勾配のない路面でも作動しますが、必ず下り坂を走行するときに使用してください。

設定できる速度は 6km/h から 18km/h の間です。

⚠ 事故のおそれがあります

極端な下り坂などでは、DSR が設定速度を維持できないことがあります。このときは、ブレーキペダルを踏んで減速してください。また、路面や周囲の状況に適した速度に設定してください。

DSR 使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

! DSR の設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

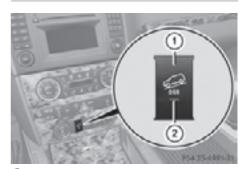
! DSR は必ず下り坂を走行するときに使用してください。路面の勾配にかかわらず作動しますので、路面や周囲の状況、特に後方の車などに注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイに DSR に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷303 ページ）をご覧ください。

i DSR が作動していても、アクセルペダルを踏むと車は加速します。またブレーキペダルを踏むと、車は減速します。

⚠ 事故のおそれがあります

DSR が作動しているときに、アクセルペダルを踏んで車を加速させると、設定速度や路面の勾配によっては、アクセルペダルから足を放したときに DSR が急ブレーキをかけることがあります。十分注意して走行してください。

DSR の作動と解除

① DSR スイッチ
② 表示灯

③ 設定速度
（設定速度が 6km/h のとき）

④ 設定速度
⑤ DSR インジケーター

DSR を作動させる

▶ エンジンがかかっていて走行速度が約 30km/h 以下のときに、DSR スイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点灯し、マルチファンクションディスプレイに設定速度③が数秒間表示され、車両情報サブ画面に DSR インジケーター⑤が表示されます。

その後、マルチファンクションディスプレイの車両情報サブ画面に、設定速度④が表示されます。

ⓘ 約 30km/h 以上の速度で走行しているときは DSR を作動させることができません。このときはマルチファンクションディスプレイに下記のメッセージが数秒間表示されます。

約 30km/h 以上の速度で走行していて、DSR を作動させようとしたとき

DSR を解除する

▶ DSR スイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が消灯し、マルチファンクションディスプレイに "DSR オフ" と数秒間表示されます。

車両情報サブ画面の設定速度④と DSR インジケーター⑤も消灯します。

! DSR を解除するときは周囲の状況に注意してください。急な下り坂を走行しているときに DSR を解除すると、自動で作動しているブレーキが解除されて速度が上昇し、事故を起こすおそれがあります。

ⓘ エンジンを停止すると、DSR は解除されます。

ⓘ 走行速度が約 35km/h 以上になると DSR は自動的に解除されます。このときは警告音とともにマルチファンクションディスプレイに "DSR オフ" と表示されます。

マルチファンクションディスプレイで DSR の速度を設定する

DSR 設定画面

マルチファンクションディスプレイで DSR の速度を設定できます。

設定できる速度は 6km/h から 18km/h の間です。

マルチファンクションディスプレイで設定した DSR の速度は、イグニッション位置を **0** にしたり、エンジンスイッチからキーを抜いても消去されません。

速度を設定する

▶ マルチファンクションディスプレイに DSR 速度設定画面を表示させます（▷151 ページ）。

▶ ステアリングの **+** を押します。

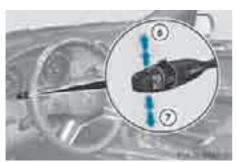
2km/h 単位で設定速度が上がります。

または

▶ ステアリングの **−** を押します。

2km/h 単位で設定速度が下がります。

! 走行中はマルチファンクションディスプレイで DSR の設定を行なわないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。必ずレバーで設定を行なってください。

レバーで DSR の設定速度を変更する

⑥ 設定速度を上げる
⑦ 設定速度を下げる

DSR を作動させているときは、レバーで DSR の設定速度を一時的に変更できます。

この変更によって設定できる速度は 4km/h から 18km/h の間です。

レバーで設定した DSR の速度は、エンジンを停止すると消去されます。次にエンジンを始動して DSR を作動させたときは、マルチファンクションディスプレイで設定した速度になります。

設定速度を上げる

▶ レバーを⑥の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が上がります。

または

▶ レバーを⑥の方向にいっぱいまで操作します。

設定速度が、

- 10km/h 以下のときは
  → 10km/h → 18km/h に
- 10km/h 以上のときは
  → 18km/h に

設定速度が上がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

設定した速度は数秒間マルチファンクションディスプレイに表示され、その後、車両情報サブ画面に表示されます。

車両の操作

設定速度を下げる

▶ レバーを⑦の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が下がります。

または

▶ レバーを⑦の方向にいっぱいまで操作します。

設定速度が、

- 10km/h 以上のときは
  → 10km/h → 4km/h に
- 10km/h 以下のときは
  → 4km/h に

設定速度が下がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

ⓘ 設定した速度は数秒間マルチファンクションディスプレイに表示され、その後、車両情報サブ画面に表示されます。

ローレンジモード

急勾配の道路を走行するときや、河川などを渡るとき、トレーラーをけん引するときなど、強い駆動力を必要とする場合はローレンジにします。

ギアレンジ	用途
ノーマルレンジ	一般道路走行用です。
ローレンジ	急勾配の道路を走行するときや河川などを渡るときなどに使用します。 ノーマルレンジに比べて速度は約 1/3 になり、強い駆動力が発生します。

! 以下のときはローレンジを使用しないでください。

- ぬかるみなど滑りやすい路面を走行するとき
- 積雪路や凍結路を走行するとき
- スノーチェーンを装着しているとき

! マニュアルギアシフト（▷123 ページ）を選択しているときにローレンジにすると、エンジン回転数が許容回転数に達しても自動的にシフトアップされません。エンジン回転数を上げすぎないように注意してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

① ローレンジスイッチ
② 表示灯

ローレンジにする

▶ エンジンがかかっていて、走行速度が約 40km/h 以下のときに、シフトポジションを **N** にします。

▶ ローレンジスイッチ①を押します。

ギアチェンジの動作が終了すると、作動音が鳴り、スイッチの表示灯②が点灯します。

③ ローレンジマーク

また、マルチファンクションディスプレイにローレンジマーク③が表示されます。

ノーマルレンジにする

▶ エンジンがかかっていて、走行速度が約 70km/h 以下のときに、シフトポジションを **N** にします。

▶ ローレンジスイッチ①を押します。

ギアチェンジの動作が終了すると、スイッチの表示灯②とマルチファンクションディスプレイのローレンジマーク③が消灯します。

⚠ 事故のおそれがあります

ノーマルレンジからローレンジへ、またはローレンジからノーマルレンジへのギアチェンジ操作を行なう場合は、必ずギアチェンジの動作が完了するまで待ってください。

また、ギアチェンジの動作中にエンジンを停止したり、シフトポジションを **N** 以外にしないでください。

ギアチェンジの動作が完了するまで待たないと、ギアがニュートラルになり、エンジンとドライブアクスルの間で動力が伝達されなくなります。

この状態では、シフトポジションが **N** 以外のときでも車が固定されないため、坂道などで車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。

マルチファンクションディスプレイの警告メッセージ

ギアチェンジの動作が正常に終了していないときは、マルチファンクションディスプレイに以下のメッセージが表示されます。

"max. 40km/h ﾃﾞ ｿｳｺｳ "

走行速度が約 40km/h 以上のときにローレンジにしようとしています。

スイッチの表示灯②も点滅しています。

▶ 走行速度を約 40km/h 以下にして、操作を行なってください。

"max. 70km/h ﾃﾞ ｿｳｺｳ "

走行速度が約 70km/h 以上のときにノーマルレンジにしようとしています。

スイッチの表示灯②も点滅しています。

▶ 走行速度を約 70km/h 以下にして、操作を行なってください。

" ﾀﾝｼﾞｶﾝ N ﾆ ｼﾌﾄｼﾃ ｸﾀﾞｻｲ "

走行速度は約 40km/h 以下 (ローレンジにするとき）または約 70km/h 以下（ノーマルレンジにするとき）になっていますが、シフトポジションが **N** になっていません。

▶ シフトポジションを **N** にしてください。

" ｼﾌﾄﾄﾞｳｻ ｷｬﾝｾﾙ ｻｲｷﾄﾞｳｼﾃｸﾀﾞｻｲ "

何らかの原因でギアチェンジの動作が完了していません。

▶ ギアチェンジのための条件を確認し、再度操作を行なってください。

" ﾃｲｼｬ ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ ｿｳｻ "

警告音が鳴ります。

ギアチェンジの動作が完了していません。ギアがニュートラルになっており、エンジンとホイールの間で動力が伝達されていません。

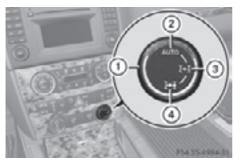
! 走行を続けないでください。駆動部品を損傷するおそれがあります。

▶ 周囲の状況に注意しながら、停車してください。

▶ パーキングブレーキを効かせてください。

▶ ギアチェンジのための条件を確認し、再度操作を行なってください。

ギアチェンジの動作が完了すると、警告メッセージが消えます。

ディファレンシャルロック

① ディファレンシャルロックダイヤル

ディファレンシャルロックは、車輪が空転して走行できなくなった場合などに、ディファレンシャルをロックすることにより、空転していない車輪に駆動力を伝え、脱出を容易にする緊急時の装備です。

ディファレンシャルロックは、自動または手動により操作できます。

点灯する表示灯	モード	作動内容
②	**AUTO モード**	状況に合わせてディファレンシャルロックが自動的に作動します。
③	**センター ディファレンシャルロック**	センターディファレンシャルを手動でロックできます。 ロックすると、フロント / リアのプロペラシャフトが直結し、前輪または後輪が空転した場合でも駆動力を確保します。
④	**センター / リア ディファレンシャルロック**	センターディファレンシャルとリアディファレンシャルを手動でロックできます。 ロックすると、フロント / リアのプロペラシャフトとリア左右のアクスルが直結し、空転していない車輪にも駆動力が伝わります。

⚠ けがのおそれがあります

- 緊急時の脱出以外は、雪道や凍結路でディファレンシャルロックを使用しないでください。また、ディファレンシャルをロックしたときは、急発進をしないでください。車の向きが急に変わり、事故を起こすおそれがあります。
- ディファレンシャルをロックしたまま舗装路面や表面のかたい路面を走行しないでください。また、旋回中にディファレンシャルをロックしないでください。

  旋回時でも直進しようとする力が強く働き、急激に直進状態に戻ることがあり、事故を起こしたり、駆動装置を損傷するおそれがあります。

! ディファレンシャルロックの手動操作は、AUTO モードでは駆動力が不足する場合にのみ行なってください。

! ディファレンシャルをロックしたときは、アクセル操作やステアリング操作はゆっくり行ない、慎重に運転してください。

! ディファレンシャルをロックするときは、車輪が空転していないことを必ず確認してください。車輪が空転しているときにロックすると車が急発進するおそれがあります。

! 車をシャシーダイナモ上で動かすときは、必ずパーキングブレーキを確実に効かせ、短時間であっても駆動アクスル以外を持ち上げるか、ドライブシャフトを外してください。このとき、センターディファレンシャルを必ずロックしてください。駆動装置を損傷するおそれがあります。

i 前輪の駆動力は ETS により、自動的に制御されます。

i ディファレンシャルロックの作動状態は、マルチファンクションディスプレイの " オフロード表示 " 画面（▷135 ページ）に表示されます。

i AUTO モード以外のモードを選択した状態でエンジンを停止し、約 10 秒以上経過した後にエンジンを再始動すると AUTO モードに切り替わります。

i 安全のため、センターディファレンシャルやリアディファレンシャルを手動でロックしているときに走行速度が約 50km/h を超えると、自動的にロックが解除されます。

AUTO モードにする

▶ エンジンを始動します。

ディファレンシャルロックダイヤル①の表示灯②が点灯します。

▶ 他のモードを選択しているときは、ディファレンシャルロックダイヤル①をまわして、表示灯②を点灯させます。

マルチファンクションディスプレイを " オフロード表示 " 画面（▷135 ページ）にしているときは、" オート " の文字が表示されます。

AUTO モードでは、ディファレンシャルロックは自動的に制御されます。

舗装路面からオフロードまで、様々な路面状況に適した駆動力が発生し、車の旋回時にも影響を与えません。

センターディファレンシャルをロックする

⑤ センターディファレンシャルがロックした状態

▶ 約 30km/h 以下で走行しているときにディファレンシャルロックダイヤル①をまわして、表示灯③を点灯させます。

マルチファンクションディスプレイを " オフロード表示 " 画面（▷135 ページ）にしているときは、センターディファレンシャルがロックしたことを示す ■ ⑤が表示されます。

AUTO モードから操作したときは、" ｵｰﾄ " の文字が消えます。

センターディファレンシャルとリアディファレンシャルをロックする

⑤ センターディファレンシャルがロックした状態

⑥ リアディファレンシャルがロックした状態

▶ 約 30km/h 以下で走行しているときにディファレンシャルロックダイヤル①をまわして、表示灯④を点灯させます。

マルチファンクションディスプレイを " オフロード表示 " 画面（▷135 ページ）にしているときは、センター / リアディファレンシャルがロックしたことを示す ■ ⑤⑥が表示されます。

AUTO モードから操作したときは、" ｵｰﾄ " の文字が消えます。

約 30km/h 以上で走行しているときディファレンシャルをロックしようとしたときは、マルチファンクションディスプレイに上記のメッセージが表示されます。

走行装備

走行装備には、以下のものがあります。

クルーズコントロール / ディストロニック＊ / 可変スピードリミッター

走行速度を制御する機能です。

ADS

運転のスタイルや道路状況などに応じて、サスペンションモードを選択できます。

レベルコントロール

悪路などを走行するときに車高を上げることができます。

パークトロニック

車庫入れや狭い場所での運転時に、障害物とのおよその距離を知らせます。

サイドビューカメラ

助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方の映像を COMAND ディスプレイに表示します。

パーキングアシストリアビューカメラ

車庫入れや縦列駐車などの後退操作を補助します。

ABS、BAS、アダプティブブレーキランプ、ESP、EBV、4ETS については、走行安全装備（▷46 ページ）をご覧ください。

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、設定した速度を自動的に維持して走行できます。

設定できる速度は約30km/h以上です。

⚠ 事故のおそれがあります

- 車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、クルーズコントロール使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
  - ◇ 急な下り坂、急カーブ、曲がりくねった道路
  - ◇ 加減速を繰り返すような交通状況や交通量の多い道路
  - ◇ 雨で濡れた路面や積雪路、凍結路などの滑りやすい路面
  - ◇ 降雨時や降雪時、濃霧時など視界が確保できない場合

! クルーズコントロールは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。

! 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、クルーズコントロールが誤作動するおそれがあります。

! 急な上り坂では、クルーズコントロールが速度を維持するためにシフトダウンしますが、設定した速度を維持できないことがあります。このようなときはアクセルペダルを踏んで加速してください。

! 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

ただし、路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

! 自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると、足を挟まれたり、ブレーキの作動を妨げるおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロールに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷298 ページ）をご覧ください。

クルーズコントロールの使いかた

①〜⑤ レバーの操作方向
⑥ 表示灯

DSR（▷157 ページ）、可変スピードリミッター（▷181 ページ）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯⑥が消灯しているときに、クルーズコントロールを操作できます。

レバーの表示灯⑥が点灯しているときは、可変スピードリミッターを操作できる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯が消灯し、クルーズコントロールを操作できる状態に切り替わります。

クルーズコントロールを設定する

▶ DSR が解除されていることを確認します（▷157 ページ）。

▶ 希望の速度まで加速、または減速します。

▶ 希望の速度に達したとき、レバーを①か②の方向に操作します。

そのときの速度にクルーズコントロールが設定されます。

または

▶ レバーを④の方向に操作します。

- 設定速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 設定速度が記憶されていないときは、そのときの速度に設定されます。

アクセルペダルから足を放すと、設定した速度を維持するように走行します。

車両の操作

⑦ 設定速度

マルチファンクションディスプレイに設定速度⑦が表示され、数秒間後に車両情報サブ画面に移動します。

⚠ **事故のおそれがあります**

記憶されている速度に再度設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速や急減速をして事故を起こすおそれがあります。

ⓘ 走行速度が約 30km/h 以下のときや、ESP オフスイッチで ESP の機能を解除しているときはクルーズコントロールを設定できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数秒間点滅します。

ⓘ クルーズコントロールを解除する前の設定速度は記憶されます。

ただし、イグニッション位置を一度 **0** か **1** にすると、記憶された速度は消去されます。

ⓘ クルーズコントロールの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

設定速度を上げる

▶ レバーを①の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が上がります。

希望する速度になったらレバーから手を放します。

または

▶ レバーを①の方向にいっぱいまで操作します。

- 10km/h 単位で設定速度が上がります。
- 1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り上がり、その後 10km/h 単位で設定速度が上がります。

希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定され、マルチファンクションディスプレイに設定速度が数秒間表示されます。

! レバーを①の方向に操作してクルーズコントロールの設定速度を上げるときは、周囲の状況に注意してください。レバーから手を放した後も、設定した速度に到達するために車が加速することがあります。

設定速度を下げる

▶ レバーを②の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が下がります。

希望する速度になったらレバーから手を放します。

または

▶ レバーを②の方向にいっぱいまで操作します。

- 10km/h 単位で設定速度が下がります。
- 1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り下がり、その後 10km/h 単位で設定速度が下がります。

希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定され、マルチファンクションディスプレイに設定速度が数秒間表示されます。

ⓘ レバーを②の方向に操作して減速しているときに、シフトダウンしたり、自動的にブレーキを効かせることがあります。

! クルーズコントロールが自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると、足を挟まれたり、ブレーキの作動を妨げるおそれがあります。

一時的に速度を上げる

追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

クルーズコントロールの設定を解除する

▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

▶ レバーを③の方向に操作します。

または

▶ レバーを⑤の方向に操作します。

レバーの表示灯⑥が点灯し、可変スピードリミッターを操作できる状態に切り替わります。

⚠ **事故のおそれがあります**

クルーズコントロールはシフトポジションを **N** にしても解除されますが、走行中はシフトポジションを **N** にしないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

ⓘ クルーズコントロールを解除する前の設定速度は記憶されます。

ただし、イグニッション位置を一度 **0** か **1** の位置にすると、記憶された設定速度は消去されます。

以下のときはクルーズコントロールが自動的に解除されます。

- シフトポジションを N にしたとき
- ESP が作動したとき
- ESP オフスイッチで ESP の機能を解除したとき

このときは警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｵﾌ " と表示されます。

また、パーキングブレーキを効かせたときもクルーズコントロールは自動的に解除されます。

ディストロニック＊

ディストロニックは、設定した速度を自動的に維持して走行するクルーズコントロール機能に、センサーによる車間距離感知機能と車間距離警報、自動ブレーキ機能を組み合わせたシステムです。

先行車を感知すると、設定した速度から自動的に速度の調整を行ないながら、車間距離を維持するように走行します。

設定できる速度は約 30km/h から約 180km/h の間です。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

⚠ 事故のおそれがあります

- ディストロニックは先行車への追突を回避するような自動操縦システムではありません。
- 車の走行速度や先行車との車間距離の確保、適切なブレーキ操作など、ディストロニック使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- ディストロニックによるブレーキは最大制動力の約 20%程度のため、運転者はこのシステムだけに頼らず、常に先行車との車間距離や周囲の状況を確認し、必要に応じてブレーキを操作してください。
- 積雪路や凍結路など滑りやすい路面では、ディストロニックを使用しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- ディストロニックは、以下のようなものには反応しません。

  ディストロニックを使用しているときも、常に周囲の状況に注意を払ってください。

  ◇ 歩行者
  ◇ 停車中の車両
  ◇ 対向車
  ◇ 道路を横切る車両
  ◇ オートバイなど横幅の狭い車両
  ◇ 異なる車線を走行している車両

- 以下のような場合はディストロニックを使用しないでください。急加速して先行車との車間距離を維持できず、事故を起こすおそれがあります。
  - ◇ 急な下り坂や急カーブ、曲がりくねった道路を走行するとき
  - ◇ ETC ゲートを通過するとき
  - ◇ 走行速度の速い車線に車線変更するとき
  - ◇ 交通量の多い道路や、工事中区間など頻繁に車線変更を行なう区間を走行するとき
- みぞれやひょう、霧や豪雨、吹雪などの悪天候のときや、ディストロニックセンサーが汚れているときは、ディストロニックを使用しないでください。先行車との車間距離を正確に計測できず、事故を起こすおそれがあります。

! ディストロニックは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。

! 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

ただし、路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

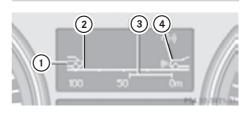
! 自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると、足を挟まれたり、ブレーキの作動を妨げるおそれがあります。

! ディストロニックの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

! マルチファンクションディスプレイにディストロニックに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷294、295、298 ページ）をご覧ください。

ⓘ 前方に車両がいないときは、ディストロニックはクルーズコントロール（▷166 ページ）と同じ働きをします。

ⓘ 自動的にブレーキを効かせたときは、ブレーキランプも点灯します。

車間距離表示画面

① 先行車（先行車を感知した場合）
② 先行車と自車とのおよその車間距離
③ 先行車と自車との設定した車間距離
④ 自車

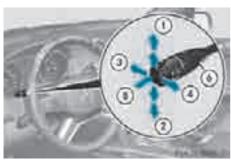
マルチファンクションディスプレイに車間距離表示画面を表示させると（▷135 ページ）、先行車との距離などを表示することができます。

ディストロニックを設定しているときに先行車を感知すると、他の画面を表示させていても、自動的に車間距離表示画面に切り替わります。先行車がいなくなると、元の画面に戻ります。

他の画面を表示させていても、ディストロニックを設定または解除したときは、車間距離表示画面が数秒間表示されます。

ℹ 車間距離表示画面は、ディストロニックを解除しているときも表示できます。

ℹ 道路や交通の状況により、先行車との距離を正確に表示できないことがあります。

ディストロニックの使いかた

①～⑤ レバーの操作方法
⑥ 表示灯

DSR（▷157 ページ）、可変スピードリミッター（▷181 ページ）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯⑥が消灯しているときに、ディストロニックを操作できます。

レバーの表示灯⑥が点灯しているときは、可変スピードリミッターを操作できる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯⑥が消灯し、ディストロニックを操作できる状態に切り替わります。

ディストロニックを設定する

▶ DSR が解除されていることを確認します（▷157 ページ）。

▶ 希望の速度まで加速、または減速します。

▶ 希望の速度に達したとき、レバーを①または②の方向に操作します。

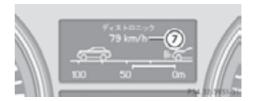
　そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを④の方向に引きます。

- 速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 速度が記憶されていないときは、そのときの速度に設定されます。

アクセルペダルから足を放すと、設定した速度を維持するように走行します。

先行車がいるときは、設定した車間距離（▷176 ページ）を維持するように、速度を調整しながら走行します。

⑦ 設定速度

マルチファンクションディスプレイに他の画面を表示させているときは、車間距離表示画面と設定速度⑦が数秒間表示されます。

車両距離表示画面を表示させるには（▷135 ページ）をご覧ください。

⑧ ディストロニックインジケーター

また、設定速度の前後にディストロニックインジケーター⑧が 1 個または 2 個点灯します。

ℹ ディストロニックは以下のときは設定できません。このときは、設定速度⑦に "---km/h" が数秒間表示されます。

- 走行速度が約 30km/h 以下のときや約 180km/h 以上のとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- パーキングブレーキを効かせているとき
- ESP オフスイッチで ESP の機能を解除しているとき
- シフトポジションが **P**、**N**、**R** になっているとき

また、エンジンを始動してから約 2 分間経過していないときは、設定できないことがあります。

ℹ ディストロニックの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

ℹ ディストロニック作動中にアクセルペダルを踏んで速度を上げると、マルチファンクションディスプレイに "ｵｰﾊﾞｰﾗｲﾄﾞ" と表示され、ディストロニックによる速度調整が一時的に解除されます。

ℹ ディストロニックの設定速度は記憶されます。

ただし、イグニッション位置を一度 **0** か **1** にすると、記憶された速度は消去されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

記憶されている速度に設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速や急減速して事故を起こすおそれがあります。

設定速度を上げる

▶ レバーを①の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が上がります。

希望する速度になったらレバーから手を放します。

車両の操作

または

▶ レバーを①の方向にいっぱいまで操作します。

- 10km/h 単位で設定速度が上がります。
- 1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り上がり、その後 10km/h 単位で設定速度が上がります。

希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定され、マルチファンクションディスプレイに設定速度が数秒間表示されます。

! レバーを①の方向に操作して設定速度を上げるときは、周囲の状況に注意してください。レバーから手を放した後も、設定した速度に到達するために車が加速することがあります。

設定速度を下げる

▶ レバーを②の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が下がります。

希望する速度になったらレバーから手を放します。

または

▶ レバーを②の方向にいっぱいまで操作します。

- 10km/h 単位で設定速度が下がります。
- 1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り下がり、その後 10km/h 単位で設定速度が下がります。

希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定され、マルチファンクションディスプレイに設定速度が数秒間表示されます。

i レバーを②の方向に操作して減速しているときに、シフトダウンしたり、自動的にブレーキを効かせることがあります。

! 自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると挟まれたり、ブレーキの作動を妨げることがあります。

一時的に速度を上げる

▶ 追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。

アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

i ディストロニック作動中にアクセルペダルを踏んで速度を上げると、マルチファンクションディスプレイに "ｵｰﾊﾞｰﾗｲﾄﾞ" と表示され、ディストロニックによる速度調整が一時的に解除されます。

ディストロニックを解除する

▶ レバーを③の方向に押します（▷172 ページ）。

または

▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

▶ レバーを⑤の方向に押します（▷172 ページ）。

レバーの表示灯⑥が点灯し、可変スピードリミッターを操作できる状態に切り替わります。

ディストロニックが解除されると、マルチファンクションディスプレイに "ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸ ｵﾌ" と数秒間表示されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 以下のようなときはディストロニックを解除してください。
  - ◇ 急な下り坂や急カーブ、曲がりくねった道路にさしかかったとき
  - ◇ 設定速度よりも低い速度で走行している先行車への追従走行から、車線を変更するとき
  - ◇ 合流車線や分岐車線を走行するとき

  これらの場合にディストロニックを作動させていると、設定した速度までシステムが自動的に加速・減速を行ない、事故を起こすおそれがあります。
- 走行中はシフトポジションを **N** にしてディストロニックを解除しないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

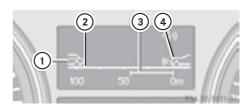
ℹ ディストロニックを解除する前の設定速度は記憶されます。

ただし、イグニッション位置を一度 **0** か **1** にすると、記憶された設定速度は消去されます。

ℹ 以下のときはディストロニックが自動的に解除されます。

- 走行速度が約 30km/h 以下になったとき
- ESP が作動したとき
- ESP オフスイッチで ESP の機能を解除したとき
- シフトポジションを **N** にしたとき
- パーキングブレーキを効かせたとき

このときは警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸ ｵﾌ" と数秒間表示されます。

先行車を感知したとき

① 先行車（先行車を感知した場合）
② 先行車と自車とのおよその車間距離
③ 先行車と自車との設定した車間距離
④ 自車

前方に走行している車を感知すると、車間距離表示画面に先行車①が表示されます。

自車の走行速度より遅い速度で走行しているときは、車間距離が詰まるにつれ、先行車の表示が左から右へ移動します。

速度に応じた設定車間距離に達すると、先行車への追従走行を開始します。

ℹ マルチファンクションディスプレイに他の画面を表示させていても、ディストロニックを設定しているときに先行車を感知すると、自動的に車間距離表示画面に切り替わります。先行車がいなくなると、元の画面に戻ります。

先行車を感知したときの表示例

⑤ 先行車の走行速度

⑥ 設定速度

⑦ ディストロニックインジケーター

また、先行車の走行速度⑤と設定速度⑥、ディストロニックインジケーター⑦が点灯します。

車間距離の設定

走行しているとき、先行車との車間距離を 1 秒から 2 秒の範囲で設定することができます。

車間距離の 1 秒間とは、ある速度のとき 1 秒間で走行する距離のことで、約 100km/h で走行しているときの 1 秒の車間距離は約 28m になります。

設定した車間距離はマルチファンクションディスプレイに表示されます。

① 車間距離調整ダイヤル

② 車間距離を短くする

③ 車間距離を長くする

車間距離を長くする

▶ ダイヤル①を③の方向にまわします。

車間距離を短くする

▶ ダイヤル①を②の方向にまわします。

走行速度と車間距離の関係

走行速度（km/h）	設定できる車間距離（m）
40	11 ～ 22
60	17 ～ 33
80	22 ～ 44
100	28 ～ 56

※車間距離はおよその距離です

ℹ 設定される車間距離は走行速度によって変わります。

⚠ **事故のおそれがあります**

車間距離を設定するときは、先行車との安全が確保できる距離に設定してください。先行車が急ブレーキをかけたときなどに、事故を起こすおそれがあります。

車間距離警告

ディストロニックが作動しているとき、先行車に近付きすぎると、車間距離警告灯と車間距離警告音による警告が行なわれ、運転者にブレーキ操作を促します。

ℹ 道路幅の狭い道やカーブなどを走行しているときは、車道脇に設置された静止物やガードレールのリフレクターなどを感知して、車間距離警告音が鳴ることがあります。

ℹ 減速が必要なときは、必ずブレーキペダルを踏んでください。ディストロニックが作動しているときは、ティップシフトでシフトダウンを行なっても、エンジン回転数が速度に応じて変化するだけで、エンジンブレーキは効きません。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 走行中に車間距離警告灯が赤色点灯して、車間距離警告音が鳴ったときは、大幅な減速が必要になります。ブレーキペダルを踏んで減速するか、回避操作を行なってください。前車や前方の障害物に衝突するおそれがあります。
- 車間距離警告灯が頻繁に点灯したり、車間距離警告音が鳴るようなときは、ディストロニックを使用しないでください。
- 周囲の状況によっては、先行車がいても車間距離警告が行なわれなかったり、先行車がいないときに車間距離警告が行なわれることがあります。運転者は車間距離警告だけに頼らず、常に先行車との車間距離や周囲の状況を確認し、必要に応じてブレーキを操作してください。

車間距離警告灯

① 車間距離警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

走行中は、先行車に近付きすぎたときや他車が割り込んできたとき、または前方に停止している障害物があるときなど、先行車との車間距離が短くなり、大幅な減速が必要になったときに点灯します。

車間距離警告音を設定する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ マルチファンクションディスプレイに車間距離警告音設定画面を表示させます（▷150 ページ）。

車間距離警告音設定画面

▶ ＋ または － を押し、"ｵﾝ" を選択します。

マルチファンクションディスプレイのサブ画面に、車間距離警告音インジケーター②が表示されます。

② 車間距離警告音インジケーター

車間距離警告音を解除する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ マルチファンクションディスプレイに車間距離警告音設定画面を表示させます（▷150 ページ）。

▶ ＋ または － を押し、"ｵﾌ" を選択します。

車間距離警告音インジケーター②が消えます。

! 車間距離警告音を解除すると、先行車に近付きすぎても、車間距離警告灯による警告しか行なわれません。

車間距離警告音を設定して走行してください。

ディストロニックを解除しているときでも、先行車との車間距離は測定されています。先行車に近付きすぎると、車間距離警告灯と車間距離警告音による警告を行ないます。

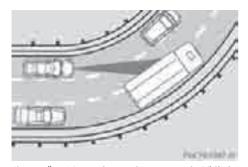
ただし、車間距離警告音を解除しているときは、車間距離警告音は鳴りません。

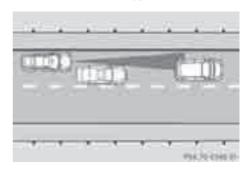
道路や交通の状況により、ディストロニックが先行車との距離を正確に認識できない場合があります。

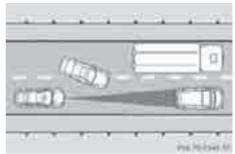
ディストロニックを使用して走行するときの注意

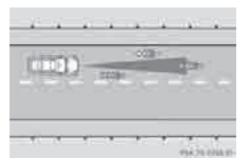
ディストロニックを使用するときに、特に注意が必要な道路と交通の状況を、以下に記載しています。

このような状況下では、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。ディストロニックが解除されます。

カーブを走行するときやカーブに入るとき、カーブを抜けるとき

カーブでは、ディストロニックが先行車を感知できなかったり、感知が早すぎることがあります。その結果、車が加速したり、ブレーキを効かせることがあります。

異なるライン上を走行しているとき

ディストロニックは、同一車線でも異なるライン上を走行している先行車を感知できないことがあります。その結果、先行車に接近しすぎることがあります。

先行車との間に割り込みがあったとき

前方に割り込んできた車がディストロニックの感知範囲内に入らないことがあります。その結果、割り込んできた車に接近しすぎることがあります。

先行車の横幅が狭いとき

ディストロニックは、同一車線の端を走行している横幅の狭い先行車（オートバイなど）を感知できないことがあります。その結果、先行車に接近しすぎることがあります。

可変スピードリミッター

可変スピードリミッターは、制限速度を設定すると、アクセルペダルを踏み込んでいても、設定速度を超えないように走行することができます。

設定できる速度は30km/hから210km/hの間です。ただし、車の最高速度以上に制限速度を設定しても、車の最高速度以上の速度で走行することはできません。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

⚠ 事故のおそれがあります

- 走行時は法定速度を遵守してください。可変スピードリミッター使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 運転を交代するときは、必ず交代する運転者に、可変スピードリミッターの機能と設定した制限速度を伝えてください。

  可変スピードリミッターの機能を知らずに運転すると、アクセルペダルを踏んでも速度が上がらず、事故を起こすおそれがあります。
- 可変スピードリミッターはブレーキペダルを踏んでも解除できません。
- 可変スピードリミッターは設定した制限速度以上に加速する必要のないときに使用してください。

! 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

ただし、路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

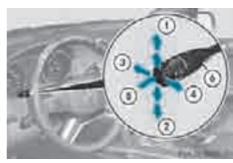
! 自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると挟まれたりブレーキの作動を妨げるおそれがあります。

! 可変スピードリミッターの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

! マルチファンクションディスプレイに可変スピードリミッターに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷298 ページ）をご覧ください。

i ウィンタータイヤスピードリミッター（▷146 ページ）を設定しているときは、可変スピードリミッターで設定できる制限速度は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度が上限となります。

i 設定した速度を維持できないときは、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに"ﾘﾐｯﾄｦ ｺｴﾏｼﾀ”と表示されることがあります。

可変スピードリミッターの使いかた

①～⑤ レバーの操作方向
⑥ 表示灯

DSR（▷157 ページ）、クルーズコントロール（▷166 ページ）、ディストロニック＊（▷170 ページ）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯⑥が点灯しているときに、可変スピードリミッターを操作できます。

レバーの表示灯⑥が消灯しているときは、クルーズコントロールまたはディストロニック＊の操作ができる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯⑥が点灯し、可変スピードリミッターを操作できる状態に切り替わります。

可変スピードリミッターを設定する

▶ DSR が解除されていることを確認します（▷157 ページ）。

▶ レバーを①または②の方向に軽く操作します。

- 停車中および走行速度が約 30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。
- 走行速度が約 30km/h 以上のときは、そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを④の方向に操作します。

- 設定速度が記憶されているときは、記憶されている速度に再度設定されます。
- 設定速度が記憶されていないときで、停車中および走行速度が約30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。
- 設定速度が記憶されていないときで、走行速度が約 30km/h 以上のときは、そのときの速度に設定されます。

⑦ 設定速度
⑧ 可変スピードリミッター表示灯

マルチファンクションディスプレイに設定速度⑦が表示され、数秒後に車両情報サブ画面に移動します。

また、メーターパネルの可変スピードリミッター表示灯⑧が点灯します。

ディストロニック装備車
⑨ 可変スピードリミッターインジケーター

ディストロニック装備車は、スピードメーターの設定速度より下の部分に、可変スピードリミッターインジケーター⑨が点灯します。

ℹ 可変スピードリミッターを解除する前の設定速度は記憶されます。

ただし、イグニッション位置を一度 **0** か **1** にすると、記憶された速度は消去されます。

ℹ キックダウンをしているときは可変スピードリミッターは設定できません。

ℹ 車種や仕様により、走行速度が記憶されている設定速度より約 60km/h 以上高いときは、記憶されている速度に再度設定することができません。このときはマルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数秒間点滅します。

❗ 制限速度を設定するときは、周囲の状況、特に後方の車などに注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

設定速度を上げる

▶ レバーを①の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が上がります。

希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを①の方向にいっぱいまで操作します。

- 10km/h 単位で設定速度が上がります。
- 1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り上がり、その後 10km/h 単位で設定速度が上がります。

希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定され、マルチファンクションディスプレイに設定速度が数秒間表示されます。

設定速度を下げる

▶ レバーを②の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が下がります。

希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを②の方向にいっぱいまで操作します。

- 10km/h 単位で設定速度が下がります。
- 1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り下がり、その後 10km/h 単位で設定速度が下がります。

希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定され、マルチファンクションディスプレイに設定速度が数秒間表示されます。

可変スピードリミッターを解除する

▶ レバーを③の方向に操作します。

または

▶ レバーを⑤の方向に押します。

レバーの表示灯⑥が消灯し、クルーズコントロールまたはディストロニック＊の操作ができる状態に切り替わります。

! 可変スピードリミッターを解除しても、設定速度は記憶されています。記憶されている速度が走行速度よりも低い場合、記憶されている速度に再度設定すると、アクセルペダルを踏んでいても車は減速します。

i 次の操作をしたときは可変スピードリミッターが自動的に解除されます。

- アクセルペダルを踏んでキックダウンしたとき

  このときは警告音が鳴ります。

  ただし、走行速度が設定速度より約 20km/h 以上低いときは、キックダウンしても可変スピードリミッターは解除されません。
- エンジンを停止したとき

ADS

① サスペンションモード選択スイッチ
② 表示灯（スポーツ）
③ 表示灯（コンフォート）

ＡＤＳ（アダプティブ・ダンピング・システム）は、運転のスタイルや道路状況などに応じて、サスペンションを最適な状態に調整します。

また、サスペンションモード選択スイッチでサスペンションモードを選択できます。

エンジンがかかっているときに操作できます。

サスペンションモードを選択する

▶ サスペンションモード選択スイッチ①を押します。

サスペンションモードが SPORT → COMF → AUTO → SPORT と切り替わります。

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> サスペンションモード選択スイッチを操作するときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいないことを確認してください。車高が変化するときに、身体を挟むおそれがあります。

点灯する表示灯	モード	作動内容
消灯	AUTO	通常走行用のモードです。
[SPORT表示灯]	SPORT（スポーツ）	スポーティな走行に適したモードです。標準より約 15mm 低い車高になります。
[COMF表示灯]	COMF（コンフォート）	快適性を重視する走行用のモードです。

ⓘ サスペンションモードが AUTO モードか COMF モードのときは、走行速度が一定以上の速度になると、車高が約 15mm 下がります（▷191 ページ）。

ⓘ イグニッション位置を **0** にしたり、エンジンスイッチからキーを抜いても、選択したサスペンションモードは記憶されます。

ⓘ いずれかのドアが開いているときは、SPORT モードを選択しても車高は下がりません。開いているドアを閉じると、車高が下がります。

レベルコントロール

① 車高調整ダイヤル
② 車高上昇の方向
③ 車高下降の方向
④ 表示灯

レベルコントロールは、悪路などを走行するときに、車高を上げることにより最低地上高を確保できます。

車高は、車高調整ダイヤル①により、4 つのレベルを選択できます。

エンジンがかかっているときに操作できます。

⚠ けがのおそれがあります

- 車高を調整するときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいないことを確認してください。車高が変化するときに、身体を挟むおそれがあります。
- 通常は、できるだけ低い車高で走行してください。車高が上昇すると、車の重心も上がり、事故を起こすおそれがあります。
- 車高を上昇させたときは、急発進や急加速を避け、慎重に運転操作を行なってください。ESP が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。

! 連続して車高を調整しないでください。エアポンプの保護機能によって作動が停止することがあります。

! マルチファンクションディスプレイに車高に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷301、302 ページ）をご覧ください。

点灯する表示灯の数	車高レベル	車高上昇値	設定可能速度
0	通常走行レベル	0mm（標準）	
1	オフロードレベル 1	標準 +30mm	～ 100km/h
2	オフロードレベル 2	標準 +60mm	～ 70km/h
3	オフロードレベル 3	標準 +90mm	～ 20km/h

ⓘ 走行中に車高を調整すると、より短い時間で車高調整を完了させることができます。

ⓘ 停車中は、車を解錠したときやドアを開いたときに、積載荷物の重量に応じて車高が調整されることがあります。

また、外気温度の変化により、車高が調整されることもあります。

ⓘ イグニッション位置を**0**にするか、エンジンスイッチからキーを抜いても、選択した車高レベルは記憶されます。

ⓘ いずれかのドアが開いているときは、車高は下がりません。開いているドアを閉じると、車高が下がります。

マルチファンクションディスプレイの表示

車高レベルの表示

マルチファンクションディスプレイを"オフロード表示"画面(▷135ページ)にしているときは、車高の上昇 / 下降状態や車高レベルが表示されます。

"オフロード表示"画面を表示させていないときに、レベルコントロールを作動させたときは、マルチファンクションディスプレイの表示が以下のように切り替わります。

- 車高をオフロードレベル3以外のレベルにしたときは、マルチファンクションディスプレイの画面は、車高調整が完了した約5秒後に、元の画面に戻ります。

  車高が調整されている途中で、ステアリングの [◫] [◫] または [▲] [▼] を押すと、他のメニューを選択できます。

- 車高をオフロードレベル3にしたときは、車高調整が完了してもマルチファンクションディスプレイの画面は元の表示に戻りません。

  車高が調整されている途中で、ステアリングの [◫] [◫] または [▲] [▼] を押すと、そのときの車高がオフロードレベル2以下のときは、他のメニューを選択できます。車高がレベル2よりも高くなると、車高の上昇 / 下降状態や車高レベルが表示されます。

ⓘ 設定可能速度以上の速度で車高を調整しようとしたときは、マルチファンクションディスプレイに"ﾚﾍﾞﾙﾁｮｳｾｲ ｼﾖｳﾌｶ"と表示されます。

車高をオフロードレベル 1 にする

⑤ 車高上昇インジケーター

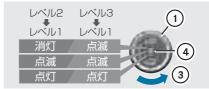
停車中、または約 100km/h 以下で走行しているときに設定できます。

▶ 車高が通常走行レベルのときは、車高調整ダイヤル①を時計回り②にまわして、表示灯④の状態を下図のようにします。

車高調整ダイヤル①操作直後の表示灯④の状態

マルチファンクションディスプレイに車高上昇インジケーター⑤と " ｼﾞｮｳｼｮｳﾁｭｳ " が表示されます。

⑥ 車高下降インジケーター

▶ 車高がオフロードレベル 2、またはオフロードレベル 3 のときは、車高調整ダイヤル①を反時計回り③にまわして、表示灯④の状態を下図のようにします。

車高調整ダイヤル①操作直後の表示灯④の状態

マルチファンクションディスプレイに車高下降インジケーター⑥と " ｶｺｳﾁｭｳ " が表示されます。

⑦ 車高インジケーター

車高調整が完了すると、マルチファンクションディスプレイに " ｵﾌﾛｰﾄﾞ ﾀｶｻ 1" と表示され、車高インジケーター⑦が 1 個点灯します。

また、スイッチの表示灯④が 1 個点灯します。

車高をオフロードレベル 2 にする

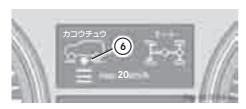
⑤ 車高上昇インジケーター

停車中、または約 70km/h 以下で走行しているときに設定できます。

▶ 車高が通常走行レベル、またはオフロードレベル 1 のときは、車高調整ダイヤル①を時計回り②にまわして、表示灯④の状態を下図のようにします。

通常走行レベル → レベル2	レベル1 → レベル2
消灯	消灯
点滅	点滅
点滅	点灯

車高調整ダイヤル①操作直後の表示灯④の状態

マルチファンクションディスプレイに車高上昇インジケーター⑤と " ｼﾞｮｳｼｮｳﾁｭｳ " が表示されます。

⑥ 車高下降インジケーター

▶ 車高がオフロードレベル 3 のときは、車高調整ダイヤル①を反時計回り③にまわして、表示灯④の状態を下図のようにします。

車高調整ダイヤル①操作直後の表示灯④の状態

マルチファンクションディスプレイに車高下降インジケーター⑥と " ｶｺｳﾁｭｳ " が表示されます。

⑦ 車高インジケーター

車高調整が完了すると、マルチファンクションディスプレイに " ｵﾌﾛｰﾄﾞ ﾀｶｻ 2" と表示され、車高インジケーター⑦が 2 個点灯します。

また、表示灯④が 2 個点灯します。

車高をオフロードレベル 3 にする

⑤ 車高上昇インジケーター

停車中、または約 20km/h 以下で走行しているときに設定できます。

▶ 車高調整ダイヤル①を時計回り②にまわして、表示灯④の状態を下図のようにします。

車高調整ダイヤル①操作直後の表示灯④の状態

⑦ 車高インジケーター

マルチファンクションディスプレイに車高上昇インジケーター⑤と " ｼﾞｮｳｼｮｳﾁｭｳ " が表示されます。

車高がオフロードレベル 2 以上になったときは "max.20km/h" と表示されます。

車高調整が完了すると、マルチファンクションディスプレイに " ｵﾌﾛｰﾄﾞ ﾀｶｻ 3" と表示され、表示灯④が 3 個点灯します。

また、車高インジケーター⑦が 3 個点灯します。

⚠ **事故のおそれがあります**

一般道では車高をオフロードレベル 3 にして走行しないでください。重心が高くなり、事故を起こすおそれがあります。

また、以下の内容を守って運転してください。

- オフロードレベル 2 では走破できないような悪路を走行するときのみ、オフロードレベル 3 にしてください。
- オフロードレベル 3 のときは、約 20km/h 以上の速度で走行しないでください。
- オフロードレベル 3 にすると、車両操縦性が大きく変化します。急ハンドルや急加速、急ブレーキは避けてください。

オフロードレベルの自動解除

車高がオフロードレベル 3 のときに約 20km/h 以上の速度で走行した場合の警告メッセージ

オフロードレベル 3 の自動解除

車高がオフロードレベル 3 のときに走行速度が約 20km/h を超えると、警告音とともにマルチファンクションディスプレイに左記の警告メッセージが表示されます。

そのままの速度で走行を続けたり、速度を上昇させたときはオフロードレベル 3 は自動的に解除され、そのときの速度に適した車高に自動調整されます。

ℹ オフロードレベル 3 で走行しているときに、停止するか速度を下げると、車高が自動調整されることがあります。

オフロードレベル 2 の自動解除

車高がオフロードレベル 2 のときに、約 90km/h 以上の速度で走行するか、約 70 ～ 90km/h の速度で約 20 秒以上走行すると、オフロードレベル 2 は自動的に解除され、オフロードレベル 1 になります。

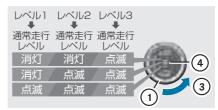
オフロードレベル 1 の自動解除

車高がオフロードレベル 1 のときに、約 115km/h 以上の速度で走行するか、約 100 ～ 115km/h の速度で約 20 秒以上走行すると、オフロードレベル 1 は自動的に解除されます。

ADS のモードが AUTO または COMF のときは通常走行レベルに、SPORT のときはハイウェイレベル（▷191 ページ）になります。

※ 上記は車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

車高を通常走行レベルにする

▶ 車高調整ダイヤル①を反時計回り③にまわして、表示灯④の状態を下図のようにします。

車高調整ダイヤル①操作直後の表示灯④の状態

⑥ 車高下降インジケーター

マルチファンクションディスプレイに車高下降インジケーター⑥と " ｶｺｳﾁｭｳ " が表示されます。

車高調整が完了すると、点滅していた表示灯④が消灯します。

ハイウェイレベル

ADS（▷184 ページ）のモードが AUTO か COMF のときに、約 180km/h 以上の速度で走行するか、約 160 ～ 180km/h の速度で約 20 秒以上走行すると、車高が約 15mm 下がります。

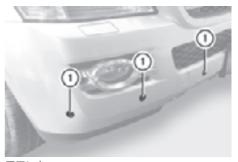
速度が約 40km/h 以下になるか、約 40 ～ 70km/h の速度で約 20 秒以上走行すると、車高は通常走行レベルに戻ります。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

ℹ ADS のモードが SPORT のときは、走行速度にかかわらず、車高はハイウェイレベルになります。

パークトロニック

パークトロニックは、フロントとリアのバンパーにあるセンサーで障害物などを感知し、車と障害物とのおよその距離を、インジケーターと警告音で運転者に知らせる装置です。

! パークトロニックは運転者を支援するシステムです。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。

パークトロニックセンサー

フロント

リア
① センサー

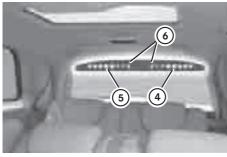
フロントバンパーの 6 個のセンサー①とリアバンパーの 4 個のセンサー①が車の周辺の障害物などを感知します。

! センサーに泥や氷、雨、水しぶきなどが付着したときは、赤色インジケーターが点灯して、約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除されることがあります。

! センサーに損傷を与えないように注意してください。正しく作動しなくなるおそれがあります。

インジケーター / 作動表示灯

フロント
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター
③ 作動表示灯

フロントのインジケーターと作動表示灯はダッシュボード上の図の位置にあります。

リア
④ 左側インジケーター
⑤ 右側インジケーター
⑥ 作動表示灯

リアのインジケーターと作動表示灯はラゲッジルーム上方の図の位置にあります。

バンパーと障害物などとのおよその距離をインジケーターの点灯数で示します。

! システムに異常があるときは、赤色インジケーターだけが点灯して警告音が約 2 秒間鳴り、約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除されることがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯します。

i イグニッション位置を **2** にすると、すべてのインジケーターと作動表示灯が一瞬点灯します。

パークトロニックの作動条件

イグニッション位置が **2** でパーキングブレーキが解除されているとき、シフトポジションに応じて以下のように作動します。

シフトポジション	作動内容
D	フロントのセンサーが作動し、フロントの作動表示灯③が点灯します。
R N	フロントとリアのセンサーが作動し、フロントの作動表示灯③と、リアの作動表示灯⑥が点灯します。
P	パークトロニックは作動しません。

i パークトロニックが作動したとき、センサーの感知範囲に障害物などがあると、その距離に応じて表示灯が点灯し、警告音が鳴ります。

パークトロニックは、速度が約18km/h 以下のときに待機状態になります。速度が約 18km/h 以上になると機能が解除されます。

パークトロニックの作動

センサー感知範囲に障害物が入ったとき

センサー感知範囲に障害物が入ると、黄色インジケーターが 1 個点灯します。

障害物との距離が短くなるにつれ、点灯する黄色インジケーターの数が増えていきます。

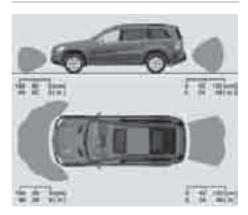
障害物との距離が近くなったとき

障害物との距離がセンサーの最短感知距離に近くなると、黄色インジケーターに加えて 1 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が断続的に約 3 秒間鳴ります。

最短感知距離（約 20 ～ 15cm）になると、上記のインジケーターに加えて 2 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が連続的に約 3 秒間鳴ります。

! 障害物との距離がセンサーの最短感知距離よりも近くなると、センサーは障害物を感知できなかったり、正常に作動しなくなることがあります。

また、点灯していたインジケーターが消灯することがあります。

センサーの感知範囲

フロントバンパー側	センサー感知範囲
センター	約 100cm ～ 20cm
コーナー	約 60cm ～ 15cm
リアバンパー側	**センサー感知範囲**
センター	約 120cm ～ 20cm
コーナー	約 80cm ～ 15cm

! 車のセンターでバンパーから約 20cm 以内、コーナーでバンパーから約 15cm 以内にある障害物は感知できません。

! センサーの周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。パークトロニックが正常に作動せず、車を損傷したり事故につながるおそれがあります。

! 針金やロープなどの細い物や、植木鉢や建物の張り出しなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。これらが至近距離にあるとき、状況によっては、センサーがこれらを感知せず、車や物を損傷するおそれがあります。

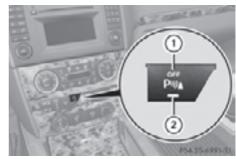
! センサーは雪などの超音波を吸収しやすい物を感知しないことがあります。

! 電波を発する物が近くにあるときや、不整地などを走行しているときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 洗車機や大型車の排気ブレーキ、工事用のエアコンプレッサーなどが近くにあると、超音波が乱され、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 温度や湿度が高いときや超音波や低周波を発生させる機器が車の近くにあるとき、またエンジンルームの温度が高いときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。

パークトロニックオフスイッチ

① パークトロニックオフスイッチ
② 表示灯

パークトロニックの機能を解除することができます。

パークトロニックの機能を解除する

▶ イグニッション位置が **2** のとき、パークトロニックオフスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点灯します。

パークトロニックを待機状態にする

▶ 再度、パークトロニックオフスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が消灯します。

! システムに異常があるときは、赤色インジケーターだけが点灯して警告音が約 2 秒間鳴り、約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除されることがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯します。

i パークトロニックの機能を解除しても、次にイグニッション位置を **2** にしてパーキングブレーキを解除したとき、パークトロニックは自動的に作動します。

サイドビューカメラ

助手席側ドアミラー下部に装着されたカメラにより、助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方の映像を、COMAND ディスプレイに表示します。

また、ガイドラインにより、カーブなどでの走行を補助します。

発進する際などには、必ずサイドビューカメラで助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方の状況を確認してください。

⚠ 事故のおそれがあります

- サイドビューカメラは運転者を支援するシステムです。運転者はサイドビューカメラだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。
- サイドビューカメラ使用時においても安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。
- COMAND ディスプレイの映像には近くにある障害物の遠近感が正しく映し出されなかったり、映像が非常に見えづらいことがあります。ディスプレイの映像だけを見て発進や路肩への幅寄せなどをすると、人や他の車、障害物に衝突したり、事故につながるおそれがあります。

  サイドビューカメラ使用時においても、目視による安全確認を行ないながら運転してください。

! 乗車人数や荷物の積載量により、サイドビューカメラの映像範囲は変化し、それに伴いガイドラインの示す位置にも誤差が生じます。必ず自分の目やミラーで周囲の状況を直接確認してください。

! ボディ側面前方や後方にある物はディスプレイには表示されません。

! 外気温度が低いときは、ディスプレイが暗くなったり、映像が薄くなることがあります。また、動いている物の映像が歪んだり、ディスプレイに表示されないことがあります。

! 必ず指定されたサイズのホイールやタイヤを装着してください。指定以外のホイールやタイヤを装着すると、システムに影響を及ぼすことがあります。

! ドアを開閉するときやドアミラーを格納 / 展開するときなどは、カメラを損傷しないように注意してください。

! カメラやカメラの周囲に強い衝撃を与えないでください。カメラが故障したり、カメラの取り付け位置や角度がずれるおそれがあります。

! ドアミラーやカメラを損傷したり、カメラの取り付け位置や角度がずれたときは、すみやかに指定サービス工場でカメラの修理および調整を行なってください。

! カメラの修理および調整は必ず指定サービス工場で行なってください。お客様自身で作業を行なうと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

! カメラや関連部品の取り外しや分解、改造は絶対に行なわないでください。

! ガイドラインが表示されないなど故障のおそれがあるときや、" ガイドできません。オーナーズマニュアルを参照ください " というメッセージが表示されたときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

! 以下のような場合は、サイドビューカメラは正常に作動しません。

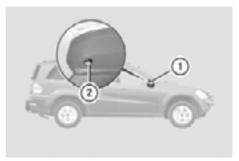
- 助手席ドアが完全に閉じていないとき
- 助手席側ドアミラーが完全に展開していないとき
- スノーチェーンや応急用スペアタイヤを装着しているとき

i 以下のときは映像が見えづらくなりますが、異常ではありません。

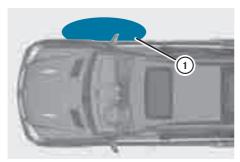
- 激しい雨や雪が降っているときや霧のとき
- 夜間や暗い場所で使用するとき
- カメラにヘッドランプや日光の反射などの強い光が直接当たったとき
- 蛍光灯の下で使用するとき（映像にちらつきが出ることがあります）
- 急激な温度変化があったとき（寒冷時に暖房されたガレージに入るときなど）
- カメラが曇ったり水滴が付着したとき（雨の日や湿度の高い日、洗車した直後など）
- カメラに泥や汚れが付着したとき

洗車するときの注意

- 洗車時に高圧のスプレーガンを使用するときは、ノズルをカメラやカメラの周囲に近付けないでください。水圧が高いため、故障の原因になります。
- カメラを清掃するときは、きれいな水で汚れを落とし、やわらかい布で拭き取ってください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などは使用しないでください。また、強い力で乾拭きしないでください。変色の原因になったり、カメラを損傷するおそれがあります。
- ボディにワックスをかけるときは、カメラにワックスが付着しないように注意してください。付着してしまった場合は、水と純正カーシャンプーを混ぜた洗浄液で拭き取ってください。

サイドビューカメラの位置

① 助手席側ドアミラー
② サイドビューカメラ

サイドビューカメラ②は助手席側ドアミラー①の下部に装備されています。

サイドビューカメラの表示範囲

① サイドカメラの表示範囲

サイドビューカメラは、助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方の範囲①を表示します。

サイドビューカメラの作動と停止

サイドビューカメラを作動させる

イグニッション位置が **2** のときにサイドビューカメラを作動させることができます。

▶ COMAND システムをオンにします。

▶ COMAND コントロールパネルの SYS ボタンを押します。

または

▶ アプリケーションエリアの " 設定 " を選択します。

設定基本画面になります。

設定基本画面

▶ " ｻｲﾄﾞﾋﾞｭｰｶﾒﾗ " を選択します。

COMAND ディスプレイに、サイドビューカメラの映像とガイドラインが表示されます。

サイドビューカメラを停止する

▶ コントロールスティックを押します。

設定基本画面に戻ります。

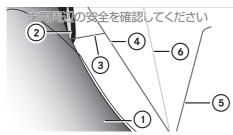
または

▶ COMAND コントロールパネルのアプリケーション選択ボタンを押します。

それぞれのボタンに応じた画面になります。

ⓘ COMAND システムをオフにしたり、イグニッション位置を **2** 以外にすると、サイドビューカメラが停止します。

再度 COMAND システムをオンにしたり、イグニッション位置を **2** にするとサイドビューカメラが作動します。

サイドビューカメラの映像

① 自車
② 助手席側フロントタイヤ

ガイドライン

③	助手席側フロントホイールの中心位置を表示するガイドラインです。
④	助手席側の車体から約 20cm の位置を表示するガイドラインです。
⑤	ステアリングをいっぱいにまわして曲がったときの、助手席側後輪の軌道の目安を表示するガイドラインです。
⑥	現在のステアリング操舵角で曲がったときの、助手席側後輪の軌道の目安を表示するガイドラインです。 ステアリング操舵角が変化すると、角度が変化します。

ℹ 走行速度が約 20km/h を超えると、サイドビューカメラの映像は表示されなくなります。

このときは、ディスプレイに " 安全のため、走行中は利用できません " と表示されます。

走行速度が約 18km/h 以下になると、サイドビューカメラの映像は再び表示されます。

ℹ ガイドライン⑤および⑥は以下のときには表示されません。

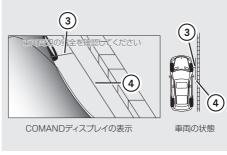
- 助手席方向にまわしたステアリング操舵角が約 90° 以下のとき
- ステアリングが運転席方向にまわしてあるとき
- シフトポジションが R のとき

また、以下のときはガイドライン③および④も表示されません。

- 助手席ドアが完全に閉じていないとき

  ディスプレイに " 助手席側ドアが開いているため、ガイドできません " と約 6 秒間表示されます。
- 助手席側ドアミラーが格納されているとき

  ディスプレイに " ドアミラーが格納されているため、ガイドできません " と約 6 秒間表示されます。

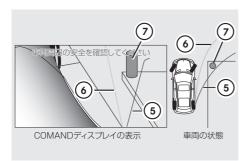
路肩などに車を寄せるとき

③ 助手席側フロントホイールの中心を表示するガイドライン（青色）
④ 助手席側のタイヤ側面から約 20cm の位置を表示するガイドライン（青色）

路肩などに車を寄せるときに、車体と路肩の縁石などの目標物との位置関係を確認できます。

▶ 左図のように、ガイドライン④が目標物の端に接するように車両を幅寄せします。

▶ ガイドライン④を目標物と平行にすることで、目標物に沿って駐車できます。

ガイドライン③の位置により、助手席側フロントホイールのおよその位置を知ることもできます。

障害物のあるカーブを曲がるとき

⑤ ステアリングをいっぱいにまわして曲がったときの助手席側後輪の軌道目安を表示するガイドライン（青色）
⑥ 現在のステアリング操舵角で曲がったときの、助手席側後輪の軌道目安を表示するガイドライン（黄色）
⑦ 障害物

! ディスプレイの表示はあくまで目安です。走行するときはディスプレイの表示だけに頼らず、必ず周囲の状況を直接確認してください。

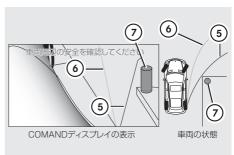
助手席側に障害物があるカーブを曲がるときに、車体の予想進路と障害物との位置関係の目安を確認できます。

▶ ステアリングを助手席側にまわします。

左図のように、ガイドライン⑥が障害物⑦より外側にあるときは、車体と障害物が接触しない目安になります。

! ガイドラインは目安を示すものであり、車両の移動軌道を保証するものではありません。ガイドラインは目安として使用し、実際は必ず周囲の状況を直接確認してください。

ただし、よりステアリングを助手席側にまわし、ガイドライン⑥が障害物と重なったり、障害物よりも内側にくると、車体と障害物が接触するおそれがあります

ガイドライン⑥が障害物より外側にくるようにステアリング操舵角を調整して走行してください。

上図のように、ガイドライン⑤が障害物⑦より外側にあるときは、ステアリングをいっぱいにまわして曲がっても、車体と障害物が接触しない目安になります。

! ガイドラインは目安を示すものであり、車両の移動軌道を保証するものではありません。ガイドラインは目安として使用し、実際は必ず周囲の状況を直接確認してください。

パーキングアシストリアビューカメラ

パーキングアシストリアビューカメラは、車の後方の映像と音声により、車庫入れや縦列駐車などの後退操作を補助するシステムです。

⚠ **事故のおそれがあります**

- パーキングアシストリアビューカメラは運転者を支援するシステムです。運転者はパーキングアシストリアビューカメラだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。
- パーキングアシストリアビューカメラ使用時の安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。

! パーキングアシストリアビューカメラは運転者を支援するシステムです。絶対に COAMND ディスプレイの映像だけを見て後退や車庫入れなどをしないでください。

! システムの特性上、COMAND ディスプレイの映像には障害物の遠近感が正しく映し出されなかったり、映像が非常に見づらいことがあります。COMAND ディスプレイの映像だけを見て後退などをすると、人や他の車、障害物に衝突したり、事故につながるおそれがあります。必ず自分の目やミラーで後方や周囲の安全を確認してください。

! 乗車人数や荷物の積載量により、パーキングアシストリアビューカメラの映像範囲は変化し、それに伴いガイドラインの示す位置にも誤差が生じます。

必ず自分の目やミラーで周囲の状況を直接確認してください。

! COMAND ディスプレイに表示される物などが歪んだ形状で表示されたり、鮮明に表示されないことがあります。

! リアバンパーの至近距離や下方にある物は COMAND ディスプレイには表示されません。

運転者は COMAND ディスプレイの映像だけに頼らず、必ず自分の目やミラーで周囲の状況を直接確認してください。特に周囲に人や動物がいないことを確認してください。

! カメラの周囲に強い衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

! 必ず指定されたサイズのホイールやタイヤを装着してください。指定以外のホイールやタイヤを装着すると、システムに影響を及ぼすことがあります。

! 車の後部を損傷したときは、すみやかに指定サービス工場でカメラの点検および調整を行なってください。

! ガイドラインが表示されないなど故障のおそれがあるときは、指定サービス工場におたずねください。

! パーキングアシストリアビューカメラは、以下のときは正しく作動しません。

- テールゲートが完全に閉じていないとき
- カメラやカメラの周囲に損傷があるとき

! テールゲートを開閉するときなどは、カメラを損傷しないように注意してください。

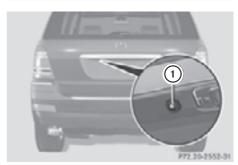
! 以下のような場合はシステムを使用しないでください。

- 激しい雨や雪が降っているときや、カメラが汚れているときなど、COMAND ディスプレイの映像が見えづらいとき
- 積雪路面や凍結路面など、タイヤがスリップしやすいとき
- 坂道やカーブなどの平坦でない、または直線でない道路

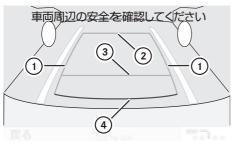
洗車するときの注意

- 洗車時に高圧のスプレーガンを使用するときは、ノズルをカメラやカメラの周囲に近付けないでください。水圧が高いため、故障の原因になることがあります。
- カメラを清掃するときは、きれいな水で汚れを落とし、やわらかい布で拭き取ってください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などは使用しないでください。

  また、強い力で乾拭きしないでください。変色の原因になったり、カメラを損傷することがあります。
- ボディにワックスをかけるときは、カメラにワックスが付着しないように注意してください。付着してしまった場合は、水と純正カーシャンプーを混ぜた洗浄液で拭き取ってください。

カメラの位置

① カメラ

カメラ①はテールゲートハンドルの横に装備されています。

COMAND ディスプレイの映像

後退駐車モードの映像
① 予想進路ガイドライン（黄色）
② 4.0m ガイドライン（黄色）
③ 1.0m ガイドライン（黄色）
④ 0.25m ガイドライン（赤色）

COMAND ディスプレイに映し出される映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同じ左右反転させた鏡像となります。

i テールゲートが開いていたり、完全に閉じていない状態でパーキングアシストリアビューカメラを作動させたときや、パーキングアシストリアビューカメラ作動中にテールゲートを開いたときは、ガイドラインは表示されません。

このときは COMAND ディスプレイに " テールゲートが開いています ガイドできません " と数秒間表示されます。

! 後方に駐車している車のバンパーやトラックの荷台など、路面に接していない立体の障害物は、ディスプレイの映像では実際よりも遠くにあるように見えます。ガイドラインだけで距離を判断せず、必ず周囲の状況を直接確認してください。

! 障害物に向かって後退しているときは、0.25m ガイドライン⑥を越えないように注意してください。障害物によっては、0.25m ガイドライン⑥まで後退する以前に衝突するおそれがあります。

! ステアリングをまわしながら後退するときは、車のフロント部が他の車や障害物に接触しないように注意してください。

i 以下のときは映像が見えづらくなりますが、異常ではありません。

- 夜間や暗い場所で使用するとき
- 急激な温度変化があったとき

  (カメラに冷水や温水がかかったときなど)
- カメラ付近の温度が極端に高いときや低いとき
- カメラにヘッドランプや日光の反射などの強い光が直接当たったとき（映像に白い縦線が入ることがあります）
- 蛍光灯の下で使用するとき（映像にちらつきが出ることがあります）
- 急激な明るさの変化があったとき

  (ガレージから出入りするときなど)
- カメラに水滴が付着したとき

  (雨の日や湿度の高い日、洗車した直後など)
- カメラに泥や汚れが付着したとき

後退駐車モード

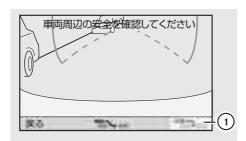
駐車場の駐車スペースなどに後退して駐車するときに、後退操作を補助をするモードです。

後退駐車モードにする

▶ COMND システムをオンにします。

▶ シフトポジションを R にします。

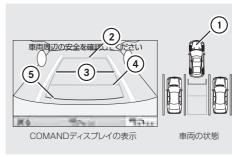
COMAND ディスプレイに後方の映像が表示されます。

が表示されていないときは、後退駐車アイコン ①を選択して、コントロールスティックを押します。

① 後退駐車アイコン

後退駐車時のガイドラインが表示されます。

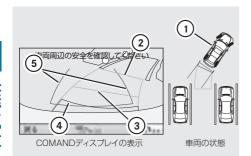
" 戻る " を選択してコントロールスティックを押すと、パーキングアシストリアビューカメラの映像が消え、元の画面に戻ります。

パーキングアシストリアビューカメラの映像を再度表示させるには、シフトポジションを R 以外にして、再度 R にします。

ステアリングをまわさないで、まっすぐ後退駐車する

① 自車位置
② 4.0m ガイドライン（黄色）
③ 予想進路ガイドライン（黄色）
④ 1.0m ガイドライン（黄色）
⑤ 0.25m ガイドライン（赤色）

▶ 予想進路ガイドライン③が駐車スペースに収まっていることを確認し、周囲に注意しながら、まっすぐに後退します。

! ガイドライン内およびその周辺、および上方の空間に障害物などがないことを確認してください。

ステアリングをまわしながら後退駐車する

① 自車位置
② 予想進路ガイドライン（黄色）
③ 1.0m ガイドライン（黄色）
④ 0.25m ガイドライン（赤色）
⑤ 直進ガイドライン（青色）

直進ガイドライン⑤は、ステアリングが直進状態で車が後退するときの進路を示します。

予想進路ガイドライン②は、そのときのステアリングの操舵角で車が後退するときの予想進路を示します。

▶ 予想進路ガイドライン②が駐車スペースのなかに収まるようにステアリングをまわしながら、注意して後退します。

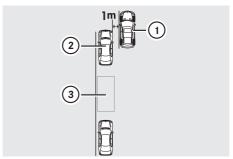
▶ 直進ガイドライン⑤が、駐車しようとしているスペースと平行になったら、ステアリングを直進位置に戻して、後退してください。

! ガイドライン内およびその周辺、および上方の空間に障害物などがないことを確認してください。

! ステアリングをまわして予想進路ガイドライン②の位置を調整しても、予想進路ガイドライン内に障害物が入ってしまう場合は、駐車スペースが狭すぎます。そのスペースには駐車しないでください。

縦列駐車モード

路上の駐車スペースなどに縦列駐車するときに、画面表示と音声案内で後退操作を補助するモードです。

縦列駐車する

① 自車
② 駐車スペース前方の駐車車両
③ 駐車スペース

▶ 駐車スペース前方の駐車車両②から約 1m 間隔を空けて平行に、駐車車両②の前端から自車が約半分ほど前に出た位置で、停車します。

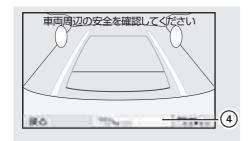
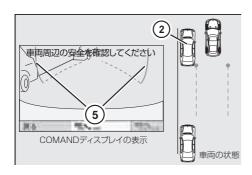
ステアリングは直進状態にします。

i 駐車スペース③の前方に駐車車両②がないときは、後退駐車モードで駐車することをお勧めします。

▶ COMND システムをオンにします。

▶ シフトポジションを R にします。

COMAND ディスプレイに後方の映像が表示されます。

[icon] が表示されていないときは、後退駐車アイコン [icon] ④を選択して、コントロールスティックを押します。

④ 縦列駐車アイコン

② 駐車スペース前方の駐車車両
⑤ 垂直ガイドライン

縦列駐車モードのガイドラインが表示されます。

ℹ "戻る"を選択して、コントロールスティックを押すと、パーキングアシストリアビューカメラの映像が消え、元の画面に戻ります。

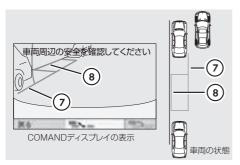
パーキングアシストリアビューカメラの映像を再度表示させるには、シフトポジションを R 以外にして、再度 R にします。

▶ 垂直ガイドライン⑤が、駐車スペース前方の駐車車両②の後端に合うまでステアリングをまわさずに後退します。

▶ 垂直ガイドライン⑤が駐車車両の後端に合ったら、停車します。

❗ 垂直ガイドライン⑤が駐車車両②の後端から外れていると、正しい位置に駐車することはできません。

⑥ 駐車位置ガイドライン

垂直ガイドラインが表示されてからしばらくすると、駐車位置ガイドライン⑥が表示されます。

⑦ 駐車位置ガイドライン（道路側）
⑧ 駐車位置ガイドライン（縁石側）

▶ 停車した状態で、駐車位置ガイドライン（道路側）⑦が駐車車両のタイヤの接地面に接するまで、ステアリングをまわします。

また、このとき駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧が、駐車スペースの前後の車両や道路の縁石、塀や電柱など道路脇の障害物にかかっていないことを確認してください。

! 駐車位置ガイドライン（道路側）⑦が駐車車両のタイヤ部分に交わっていると、正しい位置に駐車することができません。

! 駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧が正しい位置に合っていることを確認してください。正しい位置に合わせないまま後退すると、駐車車両や障害物に衝突するおそれがあります。

! ステアリングをまわして駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧の位置を調整しても、駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧内に駐車車両や障害物が入ってしまう場合は、駐車スペースが狭すぎます。そのスペースには駐車しないでください。

! ステアリングをまわしすぎたときは " ガイドできませんステアリングを戻してください " と表示されます。

▶ 駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧を正しい位置に合わせたら、ステアリングはそのままで、ゆっくりと後退します。

後退をはじめると、画面から垂直ガイドライン④、駐車位置ガイドライン（道路側）⑦、駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧が消えます。

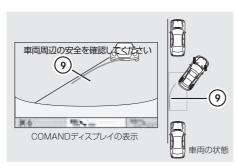
i ゆっくり後退しないと、ガイドが間に合わないことがあります。

i 以下のときはガイドが中止されます。

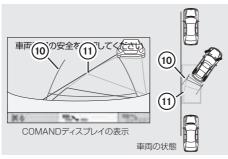
- シフトポジションを R 以外にしたとき
- " 戻る " を選択したとき
- COMAND システムの他の機能を作動させたとき
- ステアリングを操作したとき

! 後退するときは必ず周囲の状況を直接確認してください。特に車のフロント部が人や他の車、障害物などに衝突しないように注意してください。

! 後退をはじめた後は、ステアリングをまわさないでください。ステアリングをまわすとガイドが中止され、画面に " ガイドできません " または " ガイドできませんステアリングがずれました " と表示されます。

! ガイドが中止された場合は、最初から後退操作をやりなおしてください。

⑨ ステアリング角度ガイドライン

▶ ゆっくり後退をはじめると、ステアリング角度ガイドライン⑨が表示されます。縁石などの駐車スペースの縁に、ステアリング角度ガイドライン⑨が合うまで、ステアリングをまわさないでそのままゆっくり後退します。

▶ ステアリング角度ガイドライン⑨が正しい位置に合ったら、停車します。

⑩ 直進ガイドライン（青色）
⑪ 予想進路ガイドライン（黄色）

▶ ステアリングを反対方向にいっぱいまでまわします。

直進ガイドライン⑩と予想進路ガイドライン⑪が表示されます。

▶ 予想進路ガイドライン⑪が縁石などの駐車スペースの縁と接するまでゆっくり後退します。

! 後退するときは必ず周囲の状況を直接確認してください。特に車のフロント部が前方の駐車車両などに接触しないように注意してください。

▶ 車が駐車しようとしているスペースと平行になったら、ステアリングを直進状態に戻します。

! ステアリング操作は、必ず停車した状態で行なってください。

音声案内の設定

パーキングアシストリアビューカメラ作動時の音声案内を停止 / 作動できます。

▶ COMAND システムをオンにします。

▶ COMAND コントロールパネルの SYS ボタンを押します。

または

▶ アプリケーションエリアの " 設定 " を選択します。

設定基本画面になります。

設定基本画面

▶ " システム設定 " → " リアビューカメラ " を選択します。

▶ コントロールスティックを押します。

コントロールスティックを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

チェックマークが表示されているときは、音声案内が行なわれます。

ⓘ 音声ガイドの音量は、ステアリングスイッチ ＋ －、または COMAND コントロールパネルの音量調整ダイヤルで調整できます。

エアコンディショナー

エアコンディショナーは、設定温度や車内温度、外気温度や日射の強さなどに応じて、送風量や送風口の組み合わせなどを自動的に調整し、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

⚠ けがのおそれがあります

- 送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になり、火傷をするおそれがあります。また、暖気が送風されているときは、送風口に身体を近付けたままにしていると低温火傷のおそれがあります。十分に注意してください。
- 送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近付けると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。
- 皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。

環　境

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒 R134a を使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ず指定サービス工場で行なってください。

! 車内が高温になっているときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。

! ボンネットの吸気口が雪や氷で覆われないようにしてください。

! 送風口や車内の吸排気口が覆われないようにしてください。

i 除湿された水分は車体下方に排水されます。

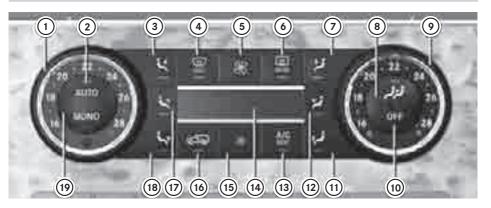
i ドアウインドウやベンチレーションウインドウ、スライディングルーフが開いていると、設定温度を維持することができません。

i 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。

i エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。

i エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。

フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減ることがあります。

コントロールパネル

①	送風温度調整ダイヤル（運転席側）
②	AUTO スイッチ
③	送風口選択スイッチ（運転席側：フロントウインドウ / サイド / ドアウインドウ送風口）
④	デフロスタースイッチ
⑤	送風量調整スイッチ（強）
⑥	リアデフォッガースイッチ
⑦	送風口選択スイッチ（助手席側：フロントウインドウ / サイド / ドアウインドウ送風口）
⑧	リアエアコンディショナーコントロールスイッチ
⑨	送風温度調整ダイヤル（助手席側）
⑩	オフスイッチ
⑪	送風口選択スイッチ（助手席側：足元 / サイド / ドアウインドウ送風口）
⑫	送風口選択スイッチ（助手席側：中央 / サイド / ドアウインドウ送風口）
⑬	AC スイッチ / 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ
⑭	ディスプレイ
⑮	送風量調整スイッチ（弱）
⑯	内気循環スイッチ
⑰	送風口選択スイッチ（運転席側：中央 / サイド / ドアウインドウ送風口）
⑱	送風口選択スイッチ（運転席側：足元 / サイド / ドアウインドウ送風口）
⑲	運転席モードスイッチ

通常の使いかた（AUTO モード）

エアコンディショナーを作動させる

▶ AUTO スイッチ②を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

ℹ AUTO モードでエアコンディショナーを作動させると、自動的に AC モード（▷213 ページ）に設定されます。

エアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ⑩を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

再度、オフスイッチ⑩を押すと、表示灯が消灯し元の設定で作動します。

ℹ ドアウインドウやベンチレーションウインドウ、スライディングルーフが閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。

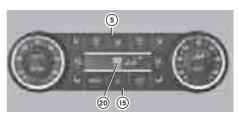
送風温度の調整

送風温度を調整する

▶ 送風温度調整ダイヤル①または⑨をまわして、ダイヤル内側のインジケーターを好みの温度に合わせます。

ℹ 送風温度は左右別々に設定できます。また、リアエアコンディショナー（▷218 ページ）の送風温度も独立して設定できます。

ℹ 通常は 22℃に設定することをお勧めします。

送風量の調整

⑤ 送風量調整スイッチ（強）
⑮ 送風量調整スイッチ（弱）
⑳ 送風量インジケーター

送風量を手動で調整できます。

送風量を上げる

▶ 送風量調整スイッチ⑤を押します。

ディスプレイの送風量インジケーター⑳の点灯数が増えます。

送風量を下げる

▶ 送風量調整スイッチ⑮を押します。

ディスプレイの送風量インジケーター⑳の点灯数が減ります。

ℹ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに、送風量調整スイッチを押すと、送風量の AUTO モードが解除され、AUTO スイッチの表示灯が消灯します。

送風口の選択

送風口を選択する

▶ 送風口選択スイッチ③⑦⑪⑫⑰⑱のいずれかを押します。

選択されたスイッチの表示灯が点灯します。

送風口の選択を解除する

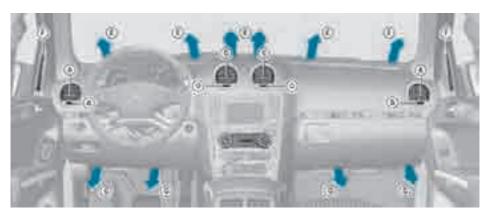
▶ 選択されているスイッチを押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

ⓘ 複数の送風口選択スイッチを押すと、組み合わせた送風口から送風できます。

ⓘ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに、送風口選択スイッチを押すと、押した側の席の送風口選択の AUTO モードが解除され、AUTO スイッチの表示灯が消灯します。

再度、送風口選択スイッチを押してすべての送風口選択スイッチの表示灯を消灯させると、AUTO モードに戻ります。

ⓘ 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。

送風口選択スイッチ	主に送風される送風口
③ ⑦	フロントウインドウ送風口Ⓔ サイド送風口Ⓐ ドアウインドウ送風口Ⓕ
⑫ ⑰	中央送風口Ⓒ サイド送風口Ⓐ
⑪ ⑱	足元送風口Ⓖ サイド送風口Ⓐ

送風口の開閉

サイド送風口Ⓐと中央送風口Ⓒを開閉できます。

送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤルⒷ Ⓓを右側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤルⒷ Ⓓを左側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルⒷ Ⓓを停止するまで左側にまわすと、送風口が閉じます。

ⓘ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで左側にまわしても、完全に送風口を閉じることはできません。

送風口の風向き調整

サイド送風口Ⓐと中央送風口Ⓒは風向きを調整できます。

風向きを調整する

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かします。

ⓘ 換気効率を上げるため、中央送風口の風向きを中央にすることをお勧めします。

AC モード

AC モードでは除湿 / 冷房された空気が送風されます。

AUTO モードでエアコンディショナーを作動させたときは、自動的にAC モードになり、スイッチの表示灯が点灯します。

環 境

AC モードを解除すると、エンジンへの負荷が軽減し、燃費が向上します。

AC モードを解除する

▶ AC スイッチ⑬を押します。

スイッチの表示灯が消灯し、除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。

事故のおそれがあります

ドアウインドウやベンチレーションウインドウ、スライディングルーフが閉じているときに AC モードを解除すると、ウインドウが曇りやすくなります。

AC モードを設定する

▶ 再度、AC スイッチを押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

ⓘ 除湿 / 冷房はエンジンがかかっているときに行なわれます。

ⓘ AC スイッチを押したときに、表示灯が点滅もしくは消灯したままのときはエアコンディショナーの冷媒が減っています。除湿 / 冷房は行なわれません。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

ⓘ AC モードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風される場合があります。

内気循環モード

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときなどに使用します。

内気循環モードに切り替えると、車内の空気が循環されます。

内気循環モードの設定 / 解除に連動して、ドアウインドウやベンチレーションウインドウ、スライディングルーフを開閉できます。

事故のおそれがあります

外気温度が低いときは、内気循環モードの設定は短時間にとどめてください。ウインドウが曇りやすくなり、事故を起こすおそれがあります。

内気循環モードに設定する

▶ 内気循環スイッチ⑯を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

内気循環スイッチ⑯を約 2 秒以上押し続けると、開いているドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフが自動で閉じます。

けがのおそれがあります

内気循環スイッチでドアウインドウやスライディングルーフを閉じているときに、挟み込みなどの抵抗があると、ただちに動きを停止して少し開く機能がありますが、乗員が身体を挟まれないように注意してください。

内気循環モードに設定していても、一定時間を経過すると以下のように外気導入をはじめます。

外気温度が約 5℃以上のとき	約 30 分後
外気温度が約 5℃以下のとき	約 5 分後
AC モードを解除しているとき	約 5 分後

内気循環モードを解除する（外気導入モードにする）

▶ 内気循環モードのときに内気循環スイッチ⑯を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

内気循環スイッチ⑯を約 2 秒以上押し続けると、ドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフが、前回開いていた位置まで自動で開きます。

けがのおそれがあります

内気循環スイッチでドアウインドウを開いているときは、ドアウインドウに身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームの間に身体が引き込まれるおそれがあります。

ⓘ AC モードを解除するかデフロスターモードにすると、外気導入モードになります。

ℹ 外気温度が非常に高いときは、冷房効率を高めるために自動的に内気循環モードに切り替わることがありますが、このとき内気循環スイッチの表示灯は点灯しません。約 30 分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。

ℹ 内気循環スイッチで閉じたドアウインドウやベンチレーションウインドウ、スライディングルーフを別のスイッチで開いた場合、開いたドアウインドウやベンチレーションウインドウ、スライディングルーフを内気循環モードの解除操作と連動して前回開いていた位置まで開くことはできません。

デフロスターモード

フロントウインドウやフロントドアウインドウの内側の曇りを取るときに使用します。

デフロスターモードに設定する

▶ デフロスタースイッチ④を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

以下の内容でエアコンディショナーが作動します。

- 除湿された空気が送風されます。
- 送風量が上がります。
- 送風温度が高くなります。
- フロントウインドウ送風口とドアウインドウ送風口、サイド送風口から送風されます。
- 内気循環モードが解除されます。

ℹ 外気温度によっては、送風温度が高くならなかったり、送風量が上がらないことがあります。

デフロスターモードを解除する

▶ 再度、デフロスタースイッチ④を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

! ウインドウに雪や氷が付着しているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。

ℹ 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。

ℹ デフロスターモードを解除すると、送風量と送風温度、送風口の選択は、デフロスターモードを設定する前の設定に戻ります。

ℹ デフロスターモードを解除すると、AC モードを解除していた場合は AC モードに設定されます。AC モードを解除していて内気循環だった場合は、外気導入になります。

ℹ デフロスターモードに設定すると、リアエアコンディショナー（▷218 ページ）が停止します。

ウインドウの外側が曇るとき

車外の湿度が高いときなどに、フロントウインドウやフロントドアウインドウの外側が曇ることがあります。このときは、ウインドウに冷気が当たらないように送風口を調整すると、外側の曇りを軽減できます。

また、フロントウインドウ外側の曇りを取るときには、ワイパーを作動させてください。

リアデフォッガー

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

イグニッション位置が **2** のときに使用できます。

リアデフォッガーを使用する

▶ リアデフォッガースイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

リアデフォッガーは、一定の時間が経過すると自動的に停止します。

⚠ 事故のおそれがあります

ウインドウに雪や氷が付着しているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。

! 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めに停止してください。

ⓘ 外気温度と走行速度により、リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は異なります。

ⓘ バッテリーの電圧が低くなると自動的に停止し、表示灯が点滅します。電圧が回復すると自動的に作動を再開します。

ⓘ 外気温度が低いときは、車内が暖まるまではリアデフォッガーが作動しないことがあります。

余熱ヒーター・ベンチレーション

エンジン停止後に車内を暖房したり、車内に外気を導入して換気を行なうときに使用します。

イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはキーを抜いているときに使用できます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを使用する

▶ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑬を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

エンジンを停止する前の設定温度や外気温度により、送風口の選択や送風温度は自動的に調整されます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを停止する

▶ 再度、余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑬を押します。

または

▶ オフスイッチ⑩を押します。

余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑬の表示灯が消灯します。

以下のときは、余熱ヒーター・ベンチレーションが自動的に停止します。

- イグニッション位置を **2** にしたとき
- 使用を開始してから約 30 分経過したとき
- バッテリーの電圧が低下したとき

ⓘ 送風量は弱の設定で一定に保たれます。

ⓘ エンジン冷却水の温度が低いときや外気温度が高いときは、暖気が送風されないことがあります。

ⓘ 外気温度が高いときは換気のみが行なわれます。このときは、中程度の送風量になります。

ⓘ リア送風口からは送風されません。

運転席モード

助手席およびリアエアコンディショナー（▷218 ページ）の設定の一部を運転席と同じ設定にできます。

運転席の設定を変更すると、助手席およびリアエアコンディショナーの設定も変更されます。

運転席モードに設定する

▶ 運転席モードスイッチ⑲を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

助手席の送風温度と送風量、送風口の選択が運転席の設定に連動します。

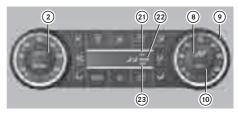
また、リアエアコンディショナーが AUTO モードで作動し、送風温度の設定が運転席の設定に連動します。

運転席モードを解除する

▶ 再度、運転席モードスイッチ⑲を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

ⓘ 助手席やリアエアコンディショナーの設定を変更したときは、運転席モードは自動的に解除されます。

フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーを操作する

② AUTO スイッチ
⑧ リアエアコンディショナーコントロールスイッチ
⑨ 送風温度調整ダイヤル（助手席側）
⑩ オフスイッチ
㉑ リアエアコンディショナー作動インジケーター
㉒ リアエアコンディショナーモードインジケーター
㉓ リアエアコンディショナー停止インジケーター

フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーを作動 / 停止させたり、リアエアコンディショナーの送風温度を調整できます。

リアエアコンディショナーを AUTO モードで作動させる

▶ リアエアコンディショナーコントロールスイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、ディスプレイにリアエアコンディショナー作動インジケーター㉑とリアエアコンディショナーモードインジケーター㉒が表示されます。

また、リアエアコンディショナーコントロールパネルの AUTO スイッチ（▷219 ページ）の表示灯が点灯し、リアエアコンディショナーが AUTO モードで作動します。

ⓘ リアエアコンディショナーコントロールスイッチ⑧を押してから約 3 秒間何も操作をしないと、スイッチ⑧の表示灯とディスプレイのリアエアコンディショナーモードインジケーター㉒が消灯し、フロントのエアコンディショナーを操作できる状態に戻ります。

リアエアコンディショナーの送風温度を調整する

▶ リアエアコンディショナースイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、ディスプレイにリアエアコンディショナーモードインジケーター㉒が表示されます。

▶ 約 3 秒以内に送風温度調整ダイヤル（助手席側）⑨で送風温度を調整します。

設定した送風温度のインジケーターが約 3 秒間点灯します。

また、リアエアコンディショナーコントロールパネルの送風温度調整ダイヤル（▷219 ページ）の内側のインジケーターが、設定した送風温度に移動します。

リアエアコンディショナーを停止する

▶ リアエアコンディショナースイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、ディスプレイにリアエアコンディショナーモードインジケーター㉒が表示されます。

▶ 約 3 秒以内にオフスイッチ⑩を押します。

ディスプレイにリアエアコンディショナー停止インジケーター㉓が表示されます。

リアエアコンディショナーが停止します。

ⓘ 通常は 22℃に設定することをお勧めします。

ⓘ フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーの送風口の組み合わせや送風量を調整することはできません。

ⓘ フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーを操作しているときは、リアエアコンディショナーのコントロールパネル（▷219 ページ）は操作できません。

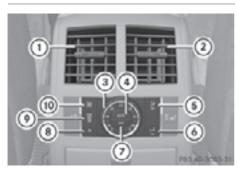
リアエアコンディショナー

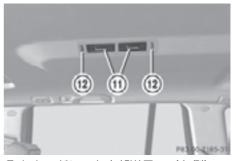
リアエアコンディショナーは、フロントエアコンディショナーが作動しているときに作動させることができます。

ⓘ フロントシートの下にセカンドシート足元送風口があります。

ⓘ フロントのエアコンディショナーがデフロスターモードのときは、リアエアコンディショナーのコントロールパネルは操作できません。

ⓘ フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーを操作しているとき（▷217 ページ）は、リアエアコンディショナーのコントロールパネルは操作できません。

セカンドシート中央送風口 / コントロールパネル

①	セカンドシート中央送風口(左側)
②	セカンドシート中央送風口(右側)
③	送風温度調整ダイヤル
④	AUTO スイッチ
⑤	送風口選択スイッチ (セカンドシート中央 / セカンドシート上部 / サードシート送風口)
⑥	送風口選択スイッチ (セカンドシート足元 / セカンドシート上部 / サードシート送風口)
⑦	オフスイッチ
⑧	送風量調整スイッチ(弱)
⑨	送風量インジケーター
⑩	送風量調整スイッチ(強)

セカンドシート上部送風口

⑪ セカンドシート上部送風口(左側)
⑫ 送風口開閉ダイヤル

ℹ セカンドシート上部送風口からは暖気は送風されません。送風温度調整ダイヤル③で設定温度を上げると、送風が停止します。

サードシート送風口

⑬ サードシート送風口
⑭ 送風口開閉ダイヤル

ℹ サードシート送風口からは暖気は送風されません。送風温度調整ダイヤル③で設定温度を上げると、送風が停止します。

リアエアコンディショナーの作動 / 停止

リアエアコンディショナーを AUTO モードで作動させる

▶ AUTO スイッチ④を押します。

AUTO スイッチの表示灯が点灯します。

送風量の調整と送風口の選択は自動的に行なわれます。

▶ 送風温度調整ダイヤル③で好みの温度を設定します。

設定した送風温度のインジケーターが点灯します。

通常は 22℃に設定することをお勧めします。

リアエアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ⑦を押します。

オフスイッチの表示灯が点灯し、リアエアコンディショナーが停止します。

再度オフスイッチ⑦を押すと、リアエアコンディショナーが元の設定で作動します。

ⓘ フロントエアコンディショナーの送風量を最大にするときは、リアエアコンディショナーを停止してください。

リアエアコンディショナーの送風量調整

リアエアコンディショナーの送風量を手動で調整できます。

送風量を上げる

▶ 送風量調整スイッチ⑩を押します。

送風量インジケーター⑨の点灯数が増えます。

送風量を下げる

▶ 送風量調整スイッチ⑧を押します。

送風量インジケーター⑨の点灯数が減ります。

ⓘ リアエアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに送風量調整スイッチ⑧⑩を押すと、送風量の AUTO モードが解除され、AUTO スイッチ④の表示灯が消灯します。

リアエアコンディショナーの送風口選択

リアエアコンディショナーの送風口を手動で選択できます。

送風口を選択する

▶ 送風口選択スイッチ⑤⑥のいずれかを押します。

選択されたスイッチの表示灯が点灯します。

送風口選択スイッチ	送風される送風口
⑤	セカンドシート中央送風口①②、セカンドシート上部送風口⑪、サードシート送風口⑬
⑥	セカンドシート足元送風口（フロントシート下）、セカンドシート上部送風口⑪、サードシート送風口⑬

ℹ 送風口選択スイッチ⑤および⑥を同時に選択することもできます。

ℹ リアエアコンディショナーがAUTOモードで作動しているときに、送風口選択スイッチ⑤⑥を押すと、送風口選択のAUTOモードが解除され、AUTOスイッチ④の表示灯が消灯します。再度、送風口選択スイッチ⑤⑥を押して、すべての送風口選択スイッチの表示灯を消灯させると、AUTOモードに戻ります。

送風口の開閉

セカンドシート上部送風口とサードシート送風口は、送風口を開閉できます。

送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル⑫または⑭を上側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル⑫または⑭を下側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤル⑫または⑭を停止するまで下側にまわすと、送風口が閉じます。

ℹ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわしても、完全に送風口を閉じることはできません。

送風口の風向き調整

送風口①②⑪⑬は、風向きを調整できます。

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かします。

スライディングルーフ

⚠ けがのおそれがあります

- スライディングルーフを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにスライディングルーフスイッチを操作して、スライディングルーフを開いてください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。スライディンググルーフを操作してけがをしたり、事故の原因になります。
- スライディングルーフのガラスは事故のときに割れるおそれがあります。シートベルトを着用していないと、車が横転したときにスライディングルーフの開口部から車外に放り出されて、致命的なけがをするおそれがあります。乗員全員がシートベルトを着用してください。

! 走行中はスライディングルーフから身体を出さないでください。けがをするおそれがあります。

! スライディングルーフの開口部から､物を出し入れしないでください。スライディングルーフのシール部を損傷するおそれがあります。

! 降雨後や降雪後にスライディングルーフを開くときは、ルーフ上の水や雪などを取り除いてください。車内に水や雪などが入るおそれがあります。

! スライディングルーフ上に雪や氷が付着した状態で操作しないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

! スライディングルーフの開口部に腰をかけたり、荷物を載せたりして大きな力を加えないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

! 車から離れるときや洗車のときは、ドアウインドウとスライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。

ⓘ スライディングルーフは、車外からリモコン操作で開くことができます（▷111 ページ）。

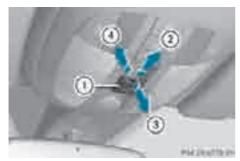
ⓘ スライディングルーフは、車外からリモコン操作またはキーレスゴー操作で閉じることができます（▷112 ページ）。

ⓘ スライディングルーフを開いて走行しているとき、走行風の影響などで空気の振動を感じる場合は、スライディングルーフの開度を変えるかドアウインドウを少し開くと、解消することがあります。

ⓘ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、スライディングルーフを開閉できます。その間にフロントドアを開くと、スライディングルーフは開閉できなくなります。

ⓘ スライディングルーフが開いているときに PRE-SAFE（▷37 ページ）が車の横滑りを感知すると、スライディングルーフが少し開いた位置まで自動的に閉じます。

ⓘ スライディングルーフが開閉できないときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

スライディングルーフの開閉

① スライディングルーフスイッチ
② 開く
③ 閉じる / チルトダウン
④ チルトアップ

スライディングルーフを開閉する

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

スライディングルーフを開く

▶ スライディングルーフスイッチ①を②の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

サンシェードが閉じている場合は連動して開きます。

②の方向にいっぱいまで操作すると、自動で開きます。

スライディングルーフを閉じる

▶ スライディングルーフスイッチ①を③の方向に軽く操作します。

操作している間だけ閉じます。

③の方向にいっぱいまで操作すると、自動で閉じます。

スライディングルーフをチルトアップ / チルトダウンする

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

スライディングルーフをチルトアップする

▶ スライディングルーフスイッチ①を④の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトアップします。

④の方向にいっぱいまで操作すると、自動でチルトアップします。

スライディングルーフをチルトダウンする

▶ スライディングルーフスイッチ①を③の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトダウンします。

③の方向にいっぱいまで操作すると、自動でチルトダウンします。

挟み込み防止機能

スライディングルーフには挟み込み防止機能があります。

スイッチを引き続けてスライディングルーフを閉じるかチルトダウンしているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止し、スイッチから手を放すと、その位置から少し開きます。

ただし、2 度連続して挟み込み防止機能が作動したときは、挟み込み防止機能は作動しない場合があります。

自動でスライディングルーフを閉じるかチルトダウンしているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止して、その位置から少し開きます。

⚠ **けがのおそれがあります**

スライディングルーフには挟み込み防止機能がありますが、スライディングルーフを閉じるときは、身体などを挟まないように注意してください。特に子供には注意してください。

自動チルトアップ機能

スライディングルーフを開いた状態で、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いたときは、以下のときにスライディングルーフが自動で閉じ、チルトアップした状態で停止します。

- 降雨などによりレインセンサーが雨滴を感知したとき
- イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから、約 12 時間経過したとき

! 自動チルトアップ機能で閉じているスライディングルーフには、挟み込み防止機能がありますが、スライディングルーフから身体や物などを出さないでください。

! 濡れたタオルなどでフロントウインドウを拭くと、スライディングルーフが閉じるおそれがあります。

ⓘ レインセンサーに雨滴がかからないときは、自動チルトアップ機能は作動しません。

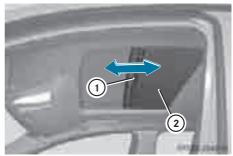
ⓘ 自動チルトアップ機能でスライディングルーフが閉じているときに挟み込みなどの抵抗があると、挟み込み防止機能が働き、スライディングルーフがただちに停止し、その位置から少し開きます。その後自動チルトアップ機能は解除されます。

ⓘ 自動チルトアップ機能は、イグニッション位置が **1** か **2** のときやスライディングルーフがチルトアップしているときは作動しません。

ⓘ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 秒間は、自動チルトアップ機能は作動しません。

サンシェード

スライディングルーフと、サードシート上方のパノラミックグラスルーフにはサンシェードが装備されています。

スライディングルーフのサンシェード

① グリップ
② サンシェード

サンシェードを開閉する

▶ グリップ①を持って開閉します。

スライディングルーフを開くと、連動して開きます。

! スライディングルーフが開いているときに、サンシェード②とルーフ内張りの間に身体が挟まれないように注意してください。

i スライディングルーフが開いているときは、サンシェードを閉じることはできません。

パノラミックグラスルーフのサンシェード

① グリップ
② サンシェード

サンシェードを開く

▶ グリップ①を押してロックを外し、開きます。

サンシェードを閉じる

▶ グリップ①を持って閉じ、確実にロックします。

スライディングルーフのリセット

以下のときは、スライディングルーフが自動で全開しないことがあります。スライディングルーフのリセットを行なってください。

- バッテリーあがりやバッテリー交換などで電源が断たれたとき
- スライディングルーフがスムーズに作動しないとき
- スライディングルーフを修理したとき

スライディングルーフをリセットする

▶ イグニッション位置を **0** にします。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ スライディングルーフスイッチを④の方向（▷223 ページ）に押してチルトアップし、そのまま約 2 秒以上押し続けます。

▶ スライディングルーフが自動で全開することを確認します。

自動で全開しないときは、再度リセット作業を行なってください。

i スライディングルーフのリセットができないときなどは、指定サービス工場で作業を行なってください。

荷物の積み方 / 小物入れ

ラゲッジルームに荷物を積むとき

けがのおそれがあります

荷物を積むときは、以降に記載されている注意点を守り、確実に固定してください。急ブレーキ時や急な道路変更時、事故のときなどに前方に放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

荷物を積むときは、「荷物の固定 (▷232 ページ)」もご覧ください。

また、荷物を積むときの注意点を守ったとしても、荷物を積むことにより、事故などのときに乗員がけがをする可能性は高まります。

中毒のおそれがあります

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

荷物の積み方は車の走行安定性に大きく影響します。以下の点に注意してください。

- ラゲッジルームには極端に重い荷物を積載しないでください。
- 重い物は車の中心近く（ラゲッジルーム前方の低い位置）に確実に固定してください。確実に固定できていないと、急ブレーキ時などに荷物が動き、ラゲッジルーム内部を損傷するおそれがあります。
- 荷物を車内に積むときは、シートのバックレストより高く積み上げないでください。
- 荷物はラゲッジルームに積み、バックレストまたは前方に折りたたんだセカンドシートのシートクッションに接するようにしてください。
- 荷物はできるだけ乗員のいないシートの後方に積んでください。
- 鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。
- 燃料を入れた容器やスプレー缶などを積まないでください。引火や爆発のおそれがあります。

ⓘ 荷物固定用のアクセサリーはダイムラー社の推奨品の使用をお勧めします。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

小物入れ

けがのおそれがあります

走行中は、小物入れのカバーを開いたままにしないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が飛び出して乗員がけがをするおそれがあります。

! 収納物が小物入れからはみ出さないようにしてください。

! 小物入れのカバーが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。小物入れや収納物を損傷するおそれがあります。

! 小物入れには食料品を収納しないでください。

! 貴重品は小物入れに保管しないでください。

グローブボックス

① ハンドル
② カバー
③ キーシリンダー

! 走行中は、グローブボックスのカバーを開いたままにしないでください。急ブレーキ時や急な道路変更時、事故のときなどに収納物が飛び出して、乗員がけがをするおそれがあります。

グローブボックスを開く

▶ ハンドル①を引きます。

カバー②が開きます。

グローブボックスを閉じる

▶ カバー②を押してロックします。

i グローブボックスには外部音声入力端子（AUX）が装備されています。

詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

i グローブボックスにはペンホルダーがあります。

i イグニッション位置が **1** か **2** のときにグローブボックスを開くと、グローブボックスランプが点灯します。

グローブボックスの施錠

キーシリンダー③にエマージェンシーキーを差し込んで施錠 / 解錠することができます。

グローブボックスを施錠する

▶ キーを水平位置にまわします。

確実に施錠されていることを確認します。

グローブボックスを解錠する

▶ キーを垂直位置にまわします。

! 貴重品はグローブボックス内に保管しないでください。

i 駐車場などでキーを預ける場合に、グローブボックスを開けられたくないときは、グローブボックスを施錠してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外し、携帯してください。

フロントアームレストの小物入れ

① レバー
② カバー

フロントシートのアームレスト内部には小物入れがあります。

小物入れを開く

▶ レバー①を引いてカバー②を開きます。

小物入れを閉じる

▶ カバー②を下げてロックします。

! 走行中は必ず小物入れのカバーを閉じてください。急ブレーキ時や急な道路変更時、事故のときなどに収納物が飛び出して、乗員がけがをするおそれがあります。

! カバー②が閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。アームレストや収納物を損傷するおそれがあります。

! 小物入れには食料品を収納しないでください。

i 小物入れ内部にはランプがあります。車外ランプに連動して点灯 / 消灯します。

携帯電話の接続

フロントアームレストの小物入れには携帯電話用のコネクターを接続する端子が装備されています。

携帯電話用のコネクターは販売店オプションです。詳しくは、お買い上げの販売店または指定サービス工場におたずねください。

※ 電話の操作については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

カップホルダー

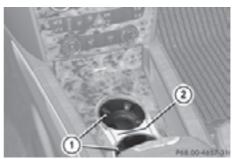
⚠ **けがのおそれがあります**

- 走行中はカップホルダーを使用しないでください。急ブレーキ時や急な道路変更時、事故のときなどにカップホルダーに置いた容器が飛び出して、乗員が火傷をするおそれがあります。
- カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器を使用してください。また、火傷防止のため、熱い飲み物が入った容器を置かないでください。

! カップホルダーに飲み物を置くときは、スイッチや電装品などに飲み物をこぼしたり、結露した水滴が垂れないように注意してください。

スイッチや電装品などを損傷したり、ショートして発火するおそれがあります。

! カップホルダーの手入れを行なうときは、ぬるま湯のみを使用してください。

センターコンソールのカップホルダー

① カップホルダー
② カードホルダー

センターコンソールにはカップホルダー①が装備されています。

また、2 つのカップホルダーの間にはカードホルダー②があります。

ℹ カードホルダー②は、上方に引き上げて取り外すことができます。

セカンドシートのカップホルダー

① アームレスト
② カップホルダー

アームレストを使用する

▶ 引き出して使用します。

収納するときは押し込みます。

サードシートのカップホルダー

① カップホルダー

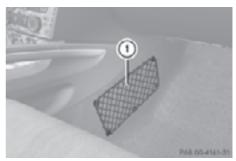
サードシートのアームレストにはカップホルダー①があります。

収納ネット

助手席の足元とフロントシートの背面に新聞や雑誌などを収納できるネットを備えています。

⚠ **けがのおそれがあります**

収納ネットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が飛び出して乗員がけがをするおそれがあります。

! 収納ネットから収納物がはみ出さないようにしてください。

① 助手席足元の収納ネット

② フロントシート背面の収納ネット

分割可倒式セカンドシート

左右いずれか一方、または両方のセカンドシートを折りたたむことができます。

⚠ けがのおそれがあります

- 重い荷物を積むときは、確実に固定してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。
- セカンドシートを折りたたんで荷物を積むときは、シートがロックしていることを確認し、セーフティネットを取り付けてください。
- 大きな荷物を積まないときは、バックレストを起こしてください。ラゲッジルームの荷物などが前方に放り出され、けがをするおそれがあります。
- セカンドシートに乗車するときは、必ずバックレストを起こして確実にロックしてください。急ブレーキ時や急な車線変更時、事故のときなどに荷物が放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

⚠ 中毒のおそれがあります

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

❗ セカンドシートを折りたたんでいるときにフロントシートを後方に移動したり、バックレストを後方に倒すときは、セカンドシートに接触しないように注意してください。シートを損傷するおそれがあります。

ⓘ 背の高い乗員が前席に乗車しているときにセカンドシートを折りたたむ場合は、必要に応じてフロントシートを前方に動かし、バックレストを起こしてください。

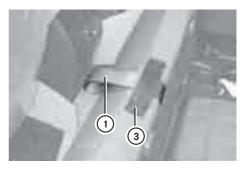
セカンドシートを折りたたむ

左側セカンドシートを折りたたむとき
① ストラップ
② シートクッション

▶ ストラップ①を引きます。

シートクッション②のロックが解除されます。

▶ シートクッション②を前方に引き起こします。

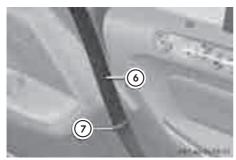
❗ ストラップ①はホルダー③に通した状態で使用してください。また、ホルダー③から外れないように注意してください。

▶ 折りたたむセカンドシートのヘッドレストをいっぱいまで下げます。

左側セカンドシートを折りたたむとき
④ バックレスト
⑤ ロック解除レバー

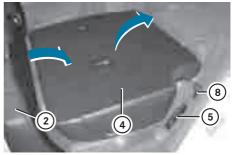
▶ ロック解除レバー⑤を引き上げて、ロックを解除します。

! バックレストは非常に重量があります。倒すときは身体を挟まないように注意してください。

▶ バックレスト④を前方に倒して、確実にロックします。

i 右側セカンドシートも、同じ方法で折りたたむことができます。

⑥ シートベルト
⑦ フック

▶ シートベルト⑥をフック⑦にかけます。

セカンドシートを元に戻す

左側セカンドシートを元に戻すとき
② シートクッション
④ バックレスト
⑤ ロック解除レバー
⑧ ストラップ

▶ ロック解除レバー⑤またはストラップ⑧を引き上げて、ロックを解除します。

▶ バックレスト④を元の位置に戻し、確実にロックします。

! バックレストを元の位置に戻すときは、シートベルトが挟まれていないことを確認してください。

▶ シートクッション②を元の位置に戻し、確実にロックします。

▶ 必要であれば、セカンドシートのヘッドレストの高さを調整します。

 けがのおそれがあります

バックレストを元の位置に戻したときは、バックレストが確実にロックされていることを確認してください。

荷物の固定

荷物固定用リング

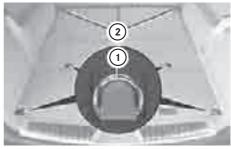
 けがのおそれがあります

荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

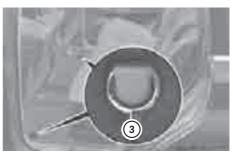
荷物を固定するときは、以下の点に注意してください。

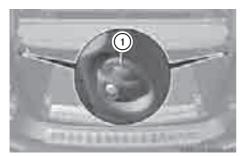
- 荷物固定用リングを使用して、荷物を固定してください。
- 伸縮性のあるストラップやネットは軽い荷物のずれを防ぐためのものです。これらを使用して荷物を固定しないでください。
- 固定用具が荷物のとがった部分や角に当たらないようにしてください。
- 鋭い角のあるものは、角の部分にカバーをしてください。
- 荷物固定用リングに均等に力がかかるようにしてください。
- できるだけすべての荷物固定用リングを使用してください。
- 荷物固定用リングに過大な力がかからないようにしてください。
- 固定用具の取扱説明書もお読みください。

荷物固定用のアクセサリーは、ダイムラー社の推奨品の使用をお勧めします。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

荷物固定用リングは、ラゲッジルーム内①に 4 個、サードシートバックレスト背面上部②とセカンドシート足元③に 2 個ずつあります。

サードシートを収納した状態

① 荷物固定用リング（ラゲッジルーム内）

② 荷物固定用リング（サードシートバックレスト背面上部）

③ 荷物固定用リング（セカンドシート足元）

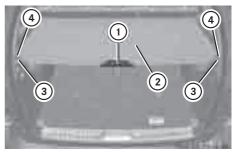
荷物固定用フック

① 荷物固定用フック

ラゲッジルームの左右に荷物固定用フックがあります。

! 荷物固定用フックには、約 4kg 以上の荷物をかけないでください。フックを損傷するおそれがあります。

ラゲッジルームカバー

⚠ **けがのおそれがあります**

ラゲッジルームカバーは荷物を固定するものではありません。荷物を積むときはラゲッジルームカバーの下に納まるようにして、荷物を確実に固定してください。急ブレーキ時や急な車線変更時、事故のときなどに荷物が前方に放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。

セカンドシート後方に収納リールを取り付けた状態

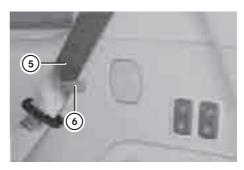
① ハンドル
② ラゲッジルームカバー
③ 固定部
④ フック

ラゲッジルームカバーを使用する

▶ ハンドル①を持って、ラゲッジルームカバー②をリールから引き出します。

▶ 左右の固定部③をフック④にかけます。

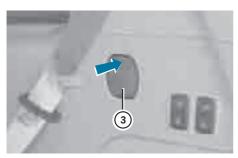
! ラゲッジルームカバーは、サードシートのシートベルト⑤をフック⑥にかけた状態で使用してください。

ラゲッジルームカバーがシートベルトにかかり、正しく使用できないおそれがあります。

ラゲッジルームカバー収納リール

収納リールの取り付け位置

① セカンドシート後方の取り付け位置
② サードシート後方の取り付け位置

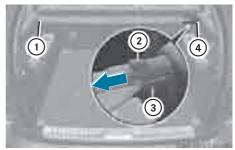
ラゲッジルームカバー収納リールは、セカンドシート後方①またはサードシート後方②に取り付けることができます。

取り付け部カバーの脱着

③ 取り付け部のカバー
（サードシート後方・右側）

▶ 取り付け部のカバー③の上部を押して、カバーを取り外します。

反対側のカバーも同様に取り外します。

▶ 取り外したカバーは、紛失しないように、使用しない取り付け部に取り付けます。

収納リールの脱着

セカンドシート後方に取り付けた状態
① 左側取り付け部
② ロック解除ボタン
③ 収納リール右端部
④ 右側取り付け部

収納リールを取り外す

▶ ラゲッジルームカバーをリールに収納します。

▶ 収納リール右端部③を左側にスライドさせます。

収納リール右端部③が左側に押し込まれ、収納リールの長さが短くなります。

▶ 右側取り付け部④から収納リール右端部③を取り外します。

▶ 収納リールを取り外します。

収納リールを取り付ける

▶ 収納リール右端部③が左側に押し込まれていて、収納リールが短くなっていることを確認します。

収納リール右端部③が左側に押し込まれていないときは、左側に押し込みます。

▶ ロック解除ボタン②が右側および上面にくるようにします。

▶ 収納リールの左端部を左側取り付け部①に固定します。

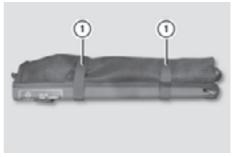
▶ 収納リール右端部③を右側取り付け部④に合わせ、ロック解除ボタン②を押します。

リール右端部③が右側にスライドして右側取り付け部④に固定されます。

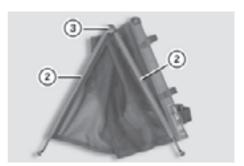
セーフティネット

⚠ **けがのおそれがあります**

- セーフティネットを使用するときは、上下の取り付け位置に確実に固定されていることを確認してください。
- セーフティネットに損傷がある場合は使用しないでください。
- セーフティネットは重い荷物の移動を防ぐことはできません。重い荷物を積載するときは、確実に固定してください。急ブレーキ時や急な車線変更時、事故のときなどに荷物が前方に放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。

セーフティネットの準備

① ストラップ

セーフティネットを展開する

▶ 2 本のストラップ①を外します。

② バー
③ ロック解除ボタン

▶ バー②をロックするまで開きます。

バーはセーフティネットの下部にもう 1 本あります。下部のバーもロックするまで開きます。

ℹ セーフティネットを収納するときは、ロック解除ボタン③を押しながらバーを折りたたみます。

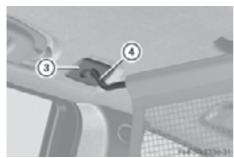
セーフティネットの取り付け位置

① フロントシート後方の取り付け位置
② セカンドシート後方の取り付け位置

セーフティネットはフロントシートの後方①、またはセカンドシートの後方②に取り付けることができます。

フロントシートの後方に取り付けるときは、セカンドシートを折りたたみ（▷230 ページ）、サードシート（▷77 ページ）を収納してください。

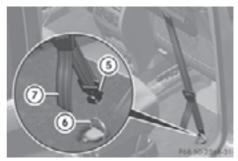
セカンドシートの後方に取り付けるときは、サードシートを収納してください。

セーフティネットの取り付け

③ 取り付け部
④ ロッド

▶ ラゲッジルームカバー収納リールを取り外します（▷234 ページ）。

▶ セーフティネット下側のフック⑤が後方を向くようにセーフティネットの上部を持ちます。

▶ セーフティネットのロッド④の片側を取り付け部③に差し込み、前方に押し込んで固定します。

▶ ロッドを押し縮めながら、もう片側の端を取り付け部③に差し込み、前方に押し込んで固定します。

フロントシート後方に取り付けるとき
⑤ フック
⑥ 荷物固定用リング
（セカンドシート足元）
⑦ ベルト

セカンドシート後方に取り付けるとき
⑤ フック
⑦ ベルト
⑧ 荷物固定用リング
（サードシートバックレスト背面上部）

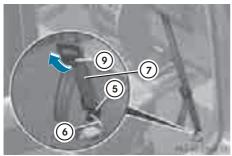
▶ フック⑤を荷物固定用リングにかけます。

- フロントシート後方にセーフティネットを取り付けるときは、セカンドシート足元の荷物固定用リング⑥を使用します。
- セカンドシート後方にセーフティネット取り付けるときは、サードシートを収納して（▷77 ページ）、サードシートバックレスト背面上部の荷物固定用リング⑧を使用します。

▶ ベルト⑦の端部を下方に引きます。

▶ 少しの間走行した後に、ベルトがゆるんでいないことを確認してください。

ベルトがゆるんでいるときは、ベルトの端部を引き、ベルトを締めてください。

セーフティネットの取り外し

フロントシート後方に取り付けたとき
⑤ フック
⑥ 荷物固定用リング（セカンドシート足元）
⑦ ベルト
⑨ アジャスター

▶ アジャスター⑨を矢印の方向に引き上げます。

ベルト⑦がゆるみます。

▶ 荷物固定用リング⑥からフック⑤を外します。

▶ ロッド④を押し縮めながら、ロッドの端部を取り付け部から取り外します。

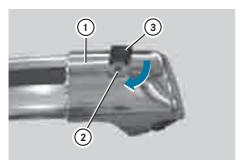
クロスバー

ルーフレールにクロスバーを取り付け、各種のアタッチメントを装着できます。

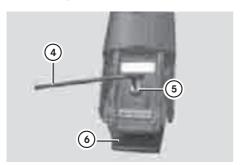
アタッチメントはダイムラー社の純正品および指定品の使用をお勧めします。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

⚠ 事故やけがのおそれがあります

- ルーフ上に荷物を積んでいるときは、車の重心位置が変化し、走行安定性に影響を与えます。運転するときは十分注意してください。
- クロスバーを取り付けたときは、確実に固定されていることを確認してください。クロスバーが外れて脱落すると、乗員がけがをしたり、事故の原因になります。
- クロスバーに各種のアタッチメントを装着するときは、製品に添付の取扱説明書に従ってください。取り付け方を誤ると、事故の原因になります。

クロスバーを取り付ける

① カバー
② キーシリンダー
③ キー

▶ クロスバー両端にあるカバー①のキーシリンダー②に付属のキー③を差し込んで時計回りにまわし、ロックを解除します。

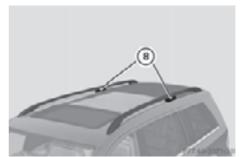
▶ カバー①を取り外します。

④ 六角レンチ
⑤ ネジ
⑥ 取り付け部

▶ 付属の六角レンチ④でネジ⑤を反時計回りにまわし、取り付け部⑥をゆるめます。

! 取り付け部⑥をゆるめるときは、ネジ⑤を反時計回りにまわしすぎないように注意してください。取り付け部が脱落するおそれがあります。

⑦ フロント側の取り付け位置マーク

2 本のクロスバーの長さは異なります。長いクロスバーはフロント側に、短いクロスバーはリア側に取り付けます。

フロント側のクロスバーの取り付け位置は、マーク⑦の位置を参考にしてください。

⑧ リア側の取り付け位置

リア側のクロスバーの取り付け位置は、⑧の位置を参考にしてください。

▶ クロスバーの片側の取り付け部⑥を、フロント、リアそれぞれの取り付け位置⑦⑧に合わせます。

! ⑦⑧は取り付け位置の目安です。クロスバーを取り付けたときは、確実に固定されていることを確認してください。

▶ 反対側の取り付け部を、フロント、リアそれぞれの取り付け位置⑦⑧に合わせます。

▶ 六角レンチ④でネジ⑤を時計回りにまわし、取り付け部⑥を締め付けます。

▶ カバー①を取り付け、キー③でロックします。

i ルーフレールに直接クロスバーを取り付けると、ルーフレールに傷が付くおそれがあります。必要に応じて、保護シートなどを使用してください。

クロスバーを取り外す

▶ クロスバーを取り外すときは、取り付けたときと逆の手順で行ないます。

! ルーフレールの最大積載量 (約90kg) を超えないよう注意してください。

ルーフレールの最大積載量には、クロスバーやアタッチメントの重量も含まれます。

! 純正品以外のアタッチメントを取り付けると車を損傷するおそれがあります。

! スキーキャリアやバイシクルキャリアには、純正品でもクロスバーに対応していないタイプがあります。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

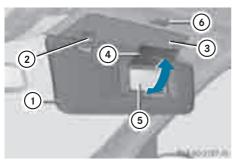
! クロスバーに荷物やアタッチメントを取り付けるときは下記に注意してください。車を損傷するおそれがあります。

- スライディングルーフをチルトアップさせたときに接触しないこと
- テールゲートを開いたときに接触しないこと

室内装備

サンバイザー

事故のおそれがあります

走行中はバニティミラーのカバーを閉じてください。眩惑により事故を起こすおそれがあります。

① サンバイザー
② フック
③ 補助サンバイザー
④ バニティミラーカバー
⑤ バニティミラー
⑥ 照明

前方からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザー①を下げます。

横方向からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザー①を下げます。

▶ サンバイザーをフック②から外します。

▶ サンバイザー①を横にまわします。

このときは、軸方向にスライドさせることができます。

▶ 前方からの眩しさも防ぐときは、補助サンバイザー③を下げます。

使用後は、補助サンバイザーを元の位置に戻してから、サンバイザーを元の位置に戻します。

! サンバイザーを横にまわすときは、バニティミラーカバー④を閉じてください。ルーフ内張りやバニティミラーカバーを損傷するおそれがあります。

バニティミラー

バニティミラーを使用する

▶ サンバイザー①を下げます。

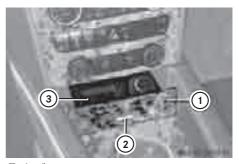
▶ バニティミラーカバー④を上方に開きます。

照明⑥が点灯します。

! 眩惑を防ぐため、走行中はバニティミラーを使用しないでください。

i サンバイザーをフック②から外すと、照明⑥は点灯しません。

灰皿

フロントシートの灰皿

① カバー
② マーク
③ 灰皿

灰皿を開く

▶ カバー①のマーク②を軽く押します。

灰皿を閉じる

▶ カバー①を前方に押して閉じます。

灰皿を取り外す

▶ 灰皿③を上方に引き上げて取り外します。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿③をロックするまで押し込みます。

ℹ 灰皿を取り外すと小物入れとして使用できます。

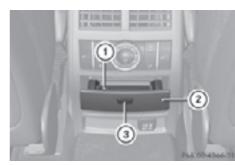
❗ 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。

❗ 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。

❗ 使用後は確実にカバーを閉じてください。

❗ 灰皿を取り外して小物入れとして使用しているときは、灰皿として使用しないでください。

また、カバーが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。

セカンドシートの灰皿

① 灰皿
② カバー
③ ボタン

セカンドシートの灰皿は、リアセンターコンソールにあります。

灰皿を開く

▶ カバー②のボタン③を軽く押します。

灰皿を閉じる

▶ カバー②を押して閉じます。

灰皿を取り外す

▶ 灰皿①を引き上げて取り外します。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿①をロックするまで押し込みます。

ℹ 灰皿を取り外すと小物入れとして使用できます。

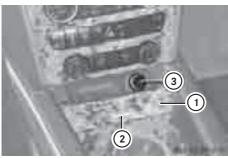
❗ 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。

❗ 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。

❗ 使用後は確実にカバーを閉じてください。

❗ 灰皿を取り外して小物入れとして使用しているときは、灰皿として使用しないでください。

また、カバーが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。

ライター

① カバー
② マーク
③ ライター

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。

ライターを使用する

▶ カバー①のマーク②を軽く押します。

カバー①が開きます。

▶ ライター③を押し込みます。

熱せられると、ライターは元の位置に戻ります。

使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻します。

⚠ **けがと火傷のおそれがあります**

ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。

安全のため、子供を乗車させるときはライターを抜き取ってください。

❗ ライターを使用するときは、以下の点に注意してください。ライターを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。

- ライターを押し込んだ後、押さえ続けないでください。
- 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。
- ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。

❗ ライターが戻らなくなったときは、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、指定サービス工場に連絡してください。

12V 電源ソケット

リアセンターコンソールの電源ソケット
① ソケットカバー

ラゲッジルームの電源ソケット
① ソケットカバー

リアセンターコンソールとラゲッジルームに 12V 電源ソケットを装備しています。

エンジンがかかっているときに使用してください。

12V 電源ソケットを使用する

▶ ソケットカバー①を開き、電気製品の電源コネクターを確実に差し込みます。

! 電源ソケットにライターを差し込まないでください。

! ソケット内に指などを入れないでください。感電するおそれがあります。

! エンジンがかかっていないときは長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

! 電源ソケットを使用しないときはソケットカバーを閉じてください。異物が入ったり、水がかかると故障の原因になります。

! 電気製品を使用するときは、最大消費電流が 20A を超えないことを確認してください。

! 必ず DC12V の電気製品を使用してください。

ℹ イグニッション位置が **0** か **1** のときや、エンジンスイッチからキーを抜いてあるときも使用することができますが、バッテリーの電圧が低下すると自動的に機能を停止します。

アシストグリップ

各ドアウインドウの上方にアシストグリップがあります。コーナリング時の姿勢保持などに使用します。

セカンドシートのアシストグリップには、コートフックが装備されています。

⚠ けがのおそれがあります

SRS ウインドウバッグの作動を妨げたり、作動時に物が飛んで乗員がけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。

- アシストグリップにハンガーやアクセサリーなど物をかけないでください。
- コートフックには軽く柔らかい衣服以外の物をかけないでください。
- コートフックを使用するときは、ハンガーなどを使用せず、衣服を直接かけてください。

! アシストグリップにぶらさがったり、必要以上に大きな荷重をかけないでください。アシストグリップを損傷するおそれがあります。

! 運転者は運転中にアシストグリップを使用しないでください。

! コートフックを使用するときは、衣服が運転者の視界の妨げにならないように注意してください。

慣らし運転

 事故のおそれがあります

新品のブレーキパッドやブレーキディスクは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動能力を完全には発揮できません。この期間は必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。また、ブレーキパッドの交換を行なったときも、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは注意してください。

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをお勧めします。

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

最初の 1,500km までは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲で回転数と速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- ギアレンジ **D3**、**D2**、**D1** および 1 ～ 3 速のギアは山道などを低速で走行するときだけ使用してください。

走行距離が 1,500km を超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

ⓘ エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後も、慣らし運転を行なってください。

ⓘ **キックダウン**：走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

ⓘ **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

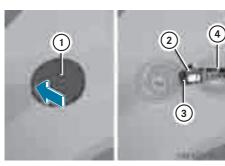
燃料の給油

燃料を給油する

火災や爆発のおそれがあります

給油するときは、必ずエンジンを停止してください。また、周囲に燃料があるときや燃料の匂いがするときは、決して火気を近付けないでください。火災が発生するおそれがあります。

健康を害するおそれがあります

肌や衣服に燃料が付着しないように注意してください。燃料が肌に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康を害するおそれがあります。

① 燃料給油フラップ
② 取り外したキャップ
③ ホルダー
④ タイヤ空気圧ラベル

燃料給油フラップを開く

▶ エンジンを停止します。

▶ 燃料給油フラップ①の矢印の部分を押します。

キャップを取り外す

▶ キャップを反時計回りにまわします。

▶ キャップを給油口から取り外します。

取り外したキャップ②を燃料給油フラップの裏側にあるホルダー③にかけます。

キャップを取り付ける

▶ キャップを給油口に合わせます。

▶ キャップをカチカチッという音がして空回りするまで、時計回りにまわします。

燃料給油フラップを閉じる

▶ 燃料給油フラップ①を押します。

火災のおそれがあります

- エンジンをかけたまま給油しないでください。火災が発生するおそれがあります。
- 周囲に燃料があるときや燃料の匂いがするときは、決して火気を近付けないでください。火災が発生するおそれがあります。

ⓘ 燃料給油フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベル④が貼付してあります。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては（▷261 ページ）をご覧ください。

ⓘ リモコン操作やキーレスゴー操作での解錠 / 施錠に連動して、燃料給油フラップも解錠 / 施錠されます。

ⓘ 燃料給油フラップが施錠されないときは、手動で解錠して開くことができます（▷323 ページ）。

! 燃料を給油するときは、以下の点に注意してください。

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用したり、添加剤などを混入すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 軽油を燃料として使用したり、燃料に混ぜて使用しないでください。少量を混ぜただけでもエンジンなどを損傷するおそれがあります。また、このような場合は保証の適用外になります。
- 誤って軽油を給油してしまった場合は、決してエンジンを始動しないでください。軽油が燃料供給系部品全体にまわるおそれがあります。誤って給油した場合は指定サービス工場に連絡し、燃料タンクや燃料系部品を交換してください。
- 目的地まで余裕をもって走れるように、十分な量を補給してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。

! セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

- エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じてください。
- 燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なってください。
- 給油作業をする人以外は燃料給油口に近付かないでください。
- 給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去してください。

  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。
- 作業中は車内に戻らないでください。帯電するおそれがあります。
- キャップの取り外し / 取り付け（▷247 ページ）は確実に行ない、火気を近付けないようにしてください。
- 燃料が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。
- 手動で給油しているときは、状況を見ながら、給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 気化した燃料を吸い込まないように注意してください。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

エンジンルーム

ボンネット

 事故のおそれがあります

走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

 火傷のおそれがあります

ボンネットから炎や煙が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。

 火傷のおそれがあります

エンジンが停止していても、エンジンルーム内には高温になっている部分があります。エンジンルーム内に触れるときは、各部の温度が下がっていることを確認してください。

 けがのおそれがあります

エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、イグニッション位置が **2** のときは、エンジンルーム内には手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分、回転している部分があり、それらに触れると非常に危険です。

けがのおそれがあります

イグニッション位置が **0** のときや、エンジンスイッチからキーを抜いているときも、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。

ボンネットを開く

けがのおそれがあります

ボンネットを開くときは、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜き、ワイパーのスイッチが停止の位置になっていることを確認してください（▷105ページ）。ボンネットを開いているときにワイパーが作動すると、けがをしたり、車やワイパーを損傷するおそれがあります。

! ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが接触して、損傷するおそれがあります。

! 強風のときにボンネットを開くと、風にあおられ、ボンネットが不意に下がるおそれがあります。風の強い日には十分に注意してください。

また、ボンネットに雪が積もっているときも同様に注意してください。

① ボンネットロック解除レバー

▶ 運転席足元にあるボンネットロック解除レバー①を手前に引きます。

② ロック解除ノブ

▶ ラジエターグリルの上方にあるロック解除ノブ②を矢印の方向に引き上げながらボンネットを開きます。

ボンネットを閉じる

⚠ **事故のおそれがあります**

走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

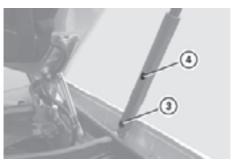
ボンネットを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じると、ボンネットが変形するおそれがあります。

▶ ボンネットを引き下げ、ラジエターグリル上部から約 20cm ～ 30cm 上方の位置で手を放して閉じます。

完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。

i ボンネットが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

ボンネットを垂直に開く

③ ロックボタン
④ 支柱上部のロックボタンの位置

垂直位置まで開く

▶ 左側支柱下部にあるロックボタン③を押しながら、ボンネットを押し上げて垂直の位置にします。

ロックボタン③が支柱上部に移動し、ロックされます。

垂直位置から閉じる

▶ ボンネットを少し後方に押しながら支柱上部に移動したロックボタン④を押し、ボンネットを閉じます。

ℹ 垂直に開いたボンネットは、支柱上部に移動したロックボタン④を押さなくても通常の開く位置まで下げることはできますが、その位置から閉じることはできません。

再度、垂直に開き、ロックボタンを押しながら閉じてください。

エンジンルーム

⚠ **けがのおそれがあります**

- イグニッションシステムおよびキセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧が発生しているため、感電するおそれがあります。
- イグニッション位置が **0** でエンジンスイッチからキーを抜いていても、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部には身体や物を近付けないでください。

環　境

環境保護のため、オイルなどの各種の油脂類やフルード類の交換および廃棄は、指定サービス工場で行なってください。

①	冷却水リザーブタンク	254
②	エンジンオイル フィラーキャップ	253
③	ウォッシャー液 リザーブタンク	258
④	ブレーキ液 リザーブタンク	257
⑤	ヒューズボックス	345
⑥	エンジンオイル レベルゲージ	253

エンジンルーム内の手入れ

手作業で拭いてください。火傷や感電に注意してください。

エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

! エンジンや補器類の熱や動きに十分注意してください。火傷やけがをするおそれがあります。

! ラジエターに手を触れないでください。火傷やけがをするおそれがあります。

! 作業は安全な場所を選んで行なってください。

! 適切な工具を使用してください

! 部品や工具をエンジンの上など、エンジンルーム内に置かないでください。中に落とすおそれがあります。

! 油脂類（オイルなど）やフルード類（ブレーキ液、ウォッシャー液、冷却水など）は、十分注意して取り扱ってください。万一目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

! 油脂類やフルード類が皮膚に付着したときは、すぐに石けんで洗い流してください。放置すると皮膚に障害を起こすおそれがあります。

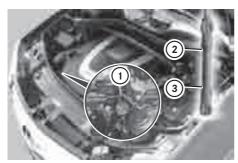
! 油脂類やフルード類の容器は、子供の手が届くところや火気の近くに保管しないでください。

エンジンオイル

! エンジンオイルに添加剤などを使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

! エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給または交換してください。

i 慣らし運転中のエンジンオイルの消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

エンジンオイルの量を点検する

① エンジンオイルレベルゲージ
② 上限（max）
③ 下限（min）

▶ 水平な場所に停車します。

▶ エンジンを始動して、エンジンオイルを温めます。

▶ エンジンを停止して、5 分ほど待ちます。

エンジンが冷えているときは、約 30 分以上待ちます。

▶ エンジンオイルレベルゲージ①を抜き取り、きれいに拭いて差し込みます。

▶ 再度エンジンオイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイル量と汚れ具合を点検します。オイル量はエンジンオイルレベルゲージの上限（max）②と下限（min）③の間にあれば正常です。

▶ エンジンオイルが下限以下のときは、エンジンオイルフィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを規定の量まで補給します。

! マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷305、306 ページ）をご覧ください。

i エンジンオイルレベルゲージの上限と下限の間は、約 2 リットルです。

エンジンオイルを補給する

① エンジンオイルフィラーキャップ

▶ エンジンオイルフィラーキャップ①を反時計回りにまわして取り外します。

▶ 指定のエンジンオイルを補給します。

安全に十分注意して、作業を行なってください。

▶ エンジンオイルフィラーキャップを補給口に合わせ、時計回りにまわして、確実に取り付けます。

⚠ **火傷のおそれがあります**

エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンが熱いときにオイルが付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障/警告メッセージが表示されたときは（▷305、306 ページ）をご覧ください。

エンジンオイル交換の時期

エンジンオイルおよびフィルターは定期的に交換することをお勧めします。交換時期はメンテナンスインジケーターを目安としてください。

ただし、交換時期は使用状況によって異なりますので、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

! 必ず指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のエンジンオイルを使用して故障が発生した場合は、保証が適用されないことがあります。

! 種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。

! エンジンオイルがエンジンルーム内に付着したときは完全に拭き取ってください。

! エンジンオイル量が多すぎると故障の原因になります。

! エンジンオイルの減りかたが著しいときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

! エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給または交換してください。

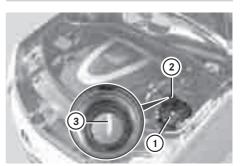
冷却水

⚠ 火傷のおそれがあります

水温が少しでも高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して、火傷をするおそれがあります。

⚠ 火傷のおそれがあります

不凍液をエンジンルームにこぼさないようにしてください。熱くなったエンジンに不凍液が付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

冷却水の量を点検する

① リザーブタンク
② キャップ
③ バー

▶ 水平な場所に停車します。

冷却水が冷えている状態で、リザーブタンク①の白と黒の境目まで液面があれば適量です。

または

▶ 水平な場所に停車します。

▶ 冷却水が冷えていることを確認します。

▶ リザーブタンクのキャップ②を反時計回りにゆっくり約 1/2 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップをさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 冷却水の液面がリザーブタンク内のバー③の上面に達していれば適量です。

ℹ 水温が高いときは液面が若干高くなります。

! 冷却水の減りかたが著しいときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水を補給する

冷却水が不足している場合は、冷却水が冷えているときにリザーブタンクに補給します。

▶ リザーブタンク①のキャップ②を反時計回りにゆっくり約 1/2 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップをさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 液面の高さに注意して冷却水を補給します。

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域（最低気温）によって濃度を変えます。

! 冷却水の補給は、冷却水が冷えてから行なってください。

! 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。

! 指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。

! 不凍液は塗装面を損傷させます。ボディに付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

! 冷却水の減りかたが著しいときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

! マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは、オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときの症状

- 冷却水温度が約 120℃以上を示している。
- マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されている。
- エンジンルームから蒸気が出ている。

火災のおそれがあります

エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときは、ただちにエンジンを停止し、冷えるまで車から離れてください。漏れた液体が発火して火災が発生するおそれがあります。

けがをするおそれがあります

水温が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して火傷をするおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイに、冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷304 ページ）をご覧ください。

! オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。

! オーバーヒートしたときは必ず指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときは、以下のように処置してください

▶ ただちに安全な場所に停車します。

▶ エンジンをアイドリング状態で冷却します。

ラジエターの冷却ファンが停止しているときや、冷却水が吹き出しているときは、エンジンを停止して冷却してください。

▶ エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、ラジエターの冷却ファンなどを点検します。

▶ 冷却水が不足しているときは補給します（▷255 ページ）。

! 冷却水は、エンジンが熱いときに補給しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

ブレーキ液

事故のおそれがあります

マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり（▷300 ページ）、ブレーキ警告灯（▷311 ページ）が点灯したときは、むやみにブレーキ液を補給しないでください。補給によって故障が解消することはありません。

安全な場所に停車して、指定サービス工場に連絡してください。

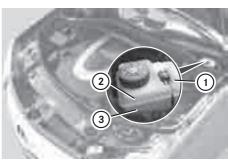
事故のおそれがあります

必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混ぜると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

けがのおそれがあります

ブレーキ液の補給は、エンジンが冷えてから行なってください。また、上限 (MAX) を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液がエンジンや排気系部品などに付着すると、発火して火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷301 ページ）をご覧ください。

ブレーキ液の量を点検する

① ブレーキ液リザーブタンク
② レベルインジケーター上限（MAX）
③ レベルインジケーター下限（MIN）

▶ ブレーキ液リザーブタンク①のレベルインジケーターで点検します。

ブレーキ液の液面がレベルインジケーター上限（MAX）②と下限（MIN）③の間にあれば正常です。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷301 ページ）をご覧ください。

ブレーキ液の交換

定期的に指定サービス工場で点検を受けてください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

! ブレーキ液の減りかたが著しいときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

! ブレーキ液の補給や交換は、指定サービス工場で行なってください。

! 補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

! レベルインジケーターの上限（MAX）を超えて補給すると、走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

! ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

i **ベーパーロック**：長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

⚠ **けがや火災のおそれがあります**

ウォッシャー液は可燃性です。火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。また、エンジンが熱くなっているときは補給しないでください。

i ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー液のリザーブタンクは共用です。

i ウォッシャー液には夏用と冬用の2種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウォッシャー液を補給する

① ウォッシャー液リザーブタンクのキャップ

▶ ウォッシャー液リザーブタンクのキャップ①を開いて補給します。

使用するウォッシャー液

専用の純正ウォッシャー液を水に混ぜて使用します。

! 補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

! 粗悪なウォッシャー液や石けん水を使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

! ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液に関する故障／警告メッセージが表示されたときは（▷307ページ）をご覧ください。

タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

事故のおそれがあります

- 純正品および承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、ブレーキシステムやサスペンションを損傷したり、事故を起こすおそれがあります。
- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン (別冊「整備手帳」参照) が現われたら、すぐに交換してください。タイヤの溝の深さが約 3mm 以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。

事故のおそれがあります

- 必ず規定の空気圧を守ってください。燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷247 ページ）。
- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。
- ホイールボルトはホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。

! ホイールやタイヤの選択を誤ると、車全体のバランスに影響し、安全性に支障をきたすおそれがあります。

! 装着するタイヤは指定されたサイズ、および 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。サイズや銘柄が異なると、操縦性に悪影響をおよぼし、事故を起こすおそれがあります。

! 回転方向が指定されているタイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

! 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

! 純正品または承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、道路運送車両法違反になることがあります。

! 摩耗具合にかかわらず、6 年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

応急用スペアタイヤも同様に交換してください。

! タイヤ / ホイールは、オイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

i ほこりや水分の侵入を防ぐため、ホイールバルブのキャップを必ず装着してください。

i 新品のタイヤを装着したときは、走行距離が約 100km を超えるまでは速度を控えて運転することをお勧めします。

タイヤの点検

▶ タイヤ空気圧ゲージを使用するか、タイヤ接地部のたわみ状態 (別冊「整備手帳」参照) を見て、空気圧が適切であることを点検します。

▶ タイヤに大きな傷がないこと、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないことを点検します。

▶ タイヤが偏摩耗を起こしたり、極端にすり減っていないことを点検します。スリップサイン (別冊「整備手帳」参照) が出ているときは、新しいタイヤに交換します。

! ほこりや水分の侵入を防ぎバルブを保護するため、ホイールバルブのキャップを必ず装着してください。また、市販のタイヤ空気圧計測装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。

! タイヤに空気を入れても、すぐに空気圧が低下するときは、パンクやホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどのおそれがあります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

! タイヤの摩耗は均一ではありません。タイヤの摩耗を点検するときは、必ずタイヤの内側も点検してください。

! タイヤのトレッドやサイドウォールがひどくすり減ったり、傷が付いているときは交換してください。

走行時の注意

- タイヤやホイールが損傷しているときは、振動や騒音が発生したり、ステアリングが不自然な動きをすることがあります。このようなときはただちに安全な場所に停車して、タイヤとホイールを点検してください。

  異常が見つからないときも、指定サービス工場で点検を受けてください。

- 路面の段差などを乗り越えるときは、速度を落とし、注意して走行してください。タイヤやホイールを損傷するおそれがあります。

- 駐車時は、タイヤやホイールが縁石に接触しないようにしてください。

  また、縁石を乗り越える必要があるときは、縁石に対してタイヤをできるだけ直角にしてください。タイヤを損傷するおそれがあります。

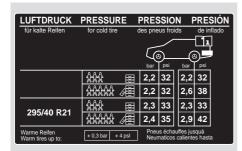
タイヤを清掃するとき

- タイヤを清掃するときは、高圧式スプレーガンなどを使用しないでください。タイヤを損傷するおそれがあります。

- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルト、ブレーキディスクが腐食するおそれがあります。

- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。

タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベルの例

※ タイヤ空気圧ラベルは仕様により異なることがあります。

タイヤ空気圧ラベルは燃料給油フラップ裏側に貼付されています（▷247ページ）。

乗車人数や荷物の量などに応じて、前輪と後輪の空気圧を調整してください。

単位は「bar(≒ kg/cm^2)」と「psi」で示しています。

 環　境

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

 事故のおそれがあります

空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。

タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。また、タイヤ空気圧警告システムが正しく作動しなくなったり、車両操縦性に悪影響をおよぼすおそれがあります。

! 必ず法定速度を守って走行してください。

! 周囲の気温が約 10℃変化すると、タイヤ空気圧は約 0.1bar 変化します。タイヤ空気圧を点検するときは周囲の気温に注意してください。

i "up to 210km/h" の表示がある場合は、"up to 210km/h" の空気圧に調整してください。

i 日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず点検を行なってください。

i 走行した直後や炎天下のようにタイヤ自体が高温になっているときは、約 0.3bar ほど空気圧が高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。

i 応急用スペアタイヤの空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールまたはタイヤに記載されています。

タイヤ空気圧警告システム

4 輪すべてのタイヤの回転速度をモニターし、タイヤ空気圧が低下することにより他のタイヤとの回転速度に差が生じると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージを表示します。

タイヤ空気圧警告システムは、以下の状況のときは作動しません。

- カーブを曲がっているとき
- 加速または減速をしているとき
- 砂地や舗装されていない地面などの滑りやすい路面を走行しているとき
- 積雪路や凍結路などを走行しているとき
- スノーチェーンを装着して走行しているとき
- ルーフに荷物を積んでいたり、重い荷物を積んで走行しているとき

上記に該当しない条件で約 20km/h 以上の速度で数分間走行した後、異常が検知されると警告が行なわれます。

⚠ 事故のおそれがあります

- 空気の入れすぎなど、誤ったタイヤ空気圧の調整に対しては警告が行なわれません。燃料給油フラップの裏側にあるタイヤ空気圧ラベルを参照して、必ず規定の空気圧に調整してください。
- タイヤ空気圧警告システムは、複数のタイヤから同量の空気が漏れた場合などは検知できません。また、タイヤ空気圧の点検を行なうシステムではありません。
- 急激な空気圧低下（タイヤに異物が貫通した場合など）に対しては警告を行なうことができません。このときは、急ブレーキや急ハンドルを避け、しっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。

タイヤ空気圧警告システムを再起動する

以下のときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動させてください。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- ホイールやタイヤを交換したとき
- 新しいホイールやタイヤを装着したとき

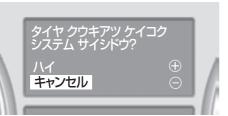
▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動する前に、燃料給油フラップの裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベル（▷261 ページ）を参照して、すべてのタイヤが、適正な空気圧に調整されていることを確認してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

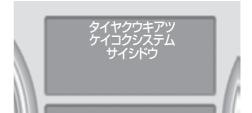
タイヤ空気圧警告システムは、タイヤ空気圧が適正に調整されていないときは、正常に作動しません。

- ▶ イグニッション位置を **2** にします。
- ▶ または を押して、車両情報メイン画面を表示させます (▷131 ページ)。
- ▶ または を押して、タイヤ空気圧警告システム画面を表示させます。

  " ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻﾄﾞｳ ﾒﾆｭｰ： R ﾎﾞﾀﾝ " と表示されます。
- ▶ リセットボタン (▷126 ページ) を押します。

ⓘ マルチファンクションディスプレイに " ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝ ｵﾝ ﾃﾞ ｻﾄﾞｳ " と表示されたときは、イグニッション位置を **2** にしてください。

マルチファンクションディスプレイに " ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸ ｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ ?" と表示されます。

ⓘ マルチファンクションディスプレイに " ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸ ｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ ?" と表示されてから約 15 秒間何も操作をしないと、再起動は中断されます。

- ▶ ＋ を押して、" ハイ " を反転表示にします。

マルチファンクションディスプレイに " ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ " と表示されます。

数秒後に、タイヤ空気圧警告システムが作動を始めます。

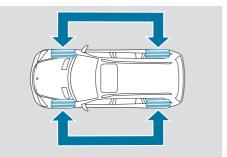
タイヤローテーション

⚠ **事故のおそれがあります**

タイヤまたはホイールのサイズが前後で異なるときは、タイヤローテーションを行なわないでください。前後のタイヤを入れ替えると車両操縦性や走行安定性が確保できません。

ホイールボルトの締め付けトルクは 15kg-m(150Nm) です。タイヤローテーションを行なったあとは、指定サービス工場でホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

タイヤの摩耗具合は、走行距離や運転方法、路面状況によって大きく異なります。

5,000 ～ 10,000km を目安に摩耗具合を点検し、偏摩耗の兆候がはっきりした時点でタイヤローテーションを行なってください。

タイヤローテーションの方法

タイヤローテーションを行なう

▶ 前後のタイヤ位置を入れ替えます。

ℹ タイヤローテーションを適切に実施すると、タイヤの摩耗を均一化することができます。この結果、タイヤの寿命を延ばすことができます。

ℹ タイヤを入れ替えた後に空気圧を調整してください。

指定空気圧は、燃料給油フラップの裏側に貼付してあるタイヤ空気圧ラベルで確認してください。

寒冷時の取り扱い

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることや、バッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

ウィンタータイヤ / スノーチェーン

積雪地域では、ウィンタータイヤやスノーチェーンが必要です（▷266、267、357 ページ）。

スノーチェーンは、ダイムラー社の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地方の場合、1 年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやテールゲートの凍結

ドアやテールゲートが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを損傷しないように注意してください。
- ドアやテールゲートが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやテールゲートを開こうとすると、周囲の防水シールを損傷するおそれがあります。

ボディ下部の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり凍結していると、ボディを損傷したり、車のコントロールを失って事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着します。休憩時などにこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、テールゲート、ドアウインドウ、スライディングルーフなどが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

また、ドアミラーは手で動かさないでください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を取り除いてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入してくるおそれがあります。

⚠ 中毒のおそれがあります

マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンをかけていると、排気ガスが車内に入り一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、シフトポジションを **P** にして、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないようにしてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

ウィンタータイヤ

雪道や凍結路を走行するときや外気温度が約 7℃以下のときは、ウィンタータイヤの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤを装着することで、ABS や ESP、4MATIC の効果が発揮されます。

装着するウィンタータイヤは、指定されたサイズで 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください（▷357 ページ）。

⚠ 事故のおそれがあります

ウィンタータイヤの溝の深さが 4mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。

ウィンタータイヤの装着時に、応急用スペアタイヤを装着すると、車両安定性や制動性能が大きく低下するので注意してください。

スペアタイヤは応急的に使用し、できるだけ早くウィンタータイヤに戻してください。

! 回転方向が指定されているウィンタータイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

! ウィンタータイヤを装着していても、雪道や凍結路面では、クルーズコントロールやディトロニック＊を使用しないでください。

! ウィンタータイヤ / ホイールは、オイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所で保管してください。

ℹ ウィンタータイヤについて、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着してください。

スノーチェーンは、ダイムラー社の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

! 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。

! スノーチェーンは必ず後輪に装着してください。

! スノーチェーン装着時は約 50km/h 以下の速度で走行してください。

! スノーチェーンを装着したときは、ADS のサスペンションモードを SPORT モードにしないでください。

! 指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。

! スノーチェーンの着脱は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。

! 路面に雪や凍結がなくなったときは、スノーチェーンを外してください。

i スノーチェーン装着中は、ESP の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

i スノーチェーンについて、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

雪道を走行するとき

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。

安全な走行と操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などを避けてください。
- クルーズコントロールやディストロニック * を使用しないでください。
- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。

  このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

 事故のおそれがあります

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

走行時の注意

エンジン

 事故のおそれがあります

エンジンが停止しているときは、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

走行中はエンジンを停止しないでください。

ブレーキ

 事故のおそれがあります

- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い､事故を起こすおそれがあります。
- 長い下り坂や急な下り坂では必ずティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキを併用してください。エンジンブレーキを併用しないでブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなり停車できなくなるおそれがあります。

 火災のおそれがあります

ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

! ブレーキが過熱している状態のときは、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。

! 新車時または交換した新品のブレーキパッドは、走行距離が目安として数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。最初の数百 km までは、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。

! 水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

! 高速道路を走行しているときなどブレーキを効かせずに長時間走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

! 必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

i クルーズコントロールや可変スピードリミッターの作動中も、低いギアレンジを選択することによりエンジンブレーキを効かせることができます。

i 急ブレーキなどでブレーキに大きな負担をかけた後は、ブレーキディスクが冷えるまでしばらく走行を続けてください。

(!) ブレーキ警告灯

イグニッション位置を **2** にしたとき、またはキーレスゴー操作でのエンジン始動操作直後に点灯し（点灯しないときは、警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後やイグニッション位置が **1** のときは、パーキングブレーキを効かせていると点灯したままになります。

エンジンがかかっているときやイグニッション位置が **1** のときに、パーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、ブレーキ液の量が減っています。安全な場所に停車して、指定サービス工場に連絡してください。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液またはブレーキパッドに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷300、301ページ）をご覧ください。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないようにおだやかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッションや駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保して、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドランプを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

エンジンブレーキの活用

下り坂が続くときは、エンジンブレーキを活用してください。ブレーキペダルを長時間踏み続けると、ブレーキディスクが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

i **エンジンブレーキ：**走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

滑りやすい路面

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。

水たまりの通過後

水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

スタック（立ち往生）したとき

- ぬかるみなどでタイヤが空転したり脱輪した状態から脱出するときは、タイヤを高速で空転させないでください。脱出直後に車が急発進して、事故を起こすおそれがあります。

  また、タイヤを高速で空転させると異常な過熱が起こり、タイヤの破裂や火災などの事故が起きたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- スタックした状態から脱出するときは、タイヤ前後の土や雪などを取り除いたり、タイヤの下に板や石などをあてがうと効果的です。

  また、「オフロード走行」（▷273 ページ）もご覧ください。

道路冠水や車が水没したとき

- 冠水した道路を走行するときに許容されている最大水深は、約 50cm です。

  また、レベルコントロールで車高をオフロードレベル 3（▷189 ページ）に設定したときは、最大約 60cm です。波が立たないような速度で走行してください。
- 河川などを渡るときは（▷278 ページ）をご覧ください。
- 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。
- 車が水没した場合は、水が引いた後でもエンジンを始動せずに、指定サービス工場に連絡してください。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したときやマルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されたとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯が消灯しないときは、指定サービス工場に連絡してください。警告灯が点灯したまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止して指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

駐停車するとき

駐車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやシートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、ウインドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。
- フロントウインドウやボンネットの周囲に枯れ葉や異物がある場合は必ず取り除いてください。車両下部の排水口が目詰まりを起こし、室内に水が侵入するおそれがあります。

雪が降っているときは

車の周囲が雪で覆われているときは、雪を取り除いてからエンジンを始動してください。積雪によりマフラーがふさがれ、排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

急な坂道では

急な坂道で駐車するときは、シフトポジションを **P** にして、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをしてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出して事故を起こすおそれがあります。

また、アクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

雨降りや濃霧時の運転

雨降りや濃霧時の注意事項

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、路面が濡れて滑りやすく視界も悪くなります。以下の点に注意し、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいので、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。

  また、見通しが悪いので歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分に確保してください。

- 濡れた路面では急激なエンジンブレーキを効かせないでください。滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 路面が濡れているときは、クルーズコントロールやディストロニック＊を使用しないでください。
- 水たまりの通過後や激しい雨の中で長時間ブレーキを使用しないで走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。またはエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドランプやフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドランプを上向きにすると、雨や濃霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するので、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。
- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。

右側リアドアからの乗降時の注意

右側リアドアを開くときや右側リアドアから乗降するときは、乗降者および運転者ともに、周囲の状況に危険がないことや後方から車両が来ないことを確認してください。

サイドステップが濡れているときの注意

降雨時や洗車時など、サイドステップが濡れているときは、十分注意してステップに足を乗せてください。足を滑らせてけがをするおそれがあります。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。

  定期交換部品などは純正品だけを使用し、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。

- 燃料やオイルの添加剤などは一切使用しないでください。故障の原因になります。
- 無線機やオーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、指定サービス工場におたずねください。

自動車電話、携帯電話

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になります。安全な場所に停車してから使用してください。

COMAND システムの操作

COMAND システムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に画面を見るときは、必要最小限（約 1 秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、エンジンオイル、エンジンオイルフィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

オフロード走行

車の特性や操縦性を知ることにより、安全に目的地に到達することができます。悪路走行の前に練習走行をされることをお勧めします。

オフロードを走行する前に以下の注意をよくお読みください。

オフロードを走行するための特別装備には、以下のものがあります。

- ローレンジモード（▷160 ページ）
- オフロード ABS（▷48 ページ）
- オフロード ETS（▷54 ページ）
- オフロード ESP（▷52 ページ）
- ディファレンシャルロック（▷163 ページ）
- DSR（ダウンヒル·スピード·レギュレーション）（▷157 ページ）

事故のおそれがあります

- 地形や路面の状況が把握できない悪路では低速で走行してください。障害物などを見つけやすくなり、事故を未然に防ぐことができます。
- 坂が急勾配で上り切れない場合は、U ターンせず、シフトポジションを **R** にして後退して下りてください。
- 斜面を斜めに走行しないでください。車が横転するおそれがあります。斜面を斜めに走行する必要があり、万一横転しそうになった場合は、ただちに斜面の下り側へステアリングをまわし、姿勢を立て直してください。
- シフトポジションを **N** にしたままで走行しないでください。エンジンブレーキがまったく効かず、ブレーキペダルだけで車速を調整しようとすると、車のコントロールを失うおそれがあります。
- オフロード走行後にブレーキに泥汚れなどがあるときは、指定サービス工場で点検と洗浄を行なってください。緊急時に十分なブレーキ力が得られないおそれがあります。

オフロードでの走行

事故のおそれがあります

車の損傷は事故の原因になります。損傷しているおそれがあるときは指定サービス工場で点検を受けてください。

環 境

環境に配慮して走行し、自然破壊をしないでください。

オフロード走行時の注意

- 停車して、必要に応じてローレンジ（▷160 ページ）にしてください。
- レベルコントロールで車高を上げ、十分な最低地上高を確保してください（▷185 ページ）。
- 荷物が確実に収納されていること、または確実に固定されていることを確認してください。
- 下り坂を走行するときは DSR を作動させてください（▷157 ページ）。エンジンを停止したり、シフトポジションを **N** にしないでください。
- 速度を上げないでください。必要に応じて、人が歩くくらいの速度で走行してください。
- 常にタイヤが地面に接していることを確認してください。
- 地形や路面の状況が把握できないときや視界の悪いときは、走行する前に車から降りて、危険がないことを確認してください。

- やむを得ず河川などを渡るときは、走行前に水深と川底の状況を確認してください。
- 岩、穴、木の切り株、溝など、大きな障害物を避けて走行してください。
- ドアウインドウとスライディングルーフは常に閉じておいてください。
- できるだけわだちから外れないように走行してください。

オフロードを走行する前に

- エンジンオイル量を点検してください。エンジンオイル量が少ないときは必ず補給してください（▷253 ページ）。
- ジャッキが正常に動くか点検してください。万一のためにけん引用ケーブルや折りたたみ式スコップなどを車に積んでおいてください。
- タイヤの溝の深さと空気圧を点検してください。
- タイヤに損傷がないか点検し、小石などの異物が挟まっている場合は取り除いてください。
- タイヤのバルブキャップが紛失している場合は、取り付けてください。
- ホイールリムが歪んでいたりホイールに損傷がある場合は交換してください。

オフロードを走行した後に

オフロード走行後は車を点検してください。車の損傷は乗り心地を悪化させ、事故の原因になります。指定サービス工場で点検を受けてください。

▶ ローレンジからノーマルレンジにしてください。

▶ DSR を解除してください。

▶ ディファレンシャルロックを AUTO モードにしてください。

▶ レベルコントロールで、路面に適した車高にしてください。

▶ ヘッドランプやテールランプなどを洗浄し、損傷がないか点検してください。

▶ ライセンスプレートを洗浄してください。

▶ ホイールとタイヤをスプレーガンなどで洗浄し、タイヤに挟まった異物を取り除いてください。

▶ ホイールやホイールハウス、ボディ底部をスプレーガンなどで洗浄し、各部の損傷や異物の有無などを確認してください。

▶ 植物や枝などが車体や駆動部に挟まっていないか点検してください。これらが挟まっていると火災の危険があるほか、燃料系部品、ブレーキホース、アクスルジョイントやプロペラシャフトのカバーなどを損傷するおそれがあります。

▶ 走行後に、車の底部、ホイール、タイヤ、ブレーキ、ボディ、ステアリング、駆動系部品、排気系部品などに損傷がないか点検してください。

▶ 砂地、ぬかるみ、砂利道、水の中など、汚れた状況で走行した後は、ブレーキディスク、ホイール、ブレーキパッド、アクスルジョイントを点検し、掃除してください。

▶ 走行中に強い振動を感じる場合は、ホイールの隙間や駆動部などに異物がかみ込んでいないか点検してください。

坂道の走行

アプローチ / デパーチャーアングル

① アプローチアングル（フロント）
② デパーチャーアングル（リア）

選択している車高レベルにより、アプローチ / デパーチャーアングルは異なります。

車高レベルについては（▷185 ページ）をご覧ください。

車高レベル	アプローチアングル（フロント）	デパーチャーアングル（リア）
オフロードレベル 3	約 33 °	約 27 °
オフロードレベル 2	約 32 °	約 26 °
オフロードレベル 1	約 28 °	約 23 °
通常走行レベル	約 27 °	約 21 °

- 坂道はできるだけまっすぐに上り、まっすぐに下りてください。
- 急勾配の坂を上り下りするときは、走行前にローレンジにしてください。
- オフロード走行時の注意をお読みください。
- 低速で走行してください。
- アクセルペダルはゆっくり踏み込み、常にタイヤが地面に接していることを確認してください。
- 砂地や泥濘地などの走行抵抗の大きい路面以外は、エンジンを高回転までまわさないようにして走行してください。
- 坂の勾配に合わせて、ティップシフトでギアレンジを選択してください（▷121 ページ）。
- 坂を下る前にティップシフトでギアレンジ **D1** を選択してください。

ⓘ 急な坂道で停車したときは、以下の操作により車の後退を防ぐことができます。

- シフトポジションを **D** にしてください。
- ノーマルレンジからローレンジにしてください。

ブレーキペダルから足を放し、アクセルペダルを踏み込みます。

ヒルスタートアシスト（▷115 ページ）が作動して、発進を補助します。

急勾配の坂道

路面状態が良く、ローレンジを選択したときは、急勾配の坂道を上ることが可能になります。

ⓘ 急勾配の坂で前輪の荷重が不足したときは、前輪は空転しやすくなります。このような状況を検知すると4ETS が作動し、自動的にブレーキ制御を行ないます。これにより後輪へのトルク配分が増えて登坂能力が増します。詳しくは（▷53 ページ）をご覧ください。

坂を上り切ったとき

坂を上り切る直前にアクセルペダルをゆるめ、車の惰性を利用して上ってください。

これにより、車が跳ねたりせず、駆動力を失うことがありません。また、速度が上がりすぎないようにして下り坂に備えることもできます。

坂を下るとき

- 低速で走行してください。
- 坂道はできるだけまっすぐに下りてください。前輪が斜面に対してまっすぐ下り方向を向いていることを確認してください。
- 坂を下る前にティップシフトでギアレンジ **D1** を選択してください。
- DSR を作動させてください。DSR による制動力が不十分なときは、前輪が斜面に対してまっすぐ下り方向を向いていることを確認して、慎重にブレーキペダルを踏んでください。

- 長い下り坂を走行した後は、必ずブレーキを点検してください。

ℹ ローレンジにしたときは、自動的にオフロード ABS になり、悪路での制動力を高めます (▷48 ページ)。

オフロード ABS の作動時はフロントタイヤがロックするため車の操縦性に影響をあたえるおそれがあります。

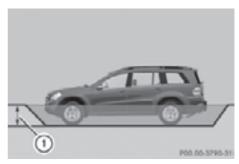
障害物を乗り越えるとき

木の切り株や大きな石、その他の障害物を乗り越えるときは、以下の注意に従ってください。

- ローレンジにしてください。
- エンジンを高回転までまわさないようにして走行してください。
- ティップシフトでギアレンジ **D1** を選択してください。
- ごく低速で走行してください。
- 障害物に対して直角になるようにして、まず前輪で障害物の中央を乗り越え、次に後輪で乗り越えてください。

❗ 障害物により、車の底部や車体、駆動部を損傷するおそれがあります。大きな障害物を乗り越えるときは、同乗者に車外から誘導してもらってください。

河川などを渡るとき

最大許容水深値

① 最大許容水深値

選択している車高レベルにより、最大許容水深値は異なります。

車高レベルについては (▷185 ページ) をご覧ください。

車高レベル	最大許容水深値
オフロードレベル 3	約 60cm
オフロードレベル 2	約 50cm
オフロードレベル 1	約 50cm

❗ 最大許容水深値を超えるところは絶対に走行しないでください。

- 走行前に水深と水流の状況を確認してください。
- レベルコントロールで、車高を一番上げた状態にしてください。
- ローレンジにしてください。
- ティップシフトでギアレンジ **D1** または **D2** を選択してください。

- エンジンを高回転までまわさないようにして走行してください。
- 水に入るときと出るときは水深の浅い場所を選択し、人が歩くくらいの速度で走行してください。

! 水に入るときは決して速度を上げないでください。波が立ち、エンジンや車体を損傷するおそれがあります。

- ゆっくりと一定の速度を保って走行してください。
- 河川を渡っている途中で停車しないでください。

! 河川を渡っている途中でドアを開かないでください。浸水すると、内装や電気装備を損傷するおそれがあります。

- 河川を渡っている途中で停車したり、エンジンを停止しないでください。水の中は抵抗が大きく、川底も滑りやすいため、発進が困難になります。
- 波が立たないように走行してください。
- 河川を渡った後は、タイヤの溝を洗浄し、付着した泥などを取り除いてください。
- 河川を渡った後は、ブレーキの効きが悪くなります。ブレーキペダルを軽く数回踏んでブレーキパッドを乾かしてください。また、タイヤの溝を洗浄してください。

砂地を走行するとき

- レベルコントロールで、車高を上げてください。
- 状況に合わせてティップシフトでギアレンジを選択してください。
- 走行抵抗が大きいため、やや速度を上げて走行してください。車が砂地に埋まるおそれがあります。
- 他の車が残した浅いわだちをなぞって走行してください。このときは、わだちの深さと固さに注意してください。

わだちを走行するとき

! わだちと車の底部との間に十分な余裕があることを確認してください。車の底部が地面に接触したり、タイヤが地面から離れて走行不能になるおそれがあります。

- ローレンジにしてください。
- レベルコントロールで、車高を上げてください。
- エンジンを高回転までまわさないようにして走行してください。
- ティップシフトでギアレンジ **D1** を選択してください。
- 低速で走行してください。
- わだちが深い場合は、左右どちらかの車輪をわだちの間に乗せて走行してください。

メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転するためには、指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

ダイムラー社指定の点検整備

ダイムラー社の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。

1 年および 2 年点検整備

1 年、2 年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。

次の点検時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

整備手帳

車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

日常点検

長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、日常、車を使用するときにお客様ご自身の判断で実施していただく点検です。

点検項目は整備手帳に記載されています。

点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

メンテナンスインジケーター画面

走行距離や経過時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

メンテナンスインジケーター画面が表示されたときは、メーカー指定点検整備を行なってください。

! メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量表示やエンジンオイル量の警告表示ではありません。

! メーカー指定点検整備を実施時期までに行なわなかった場合は、保証などの対象外になることがあります。

自動表示機能

次のメーカー指定点検整備の約 1 カ月前になると、イグニッション位置を **2** にしたときやエンジンがかかっているときに、メンテナンスインジケーター画面が自動的に表示されます。

画面は数秒後に表示前の画面に戻ります。

表示中に画面を戻すときは、リセットボタン（▷126 ページ）を押します。

手動で表示させる

メンテナンスインジケーター画面は、手動でも表示できます。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ [button] または [button] を押して、車両情報メイン画面を表示させます。

▶ [▲] または [▼] を押して、メンテナンスインジケーター画面を表示させます。

表示メッセージ

表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように変化します。# には "A" から "H" までのアルファベットが入ります。

点検整備実施前の表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｱﾄ XX ﾆﾁ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｱﾄ XX km"

点検整備実施時期になったときの表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｼﾞｯｺｳ ｼﾏｽ !"

点検整備実施時期を過ぎたときの表示例

以下のようなメッセージが表示され、警告音が鳴ります。

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # XX ﾆﾁ ｺｴﾃｲﾏｽ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # XX km ｺｴﾃｲﾏｽ "

ⓘ " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A" " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B" など、" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ " の後に表示される "A" から "H" のアルファベットは、次回のメーカー指定点検整備の範囲が、点検項目の少ない点検整備から総合的な点検整備まで、どれに該当するかを示すものです。ただし、日本では法定点検があるため、これらの範囲と法定点検の範囲は異なります。

ⓘ " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A ＋ " " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ＋ " など、"A" から "H" のアルファベットの後に " ＋ " の表示があるときは、ブレーキ部品交換などの点検整備が含まれていることを示します。

ⓘ ブレーキパッドは次回のメーカー指定点検整備以前に摩耗の限界に達することがあります。ブレーキパッドの交換については、指定サービス工場で相談の上、以下のどちらかで対処してください。

- 今回のメーカー指定点検整備で交換する
- 後日に別途交換する

ⓘ メンテナンスインジケーターが自動的に表示される時期は一定ではなく、運転スタイルや走行距離などにより変わります。

エンジン回転数を適度に保ち、短距離短時間の運転を避けると、次回のメーカー指定点検整備の実施時期までの走行距離が伸びることがあります。

ⓘ バッテリーの接続を外している間の経過日数は、加算されません。

メンテナンスインジケーターのリセット

メーカー指定点検整備の実施後に、指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットしてください。

リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、走行距離では 15,000km、日数では 365 日に設定されます。いずれか先に達する距離または時期を次回のメーカー指定点検整備時期として表示します。

! メンテナンスインジケーターの表示などに異常があるときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

日常の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも車を美しく保つことができます。

日常の手入れには、ダイムラー社が指定する用品のみを使用してください。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

⚠ 中毒や火災のおそれがあります

一部の合成クリーナーなどには、有機溶剤や可燃性物質が含まれていることがあります。カーケア用品を使用するときは、必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示に従ってください。

車内でカーケア用品を使用するときはドアやドアウインドウを開き、十分に換気してください。有機溶剤による中毒を起こしたり、静電気が可燃性ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。

車の手入れをするときに、ガソリンやシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。

カーケア用品は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり保管しないでください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

外装

- 走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
- 少なくとも月に 1 度は洗車してください。
- 飛び石などにより塗装面を損傷すると、錆の原因になります。早めに補修を行なってください。
- 保管や駐車は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をお勧めします。
- 泥や虫の死がい、鳥のふん、樹液、油脂類、燃料およびタールなどが付着したときは、すみやかに拭き取ってください。特に、鳥のふんは塗装面を損傷しやすいので、できるだけ早く水で洗い流してください。
- 凍結防止剤が散布してある道路を走行したときは、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダー内を洗い流してください。
- 直射日光が強く当たる場所や走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ボディの表面にステッカーやフィルム、マグネットなどを貼付しないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 誤って傷を付けたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、早めに指定サービス工場で補修することをお勧めします。

洗車

▶ ボディ全体に低圧で水をかけ、ほこりなどを洗い流します。

▶ 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を用意し、車全体にかけます。外気取り入れ口付近では少量にし、ダクト内に洗浄液が残らないように注意してください。

▶ スポンジやセーム皮などを使用して、十分な量の水で洗い流します。

▶ 洗車後は、すみやかに水滴を拭き取ります。

洗車時の注意

洗車をするときは、以下の点に注意してください。

- 水が凍るような寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。
- 虫の死がいなどは、洗車前に取り除いてください。
- コールタールやアスファルトの汚れは、乾いてしまうと落としにくくなるので、早めに処理してください。
- 洗車をするときはマフラーに注意してください。マフラー後端に触れて火傷をしたり、けがをするおそれがあります。
- 走行した直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。

- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルトが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。
- ヘッドランプを含むランプ類は樹脂製レンズです。流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。また、乾いた布などで強くこすると細かい傷を付けるおそれがあります。
- パークトロニックセンサーを清掃するときは、乾いた布や目の粗い布、かたい布などは使用しないでください。また、純正以外の手入れ用品を使用したり、強い力で乾拭きしないでください。センサーを損傷するおそれがあります。
- ディストロニックセンサー＊のカバーを清掃するときは、イグニッション位置を **0** にするかキーを抜いてください。

高圧式スプレーガンの使用

- 高圧式スプレーガンのノズルは、車から十分離して使用してください。水圧が高すぎると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをウインドウガラス接合面やボディパネルの継ぎ目部分、サスペンション、電気装備、コネクター類などに近付けないでください。水圧が高いため、車内に水が侵入したり、防水シールや塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷するおそれがあります。
- パークトロニックセンサー、ディストロニックセンサー、パーキングアシストリアビューカメラやサイドビューカメラには、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用しないでください。センサーやカメラ、塗装面を損傷するおそれがあります。

自動洗車機の使用

自動洗車機で洗車するときは以下の点に注意してください。

- 車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。
- 自動洗車機が車のサイズに合っていることを確認してください。
- 洗車前にドアミラーを格納してください。
- ドアウインドウやスライディングルーフを完全に閉じ、ワイパーを停止してください(▷105、106 ページ)。

- 回転ブラシのかたさによっては、細かな傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。
- 洗車後は、フロントウインドウやワイパーブレードに付着した洗浄液を拭き取ってください。

マフラーの手入れ

路面の小石や腐食性のある環境物質などの不純物の影響により、マフラーの表面にサビが発生することがあります。

定期的にマフラーを手入れすることにより、マフラーの輝きを保ち、また元の輝きを取り戻すことができます。

! ホイールクリーナーなど、アルカリ性のクリーナーでマフラーの手入れを行なわないでください。

マフラーの手入れについては、指定サービス工場におたずねください。

車内

- プラスチック部分は、少量の中性洗剤などを混ぜた水を柔らかい布に含ませて拭き取ります。

  乾いた布や目の粗い布、かたい布などを使用したり、強くこすらないでください。表面を損傷するおそれがあります。
- ウッドトリムなどの部分は、水で湿らせた柔らかい布を使用して拭き取ります。頑固な汚れには少量の石けん水を使用します。

  また、有機溶剤を含むクリーナーなどは使用しないでください。ウッドトリムなどを損傷するおそれがあります。
- ウインドウに、極細の熱線やアンテナ線がプリントされている車種があります。ガラス面の内側を清掃するときは、湿った柔らかい布を使用して、熱線やアンテナ線に沿って拭き取り、傷を付けないように注意してください。

  また、乾いた布で拭いたり、研磨剤や有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。
- ウインドウに遮光フィルムなどを貼付すると、携帯電話やラジオなどの電波に影響をあたえるおそれがあります。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

 けがのおそれがあります

エアバッグの収納部分には、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。エアバッグが正常に作動しなくなり、けがをするおそれがあります。

車載品の収納場所

事故・故障のとき

⚠ **火災や爆発のおそれがあります**

燃料などが漏れている場合は、すぐにエンジンを停止してください。また、車に火気を近付けないように注意してください。火災が発生したり、爆発するおそれがあります。

事故が起きたとき

すみやかに、以下の処置を行なってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 自動車保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所に停車して、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

車が動かなくなったとき

シフトポジションを **N** にして、同乗者や付近の人に救援を求め、安全な場所まで車を押して移動してください。このときは、車速感応ドアロックによるキーの閉じ込みに注意してください。

シフトポジションを **N** にできないときは、乗員を安全な場所に避難させて、続発事故を防いでください。

! 踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具を使用してください。

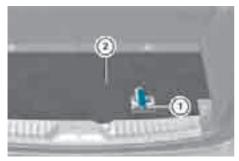
非常信号用具

懐中電灯をフロントドアポケットに備えています。

i 新車時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。

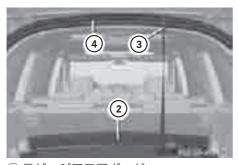
i 懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

停止表示板

停止表示板はラゲッジフロアボードの下に収納されています。

① ハンドル
② ラゲッジフロアボード

停止表示板はラゲッジフロアボードの下に収納されています。

ラゲッジフロアボードを開く

▶ ハンドル①の矢印の部分を押してハンドルを起こし、ラゲッジフロアボード②を引き上げます。

② ラゲッジフロアボード
③ フック
④ 開口部上端

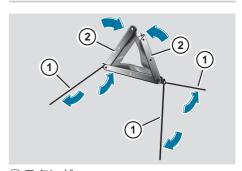
▶ ラゲッジフロアボード②を持ち上げ、裏側にあるフック③をテールゲート開口部上端④にかけます。

ラゲッジルームカバーをサードシート後方に取り付けているときは、ラゲッジルームカバーの後端を下方に曲げながら作業を行ないます。

! フック③をテールゲート開口部上端④にかけたまま、テールゲートを閉じないでください。フックやテールゲートを損傷するおそれがあります。

⑤ 停止表示板ケース

▶ 停止表示板ケース⑤を取り出します。

停止表示板の組み立て

① スタンド
② 反射板

※ 停止表示板の形状が異なる場合があります。

▶ 停止表示板ケースから停止表示板を取り出します。

▶ 反射板②を引き出し、頂点をかみ合わせてロックします。

▶ 左右のスタンド①を引き出します。

▶ スタンド①を拡げて地面に立てます。

救急セット

① クリップ
② カバー

救急セットはラゲッジルーム左側の小物入れに収納されています。

救急セットの中身が揃っていて、使用可能であることを定期的に点検してください。

救急セットを取り出す

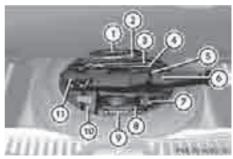
▶ クリップ①を矢印の方向に約 90 度まわし、カバー②を取り外します。

▶ ストラップを外して、救急セットを取り出します。

救急セットを収納する

▶ 救急セットを元の位置に収納してから、カバー②を取り付け、クリップ①をまわしてカバーを固定します。

車載工具

車載工具はラゲッジフロアボードの下に収納されています。

① ガイドボルト
② けん引フック
③ ホイールレンチ
④ ジャッキハンドル
⑤ ストラップ
⑥ ジャッキ
⑦ 応急用スペアタイヤ用ホイールボルト
⑧ 輪止め
⑨ ヒューズ配置表（英文）
⑩ トレイ
⑪ 停止表示板ケース

※ 応急用スペアタイヤ用ホイールボルトは、応急用スペアタイヤ用ホイールに添付されていたり、トレイまたは応急用スペアタイヤの下に収納されていることがあります。

⚠ けがのおそれがあります

車が車載のジャッキだけで支えられているときは、絶対に車の下に身体を入れないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。車載のジャッキは、タイヤを交換するために車を一時的に持ち上げる目的のみに設計されています。

けがのおそれがあります

ジャッキはかたくてすべりにくい、水平な場所でのみ使用してください。パーキングブレーキを確実に効かせ、さらに輪止めを使用して、車が動き出してジャッキから外れることを防いでください。

応急用スペアタイヤを取り出す

⑫ スクリュー

けがのおそれがあります

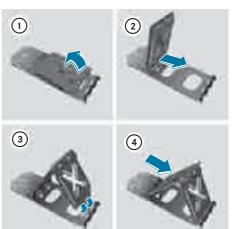
応急用スペアタイヤは非常に重いため、取り出すときにけがをしないように注意してください。

▶ ストラップ⑤を外して、停止表示板ケース⑪とジャッキ⑥を取り外します。

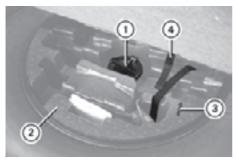
▶ スクリュー⑫を反時計回りにまわして取り外します。

▶ トレイ⑩を取り外します。

▶ 応急用スペアタイヤを取り外します。

輪止め

ジャッキを使用するときなどには、輪止めを使用し、車が動き出さないようにしてください。

! 輪止めを使用するときは図④の矢印の方向にタイヤがあたるようにします。方向に注意してください。

車載工具などを収納する

スクリューを取り付けた状態

① スクリュー
② トレイ
③ トレイの収納方向表示
④ ストラップ

▶ 停止表示板ケースおよびジャッキを除く車載工具類をトレイ②に収納します。

▶ スクリュー①を取り付け、時計回りにまわして、トレイを固定します。

▶ 停止表示板ケースとジャッキをトレイに収納して、ストラップ④で固定します。

ⓘ トレイを収納するときは、収納方向表示③の矢印が前方を向くようにしてください。ジャッキがトレイに収納できず、ラゲッジフロアボードが完全に閉じなくなります。

ⓘ トレイを収納するときは、ストラップ④がトレイの下に挟まれないようにしてください。停止表示板ケースやジャッキが固定できなくなります。

故障 / 警告メッセージ

車の機能やシステムに故障や異常が発生すると、マルチファンクションディスプレイに警告や注意、対応方法などが表示されます。

故障 / 警告メッセージによっては警告音が鳴ることがあります。また、重要度の高いメッセージは、赤色で表示されます。

故障 / 警告メッセージが表示されたときは、以降の指示に従ってください。

⚠ **事故のおそれがあります**

- メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障した場合は、表示灯 / 警告灯や故障 / 警告メッセージが表示されません。車両操縦性などに悪影響をおよぼすような故障や異常が発生した場合は内容が確認できないため、ただちに指定サービス工場に連絡してください。
- 表示される故障や異常は、一部の限られた装備についてであり、また表示される内容も限られています。故障表示の機能は運転者を支援する装置です。発生した故障や異常に対処して車の安全性を維持する責任は運転者にあります。
- 走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- 走行する前には必ずイグニッション位置を **2** にして、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイが表示されることを確認してください。

- 点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えた指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

  特に安全に関わる整備については、必ず指定サービス工場で点検整備や修理を行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

故障 / 警告メッセージを表示させる

▶ ステアリングの [⊟] または [⊟] スイッチを押して、マルチファンクションディスプレイに故障表示画面を表示させます。

故障や異常がある場合は、" ｺｼｮｳｶﾞ 3" のように故障件数が表示されます。

故障や異常がない場合は、故障表示画面は表示されません。

▶ [▲] または [▼] を押して、故障 / 警告メッセージを順番に表示させます。すべて表示されると、故障件数画面に戻ります。

故障 / 警告メッセージの表示を消す

重要度の高いメッセージは消すことができません。故障や異常の原因が解決するまで、故障 / 警告メッセージが繰り返し表示されます。

一部のメッセージは車両に記憶され、手動でメッセージを呼び出すことができます。

メッセージはマルチファンクションステアリングにより消すことができます。

▶ メッセージが表示されているときに、ステアリングの [⊟] [⊟] や [▲] [▼] スイッチ、または リセットボタンを押します。

※ 記載の故障 / 警告メッセージは、取扱説明書作成時点のものです。マルチファンクションディスプレイの表記などは、予告なく変更・追加されることがあります。

文字メッセージ

⚠ **事故やけがのおそれがあります**

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えた指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ず指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ABS	ABS ト ESP ｼﾖｳﾌｶﾉｳ ! ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** システムの自己診断が完了していないなどのため、一時的に ABS と ESP、PRE-SAFE が作動しない状態になっている。BAS の機能も解除されている。 上記の機能は作動しないが、ブレーキは通常通り作動する。 ▶ 約 20km/h 以上の速度で、ゆるやかにカーブしている道路を、注意しながら少し走行してください。 メッセージが消えれば、ABS と ESP は作動できる状態になります。
ABS	ABS ト ESP ｼﾖｳﾌｶﾉｳ ! ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 電圧低下のため、ABS と ESP、PRE-SAFE が作動しない状態になっている。BAS の機能も解除されている。 上記の機能は作動しないが、ブレーキは通常通り作動する。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
	ABS ト ESP ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP、PRE-SAFE が作動しない状態になっている。BAS の機能も解除されている。 上記の機能は作動しないが、ブレーキは通常通り作動する。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸ	- - - km/h	設定条件を満たしていないときにディストロニックを作動させようとした。 ▶ 設定可能な状況であれば、約 30km/h 以上の速度で走行し、ディストロニックを設定してください。 または ▶ ディストロニックの作動条件を確認してください。
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸ	ｵｰﾊﾞｰﾗｲﾄﾞ	アクセルペダルを踏んで速度を上げたため、ディストロニックによる速度の調整ができない。 ▶ アクセルペダルから足を放して速度を下げてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸ	ｺｼｮｳ	ディストロニックが故障している。またはディスプレイ表示に異常がある。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸ	ｹﾞﾝｻﾞｲ ｼﾖｳﾌｶﾉｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	以下のときは、ディストロニックの機能が解除され、一時的に作動を停止している。 • フロントグリルのディストロニックカバーが汚れている • 豪雨や雪などのため、機能が解除されている • テレビ局やラジオ局、他の電磁波発信元から発せられる電磁波などにより、レーダーセンサーが一時的に作動しない状態になっている • レーダーセンサーが長時間、先行車や交通標識などの静止物を検知していなかった • システムが作動可能な温度範囲から外れた 以下のときは、ディストロニックが作動を再開し、メッセージが消えます。 • 走行中に泥などの汚れが落ちたとき • センサーが再び完全に機能していることをシステムが検知したとき • システムが作動可能な温度範囲に入ったとき **メッセージが表示され続けるとき** ▶ フロントグリルのディストロニックカバーを清掃してください。 ▶ エンジンを再始動してください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ESP	ESP ｼｮｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ！ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** システムの自己診断が完了していないなどのため、一時的に ESP と PRE-SAFE が作動しない状態になっている。BAS の機能も解除されている。 ▶ 約 20km/h 以上の速度で、ゆるやかにカーブしている道路を、注意しながら少し走行してください。 メッセージが消えれば、ESP は作動できる状態になります。
		⚠ **事故のおそれがあります** 電圧低下のため、ESP と BAS、PRE-SAFE が作動しない状態になっている。 上記の機能は作動しないが、ブレーキは通常通り作動する。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
		走行中にメッセージが表示され、メーターパネルの ESP / ETS 表示灯が点滅しているときは、ブレーキの過熱を防ぐため ETS の機能が解除されている。 ▶ メッセージが消え、ESP / ETS 表示灯も消灯するまで、走行風でブレーキが冷えるように走行してください。 ETS は自動的に待機状態になります。
ESP	ESP ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP と BAS、PRE-SAFE が作動しない状態になっている。 メーターパネルの ESP / ETS 表示灯が点灯している。 上記の機能は作動しないが、ブレーキは通常通り作動する。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
P ﾚﾝｼﾞ ﾊ	ﾃｲｼｼﾞ ﾉﾐ	走行中にシフトポジションを P にしようとした。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ シフトポジションを P にしてください。

万一のとき

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ｾﾚｸﾀｶﾞ	ｿｳｺｳｲﾁ	シフトポジションが D、R、N のいずれかのときに運転席ドアを開いた。 ▶ シフトポジションを P にしてください。 ▶ パーキングブレーキを確実に効かせてください。
	ｷﾞﾔﾁｪﾝｼﾞ ｾｽﾞﾆ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	故障のため、シフトポジションを変更できない。 **シフトポジションが D のとき** ▶ シフトポジションを D から動かさないようにして、指定サービス工場まで走行してください。 **シフトポジションが N、R、P のいずれかのとき** ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
ｴﾝｼﾞﾝｽﾀｰﾄ ﾉ ﾀﾒ	P ﾏﾀﾊ N ﾆｼﾌﾄ	シフトポジションが D か R のときにエンジンを始動しようとしている。 ▶ シフトポジションを P か N にしてください。
P ﾚﾝｼﾞｶﾗ ｼﾌﾄ	ﾌﾞﾚｰｷｦ ﾌﾝﾃﾞｸﾀﾞｻｲ	▶ ブレーキペダルを踏みながら、シフトポジションを P にしてください。
ﾌﾟﾚｾｰﾌ	ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **けがのおそれがあります** PRE-SAFE が故障している。 エアバッグなど他の乗員保護装置の機能は確保されている。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ	ﾀｲﾔ ｦ ﾃﾝｹﾝ！	⚠ **事故のおそれがあります** タイヤ空気圧警告システムがタイヤからの空気漏れを検知した。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。 ▶ タイヤを点検してください。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であればタイヤ空気圧を適正にしてください。 ▶ 必要であれば該当するタイヤを交換してください（▷328 ページ）。 ▶ タイヤを交換し、適正なタイヤ空気圧に調整した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷262 ページ）。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ﾀｲﾔﾁｪｯｸ ﾃﾝｹﾝ	ｿﾉｺﾞ ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ	タイヤ空気圧警告システムの警告が行なわれた。 ▶ すべてのタイヤの空気圧が適正であることを確認してください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷262 ページ）。
ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ	ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｺｼｮｳ	タイヤ空気圧警告システムに異常がある。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｵﾖﾋﾞ ｽﾋﾟｰﾄﾞ ﾘﾐｯﾀｰ	ｺｼｮｳ	クルーズコントロールおよび可変スピードリミッターに異常がある。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸ ｵﾖﾋﾞ ｽﾋﾟｰﾄﾞ ﾘﾐｯﾀｰ	ｺｼｮｳ	ディストロニックおよび可変スピードリミッターに異常がある。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ	- - - km/h	設定条件を満たしていないときにクルーズコントロールを作動させようとした。 ▶ ESP が解除されているときは、待機状態にしてください。 ▶ 設定条件を満たしているときは、約 30km/h 以上の速度で走行して、クルーズコントロールを設定してください。

イラストメッセージ

⚠ 事故やけがのおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えた指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ず指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
		テールゲートが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ テールゲートを閉じてください
		⚠ 事故のおそれがあります ボンネットが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ ボンネットを閉じてください。
		ドアが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ ドアを閉じてください。
		ラジエターの冷却ファンに異常がある。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下のときは、最寄りの指定サービス工場まで走行することができます。 ▶ このときは、山道での走行などでエンジンに大きな負担をかけたり、発進 / 停止を繰り返さないでください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	（赤色で表示）	以下の原因によりバッテリーが充電されていない。 • オルタネーターの故障 • V ベルトの損傷 • 電気システムの故障 ▶ 周囲の状況に注意しながら停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ V ベルトを点検してくだい。 **V ベルトが切れているとき** ! 走行を続けないでください。オーバーヒートするおそれがあります。 ▶ エンジンを始動しないでください。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。 **V ベルトが損傷していないとき** ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	（白色で表示）	オートマチックトランスミッション用の補助バッテリーが充電されていない。 ▶ 以下のことを行なってから、指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ エンジンを停止する前に、シフトポジションを P にしてください。 ▶ 車を離れる前にパーキングブレーキを効かせてください。
	ﾊﾞｯﾃﾘｰ / ｵﾙﾀﾈｰﾀ ﾃｲｼｬ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ！	バッテリーに異常がある。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
	ﾌﾞﾚｰｷﾊﾟｯﾄﾞ ﾏﾓｳ	ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	EBV, ABS, ESP ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、EBV、ABS、ESP、PRE-SAFE が作動しない状態になっている。BAS の機能も解除されている。 上記の機能は作動しないが、ブレーキは通常通り作動する。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
(!)	ブ レーキ オイル レベ ル テンケン	⚠ 事故のおそれがあります リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
(P)	パ ーキング ブ レーキ カイジ ョ シテクダ サイ !	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。
SRS	SRS システム コウジ ョウデ テンケン	⚠ けがのおそれがあります 乗員保護装置が故障している。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
	フューエル フィルタ セイソウ	燃料フィルターに水がたまっている。燃料フィルターから水を取り除く必要がある。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	レベ ルチョウセイ シヨウフカ	以下のときには車高の調整ができない。 • 設定しようとしている車高レベルに対して、走行速度が高すぎる • けん引車両がある • けん引装置を使用している ▶ 速度を落としてから、車高を調整してください。
	コンプ レッサ レイキャク オマチクダ サイ	車高レベルを頻繁に変更したため、車高を上げようとしたときにエアポンプを冷却する必要が生じた。 ▶ 車高レベルに合わせて走行してください。 ▶ 路面との間に十分な空間が確保されていることを確認してください。 ▶ エアポンプが冷却されるまで待ってください。 エアポンプが冷却されるとメッセージが消え、選択した車高レベルに設定されます。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ｺｼｮｳ	車高調整装置が故障している。 ▶ 車高レベルに合わせて走行してください。ただし約 80km/h を超えないようにしてください。 ▶ 路面との間に十分な空間が確保されていることを確認してください。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｼﾞｮｳｼｮｳﾁｭｳ max.20km/h	車高がオフロードレベル 3 に設定されようとしている。ディスプレイにはオフロードレベル 3 での許容最高速度が表示されている。 ▶ 約 20km/h 以下の速度で走行してください。
	max.20km/h	車高がオフロードレベル 3 に設定されている。ディスプレイにはオフロードレベル 3 での許容最高速度が表示されている。 ▶ 約 20km/h 以下の速度で走行してください。
	ｶｺｳﾁｭｳ max.20km/h	車高がオフロードレベル 3 からオフロードレベル 2 に設定されようとしている。ディスプレイにはオフロードレベル 3 での許容最高速度が表示されている。 ▶ 車高がオフロードレベル 2 に設定されるまで約 20km/h 以下の速度で走行してください。
	ｿｸﾄﾞ 20 km/h ｲｶﾆ ｹﾞﾝｿｸ	⚠ **事故のおそれがあります** 選択したオフロードレベルの許容最高速度を超えた速度で走行している。 ▶ 約 20km/h 以下の速度で走行してください。 ▶ 変化したハンドリング特性に合わせて走行してください。 ▶ 急激および大きなステアリング操作をしないでください。 ▶ 操縦性の違いに注意して走行してください。
	ﾃﾞﾌﾛｯｸｼｽﾃﾑ ｺｼｮｳ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	ディファレンシャルロックシステムが故障している。 ▶ 約 80km/h を超えないように走行してください。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾃﾞﾌﾛｯｸｼｽﾃﾑ ｶﾈﾂ ｽｺｼ ｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ	ディファレンシャルロックシステムが過熱しているため、ディファレンシャルロックが解除されている。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ディファレンシャルロックシステムが冷却されるまで待ってください。 ディファレンシャルロックシステムが冷却されるとメッセージが消え、ディファレンシャルがロックされます。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ｺｼｮｳ	故障のため、DSR の機能が解除されている。 ▶ 指定サービス工場で DSR の点検を受けてください。
ﾃｲｼｬ ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ ｿｳｻ	ローレンジ / ノーマルレンジの切り替えが完了していない。 トランスファーがニュートラルになっていて、エンジンと駆動輪がつながっていない。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを確実に効かせてください。状況を問わず走行を続けないでください。 ▶ 再度ローレンジ / ノーマルレンジの切り替え操作を行なってください。
ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ ﾃｲｼｬｼﾞ P ﾌﾞﾚｰｷ ｿｳｻ	トランスファーが故障している。 ▶ 約 80km/h を超えないように走行してください。 ▶ 駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせてください。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
max.70km/h ﾃﾞ ｿｳｺｳ	走行速度が約 70km/h を超えているため、ローレンジからノーマルレンジへの切り替え操作ができない。 ▶ 約 70km/h 以下の速度で操作してください。 トランスファーの切り替え操作が可能になります。
max.40km/h ﾃﾞ ｿｳｺｳ	走行速度が約 40km/h を超えているため、ノーマルレンジからローレンジへの切り替え操作ができない。 ▶ 約 40km/h 以下の速度で操作してください。 トランスファーの切り替え操作が可能になります。
ﾀﾝｼﾞｶﾝ N ﾆ ｼﾌﾄｼﾃｸﾀﾞｻｲ	トランスファーの切り替え操作をするために速度を落としたが、シフトポジションが N になっていない。 ▶ 短時間シフトポジションを N にしてください。
ｼﾌﾄﾄﾞｳｻ ｷｬﾝｾﾙ ｻｲｷﾄﾞｳ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	ローレンジ / ノーマルレンジの切り替えが中断された。 ▶ 再度切り替え操作を行なってください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾃｲｼｬ ｼﾃ 、 ｴﾝｼﾞﾝ ｦ ﾃｲｼ !	冷却水の温度が高すぎる。 ▶ 周囲の状況に注意しながら安全な場所に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ 雪やほこり、または氷などで、ラジエターへの送風が遮られていないことを確認してください。 ▶ メッセージが消えてからエンジンを始動してください。メッセージが消えるまで待たないと、エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 冷却水温度画面（▷133 ページ）で冷却水温度を点検してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
		ベルトが切れている可能性がある。 ▶ 周囲の状況に注意しながら安全な場所に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ Ｖベルトを点検してください。 **Vベルトが切れているとき** ! 走行を続けないでください。オーバーヒートするおそれがあります。 ▶ エンジンを始動しないでください。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。 **Vベルトが損傷していないとき** ▶ メッセージが消えてからエンジンを始動してください。メッセージが消えるまで待たないと、エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 冷却水温度画面（▷133 ページ）で冷却水温度を点検してください。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾎｼﾞｭｳ	冷却水量が不足している。 ▶ 冷却水を補給してください（▷255 ページ）。 ▶ 通常より頻繁に冷却水を補給している場合は、指定サービス工場で冷却システムの点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ﾋﾀﾞﾘ ﾛｰ ﾋﾞｰﾑ [1]	左ヘッドランプ(ロービーム)が切れている。 ▶ すみやかに電球を交換してください。
	ｵｰﾄﾗｲﾄ ｺｼｮｳ	ランプセンサーが故障している。自動的にランプが点灯する。 ▶ マルチファンクションディスプレイの各種設定で、ランプを手動点灯に切り替えてください(▷143 ページ)。 ▶ ランプスイッチでランプを点灯 / 消灯してください。
	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ｹｼﾃ ｸﾀﾞｻｲ!	ランプスイッチをの位置にしたままキーを抜いて運転席ドアを開くか、キーレスゴースイッチでイグニッション位置を **0** にして運転席ドアを開いた。 ▶ ランプスイッチを 0 の位置にしてください。
	ｴｱｸﾘｰﾅ ｺｳｶﾝ	エアフィルターが汚れていて、交換時期になっている。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｷｭｳﾕ ﾉ ｻｲﾆ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙﾃﾝｹﾝ	エンジンオイル量が限界まで減っている。 ▶ エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください(▷253 ページ)。 ▶ 通常より頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、エンジンからオイルが漏れていないか点検してください。
	ｷｭｳﾕ ﾉ ｻｲﾆ 1 ﾘｯﾀｰ ｵｲﾙ ｦ ﾂｲｶ!	エンジンオイル量が不足している。 ▶ エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください(▷253 ページ)。 ▶ 通常より頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、エンジンからオイルが漏れていないか点検してください。
	ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ﾃｲｼｬ ｼﾃ ｴﾝｼﾞﾝ ﾃｲｼ	エンジンオイルがほとんどなくなっている。エンジンを損傷するおそれがある。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ エンジンオイルを補給して、エンジンオイル量を点検してください(▷253 ページ)。

1) 他のランプが切れたときは、この例以外のメッセージが表示されます。
車外ランプのいずれかに異常が発生すると、その箇所が表示されます。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｵｲﾙｦ ﾇｲﾃｸﾀﾞｻｲ	エンジンオイル量が多すぎる。エンジンや触媒を損傷するおそれがある。 ▶ エンジンオイルを抜いてください。オイルを廃棄するときは規則に従ってください。
	ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ！	エンジンオイル量が限界まで減っている。またはエンジンオイル量計測システムに異常がある。 ▶ エンジンオイル量を点検してください（▷253 ページ）。 **エンジンオイル量が正常な場合** ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。 **エンジンオイル量が不足している場合** ▶ エンジンオイルを補給してください。 ▶ 警告灯が消灯したら、指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ 警告灯が消灯しない場合は走行せずに、指定サービス工場に連絡してください。
	ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｿｸﾃｲﾌｶﾉｳ	エンジンオイル量計測システムが故障している。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｷｰ ﾉ ﾊﾞｯﾃﾘ ｦ ｺｳｶﾝ	キーの電池が消耗している。 ▶ キーの電池を交換してください。
	ｷｰ ｶﾞ ﾁｶﾞｲﾏｽ	エンジンスイッチに違う車両のキーを差し込んでいる。 ▶ 正しいキーを使用してください。
	ｷｰ ｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞｷﾏｾﾝ （赤色で表示）	エンジンがかかっているときに、このメッセージが表示されたときは、システムが車内にキーがないと判断している。 この状態でエンジンを停止すると、エンジンを再始動することも、施錠することもできなくなる。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ キーを探してください。
		エンジンがかかっていて、キーが車内にあるときにこのメッセージが表示されたときは、電磁波などの影響により、システムがキーを認識できない。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ 必要であれば、エンジンスイッチにキーを差し込んでください。

<table>
<tr><th colspan="2">ディスプレイ表示</th><th>考えられる原因および症状 / ▶ 対応</th></tr>
<tr><td></td><td>ｷｰ ｦ
ｹﾝﾁ ﾃﾞ ｷﾏｾﾝ
（白色で表示）</td><td>システムがキーを認識できない。
▶ 車内に置いてあるキーの位置を変えてください。
▶ 上記の操作をしてもシステムがキーを認識できないときは、エンジンスイッチにキーを差し込んでください。</td></tr>
<tr><td></td><td>ｷｰ ｶﾞ
ｼｬﾅｲ ﾆ ｱﾘﾏｽ！</td><td>キーレスゴー操作で施錠するときに、システムが車内にキーがあると判断している。
▶ キーを車外に取り出してください。</td></tr>
<tr><td></td><td>ｷｰ ｦ
ｺｳｶﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ</td><td>キーが機能しなくなっている。
▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。</td></tr>
<tr><td></td><td>ｽﾀｰﾄﾎﾞﾀﾝ ｦ ﾊｽﾞｼ
ｷｰｦ ｻｼｺﾝﾃﾞｸﾀﾞｻｲ</td><td>キーが認識されない状態が続いている。
▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外し、エンジンスイッチにキーを差し込んでください。
▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>燃料残量がほとんどない。
▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。</td></tr>
<tr><td></td><td>ﾈﾝﾘｮｳ ﾘｻﾞｰﾌﾞ
ｷｭｳﾕ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ</td><td>燃料残量が少なくなっている。
▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。</td></tr>
<tr><td></td><td>ｳｫｯｼｬｴｷ
ﾎｼﾞｭｳ</td><td>ウォッシャー液量がリザーブタンクの約 1/3 まで減っている。
▶ ウォッシャー液を補給してください（▷258 ページ）。</td></tr>
</table>

トラブルの原因と対応

スイッチやボタンの表示灯 / 警告灯

⚠ 事故やけがのおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えた指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ず指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
シートベンチレータースイッチの表示灯が点滅している。シートベンチレーターが自動的に停止した。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下している。 ▶ 読書灯やルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、シートベンチレーターは自動的に作動を開始します。
シートヒータースイッチの表示灯が点滅している。シートヒーターが自動的に停止した。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下している。 ▶ 読書灯やルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、シートヒーターは自動的に作動を開始します。
エアコンディショナーの AC スイッチを押しても、表示灯が点灯しなかったり、点滅する。 エアコンディショナーの AC スイッチを押しても、除湿 / 冷房された空気が送風されない。	エアコンディショナーの故障のため、除湿 / 冷房機能が解除されている。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
リアデフォッガースイッチの表示灯が点滅している。 リアデフォッガーが短時間で停止する。または作動しない。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下している。 ▶ 読書灯やルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、リアデフォッガーは自動的に作動を開始します。

メーターパネルの表示灯 / 警告灯

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABS の機能が解除されている。ESP と PRE-SAFE も一時的に作動しない状態になっている。 上記の機能は作動しないが、ブレーキは通常通り作動する。ただし、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	⚠ **事故のおそれがあります** 電圧低下のため、ABS の機能が解除されている。バッテリーが充電されていない可能性がある。 ESP、BAS、PRE-SAFE の機能も解除されている。 上記の機能は作動しないが、ブレーキは通常通り作動する。ただし、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ▶ 読書灯やルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、すみやかに ABS は作動できる状態になります。
エンジンがかかっているときに黄色の ESP / ETS 表示灯、赤色のブレーキ警告灯、黄色の ABS 警告灯が点灯し、警告音も鳴った。	⚠ **事故のおそれがあります** EBV が故障している。ABS、BAS、ESP、PRE-SAFE なども作動しない状態になっている。 上記の機能は作動しないが、ブレーキは通常通り作動する。ただし、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
走行中に黄色の ESP / ETS 表示灯が点滅する。	⚠ **事故のおそれがあります** タイヤがグリップを失いかけているか車が横滑りをしているため、ESP またはトラクションコントロールが作動している。 クルーズコントロールまたはディストロニックが解除される。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESP の機能を解除しないでください(雪道などでの走行を除く)。
エンジンがかかっているときに黄色の ESP / ETS 表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ESP の機能が解除されている。 車が横滑りしたときや車輪が空転したときに、車両操縦性や走行安定性を確保することができない。 ▶ ESP を待機状態にしてください（雪道などでの走行を除く）。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。
エンジンがかかっているときに黄色の ESP / ETS 表示灯が点灯する。 マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージも表示される。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP が作動しない状態になっている。 車が横滑りしたときや車輪が空転したときに、車両操縦性や走行安定性を確保することができない。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージ（▷294、296、300 ページ）に従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
SRS エンジンがかかっているときに赤色のエアバッグシステム警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護装置に異常がある。エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
走行中に赤色のブレーキ警告灯が点灯し、警告音も鳴った。	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。 警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯し、警告音も鳴った。	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。状況を問わず走行しないでください。 ▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージ（▷301 ページ）に従ってください。 ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下に異常がある可能性がある。 • 燃料噴射システム • イグニッションシステム • 排気システム 排出ガスの成分が基準値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。 ▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
フロントドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 前席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いている。 ▶ 助手席シートの上に置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
赤色のシートベルト警告灯が点滅し、警告音も鳴った。	⚠ **けがのおそれがあります** 前席の乗員がシートベルトを着用していない状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いた状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。 ▶ 安全な場所に停車してから、助手席シートの上に置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

警告音

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
盗難防止警報が作動した。	盗難防止警報システムが待機状態のときに、運転席ドアをエマージェンシーキーで解錠して開いた。 盗難防止警報システムが待機状態のときに、車内のレバーを引いてドアまたはテールゲートを開いたか、ボンネットのロックを解除した。 ▶ キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押してください。 または ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んでください。
警告音が鳴った。	マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されている。 ▶ 故障 / 警告メッセージをご覧ください（▷308 ページ～）。
	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。
	ランプスイッチが [ライト記号] の位置のときにエンジンスイッチからキーを抜き、運転席ドアを開いた。 ▶ ランプスイッチを 0 の位置にしてください。
イグニッション位置を **2** にするかエンジンを始動すると、警告音が約 6 秒間鳴る。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。
速度が約 25km/h 以上になったときに警告音が鳴る。	⚠ **けがのおそれがあります** 前席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。

事故のとき

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
燃料が漏れている。	⚠ **火災のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクが損傷している。漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがある。 ▶ ただちにエンジンを停止してください。 ▶ エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがあります。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
損傷の程度がわからない。	▶ 指定サービス工場に連絡してください。
損傷箇所が見当たらない。	▶ 通常通りエンジンを始動してください。
運転席と助手席のヘッドレストが前方に動いた。	後方からの追突などの事故により、NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した。 ▶ NECK PRO アクティブヘッドレストをリセットしてください（▷324 ページ）。

燃料と燃料タンク

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
燃料が漏れている。	⚠ **爆発や火災のおそれがあります** 燃料給油システム、または燃料タンクに問題がある。 ▶ ただちにエンジンを停止して、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
燃料給油フラップが開かない。	燃料給油フラップが解錠されていない。 または キーの電池が消耗している。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください（▷322 ページ）。 ▶ テールゲートを開いてください（▷72 ページ）。 ▶ 燃料給油フラップを手動で解錠してください（▷323 ページ）。
	燃料給油フラップは解錠されているが、開閉機構に異常がある。 ▶ 燃料給油フラップを手動で解錠してください（▷323 ページ）。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。

エンジン

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にするとスターターモーターの音がする。	• エンジンの電気システムが故障している。 • 燃料供給システムが故障している。 • バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低くなっている ▶ エンジンを再始動する前に、イグニッション位置を **0** に戻してください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください（▷114 ページ）。 ただし、エンジン始動操作を長時間何度も行なうと、バッテリーがあがるおそれがあります。 **何度始動を試みてもエンジンが始動しないとき** ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にするとスターターモーターの音がする。 燃料残量警告灯が点灯していて、燃料計の指針が 0 を示している。	燃料タンクが空になっている。 ▶ 燃料を給油してください。
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にしてもスターターモーターの音がしない。	バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低くなっている ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷339 ページ）。 **エンジンが始動しないとき** ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
	過度の負荷により、スターターモーターが過熱している。 ▶ スターターモーターが冷えるまで、約 2 分間待ってください。 ▶ 再度、始動操作をしてください。 **エンジンが始動しないとき** ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムが故障している。 ▶ アクセルペダルを踏みすぎないでください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。 触媒を損傷するおそれがあります。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
冷却水温度が約 120℃を超えている。 警告音も鳴った。	リザーブタンクの冷却水量が不足している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが冷却されていない。 ▶ すみやかに安全な場所に停車して、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、必要であれば冷却水を補給してください（▷255 ページ）。
	冷却水量が正常なときは、エンジンファンが故障している可能性がある。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが冷却されていない。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下のときは、最寄りの指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ このときは、山道での走行などでエンジンに大きな負担をかけたり、発進 / 停止を繰り返すような運転は避けてください。
エンジンが停止しない。	エンジンスイッチに異常がある。 ▶ エンジンルーム内にあるヒューズボックスを開きます。 ▶ エンジンルーム内ヒューズボックスの 120 番のヒューズを抜きます（▷345 ページ）。 エンジンが停止します。 **エンジンを再始動するとき** ▶ ヒューズを交換してください。

オートマチックトランスミッション

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。 ▶ ただちに指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションがエマージェンシーモードになっている。 2 速ギアかリバースギアで走行できる場合があります。 ▶ 停車してください。 ▶ イグニッション位置を **0** にしてください。 ▶ 10 秒以上待ってから、エンジンを再始動します。 ▶ シフトポジションを D にします。 2 速ギアになります。 または ▶ シフトポジションを R にします。 リバースギアになります。 ▶ ただちに指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

パークトロニック

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯して約2 秒間警告音が鳴った。 約 20 秒後にパークトロニックが解除され、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯した。	パークトロニックに異常があり、機能が停止している。 ▶ トラブルが続くようであれば、指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯し、約 20 秒後にパークトロニックが解除された。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。 ▶ パークトロニックセンサーを清掃してください（▷284 ページ）。 ▶ 再度、イグニッション位置を **2** にしてください。
	外部の電波や超音波の干渉などにより、機能が停止している。 ▶ 場所を変えて、パークトロニックの作動を確認してください（▷192 ページ）。

ヘッドランプ

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ヘッドランプの内側が曇っている。	外気の湿度が高くなっている。 ▶ ヘッドランプを点灯して走行してください。 しばらく走行すると、ヘッドランプの内側の曇りは取れます。
	ヘッドランプユニットが密閉されていないため、水分が侵入している。 ▶ 指定サービス工場でヘッドランプの点検を受けてください。

ワイパー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ワイパーが正しく作動しない。	葉や雪など、ウインドウに障害になる物が付着している。 ワイパーモーターの作動が停止している。 ▶ 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ 再度、ワイパーを作動させてください。
ワイパーが作動しない。	⚠ **事故のおそれがあります** ワイパーが故障している。 ▶ コンビネーションスイッチをまわして、別のモードを選択してください（▷105 ページ）。 ▶ 指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。
ウインドウウォッシャー液がフロントウインドウの中央に噴射されない。	ウインドウウォッシャー液の噴射ノズルの角度が適切でない。 ▶ 指定サービス工場で噴射ノズルの角度を調整してください。

ウインドウ

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ドアウインドウを閉じることができない。	ウインドウとドアフレームの間に障害になる物が挟まっている。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ ドアウインドウを閉じてください。
	ドア内部のガイドレールなどに障害になる物があり、ドアウインドウの上昇を妨げている。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ ドアウインドウを閉じてください。
	原因が分からない場合 ▶ ドアウインドウが閉じるまで、ドアウインドウスイッチを引きます。

ミラー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ドアミラーが無理に前方 / 後方に曲げられた。	▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ（▷90 ページ）を、ギアが噛み合う音が聞こえるまで押します。 ドアミラーが再び固定され、ドアミラーが通常通り調整できるようになります。

キー

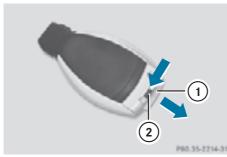
トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
リモコン操作で解錠 / 施錠できない。	キーの電池が消耗している。 ▶ キーの先端を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から再度リモコン操作をしてください。 **リモコン操作ができないとき** ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください。 ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください（▷325 ページ）。
	キーが故障している。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください（▷322 ページ）。 ▶ 指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーレスゴーで解錠 / 施錠できない。	車が解錠されてから長時間経過したため、キーレスゴーの機能が解除された。 ▶ ドアハンドルを 2 回引き、エンジンスイッチにキーを差し込んでください。
	キーレスゴーが故障している。 ▶ キーの先端を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離からリモコン操作で解錠してください。 ▶ 指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
	強い電波や超音波などの干渉を受けている。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
キーを紛失した。	▶ 指定サービス工場で、紛失したキーを無効にしてください。 新しいキーの入手については、指定サービス工場におたずねください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。	▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
キーによるエンジン始動ができない。	バッテリーの電圧が低下している。 ▶ シートヒーターやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してから再度エンジンスイッチをまわしてください。 **それでもエンジンが始動しないとき** ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 または ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷339 ページ）。 または ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
キーが車内にある状態で、インストルメントパネルのキーレスゴースイッチを押しても、エンジンが始動しない。	ドアが開いているため、キーが認識されにくくなっている。 ▶ ドアを閉じてから、再度始動操作を行なってください。
	強い電波や超音波などの干渉を受けている。 ▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外し、エンジンスイッチにキーを差し込んで、始動操作を行なってください。

車を使用しないとき

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンを始動しない期間が約 6 週間以上におよぶとき。	車を長期間にわたって使用しないと、不具合が発生する可能性がある。 ▶ 対応について、指定サービス工場におたずねください。 ▶ バッテリーからケーブルを外してください。

非常時の解錠 / 施錠

エマージェンシーキー

① エマージェンシーキー
② ストッパー

キーに収納されています。

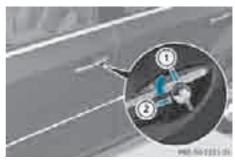
グローブボックスを施錠 / 解錠する（▷227 ページ）ときに使用します。

また、リモコン機能やキーレスゴー機能が作動しないとき、運転席ドアを解錠するときに使用します。

エマージェンシーキーを使用する

▶ ストッパー②を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー①を矢印の方向に抜きます。

収納するときは元の位置に差し込みます。

エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠する

① エマージェンシーキーを抜く / 差し込む位置
② 解錠の位置

リモコン操作やキーレスゴー操作で車が解錠できないときは、運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込み、解錠できます。

ℹ 助手席ドアのドアハンドルにはキーシリンダーはありません。

運転席ドアを解錠する

▶ エマージェンシーキーを運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーに差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを解錠の位置②にまわします。

▶ ドアハンドルをいっぱいまで引きます。

運転席ドアのロックノブが上がり、運転席ドアが解錠されます。

▶ エマージェンシーキーを①の位置にまわして、キーシリンダーから抜きます。

▶ ドアハンドルを引き、運転席ドアを開きます。

! リモコン操作やキーレスゴー操作で車を施錠した後に、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。

以下のいずれかの操作をすると、警報が停止します。

- キーをエンジンスイッチに差し込む
- キーのいずれかのボタンを押す
- キーがテールゲート側のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときは、テールゲートハンドルを引く
- キーが車室内のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときはキーレスゴースイッチを押す

! エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠しても、他のドア、テールゲート、燃料給油フラップは解錠されません。

非常時の車の施錠

リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を施錠できないときは、以下の方法で車を施錠してください。

▶ 助手席ドア、リアドア、テールゲートを閉じます。

▶ 運転席ドアと運転席側のリアドアを開きます。

▶ 運転席ドアのドアロックスイッチの解錠スイッチを押します（▷68 ページ）。

助手席ドアとリアドアのロックノブが下がります。

▶ 助手席ドアとリアドアのロックノブが下がっていないときは、ロックノブを押し込みます。

▶ 外側から運転席ドアを閉じます。

▶ 運転席側のリアドアから手を伸ばして、内側から運転席ドアのロックノブを押し込みます。

i キーが手元にあり、車内にないことを確認してください。

▶ リアドアを外側から閉じます。

▶ すべてのドアとテールゲートが施錠されていることを確認します。

! ドアロックスイッチが作動せず、ロックノブを押し込んで車を施錠したときには、テールゲートが施錠されていないことがあります。このときは、車を施錠することはできません。指定サービス工場に連絡してください。

! キーの閉じ込みに注意してください。

燃料給油フラップが解錠しないとき

リモコン操作やキーレスゴー操作で解錠しても燃料給油フラップが解錠しないときは、手動で解錠します。

① クリップ
② カバー

▶ テールゲートを開きます。

▶ ラゲッジルーム右側のカバー②にあるクリップ①をコインなどで矢印の方向にまわし、カバー②を取り外します。

③ ストラップ

▶ 内部にあるストラップ③をホルダーから外して引きます。

燃料給油フラップが解錠します。

▶ 外側から燃料給油フラップを開きます。

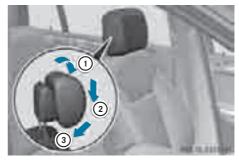
ℹ ストラップ③がホルダーに固定されているときは、ドライバーなどを差し込んで取り外してから引いてください。

⚠ **けがのおそれがあります**

カバー②の内部には金属が露出している部分があります。必ず手袋を着用して作業を行なってください。

NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット

事故などのときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合、リセットをしないと次に衝撃を受けたときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動せず、頭部・頸部を保護することができません。

ℹ このリセット作業は強い力が必要になるため、指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

▶ ヘッドレストの上部を①の方向に押します。

▶ ヘッドレストを②の方向にいっぱいまで押し下げます。

▶ ヘッドレストを③の方向に押して、確実にロックさせます。

もう一方の前席ヘッドレストでも同様の作業を行なってください。

❗ 安全のため、追突など後方からの衝撃を受けたときは、NECK PRO アクティブヘッドレストの点検を受けてください。

キーの電池交換

リモコンの作動可能範囲が短くなったり作動しない場合は、キーの電池の消耗が考えられます。指定サービス工場で点検を受けてください。

 中毒のおそれがあります

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。子供の手の届かないところに保管してください。

誤って電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

環　境

電池を家庭用ゴミとして廃棄しないでください。電池には非常に強い有毒物質が含まれています。

使用済みの電池は、新しい電池をお買い求めになった販売店に処分を依頼するか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

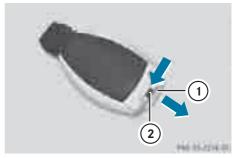
キーの電池を点検する

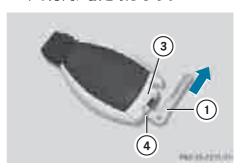
▶ キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押します。

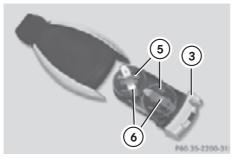
キーの表示灯が一回点滅すれば電池は正常です。

ⓘ キーの電池が消耗したときは、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠できます（▷322 ページ）。

電池の交換手順

リチウム電池（CR2025 3V）を 2 個用意します。

① エマージェンシーキー
② ストッパー

▶ ストッパー②を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー①を矢印の方向に抜き取ります。

① エマージェンシーキー
③ 電池ケース
④ 凹部

▶ エマージェンシーキー①を凹部④にかけて矢印の方向に押しながら、電池ケース③を引きます。

③ 電池ケース
⑤ 電池
⑥ 電極板

▶ 電池⑤を外し、新しい電池と交換します。

電池は 2 個とも⊕を上にして、電極板⑥の間に取り付けます。

▶ 電池ケース③を本体の溝に合わせ、押し込んでロックします。

▶ エマージェンシーキー①をキーに収納します。

ℹ 電池を交換するときは 2 個同時に交換してください。

ℹ 電池の表面に、汚れや脂分などが付着していないことを確認してください。

電球の交換

ランプ類は車両の重要な安全装備のひとつです。すべてのランプ類が正しく点灯することを確認してください。

電球が切れてランプが点灯しないときは、同規格・同容量の電球と交換してください。交換したランプがすぐに切れた場合は、指定サービス工場で点検を受けてください。

電球の交換は指定サービス工場で行なうことをお勧めします。やむを得ずお客様自身で交換するときは、以下の注意を守って該当箇所の電球を交換してください。

電球には素手で触れないようにしてください。電球の表面に少しでも汚れや脂分が付着すると、ガラス表面で溶けて、電球の寿命が短くなります。電球に触れるときは、きれいな布や手袋などを使用するか、バルブの金属部を持つようにしてください。

! 指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になります。

! 電球は高温になるため、電球の表面に油などが付着すると切れやすくなります。触れたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で電球をよく拭いてください。

! マルチファンクションディスプレイにランプに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷305 ページ）をご覧ください。

このときは、すみやかに電球を交換してください。

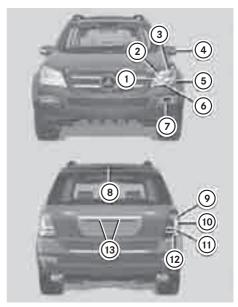
けがのおそれがあります

- 電球は非常に熱くなります。電球の交換は電球が冷えた状態で行なってください。火傷をするおそれがあります。
- 電球は子供の手の届かないところに保管してください。
- 落下したり、衝撃が加わった電球を使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球には圧力のかかったガスが封入されているため、電球が熱くなっているときに電球に触れたり、電球を取り外さないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球を交換するときは、防護眼鏡や手袋などを着用し、直接手で電球に触れないようにしてください。

けがのおそれがあります

エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、イグニッション位置が **2** のときは、バイキセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分があり、それらに触れると非常に危険です。

バイキセノンヘッドランプの交換は行なわないでください。交換は必ず指定サービス工場で行なってください。

電球一覧

! 電球を交換するときは、実際に車両に装着されている電球の規格を確認してください。

! 指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になります。

	ランプ	ワット数（規格）
①	パーキングランプ / 車幅灯	5W
②	ヘッドランプ（上向き）	55W（H7）
③	ヘッドランプ（上向き / 下向き）	35W（キセノン D1S）
④	ドアミラー方向指示灯	LED（発光ダイオード）
⑤	フロント方向指示灯	5W(黄色）
⑥	フロント方向指示灯	21W（黄色）
⑦	フロントフォグランプ	55W（H11）
⑧	ハイマウントブレーキランプ	LED（発光ダイオード）
⑨	バックランプ	21W
⑩	ブレーキランプ / テールランプ / パーキングランプ	21W（2 個使用）
⑪	リア方向指示灯	21W（黄色）
⑫	リアフォグランプ（右側のみ）	21W
⑬	ライセンスランプ	5W

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

パンクしたとき

⚠ 事故や火災のおそれがあります

- パンクしたときは、あわててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全な場所に停車してください。
- パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱し、火災が発生するおそれがあります。
- 停車したときは、非常点滅灯を点滅させてください。また、十分注意しながら車の後方に停止表示板を置いてください。

! 車速感応ドアロック(▷69 ページ)を設定した状態で車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを **0** の位置にしてください。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

! タイヤ交換をするときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

! ジャッキアップしているときは、エンジンを始動したり、ドアやテールゲートを開閉したり、パーキングブレーキを解除しないでください。車が落下するおそれがあります。

▶ 車高が通常走行レベルになっていることを確認します（▷185 ページ）。

▶ 安全を確保できる、かたくてすべりにくい水平な場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ ステアリングを直進の位置にして、パーキングブレーキを確実に効かせ、シフトポジションを **P** にします。

▶ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 周囲の状況に注意しながら乗員を車から降ろして、ただちに安全な場所に避難させます。

▶ 車の後方に停止表示板を置きます。

ⓘ 高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

▶ 輪止め、ジャッキ、応急用スペアタイヤ、ホイールレンチ、ガイドボルトを準備します（▷290 ページ）。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 応急用スペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、応急用スペアタイヤを装着した場合、走行特性が大きく変化します。十分注意して走行してください。
- 応急用スペアタイヤは短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。
- 応急用スペアタイヤに交換したときは、必ず 80km/h 以下で走行してください。
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、ESP オフスイッチで ESP の機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。

輪止めをする

▶ 交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。

やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、交換するタイヤの反対側の両輪の下り側に輪止めをします。

! 輪止めは 1 個車載されています。もう 1 個必要なときは、適切な大きさの木片か石を輪止めとして使用してください。

! トレイや応急用スペアタイヤを取り出すときは、必ず保護のため手袋を着用してください。素手で作業するとけがをするおそれがあります。

! 応急用スペアタイヤは各車種専用です。他車のものは使用しないでください。

ジャッキアップ

① ホイールレンチ

▶ ホイールレンチ①で、交換するタイヤのホイールボルト（5 本）を約 1 回転ほどゆるめます。

この時点では、ホイールボルトを取り外しません。

❗ ホイールレンチを使用するときに、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

② ジャッキ
③ ダイヤル部
④ ジャッキサポート
⑤ ジャッキハンドル

▶ ダイヤル部③を手でまわしてジャッキを伸ばしながら、交換するタイヤに近いジャッキサポート④にジャッキの先端部をあてます。

このとき、ジャッキの先端部がジャッキサポート④に接してぐらつかない程度までダイヤル部③をまわします。

▶ ジャッキハンドル⑤を、"AUF UP" の文字が見える面が手前にくるように取り付けます。

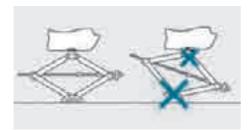
❗ ジャッキサポート以外の位置でジャッキアップしないでください。

❗ ジャッキハンドル⑤は、"AUF UP" の文字が見える面が手前にくるように取り付けないと、ジャッキアップできません。

❗ ジャッキアップする前に乗員や荷物を車から降ろしてください。

! ジャッキの先端部が正しくジャッキサポートに入っていることを確認してください。

! 側面からみて、ジャッキが垂直になるように取り付けてください。

! ジャッキの底面が、確実に路面に接地するように取り付けてください。

（左）正しい取り付けかた
（右）間違った取り付けかた

! ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした車が落下するおそれがあります。

! 車載のジャッキはこの車専用です。以下の点に注意してください。

- かたくてすべりにくい水平な場所で使用してください。
- この車のタイヤ交換以外には使用しないでください。
- 不具合や損傷があるときは使用しないでください。
- ジャッキサポート以外の場所に使用しないでください。

ジャッキサポートは前輪の後方、後輪の前方のボディ下部 4 カ所に設けられています。

⑤ ジャッキハンドル

▶ ジャッキハンドル⑤を繰り返し操作し、タイヤが地面から離れるまでゆっくりとジャッキアップします。

けがのおそれがあります

車が車載のジャッキだけで支えられているときは、決して車の下に身体を入れないでください。

ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。ジャッキは車を一時的に持ち上げるときだけに使用してください。

! ジャッキアップしているときは、エンジンを始動したり、ドアやテールゲートを開閉したり、パーキングブレーキを解除しないでください。車が落下するおそれがあります。

! ジャッキアップしたときのタイヤの高さは、地面から 3cm 以内にしてください。

⑥ ガイドボルト

▶ 上側のホイールボルトを 1 本外します。

▶ そのネジ穴に車載工具のガイドボルト⑥をねじ込みます。

▶ 残りのホイールボルトを外して、タイヤを取り外します。

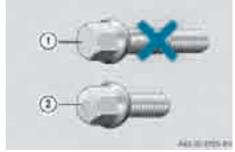
! ホイールボルトに砂や泥が付着しないように注意してください。

! タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。ホイールに傷が付くおそれがあります。

! ホイールを外したときは、ホイールの内側を十分に清掃し、点検をしてください。リムの凹みや曲がりは空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。

! ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。また、ネジ山には決してオイルやグリスを塗布しないでください。ホイールボルトがゆるむおそれがあります。

! ホイールハブのネジ山が損傷しているときは、走行しないで、指定サービス工場に連絡してください。

ホイールボルト

① 標準タイヤ用ホイールボルト
② 応急用スペアタイヤ用ホイールボルト

▶ 応急用スペアタイヤを取り付けるためのホイールボルトを用意します。

応急用スペアタイヤ用ホイールボルト②（短いホイールボルト）を使用してください。

⚠ 事故のおそれがあります

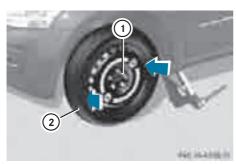
- 標準タイヤ用ホイールボルトで応急用スペアタイヤを取り付けないでください。

  ホイールを確実に取り付けることができずに、ブレーキシステムを損傷したり、走行中に車輪が外れて事故を起こすおそれがあります。

- ホイールボルトは、ホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のボルトを使用すると、車輪が外れて事故を起こすおそれがあります。

応急用スペアタイヤに添付された、応急用スペアタイヤ用ホイールボルト②

応急用スペアタイヤ用ホイールボルトは、トレイ（▷290 ページ）または応急用スペアタイヤの下に収納されているか、応急用スペアタイヤに添付されています。

応急用スペアタイヤの取り付け

① ガイドボルト
② 応急用スペアタイヤ

▶ 応急用スペアタイヤ②のホイールおよびハブの接合面に砂や汚れなどがないことを確認します。

▶ ガイドボルト①に合わせて応急用スペアタイヤを取り付けます。

▶ 4 本のホイールボルトを取り付けて、軽く締め付けます。

▶ ガイドボルトを取り外し、5 本目のホイールボルトを取り付けて、軽く締め付けます。

⚠ **けがのおそれがあります**

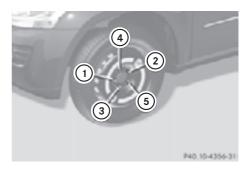
ジャッキアップした状態でホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いでジャッキが外れるおそれがあります。

ジャッキダウン

▶ ジャッキハンドルを、"AB DOWN" の文字が見える面が手前にくるように取り付けます。

! ジャッキハンドルは、"AB DOWN" の文字が見える面が手前にくるように取り付けないと、ジャッキダウンできません。

▶ ジャッキハンドルを繰り返し操作し、ゆっくりボディを下げてタイヤを接地させます。

▶ ジャッキを外します。

▶ 図の順番でホイールボルトを均一に締め付けます。

ホイールボルトの締め付けトルクの規定値は 15kg-m（150Nm）です。

▶ ジャッキを元の状態に戻し、車載工具や輪止めなどとともに元の位置に戻します。

▶ 外したタイヤはラゲッジルーム内に収納し、確実に固定してください。

! ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れると、けがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください
- 足で踏んでまわさないでください
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください

また、ホイールレンチにパイプを継ぎ足してまわすなど、必要以上にホイールボルトを締め付けないでください。ホイールボルトやネジ穴を損傷するおそれがあります。

バッテリー

バッテリー取り扱いの一般的な注意

バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分充電されていることが必要です。

車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多いときは、通常よりも頻繁にバッテリー液量などを点検してください。

バッテリーの爆発を防ぐため、バッテリーは必ず指定品を使用してください。

車を長期間使用しないときの保管方法などは、指定サービス工場におたずねください。

	爆発の危険があります。
	バッテリーを取り扱っているときは、火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。
	バッテリー液は腐食性があります。皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。 手袋やエプロン、マスクを着用してください。 バッテリー液が付着したときは、すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

バッテリーを取り扱うときは保護眼鏡を着用してください。

バッテリー液が付着したときは、すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

子供を近付けないでください。

取扱説明書の指示に従ってください。

けがのおそれがあります

爆発や火傷を防ぐため、バッテリーを取り扱うときは以下の事項を守ってください。

- バッテリーを傾けたり横倒しにしないでください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。バッテリーがショートして可燃性のガスに発火し、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- 静電気を防ぐため、合成繊維の衣服を着用しないでください。また、カーペットの上などでバッテリーを引きずらないでください。
- バッテリーに触れるときは、先に車体などに触れて、身体の静電気を放電させてください。
- 布などでバッテリーを拭かないでください。静電気や火花が発生して、バッテリーが爆発するおそれがあります。

! 安全のため、バッテリー端子をゆるめたり外すときは、エンジンスイッチからキーを抜いてください。電気系部品やオルタネーターを損傷するおそれがあります。

バッテリーの点検や交換は、指定サービス工場で行なってください。少なくとも 2 年ごとまたは 20,000km ごとに点検・交換を行なってください。

i バッテリー端子の取り外し、バッテリーの取り外し、充電、交換については、指定サービス工場で作業することをお勧めします。

環　境

環境保護のため、使用済みのバッテリーを廃棄するときは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼してください。

バッテリーの位置

バッテリーは助手席シート下部にあります。

! 他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動するときは、エンジンルーム内の端子にブースターケーブルを接続してください（▷339 ページ）。

バッテリーの交換

① バッテリーカバー

この作業は指定サービス工場に依頼することをお勧めします。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせて、シフトポジションを P にします。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 助手席シートをいっぱいまで前方に動かします。

▶ バッテリーカバー①を矢印の方向に持ち上げて取り外します。

② カーペット

▶ ミシン目がある位置まで、白い点線に沿ってカーペット②にカッターなどで切り込みを入れます。

! カッターなどでカーペットに切り込みを入れるときは、けがをしないように十分注意してください。

② カーペット

▶ 助手席シートをいっぱいまで上方および後方に動かします。

▶ カーペット②の後端を矢印の方向にめくります。

▶ 助手席シートをいっぱいまで上方および前方に動かします。

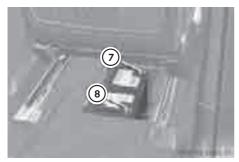
③ エアダクト
④ 固定クリップ

▶ 固定クリップ④を取り外します。

▶ エアダクト③を矢印の方向に引き抜きます。

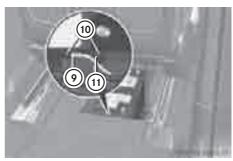
⑤ 保護カバー
⑥ バッテリー

▶ 保護カバー⑤を取り外します。

⑦ ⊕端子
⑧ ⊖端子

▶ バッテリーから⊖端子⑧を取り外し、後から外す⊕端子⑦と接触しない場所に置きます。

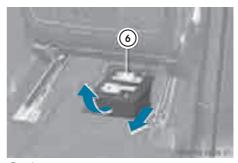
▶ ⊕端子⑦のカバーを取り外します。

▶ バッテリーから⊕端子⑦を取り外します。

バッテリーの取り外し

⑨ ブリーザーホース
⑩ 取り付けボルト
⑪ ブラケット

▶ ブリーザーホース⑨を取り外します。

▶ 取り付けボルト⑩を取り外します。

▶ ブラケット⑪を取り外します。

⑥ バッテリー

▶ バッテリー⑥を矢印の方向に持ち上げて取り出します。

バッテリーの接続 / 取り付け

! バッテリーを接続するときは、以下の手順を守って、絶対に端子の取り付けを間違えないようにしてください。けがをするおそれがあります。また、車両の電気装備を損傷するおそれがあります。

▶ 電気装備をすべて停止します。

▶ 取り外したときと逆の手順でバッテリーを取り付けます。

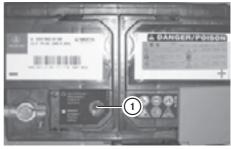
▶ ⊕端子⑦を取り付け、⊕端子カバーを取り付けます。

▶ ⊖端子⑧を取り付けます。

▶ 取り外したときと逆の手順で車両を元の状態に戻します。

ℹ バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、以下のような作業が必要になることがあります。

- COMAND システムの再設定
- ドアウインドウのリセット
- スライディングルーフのリセット
- 施錠時のドアミラー格納のリセット

インジケーター付きバッテリー

① インジケーター

ケースが黒色で、上面にインジケーター①があるバッテリーは、バッテリー液の補充はできません。

インジケーター①は、バッテリーの液量や充電状態が適正なときは黒色に、バッテリーの交換が必要なときは白色になります。

インジケーターが白色になったときは、指定サービス工場に交換を依頼してください。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

VRLA バッテリー

バッテリーのケースが黒色で、上面に VRLA-BATTERY のラベルがある場合は、バッテリー液量の点検や補充はできません。また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。点検については指定サービス工場におたずねください。

バッテリーがあがったとき

バッテリーの電圧が低下し、エンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーを電源として始動することができます。ブースターケーブルは、十分な容量と太さのあるケーブルを使用してください。

他車のバッテリーとブースターケーブルを接続するときは、エンジンルームの向かって左側にある⊕端子と⊖端子にブースターケーブルを接続します。

ℹ 放電したバッテリー液は、約－10℃で凍結します。凍結しているときは、火気を近付けずにバッテリー全体を暖め（約 50℃以下）、バッテリー液を解凍してからエンジンを始動してください。

ℹ 他車のバッテリーを電源としたエンジン始動について、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

⚠ **けがのおそれがあります**

- 作業を始める前に必ず以降に記載する説明を読んでください。説明を守らないと、電気装備を損傷したり、バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。
- たばこなどの火気を近付けたり、火花を発生させたりしないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動しているときは、バッテリーをのぞき込まないでください。万一、爆発したときにけがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動するときは、バッテリーを傾けないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

! エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。

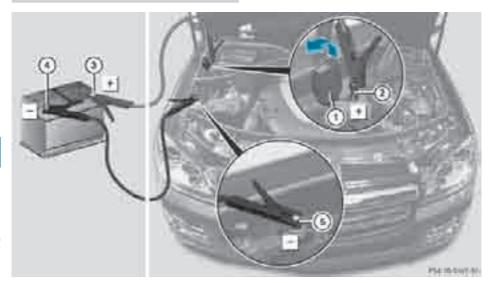
エンジン始動を 2 ～ 3 回試みても始動できないときは指定サービス工場に連絡してください。

エンジンを始動できたときも、すみやかに指定サービス工場でバッテリーの点検を行なってください。

! 急速充電器によりエンジン始動を行なわないでください。

! エンジンが暖まっているときは、他車のバッテリーを電源として始動しないでください。

! 「押しがけ」や下り勾配を利用してエンジンを始動しないでください。

始動の方法

① 自車の⊕端子カバー
② 自車の⊕端子
③ 救援車の⊕端子
④ 救援車の⊖端子
⑤ 救援車の⊖端子

▶ バッテリー電圧が同じ（12V）で、バッテリー容量が同程度の救援車を用意します。

▶ 自車と救援車が接触していないことを確認します。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせて、シフトポジションを **P** にします。

▶ 救援車のエンジンを停止します。

▶ 両車の電気装備をすべて停止します。

▶ ボンネットを開きます。

▶ 自車の⊕端子カバー①を矢印の方向に開きます。

▶ 自車の⊕端子②に赤色ブースターケーブルを接続します。

▶ 救援車のバッテリーの⊕端子③に赤色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。

▶ 救援車のバッテリーの⊖端子④に黒色ブースターケーブルを接続します。

▶ 自車の⊖端子⑤に黒色ブースターケーブルの反対側を接続します。

ⓘ 仕様により、自車の⊖端子⑤にはキャップが取り付けられています。

▶ 自車のエンジンを始動します。

▶ 両車の⊖端子を接続しているケーブル、次に両車の⊕端子を接続しているケーブルを取り外します。

いずれのケーブルを取り外すときも、自車の端子から先に取り外します。

▶ 必要のない電気装備を停止します。

▶ 指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

! 救援車により接続方法が異なることがあります。接続前に救援車の取扱説明書もお読みください。

! 急速充電器などを接続してエンジンを始動しないでください。車の電気装備を損傷します。

! 触媒装置の損傷を避けるため、以下の点に注意してください。

- 「押しがけ」や下り勾配を利用してエンジンを始動しないでください。
- エンジンが暖まっているときは、他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動しないでください。
- エンジン始動を 2 ～ 3 回試みても始動できないときは、時間をおいてから、再度始動してください。それでも始動しないときは指定サービス工場に連絡してください。

! ブースターケーブルは、十分な容量（太さ）のケーブルを使用してください。

- ケーブル部分や絶縁部分が損傷しているものは使用しないでください。
- ケーブルがエンジンファンやＶベルトに巻き込まれないようにしてください。

! 他車のバッテリーを電源として始動できたときも、安全のため指定サービス工場で点検を受けてください。

けん引

⚠ 事故のおそれがあります

- エンジンがかかっていないときはブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- けん引されるときは、ステアリングがロックしていないことを確認してください。

! けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で搬送してください。

! トランスミッションを損傷しているときは、車両運搬車で搬送してください。

! やむを得ず、他車にけん引してもらうときは以降に記載する説明に従ってください。

! 前輪または後輪のみを持ち上げた状態でけん引しないでください。駆動装置などを損傷するおそれがあります。

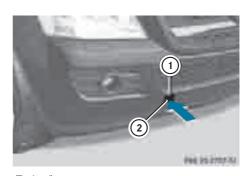
! けん引されるときは、車速感応ドアロックを解除してください（▷147 ページ）。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

! 一般道では 30km/h 以下の速度で、距離は 50km 以内に限り、けん引走行することができます。距離が 50km を超えるときは、必ず車両運搬車を利用してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

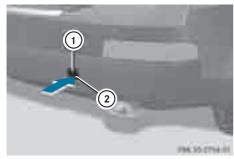
! けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。

- ワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。
- ロープの長さは 5m 以内とし、ロープの中央に白布（30cm × 30cm 以上）を付けて 2 台の車がロープでつながれていることを周囲に明示してください。
- ロープは両車ともできるだけ同じ側につないでください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- ロープに無理な力や衝撃がかからないようにしてください。
- 走行中、ロープをたるませないように前車のブレーキランプに注意しながら車間を調整してください。

けん引フックの取り付け

けん引フックの取り付け位置（フロント）

① カバー
② マーク

フロントバンパーの向かって左側にあります。

けん引フックの取り付け位置（リア）

① カバー
② マーク

リアバンパーの向かって右側にあります。

けん引フックを取り付ける

▶ 車載工具（▷290 ページ）からけん引フックとホイールレンチを取り出します。

▶ マーク②を押し、カバー①を手前に引いて外します。

▶ 内部のネジ穴にけん引フックをねじ込み、停止するまで手で締め込みます。

▶ さらに、ホイールレンチの柄の部分をけん引フックのリング部分に差し込み、確実に締め付けます。

けん引する

エンジンが始動できるとき

▶ エンジンを始動し、シフトポジションを **N** にします。

エンジンが始動できないとき

▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、イグニッション位置を **2** にしてシフトポジションを **N** にします。さらにイグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチにキーを差し込んだままにします。

バッテリーがあがっているとき

バッテリーがあがっているときは、シフトポジションが **P** にロックされることがあります。シフトポジションを **N** にするには、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーから電力を供給してください（▷339 ページ）。

それでもシフトポジションを **N** にできないときは指定サービス工場に連絡してください。

車を運搬する

けん引フックは、車両運搬車に車を積載するときにも使用できます。

! 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをサスペンションなどのメンバー部分にかけないでください。車体を損傷するおそれがあります。

けん引するときの注意

トランスファーやアクスルが故障しているときは、以下の点に注意してけん引してください。

この作業はできるだけ専門業者に依頼してください。

! プロペラシャフトの取り付けナットは再使用できません。プロペラシャフトを取り付けるときは、必ず新品の取り付けナットを使用してください。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

! トランスファーやアクスルが故障したときは、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されます。詳しくは（▷303 ページ）をご覧ください。

トランスファーが故障しているとき

▶ 前後のアクスルとトランスファーの間のプロペラシャフトを外します。

▶ フロントアクスルを上げてけん引します。

フロントアクスルが損傷しているとき

▶ リアアクスルとトランスファーの間のプロペラシャフトを外します。

▶ フロントアクスルを上げてけん引します。

リアアクスルが損傷しているとき

▶ フロントアクスルとトランスファーの間のプロペラシャフトを外します。

▶ リアアクスルを上げてけん引します。

ぬかるみなどからけん引するとき

ぬかるみなどで動けなくなったときは、以下の点に注意してけん引してください。

- 車を急激に引き出したり、斜めに引き出さないでください。車体を損傷するおそれがあります。
- トレーラーをけん引している場合は、絶対にトレーラーを接続したまま車を引き出さないでください。

  この場合はトレーラーを外し、車両後部のトレーラーカップリングを引くようにし、できるだけ走行してきたわだちに沿って後方へ引き出してください。

ヒューズ

ヒューズ交換についての注意

電気装備に異常が発生するとヒューズが切れて電気装備への接続が切断されます。これにより電気装備は作動しなくなります。

⚠ **火災のおそれがあります**

規格や容量の異なるヒューズ、改造や修理をしたヒューズを使用しないでください。電気回路に負荷がかかり、火災の原因になります。

ヒューズ切れの原因の点検や修理は指定サービス工場に作業を依頼してください。

! 以下のようなときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

- ヒューズを交換してもすぐに切れるとき
- ヒューズに異常はないが、電気装備が作動しないとき

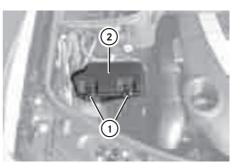
! ヒューズボックスのカバーを取り外したときに、ヒューズボックスの内部に水などが入らないようにしてください。

! ヒューズボックスのカバーは、ヒューズボックスに密着するように取り付けてください。ほこりや湿気が入るおそれがあります。

! ヒューズボックスを開くときに、先のとがったものを使用しないでください。カバーやダッシュボードを損傷するおそれがあります。

! エンジンルーム内のヒューズボックスを点検するときは、必ずワイパーを停止して、エンジンスイッチからキーを抜いてください。ワイパーが作動するとけがをするおそれがあります。

ヒューズの位置

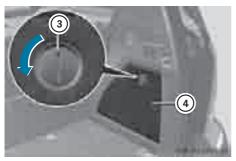
エンジンルームのヒューズボックス

① フック
② カバー

▶ 2 カ所のフック①を外します。

▶ カバー②を取り外します。

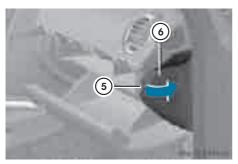
! カバーを取り外したときに、ヒューズボックスの内部に水やほこりなどが入らないようにしてください。

! カバーを取り付けるときは、ヒューズボックスのシールが正しく密着するようにしてください。また、フック①を確実に押し込んでください。

ラゲッジルームのヒューズボックス

③ クリップ
④ カバー

▶ クリップ③をコインなどで矢印の方向にまわします。

▶ カバー④を取り外します。

グローブボックス横のヒューズボックス

⑤ 切り欠き部
⑥ カバー

▶ グローブボックスを開きます。

▶ 切り欠き部⑤に指をかけて、矢印の方向にカバー⑥を開きます。

カバーを取り付けるときは、最初にカバーの前部を A ピラーの内側に差し込みます。

ヒューズを交換する

▶ キーを抜くか、エンジンスイッチを **0** の位置にします。

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ ヒューズ一覧（▷347 ページ）を参考に、作動しない電気装備に該当するヒューズを確認します。

▶ 該当ヒューズを取り外します。

▶ ヒューズを点検し、心線部が切れている（溶断）ときは同じ電流値（色）のヒューズと交換します。

! 以下のようなときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

- ヒューズを交換してもすぐに切れたり、装備が作動しないとき
- ヒューズに異常はないが、電気装備が作動しないとき

ヒューズ一覧

ヒューズボックス（エンジンルーム内）

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
100	30A	フロントワイパー
101	15A	エンジン制御
102	–	未使用
103	20A	エンジン制御
104	15A	エンジン制御
105	15A	エンジン制御 エンジンスターター
106	–	未使用
107	40A	二次エアポンプ
108	40A	エアサスペンション コンプレッサー
109	25A	ESP
110	10A	ホーン （盗難防止警報システム）
111	30A	オートマチック トランスミッション
112	7.5A	オプション
113	15A	ホーン
114	5A	オプション
115	5A	ESP
116	7.5A	オートマチック トランスミッション
117	7.5A	オプション
118	5A	エンジンコントロール ユニット
119	–	未使用
120	10A	エンジンコントロール ユニット
121	20A	余熱ヒーター
122	25A	エンジンスターター
123	–	未使用
124	–	未使用
125	–	未使用

ヒューズボックス（グローブボックス横）

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
10	10A	リアエアコンディショナーブロアモーター
11	5A	インストルメントパネル
12	15A	エアコンディショナー モジュール
13	5A	ステアリング調整 スイッチパネル
14	7.5A	エンジンスイッチ COMAND システム
15	5A	コンパスモジュール
16	–	未使用
17	–	未使用
18	–	未使用

ヒューズボックス（ラゲッジルーム内右側小物入れ）

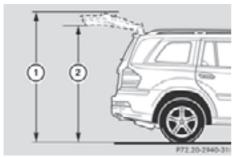
ヒューズ番号	アンペア数	装置名
20	5A	アンテナ ボイスコントロール
21	5A	リアエアコンディショナー コントロールパネル
22	5A	パークトロニック
23	10A	携帯電話ユニット
24	40A	シートベルトテンショナー （右側）
25	15A	COMAND システム
26	25A	助手席側ドア コントロールユニット
27	30A	助手席シートメモリー機能
28	30A	運転席シートメモリー機能
29	40A	シートベルトテンショナー （左側）
30	40A	サードシート 燃料給油口
31	10A	オプション
32	15A	エアサスペンション コントロールユニット
33	25A	オプション
34	25A	運転席側ドア コントロールユニット
35	30A	オーディオアンプ
36	10A	VICS システム
37	5A	オプション
38	10A	COMAND システム

39	7.5A	タイヤ空気圧警告システム
40	30A	EASY-PACK 自動開閉 テールゲート
41	25A	スライディングルーフ
42	25A	オプション
43	20A	リアワイパー
44	–	未使用
45	20A	12V 電源ソケット（センターコンソール後端、ラゲッジルーム）
46	15A	ライター
47	10A	オプション
48	5A	リアディファレンシャルロックコントロールユニット
49	30A	リアデフォッガー
50	15A	リアワイパー
51	5A	オプション
52	5A	シートベルトテンショナー コントロールユニット リアディファレンシャルロックコントロールユニット
53	5A	AIR マティックサスペンションコントロールユニット センターディファレンシャルロックコントロールユニット
54	5A	ヘッドランプ自動光軸調整 コントロールユニット
55	7.5A	インストルメントパネル ランプスイッチ
56	5A	自己診断ソケット
57	20A	燃料ポンプ
58	7.5A	自己診断ソケット
59	7.5A	オプション
60	5A	グローブボックスランプ フロントワイパー VICS システム
61	10A	エアバッグシステム
62	–	未使用
63	–	未使用
64	–	未使用
65	–	未使用
66	30A	マルチコントロール シートバック
67	25A	リアファン
68	25A	オプション
69	30A	電子制御ディファレンシャルロック
70	–	未使用
71	–	未使用
72	–	未使用

(2007-10-10・A164 005 47 99)

ℹ 仕様・装備などの違いにより、ヒューズが異なることがあります。

ℹ 記載の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

テールゲートを開いたときの高さ

① テールゲートを開いたときの高さ（外側）
② テールゲートを開いたときの高さ（内側）

テールゲートをいっぱいまで開いたときの高さは、以下のようになります。

①	2081 ～ 2191mm
②	1906 ～ 2016mm

※ 仕様により、数値が異なります。

純正部品 / 純正アクセサリー

ダイムラー社では、点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。

純正部品は厳格な基準により品質管理されています。点検や整備、修理のときは、必ず純正部品を使用してください。

アクセサリーについても、ダイムラー社またはメルセデス・ベンツ日本株式会社が指定する製品だけを使用してください。

⚠ 事故のおそれがあります

どんな場合でも、ブレーキ関連部品などの重要保安部品や走行系統に使用する部品には、純正部品以外のものを使用しないでください。事故や故障の原因になります。

! 車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。事故や故障の原因になります。また、関連する他の装備にも悪影響を与えるおそれがあります。

! 車載無線機など電装アクセサリーを装着するときは、指定サービス工場に相談してください。装着方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えるおそれがあります。また、電気配線を間違えると、火災や故障の原因になります。

! ウインドウに透明な吸盤を貼付しないでください。透明な吸盤がレンズとして作用して、火災が発生するおそれがあります。

！ 以下の場所の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナーの本体、乗員保護装置のコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。これらの部位にオーディオなどを追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、乗員保護装置の作動に悪影響を与えるおそれがあります。

- エアバッグ収納部
- シートベルト
- インストルメントパネル
- センターコンソール
- ドア
- シート
- ピラー付近
- サイドシル付近

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

ℹ 純正部品以外の部品を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

環　境

ダイムラー社では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

ビークルプレート

純正部品を注文するときに車台番号あるいはエンジン番号などが必要になることがあります。

車台番号やエンジン番号などは図の箇所に記されています。

ニューカープレート

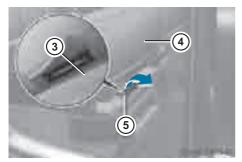
① ニューカープレート

運転席側または助手席側のセンターピラー下部に車台番号およびカラーコードが記載されたニューカープレート①が貼付されています。

車台番号

車体番号は、ダッシュパネルの図の位置に表示されています。また、右側セカンドシート下部のボディフレームにも車台番号が打刻されています。

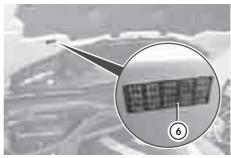
② フロントウインドウ左下部の車台番号

右側セカンドシート下部の車台番号を確認する

③ 右側セカンドシート下部の車台番号
④ 右側セカンドシート
⑤ カーペット

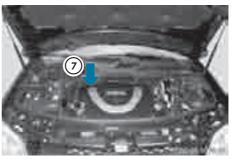
▶ カーペット⑤を矢印の方向にめくり上げます。

! カーペットをめくり上げるときは、指や爪にけがをしないように注意してください。

※仕様により、右側セカンドシート下部の車体番号の刻印位置が異なります。

オプションコードプレート

⑥ オプションコードプレート

ボンネットの裏側にオプションコードを示すプレート⑥が貼付されています。

エンジン番号

⑦ エンジン番号

エンジンブロック後部にエンジン番号⑦が打刻されています。

オイル・液類 / バッテリー

オイル・液類に関する注意

オイル・液類には以下のものが含まれます。

- 燃料
- 冷却水
- ブレーキ液
- 油脂類（エンジンオイル、オートマチックトランスミッションオイル、パワーステアリングオイルなど）
- ウォッシャー液

点検や整備、修理のときは、必ずダイムラー社またはメルセデス・ベンツ日本株式会社の指定品のみを使用してください。

詳しくは、指定サービス工場におたずねください。

ⓘ 指定品以外のオイル・液類を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

⚠ けがのおそれがあります

オイル・液類は子供の手の届かない場所に保管してください。また、火気の近くには保管しないでください。

オイル・液類が目や粘膜、傷に触れないようにしてください。万一目に入ったり皮膚に付着したときは、すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

環　境

オイル・液類は、環境に配慮して廃棄してください。

燃料

爆発のおそれがあります

燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

けがのおそれがあります

燃料が皮膚や衣類に触れないように注意してください。

燃料が皮膚に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康に悪影響を与えます。

燃料タンク容量

燃料タンク容量	約 100 ℓ
警告灯点灯時の残量	約 13 ℓ

❗ 軽油を給油しないでください。また、軽油を混ぜたガソリンを給油しないでください。少量でも軽油を給油すると、燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。誤って軽油を給油して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

❗ 指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷などによりエンジンを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。指定以外の燃料を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

燃料消費について

以下のような状況では、燃料をより消費します。

- 気温が非常に低いとき
- 市街地を走行するとき
- 短い距離を走行するとき
- 山道や坂道を走行しているとき

! 燃料に添加剤を使用しないでください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

環 境

CO_2（二酸化炭素）の排出は、地球温暖化の大きな原因となります。

緩やかな運転を心がけ、定期的に点検・整備を行なうことにより、CO_2 排出量を最小限に抑えることができます。

エンジンオイル

! エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! エンジンオイルは、使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給もしくは交換してください。

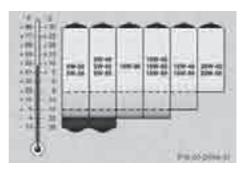
エンジンオイル容量

容量	約 9.0 ℓ

i 容量は、オイルフィルター分を含む、交換時の数値です。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

グレードと粘度は、下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選択してください。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルの交換については、別冊「整備手帳」を参照してください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

! オートマチックトランスミッションオイルに添加剤を使用しないでください。トランスミッション内部の摩耗が進んだり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! オートマチックトランスミッションオイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

また、冷却水の補給が必要なときは必ず指定品を使用して補給してください。

火災のおそれがあります

冷却水をエンジンルームにこぼさないでください。発火するおそれがあります。

不凍液の濃度

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域の最低気温によって濃度を変えます。

不凍液混合率	凍結温度
約 50%	− 37℃
約 55%	− 45℃

! 不凍液の濃度は約 50% から約 55% の間にしてください。濃度を約 55% 以上にすると、冷却性能が低下します。

ブレーキ液

定期的に指定サービス工場で交換をしてください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

指定品目	純正ブレーキ液
規格	DOT 4 プラス規格

事故のおそれがあります

ブレーキ液を補給するときは、ゴミや水分がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、過酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ベーパーロックとは、長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

! ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

i ウォッシャー液には夏用と冬用があります。夏用には油膜を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー液のリザーブタンクは兼用です。

ウォッシャー液容量

容量	約 7.2 ℓ

火災のおそれがあります

ウォッシャー液は可燃性の高い液体です。ウォッシャー液を取り扱うときは、火気を近付けたり、近くで喫煙しないでください。

バッテリー

車載バッテリーの電圧 / 容量

電圧	12V
容量	95Ah

積載荷物の制限重量

ルーフレール	90kg

i ルーフレールの制限重量には、クロスバーやアタッチメントの重量も含まれます。

タイヤとホイール

! タイヤとホイールは必ず純正品および承認された製品を使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

ABS や ESP などの装備は、純正品および承認された製品を使用することで効果が発揮されます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、安全性の保証はできません。

! 純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、車両操縦性や騒音、燃料消費などに影響を与えるおそれがあります。また、指定されたサイズ以外のタイヤやホイールを装着すると、フェンダーの内側やサスペンションなどに接触し、車やタイヤを損傷するおそれがあります。

i 燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷261 ページ）。

i タイヤやホイールに関して、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

標準タイヤ / ウィンタータイヤ

タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
265 / 60R18	8J × 18	53mm

! ウィンタータイヤのサイズはダイムラー社が指定するもので、日本国内で発売されているスタッドレスタイヤは、表記のサイズに対応していないことがあります。

i ウィンタータイヤやスノーチェーンについては、指定サービス工場におたずねください。

オプション装着用タイヤ / ホイール

	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
19 インチホイール	265 / 55R19 M+S 275 / 55R19	8.5J × 19	56mm
20 インチホイール	275 / 50R20	8.5J × 20	56mm
21 インチホイール	295 / 40R21	10.0J × 21	37mm

※ 仕様により、選択できるオプション装着用タイヤ / ホイールは異なります。

! タイヤサイズ 265 / 55R19 M+S 以外のオプション装着用タイヤ / ホイールはスノーチェーンを装着しないでください。

応急用スペアタイヤ

タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット	タイヤ空気圧
T165 / 90 D19 または T165 / 90 R19	4.50B × 19	40mm	4.2bar / 61psi / 420kpa

! 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。

対象モデル

GL 550 4MATIC

"ESP®" はダイムラー社の登録商標です。

※この取扱説明書の内容は、2009 年 6 月現在のものです。

総輸入元
メルセデス・ベンツ日本株式会社
〒106-8506 東京都港区六本木一丁目９番９号 六本木ファーストビル

環境保護のため、この取扱説明書は再生紙を使用致しました。

MBJCSD 32440-060900080 F
6515 4308 20 RE2009/03a, 06/09